

令和5年度
授業概要

生活科学学科
専攻科 養護教育専攻



学校法人 高松学園

飯田短期大学

IIDA JUNIOR COLLEGE

「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」

生活科学学科は、建学の精神である「うつくしく生きる」の理念のもと、生活科学専攻・介護福祉専攻・食物栄養専攻の3専攻で構成され、各分野について専門的に学ぶこととしています。

生活科学学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

広い視野に立って生活を見つめ生活課題に気づき、その課題解決を通して、生活の機能向上に寄与できる学生

生活科学学科の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

生活者として必要な高度の知識技能の習得を図り、社会の変化に対応できる創造性と実践的な態度を身につけられるように編成します。

生活科学学科の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

広い視野に立って生活を見つめ、生活の機能向上のために努力できる人

◆生活科学学科生活科学専攻

生活科学学科生活科学専攻の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

1. 主体性のある生活者として生活科学の専門的知識・技術・態度を修得した学生
2. 養護教諭、医療事務もしくはデザインのそれぞれの実務に必要な専門的知識・技術・態度を修得した学生
3. 修得した専門性を社会でより探究しようとする考えことのできる学生

生活科学学科生活科学専攻の学修成果

1. 衣生活、食生活、住生活および生活経営を基盤に、生活科学に関する種々の知識を修得し、生活を豊かにするための実践的な力を身に付けている。
2. 学校教育で求められる養護教諭の総合的な知識・技能・態度を修得し、それらを学校現場で発揮するための実践的な力を身に付けている。
3. 医療機関等で求められる医療事務の知識・技能・態度等を修得し、様々な健康問題を抱える方々の医療・保健・福祉に対応できる力を身に付けている。
4. 生活空間を形成する素材と生活を豊かにする表現についての知識や技術を修得し、創造を形にする感性およびそれを発信できる力を身に付けている。

生活科学学科生活科学専攻の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

1. 生活の主体者として生活科学の知識・技術・態度の修得ができる教育課程を編成します。
2. 養護教諭、医療事務およびデザインの実務に必要な専門的知識・技術・態度の修得ができる教育課程を編成します。
3. 専門識を身に付けかつ多様な分野の学びを通して新たな創造ができる教育課程を編成します。

生活科学学科生活科学専攻の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

1. 社会、家庭など生活環境に興味・関心をもっている人
2. 養護教諭、医療事務またはデザインのいずれかに興味・関心を持っている人
3. 生活に興味・関心を持ちその質の向上に貢献したいと考える人

生活科学学科生活科学専攻の学修成果の評価(アセスメント・ポリシー)

生活科学専攻が掲げるディプロマ・ポリシーの到達目標の達成度及び、達成可能なカリキュラム編成になっているかを以下の方法で評価します。

1. 各科目の講義概要に示す配点比率に基づく成績評価
2. 各科目の成績評価から得られる GPA
3. 免許・資格の取得状況
4. 卒業制作における作品評価

◆生活科学学科介護福祉専攻

生活科学学科介護福祉専攻の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

1. 人権擁護の視点を持ち、高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけた学生
2. 慈しみの心をもって相手の思いに寄りそうことができ、相手の立場になって考えられる学生
3. 介護に関する制度・施策について基本的な理解ができ、基本的な介護及び医療的ケアに関する知識・技術を習得し行動できる学生
4. 社会に通じるコミュニケーションの基本を理解し、利用者や家族及び多職種と連携が図れる能力をもった学生

生活科学学科介護福祉専攻の学修成果

1. 人権擁護の視点を持ち、高い倫理観を身につけている。
2. 他者と協働し、相手の立場に立って考える態度を身につけている。
3. 介護福祉に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
4. 介護福祉に関する基礎的な技術を身につけている。
5. 社会に通じるコミュニケーションの基本を理解し、そのための表現力を身につけている。
6. 他者を理解し、自分も自分らしく生きるために、自分を振り返る力を身につけている。

生活科学学科介護福祉専攻の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

1. 利用者の存在を尊重し、人権擁護の視点を持ち、高い倫理観を形成できるように科目を編成します。
2. 一人ひとりの生活状況や状態を的確に把握したうえで、個別ケアを重視した専門的支援ができる力を育てるように科目を編成します。
3. 利用者の生活習慣や環境を理解し、多様なニーズに対応できる力を育てるように科目を編成します。

生活科学学科介護福祉専攻の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

1. 人に深い関心と思いやりを持っている人
2. 福祉について学ぶ意欲のある人

生活科学学科介護福祉専攻の学修成果の評価（アセスメント・ポリシー）

介護福祉専攻が掲げるディプロマ・ポリシーの到達目標の達成度及び、達成可能なカリキュラム編成になっているかを以下の方法で評価します。

1. 各科目の講義概要に示す配点比率にもとづく成績評価
2. 各科目の成績評価から得られる GPA
3. 介護福祉士資格取得状況
4. 介護福祉士以外の本専攻で支援する免許・資格の取得状況
5. 卒業時の到達目標に対する評価
6. 卒業生アンケート評価
7. 卒業率
8. 休退学率
9. 就職率・進学率

◆生活科学学科食物栄養専攻

生活科学学科食物栄養専攻の「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

1. 栄養士の職務とその重要性を理解し、「食」にかかわる専門的知識・技能を備えた学生
2. 各世代の「食生活」を支えるために、適切な助言・指導が行える学生
3. 食育に必要な知識と技術と心を持ち、実践的な食に関する指導力を備えた学生

生活科学学科食物栄養専攻の学修成果

1. 栄養士の職務とその重要性を理解している。
2. 「食」にかかわる専門的知識・技術を身につけている。
3. 各世代の「食生活」を支えるために、適切な助言・指導が行える。
4. 「食育」に必要な知識と技術を持ち、食事の大切さについて、対象者にわかりやすく伝えることができる。
5. 「食」の研究者として、地域の健康課題解決に向けて考えることができる。

生活科学学科食物栄養専攻の「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

1. 栄養士の職務とその重要性を理解させ、「食」にかかわる高度な専門的知識・技能の習得が図れるように科目を編成します。
2. 対象者のライフステージに対応できる的確な判断力と指導力を養えるように科目を編成します。
3. 「食育」に関する豊かな知識と技術と心を習得し、実践的な食に関する指導力を養います。

生活科学学科食物栄養専攻の「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

1. 「食べること」や「食事を作ること」など、食への強い興味を持っている人
2. 食の専門家をめざし、食の大切さを伝えることができる人
3. 人とのつながりを大切にできる人

生活科学学科食物栄養専攻の学修成果の評価（アセスメント・ポリシー）

食物栄養専攻が掲げるディプロマ・ポリシーの到達目標の達成度及び、達成可能なカリキュラム編成になっているかを以下の方法で評価します。

1. 各科目の講義概要に示す配点比率に基づく成績評価
2. 各科目の成績評価から得られる GPA
3. 免許・資格の取得状況
4. 卒業率
5. 休退学率
6. 就職率・進学率

◆専攻科養護教育専攻

専攻科養護教育専攻の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

養護教諭として修得した高度な専門性を学校現場で活かすことのできる学生

専攻科養護教育専攻の学修成果

1. 教育学の知識・技術を総合的に活用し、教育的な視座に立って課題を解決するための思考力、判断力、表現力その他の能力を身に付けている。
2. 養護に必要な医学および看護学の基本的知識・技術を活用し、疾病予防や傷病への対応等の健康課題を解決する力を身に付けている。
3. 子どもと教職員の健康の保持増進について具体的な方法や職務を理解し、それを実践に繋げることのできる力を身に付けている。

専攻科養護教育専攻の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

学校現場が求める養護教諭に必要な高度な知識・技術・態度の修得ができる教育課程を編成します。

専攻科養護教育専攻の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

1. 児童生徒の健康や教育に興味があり、養護教諭の専門性を探究したいと考える人
2. 生活科学専攻での学びをさらに深化させることにより、養護教諭の専門性を探究したいと考える人

専攻科養護教育専攻の学修成果の評価 (アセスメント・ポリシー)

養護教育専攻が掲げるディプロマ・ポリシーの到達目標の達成度及び、達成可能なカリキュラム編成になっているかを以下の方法で評価します。

1. 学士論文の研究過程を観察評価
2. 各科目の講義概要に示す配点比率に基づく成績評価
3. 各科目の成績評価から得られる GPA
4. 学士(教育学)・免許の取得状況

◆基礎教養科目カリキュラム・マップ（生活科学学科）

基礎教養科目

学修成果	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3
	建学の精神を基にし、豊かな人間性を身につけている。	専門的な知識・技術・態度を備えている。	社会の発展・向上に寄与できる課題解決能力を修得している。
美しく生きる	○	○	○
心理学		○	
哲学	○	○	
日本国憲法		○	○
教育学		○	
倫理学		○	
介護福祉の基本	○	○	○
生活と化学		○	
生物学		○	
環境と人間		○	
科学史		○	
数学基礎		○	
英語		○	○
英会話		○	○
ドイツ語		○	○
スポーツと健康（理論）			○
スポーツと健康（実技）			○
音楽	○	○	○
美術	○		○
キャリアデザイン	○	○	○
地域社会学		○	○
基礎コミュニケーション	○	○	
文章表現		○	○
生活の中の経済		○	○
情報処理		○	
簿記論Ⅰ		○	
簿記論Ⅱ		○	
社会貢献活動	○	○	○

◆生活科学学科生活科学専攻 カリキュラムマップ

専門科目

学修成果	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4
	衣生活、食生活、住生活および生活経営を基盤に、家庭経済や健康、ライフスタイル等の知識を修得し、生活を豊かにするための実践的な力を身に付けている	学校教育で求められる養護教諭の総合的な知識・技能・態度を修得し、それらを学校現場で発揮するための実践的な力を身に付けている。	医療機関等で求められる医療事務の知識・技能・態度等を修得し、様々な健康問題を抱える方々の医療・保健・福祉に対応できる力を身に付けている。	生活空間を形成する素材と生活を豊かにする表現についての知識や技術を修得し、創造を形にする感性およびそれを発信できる力を身に付けている。
生活経営学	○			
衣生活概論	○			
食生活概論	○			
住生活概論	○			
生活学演習	○			
調理学及び調理実習	○			
家庭経済学	○			
家族関係学	○	○		
保育学	○			
アパレル材料学	○			○
アパレル管理学	○			○
栄養学	○	○	○	
臨床栄養実習	○			
体のしくみと健康	○		○	
生活文化演習	○		○	○
メディカル英会話	○		○	
ビジネス情報処理Ⅰ	○		○	
ビジネス情報処理Ⅱ	○		○	
保健統計	○	○	○	
ファッションⅠ	○			○
ファッションⅡ				○
ファッションⅢ				○
染織基礎				○
染めⅠ				○
染めⅡ				○
織りⅠ				○
織りⅡ				○
テキスタイルアート				○
陶芸				○
イラストⅠ				○
イラストⅡ				○
色彩学及び演習				○
色彩コーディネート演習Ⅰ				○
色彩コーディネート演習Ⅱ				○
フェルト				○
グラフィックデザイン演習				○
ファッションビジネス論				○
造形論				○
デザイン概論				○
保健衛生学		○	○	
公衆衛生学		○	○	
学校保健		○		
養護概説		○		
健康相談活動		○		
解剖学		○	○	
生理学		○	○	
微生物学		○	○	
薬理学概論		○	○	
精神保健		○	○	
看護学Ⅰ		○		

学修成果	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4
	衣生活、食生活、住生活および生活経営を基盤に、家庭経済や健康、ライフスタイル等の知識を修得し、生活を豊かにするための実践的な力を身に付けている	学校教育で求められる養護教諭の総合的な知識・技能・態度を修得し、それらを学校現場で発揮するための実践的な力を身に付けている。	医療機関等で求められる医療事務の知識・技能・態度等を修得し、様々な健康問題を抱える方々の医療・保健・福祉に対応できる力を身に付けている。	生活空間を形成する素材と生活を豊かにする表現についての知識や技術を修得し、創造を形にする感性およびそれを発信できる力を身に付けている。
看護学Ⅱ		○		
看護学実習		○		
救急処置		○		
臨床医科学			○	
臨床実習		○		
医療秘書実務（調剤）			○	
医療秘書実習			○	
医療事務概論			○	
医療福祉制度論			○	
医療保険論			○	
医療保険演習			○	
医師事務作業補助概論			○	
医師事務作業補助演習			○	
歯科事務概論			○	
歯科事務実務論			○	
歯科事務演習			○	
ビジネスマナー演習			○	
臨床心理学			○	
保健管理		○		
保健養護概論		○		
養護特講		○		
養護診断		○		
養護処置		○		
教職論		○		
教育原理		○		
教育史		○		
教育心理学		○		
特別支援教育論		○		
教育課程・生徒指導論		○		
道徳・特別活動・総合的な学習の時間論		○		
教育方法論Ⅰ		○		
教育方法論Ⅱ		○		
教育相談		○		
養護実習指導		○		
養護実習		○		
教職実践演習（養護教諭）		○		
ゼミナールⅠ	○			
ゼミナールⅡ	○			
卒業研究		○	○	
卒業制作Ⅰ				○
卒業制作Ⅱ				○

◆生活科学学科介護福祉専攻 カリキュラム・マップ

専門科目

学修成果	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6
	人権擁護の視点を持ち、高い倫理観を身につけている。	他者と協働し、相手の立場に立って考える態度を身につけている。	介護福祉に関する専門的な知識を総合的に身につけている。	介護福祉に関する基礎的な技術を身につけている。	社会に通じるコミュニケーションの基本を理解し、そのための表現力を身につけている。	他者を理解し、自分も自分らしく生きるために、自分を振り返る力を身につけている。
人間の尊厳と自立	○	○	○		○	○
人間関係とコミュニケーション	○	○	○	○	○	○
チームマネジメント	○	○	○	○	○	○
社会の理解Ⅰ	○		○	○		
社会の理解Ⅱ			○	○	○	
臨床栄養実習			○	○		
介護予防論				○	○	
アクティビティ演習		○		○		○
介護の基本 A			○	○		
介護の基本 B		○	○	○	○	○
介護の基本 C	○		○	○		
介護の基本 D	○	○	○	○	○	
介護の基本 E	○	○	○	○	○	
介護の基本 F	○	○	○	○	○	
コミュニケーション技術Ⅰ		○	○	○	○	○
コミュニケーション技術Ⅱ		○	○	○	○	○
生活支援技術 A		○	○	○		
生活支援技術 B		○	○	○		
生活支援技術 C		○	○	○		
生活支援技術 D		○	○	○		
生活支援技術 E		○	○	○		
生活支援技術 F		○		○		
生活支援技術 G		○	○	○		
生活支援技術 H		○	○	○		
生活支援技術Ⅰ		○	○	○	○	○
介護過程Ⅰ	○	○	○	○		
介護過程Ⅱ	○	○	○	○	○	
介護過程Ⅲ	○	○	○	○	○	
介護過程Ⅳ	○	○	○	○	○	○
介護総合演習Ⅰ		○	○	○		
介護総合演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
介護総合演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○
介護総合演習Ⅳ	○	○	○	○	○	○
介護実習Ⅰ -1			○	○		
介護実習Ⅰ -2		○	○	○	○	
介護実習Ⅰ -3		○	○	○	○	
介護実習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
こころとからだのしくみⅠ			○	○		
こころとからだのしくみⅡ			○	○		
こころとからだのしくみⅢ		○	○	○		
発達と老化の理解Ⅰ			○	○		
発達と老化の理解Ⅱ		○	○	○	○	
認知症の理解Ⅰ		○	○	○		
認知症の理解Ⅱ	○	○	○	○	○	○
障害の理解Ⅰ		○		○	○	
障害の理解Ⅱ		○		○	○	
医療的ケア	○	○	○	○		
ゼミナールⅠ		○			○	○
ゼミナールⅡ	○	○	○	○	○	○

◆生活科学学科食物栄養専攻 カリキュラム・マップ

専門科目

学修成果	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	栄養士の職務とその重要性を理解している。	「食」にかかわる専門的知識・技術を身につけている。	各世代の「食生活」を支えるために、適切な助言・指導が行える。	「食育」に必要な知識と技術をもち、食事の大切さについて、対象者にわかりやすく伝えることができる。	「食」の研究者として、地域の健康課題解決に向けて考えることができる。
公衆衛生学					○
生活経営学		○			
生化学	○		○		
栄養科学実験Ⅰ					○
解剖生理学			○		
栄養科学実験Ⅱ	○		○		○
生理学			○		
運動生理学		○	○		
病理学			○		
食品学Ⅰ	○	○	○	○	
食品学Ⅱ	○	○	○	○	
食品科学実験				○	
食品鑑別演習	○	○			○
食品加工学	○		○		
食品開発実習	○				○
食品衛生学	○				
栄養学Ⅰ	○				
栄養学Ⅱ		○			
栄養学実習		○		○	
臨床栄養学Ⅰ	○		○		
臨床栄養学Ⅱ	○		○		
臨床栄養学実習Ⅰ	○		○		
臨床栄養学実習Ⅱ	○		○		
公衆栄養学			○		
栄養指導論Ⅰ	○			○	
栄養指導論Ⅱ	○	○		○	
栄養指導実習		○	○	○	
食生活論			○		
栄養カウンセリング論		○	○	○	
給食管理Ⅰ	○				
給食管理Ⅱ	○	○	○	○	
給食管理実習Ⅰ	○				
給食管理実習Ⅱ	○	○	○	○	
調理科学	○				
調理学実験	○				
調理実習Ⅰ	○				
調理実習Ⅱ	○				
調理実習Ⅲ	○				
栄養情報処理					○
食料経済					○
フードスペシャリスト論				○	○
フードコーディネーター論				○	○
学校栄養教育論		○		○	
教職論				○	

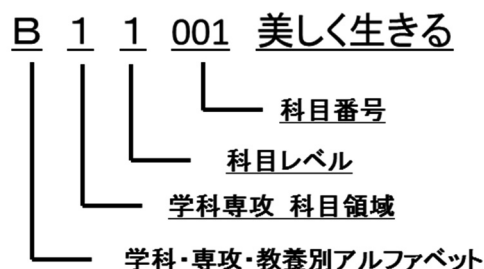
学修成果	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	栄養士の職務とその重要性を理解している。	「食」にかかわる専門的知識・技術を身につけている。	各世代の「食生活」を支えるために、適切な助言・指導が行える。	「食育」に必要な知識と技術をもち、食事の大切さについて、対象者にわかりやすく伝えることができる。	「食」の研究者として、地域の健康課題解決に向けて考えることができる。
教育原理				○	
教育心理学				○	
特別支援教育論				○	
教育課程・生徒指導論				○	
道徳・特別活動・総合的な学習の時間論				○	
教育方法論Ⅰ				○	
教育方法論Ⅱ				○	
教育相談				○	
栄養教育実習				○	
教職実践演習（栄養教諭）		○		○	
ゼミナールⅠ					○
ゼミナールⅡ					○
卒業研究					○

◆専攻科養護教育専攻 カリキュラム・マップ

学修成果	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3
	教育学の知識・技術を総合的に活用し、教育的な視座に立って課題を解決するための思考力、判断力、表現力その他の能力を身に付けている。	養護に必要な医学および看護学の基本的知識・技術を活用し、疾病予防や傷病への対応等の健康課題を解決する力を身に付けている。	子どもと教職員の健康の保持増進について具体的な方法や職務を理解し、それを実践に繋げることのできる力を身に付けている。
衛生学研究		○	
予防医学研究		○	
学校保健研究		○	
養護学研究		○	
教育臨床心理学研究		○	
ヘルス・カウンセリング研究		○	
栄養学研究		○	
解剖生理学研究		○	
人体構造機能論Ⅰ		○	
人体構造機能論Ⅱ		○	
病態生理論		○	
免疫学研究		○	
薬理学研究		○	
精神保健研究		○	
救急処置演習		○	
臨床診断実習		○	
看護学特論		○	
小児看護論		○	
成人看護論		○	
教育職の研究	○		
教育基礎論	○		
教育制度研究	○		
学校教育心理学	○		
教育課程研究	○		
教育方法の研究	○		
道德教育・特別活動研究	○		
生徒指導・教育相談論	○		
教職総合ゼミ			○
養護特別実習			○
特別実習指導			○
教職実践演習（養護教諭）			○
保健統計演習		○	
特別支援教育研究	○		
健康教育研究			○
ファーストエイド演習		○	○
青少年体験活動演習			○
修了研究Ⅰ			○
修了研究Ⅱ			○
修了研究Ⅲ			○

科目ナンバリングについて

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。本学の科目ナンバリングについては、以下の通りです。



○学科・専攻・教養別アルファベット

B	基礎教養科目	T	専攻科地域看護学専攻
L	生活科学学科生活科学専攻	J	専攻科助産学専攻
C	生活科学学科介護福祉専攻	Y	専攻科養護教育専攻
F	生活科学学科食物栄養専攻		
E	幼児教育学科		
N	看護学科		

○学科専攻 科目領域

◆基礎教養科目の領域別到達目標

1. 【人間の理解】
 - ・人間の本质について探求する能力を身につける。
2. 【人間と社会】
 - ・社会人として必要な幅広い教養を身につける。
3. 【自然と生活】
 - ・自然科学の知識を身に付け、自己の生き方を選択できる。
4. 【外国語】
 - ・外国語を修得し、コミュニケーション能力を身につける。
5. 【自己表現】
 - ・他者と共感しつつ、自己表現能力を身につける。
6. 【キャリア】
 - ・自己の生き方を考え、社会人の基盤としての知識・技能及び態度を身につける。

◆生活科学学科生活科学専攻の領域別到達目標

生活科学学科生活科学専攻では、各科目を以下の領域に分類し、科目の到達目標を定めます。

1. 【生活科学の基礎】
 - ・衣・食・住と社会・文化・ライフスタイルなどとの関連を学ぶことを通して、生活科学学の知識・理解を深めることができる。
 - ・家庭・家族の役割、人間関係や経済、健康といった幅広い視点から社会生活・家庭生活を分析・考察することを通して、主体的に生活を創造するための姿勢や能力を身に付けることができる。

2. 【学校・子ども・教員】

- ・子どもや教職員の健康を保持増進するための専門的な知識・技能を身に付けることができる。
- ・教育・養護を学術的に学ぶことを通して、学校におけるよりよい生活づくりに参画することのできる資質・能力を身に付けることができる。

3. 【医療事務・接遇】

- ・医療機関等において必要となる事務や接遇の知識・技能を総合的・実践的に身に付けることができる。
- ・医療や看護、公衆衛生に関する基礎的知識・技術を身に付け、それらを活用して社会の様々な場面で課題を解決する能力を身に付けることができる。

4. 【造形・表現】

- ・染め、織りなどの体験を通して多様な素材の知識を身に付けるとともに多様な技法を理解し、それらを活用した造形・表現を探究することができる。
- ・家庭生活や職業生活の場において活用することのできる被服・デザインに関する幅広い知識・技術を身に付けることができる。

◆生活科学学科介護福祉専攻の領域別到達目標

生活科学学科介護福祉専攻では、各科目を以下の領域に分類し、科目の到達目標を定めます。

1. 【人間と社会】

- ・人間の理解を基礎として、尊厳の保持の必要性を理解することができる
- ・幅広い世代の生活を理解し、社会保障制度の基礎知識及び介護に必要な法制度について理解することができる

2. 【介護】

- ・根拠に基づき、介護を計画的に実践・評価する力をつける
- ・利用者の尊厳の保持・自立支援に関わる介護実践を理解することができる
- ・介護の質の向上に向けて、介護福祉士として専門性を発展させていく重要性を理解できる

3. 【こころとからだのしくみ・医療的ケア】

- ・高齢者および障害のある人の介護に必要な観点から、身体機能や心理に関する基礎的な知識が理解できる。
- ・生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能および認知症に関する基礎的な知識が理解できる。
- ・医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得できる。"

4. 【ゼミナール】

◆生活科学学科食物栄養専攻の領域別到達目標

生活科学学科食物栄養専攻では、各科目を以下の領域に分類し、科目の到達目標を定めます。

1. 【食品と栄養】

- ・食の専門家として、健康の保持増進、疾病の予防や治療のための栄養指導、傷病者の食事調整などを行うことができる。

2. 【食育】

- ・子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるよう指導し、学校における食育の推進を行うことができる。

3. 【介護】

- ・介護に関する基本的な知識、技術を身に付けることができる。

4. 【食の情報提供】

- ・食べ物や食生活について、流通・販売者と消費者に情報を提供することができる。

◆専攻科養護教育専攻の領域別到達目標

専攻科養護教育専攻では、各科目を以下の領域に分類し、科目の到達目標を定めます。

1. 【教育の基本的理解等】

- ・教育の基本的理念及び教育の変遷、教育課程の意義及び編成の方法等を理解することができる。
- ・教職の意義及び教員の役割・資質能力、職務内容等を身に付け、教職への意欲を高めることができる。
- ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解を深め、関係機関と組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を身に付けることができる。
- ・道徳の理論及び指導方法、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等の意義や方法を理解することができる。

2. 【養護に関する理解】

- ・発育・発達過程にある子どもの心身の構造と機能、健康課題、病態の特徴及び子どもを取りまく環境等について理解することができる。
- ・養護及び養護教諭に関する知識を修得し、養護実践を展開するために必要な基礎的な知識、方法及び技術を身に付けることができる。

3. 【教育・養護の実践】

- ・実際の学校現場において、修得した知識、方法及び技術を統合して、子どもの実態に応じた養護実践を行うことができる。
- ・現代の学校教育、学校保健及び学校安全に関する課題を理解し、その解決に向けて探求的に取り組むことができる。

○科目レベル

学習する内容において、当該科目を履修することが概ねふさわしい開講期や、カリキュラムにおける履修の順次性を考慮し設定しています。なお、学年とレベルは必ずしも一致するものではありません。また、履修学年を限定するものではありません。

- 1 基礎的内容
- 2 発展的内容
- 3 応用的内容
- 4 総合的内容

○科目番号

001～999 までの科目番号

目 次

1. 基礎教養科目

美しく生きる	21
心理学	22
哲学	23
日本国憲法	24
倫理学	25
介護福祉の基本	26
生活と化学	27
生物学	28
環境と人間	29
数学基礎	30
英語	31
英会話（生活科学専攻）	32
英会話（介護福祉専攻・食物栄養専攻）	33
スポーツと健康	34
スポーツと健康（実技）	35
音楽（基礎）	36
美術	37
キャリアデザイン（生活科学専攻）	38
キャリアデザイン（介護福祉専攻）	39
キャリアデザイン（食物栄養専攻）	40
地域社会学	41
基礎コミュニケーション	42
文章表現	43
生活の中の経済	44
情報処理（生活科学専攻）	45
情報処理（介護福祉専攻）	46
情報処理（食物栄養専攻）	47
簿記論Ⅰ	48
簿記論Ⅱ	49
社会貢献活動	50

2. 生活科学専攻

生活経営学	53
衣生活概論	54
食生活概論	55
住生活概論	56
生活学演習	57
調理学及び調理実習	58
家族関係学	59
保育学	60

アパレル材料学	61
アパレル管理学	62
栄養学	63
臨床栄養実習	64
体のしくみと健康	65
生活文化演習	66
メディカル英会話	67
ビジネス情報処理	68
ビジネス情報処理Ⅰ	69
保健統計	70
ファッションⅠ	71
ファッションⅡ	72
ファッションⅢ	73
染織基礎	74
染めⅠ	75
染めⅡ	76
織りⅠ	77
織りⅡ	78
陶芸	79
イラストⅠ	80
イラストⅡ	81
色彩学及び演習	82
色彩コーディネート演習Ⅰ	83
色彩コーディネート演習Ⅱ	84
フェルト	85
グラフィックデザイン演習	86
テキスタイルアート	87
ファッションビジネス論	88
造形論	89
保健衛生学	90
公衆衛生学	91
学校保健	92
養護概説	93
健康相談活動	94
解剖学	95
生理学	96
微生物学	97
薬理学概論	98
精神保健	99
看護学Ⅰ	100
看護学Ⅱ	101

看護学実習	102
救急処置	103
臨床医科学	104
臨床実習	105
医療秘書実務（調剤）	106
医療秘書実習	107
医療事務概論	108
医療福祉制度論	109
医療保険論	110
医療保険演習	111
医師事務作業補助概論	112
医師事務作業補助演習	113
歯科事務概論	114
歯科事務実務論	115
歯科事務演習	116
ビジネスマナー演習	117
臨床心理学	118
保健管理	119
保健養護概論	120
養護特講	121
養護診断	122
養護処置	123
教職論	124
教育原理	125
教育史	126
教育心理学	127
特別支援教育論	128
教育課程・生徒指導論（生活科学専攻）	129
道徳・特別活動・総合的な学習の時間論	130
教育方法論Ⅰ（生活科学専攻）	131
教育方法論Ⅱ	132
教育相談	133
養護実習指導（1年）	134
養護実習指導（2年）	135
養護実習	136
教職実践演習（養護教諭）	137
卒業制作Ⅰ	138
卒業制作Ⅱ	139
ゼミナールⅠ（生活科学学科）	140
ゼミナールⅡ（生活科学学科）	141
卒業研究（生活科学専攻・食物栄養専攻）	142

3. 介護福祉専攻

人間の尊厳と自立	145
人間関係とコミュニケーション	146
チームマネジメント	147
社会の理解Ⅰ	148
社会の理解Ⅱ	149
臨床栄養実習	150
介護予防論	151
アクティビティ演習	152
介護の基本A	153
介護の基本B	154
介護の基本C	155
介護の基本D	156
介護の基本E	157
介護の基本F	158
コミュニケーション技術Ⅰ	159
コミュニケーション技術Ⅱ	160
生活支援技術A	161
生活支援技術B	162
生活支援技術C	163
生活支援技術D	164
生活支援技術E	165
生活支援技術F	166
生活支援技術G	167
生活支援技術H	168
生活支援技術Ⅰ	169
介護過程Ⅰ	170
介護過程Ⅱ	171
介護過程Ⅲ	172
介護過程Ⅳ	173
介護総合演習Ⅰ	174
介護総合演習Ⅱ	175
介護総合演習Ⅲ	176
介護総合演習Ⅳ	177
介護実習Ⅰ－1	178
介護実習Ⅰ－2	179
介護実習Ⅰ－3	180
介護実習Ⅱ	181
こころとからだのしくみⅠ	182
こころとからだのしくみⅡ（1年）	184
こころとからだのしくみⅡ（2年）	185

こころとからだのしくみⅢ	186	給食管理実習Ⅰ	228
発達と老化の理解Ⅰ	187	給食管理実習Ⅱ	229
発達と老化の理解Ⅱ	188	調理科学	230
認知症の理解Ⅰ	189	調理学実験（基礎調理含む）	231
認知症の理解Ⅱ	190	調理実習Ⅰ	232
障害の理解Ⅰ	191	調理実習Ⅱ	233
障害の理解Ⅱ	192	調理実習Ⅲ	234
医療的ケア	193	栄養情報処理	235
4. 食物栄養専攻		食料経済	236
公衆衛生学	197	フードスペシャリスト論	237
生活経営学	198	フードコーディネーター論	238
生化学	199	学校栄養教育論	239
栄養科学実験Ⅰ	200	教職論	240
解剖生理学	201	教育原理	241
栄養科学実験Ⅱ	202	教育心理学	242
生理学	203	特別支援教育論	243
運動生理学	204	教育課程・生徒指導論（食物栄養専攻）	244
病理学	205	道徳・特別活動・総合的な学習の時間論	245
食品学Ⅰ	206	教育方法論Ⅰ（食物栄養専攻）	246
食品学Ⅱ	207	教育相談	247
食品科学実験	208	栄養教育実習	248
食品鑑別演習	209	教職実践演習（栄養教諭）	249
食品加工学	210	ゼミナールⅠ（生活科学学科）	250
食品開発実習	211	ゼミナールⅡ（生活科学学科）	251
食品衛生学	212	卒業研究（生活科学専攻・食物栄養専攻）	252
栄養学Ⅰ	213	5. 専攻科養護教育専攻	
栄養学Ⅱ	214	予防医学研究	255
栄養学実習	215	学校保健研究	256
臨床栄養学Ⅰ	216	養護学研究	257
臨床栄養学Ⅱ	217	教育臨床心理学研究	258
臨床栄養学実習Ⅰ	218	病態生理論	259
臨床栄養学実習Ⅱ	219	薬理学研究	260
公衆栄養学	220	精神保健研究	261
栄養指導論Ⅰ	221	救急処置演習	262
栄養指導論Ⅱ	222	臨床診断実習	263
栄養指導実習	223	看護学特講	264
食生活論	224	教育職の研究	265
栄養カウンセリング論	225	教育基礎論	266
給食管理Ⅰ	226	教育制度研究	267
給食管理Ⅱ	227	学校教育心理学	268

教育方法の研究	269
生徒指導・教育相談論	270
教職総合ゼミ	271
養護特別実習	272
特別実習指導	273
教職実践演習（養護教諭）	274
保健統計演習	275
ファーストエイド演習	276
修了研究Ⅰ	277
修了研究Ⅱ	278
修了研究Ⅲ	279

1. 基礎教養科目

対象学生	基礎（人間の理解） 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	美しく生きる B11101			前期・後期	講義	2					
担当教員	高松 彰充										
授業の概要	宗教とは、教えを自己の中心におくことである。自己の内面を見つめ、自分はどのような存在か、いかに生きるべきかを探求する姿勢を親鸞聖人の教えを書き記した『歎異抄』を中心として学ぶ。本講義は実務家教員の授業となる。現在、寺院住職である教員が担当する科目である。										
到達目標	本学建学の精神、親鸞聖人の教えを通し、真の生きがいを自ら探求する姿勢を養う。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3								
	○	○	○								
授業計画	1. 美しく生きるとは 2. 思い立つところ 3. 平等とは 4. 信じるということ 5. 善人・悪人 6. 生老病死 7. 他人のために生きる（親切とは） 8. 大切な人 9. 思い通りになる人 10. 縁とは 11. 壁 12. 何のために 13. 欲 14. 不可称・不可説・不可思議 15. 美しく生きるとは										
事前・事後学習について	特別予習は必要ありません。講義を受けた後、配布資料やテキストを見返して自分自身と照らし合わせてください。そこから自身の学びや考えを深めていってください。										
準備学習に必要な時間	日常生活の中で、講義で学んだこと・配布資料・テキスト等を使用し、自己の内面を見つめ振り返りを行うようにして下さい。（学習に必要な時間 30 分程度）										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	0									
	実践	0									
	レポート	85	講義内容の理解								
	その他	15	授業態度等								
受講上の注意・課題のフィードバック	講義を受講するにあたり、指定された座席で授業を受けるようにして下さい。										
使用テキスト	雑草の輝き 初回授業時に教室で配付します。										
参考書											

対象学生	基礎（人間の理解） 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	心理学 B11102			後期	講義	2			
担当教員	黒岩 長造								
授業の概要	この授業では、心理学全般についての講義を行います。毎回のテーマ毎にその変遷と現在の考え方について説明していきます。日常生活における事例を紹介しながら、心理学的視点についての講義も行っていきます。								
到達目標	・心理学の学問領域が理解できる。 ・人間の考え、感情、行動の概略について理解できる。 ・日常の出来事について心理学的視点で考察できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1. 心理学を学ぶとは 2. 心理学の歴史 3. 脳と知覚について 4. 知能と学習について 5. 感情や欲求について 6. 性格について 7. 発達について 8. 社会と性差について 9. 集団について 10. 社会と仕事についての心理学 11. 子どもと家庭について 12. 深層心理について① 13. 深層心理について② 14. 「こころ」の病について 15. まとめ								
事前・事後学習について	自分の「こころ」はどこにあるか、最初の授業で 400 字で書いて提出を求めるので、あらかじめ準備しておいてください。 毎回、授業内容について、ワークシート形式で記述し提出してもらいます。成績評価の対象となるので、テキストや図書館での資料を読んで予習を行ってください。								
準備学習に必要な時間	授業に集中できるように事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	75	各講義のテーマごとに課すワークシートにおける理解度						
	レポート	25	対人援助における心理学的視点考察の習熟度						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します								
使用テキスト	面白いほどよくわかる心理学 渋谷昌三 西東社								
参考書	適宜授業中に紹介します。								

対象学生	基礎（人間の理解） 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	哲学 B11103			前期	講義	2			
担当教員	奥井 現理								
授業の概要	この授業は、学生の皆さんが哲学のもたらす知的興奮を味わえること、かつ、日々の学習や生活に学んだことを生かせること、の二点を目指して行われます。								
到達目標	哲学を学ぶことを通して、思考の質を高めることができる。 哲学史を学ぶことを通して、未来の見通しを立てる視点をもつことができる。 哲学を学ぶことを通して、健全な批判力を涵養することができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○	○							
授業計画	1. 哲学すること 「哲学すること」は、「哲学を学ぶこと」とは少し違います。 まずはオリエンテーションとして、簡単な思考体験をしてみましょう。 2. 自分の哲学(1) 自分のことは自分が一番わかっている、とは本当でしょうか。 オーソドックスな自分／他人の違いから考えてみましょう。 3. 自分の哲学(2) 個性とは何であるのか、個性的であることとはどういうことか、考えてみましょう。 4. 心の哲学(1) 心と脳の関係から考えをスタートしてみましょう。 5. 心の哲学(2) 心とは何であるのか、正確には私たちは何を心と呼んでいるのかを考えてみましょう。 6. 生の哲学(1) 生とは何か、生命とは何か、大昔から多くの人たちが考えてきました。 過去の哲学者たちの思想を学んでみましょう。 7. 生の哲学(2) 「生」「死」「自殺」「安楽死」等の、生命に関する実践的な問題を考えてみましょう。 8. モラルの哲学(1) 誰かが作った決まり、礼儀、伝統、上っ面だけ…というイメージを疑って考えてみましょう。 9. モラルの哲学(2) モラルの源流はどこにあるのか、そして今はどこを流れているのかを踏まえた上で、現代的なモラルの問題に取り組んでみましょう。 10. ことばの哲学 「語の意味とは何か」はウィットゲンシュタイン『青色本』冒頭の一句です。ことばの不思議に取り組んでみましょう。 11. 宗教の哲学 なぜ宗教で争いが起こるのでしょうか。代表的な宗教を題材に考えてみましょう。 12. 科学・技術の哲学(1) 初歩的な科学の哲学から、思考を始めましょう。 13. 科学・技術の哲学(2) 技術倫理の世界から、私たちの学習・生活まで、哲学してみましょう。 14. 社会の哲学(1) 「社会で通用する・しない」とはよく聞きますが、その「社会」って何のことを指しているのでしょうか。 15. 社会の哲学(2) アダム・スミス、マルクス、ケインズ……経済の哲学を扱ってみましょう。								
事前・事後学習について	特別な事前学習・事後学習を課すことは原則としてありません。ただ、配付した資料をノートに貼り付ける等の、学習成果が散逸しないようにするための作業は怠りなく行ってください。								
準備学習に必要な時間	各自必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0	必要に応じてミニテストを課すことがあります。						
	実践	0							
	レポート	100	知識ではなく思考・理解が主たる評価観点になります。						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。								
使用テキスト	使わない。授業時にプリントを配る。								
参考書	授業中に有益な参考書を示す。								

対象学生	基礎（人間と社会） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	日本国憲法 B21104			後期	講義	2	必修			
担当教員	長谷川 敬子									
授業の概要	「法学入門及び憲法について」 現代のように自由と人権が保障された法制度のもとにあっても、民主政治を更に深めていくためには、市民が憲法に対して正しい理解を持ち、自らの手でより良い国をつくるために国政に参画してゆくことが不可欠である。このような民主政治を担う市民を教育する者にふさわしい憲法に対する常識の涵養を最小限度の目標とし、時間の許す範囲で女性の法的地位に対する考察を深める。 本講義は実務家教員の授業で、現在弁護士である教員が担当する科目である。									
到達目標	日本国憲法に対する知識・理解を深め、主権者たる国民を教育する立場あるいは福祉に関わる立場においてその知識が生かせるようにする。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○	○							
授業計画	1. (1)はじめに (2)法律を学ぶ 2. (3)憲法とは何か (4)憲法の特質 3. (5)立憲主義と現代国家、法の支配 4. (6)国民主権の原理 (7)基本的人権の原理 5. (8)基本的人権の限界 6. (9)包括的基本権と法の下での平等 7. (10)精神的自由権 8. (11)経済的自由権、人身の自由 9. (12)受益権、参政権、社会権 (13) 統治の原理 1 10. (14) 国家機関の見学ないしグループ研究 11. (15)国会、統治の原理 2 12. (16)内閣 13. (17)裁判所 14. (18)地方自治 (19)憲法保障 15. (20)平和主義の原理									
事前・事後学習について	大教室での授業となるため、講義が主体とならざるを得ないが、法的な物の考え方に習熟してもらいたいので授業中に随時質問を行うことがある。 事前に、使用テキストの予定する講義分野を読んでくること。 事後に、もう一度読み直すことで、疑問点がでたら次の講義にぶつけてもらいたい。									
準備学習に必要な時間	事前に 1 時間程度、事後に 30 分程度は、使用テキストの講義分野に目を通す									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	憲法ないし憲法的なものの考え方に関する知識の涵養度							
	実践	0								
	レポート	5	課題について適切に検討しているか							
	その他	5	授業に真摯に取り組んでいるか							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポートについては、確認し、返却する。その際解説するので、理解を確実にすること。									
使用テキスト	「伊藤真の憲法入門」 伊藤真 日本評論社									
参考書	「憲法」伊藤正巳 「憲法 第三版」芦部信喜、高橋和之改訂、岩波書店 「世界の憲法集」阿部照哉、畑博行編、有信堂									

対象学生	基礎（人間と社会） 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	倫理学 B21106			後期	講義	2			
担当教員	奥井 現理								
授業の概要	人それぞれでしょう？個人の権利でしょう？と言いながら自分の好みだけは頑強に譲らない声の大きい人が得をする、よくわからないものには近づかずに安全そうで過剰な防衛をすることで面倒が増える、本人がいいと言っているんだからいいでしょう、で納得せざるをえない……こういう状態の社会を「相対の森」と呼びましょう。この講義が提示するのは、こうした現代社会という窮屈で生きづらい「相対の森」から脱出する試みです。								
到達目標	・好き嫌い、善い悪い、正しい正しくないの区別を意識することができる。 ・善い悪いの根拠を考えることができる。 ・何らかのフィールドにおける自らの指針を形成する糸口をつかむことができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1. これまで私は何を信じてきたのか——相対の森から脱出する試み 2. 人の心は利己的にできているのか 3. 道徳は結局は利己的な目的をもつのか 4. 宗教は道徳の根拠になるのか 5. 異文化の道徳規範は尊重されるべきか 6. フェミニズムによるケア倫理を倫理的に評価しよう 7. 生殖医療・人工妊娠中絶を倫理的に評価しよう 8. エンハンスメント（医療による肉体増強・改造）を倫理的に評価しよう 9. 臓器移植を倫理的に評価しよう 10. 万能細胞・クローン技術を倫理的に評価しよう 11. 教育の倫理学 12. 家族の倫理学 13. 環境の倫理学 14. 終末期の倫理 15. 相対の森の出口で——これからの私は何を指針にするのか								
事前・事後学習について	特別な事前学習・事後学習を課すことは原則としてありません。ただ、配付した資料をノートに貼り付ける等の、学習成果が散逸しないようにするための作業は怠りなく行ってください。								
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	100	理解・思考						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。								
使用テキスト	毎回、資料を配付します。								
参考書	ジェームズ・レイチェルズ、スチュアート・レイチェズ著 次田憲和訳『新版 現実を見つめる道徳哲学—安楽死・中絶・フェミニズム・ケア—』ほか（授業で提示する）								

対象学生	基礎（人間と社会） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	介護福祉の基本 B21107			前期	講義	2			
担当教員	太和田・稲垣								
授業の概要	超高齢社会となった日本において、介護問題は、誰もが身近なところで感じていると思います。本授業では、介護と福祉についての基本となる考え方と、介護に関する基礎的知識・技術を学びます。ご家族が介護が必要になった時、少しでも知っていることが役に立つことがたくさんあります。介護福祉士実務者研修を受講する人は、必修となります。								
到達目標	・ 尊厳の保持、自立支援、ノーマライゼーション等、福祉の基本理念を理解できる。 ・ 介護に関する基礎的知識・技術及び対人援助のコミュニケーションについて理解できる。 ・ 介護に関する基礎的技術を身につける。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○	○	○						
授業計画	1. 介護の基本 人間の多様性の理解、尊厳の保持と自立支援、基本理念の理解 2. 介護福祉に関する倫理 倫理とは何か 介護福祉士の職業倫理 3. 生活支援と ICF ICF を理解し、具体的な生活支援につなげる 4. コミュニケーション技術 介護におけるコミュニケーション 5. 生活支援技術① 食事の介護 6. 生活支援技術② 入浴の介助 7. 生活支援技術③ 着脱の介助 8. 生活支援技術④ 整容の介助 9. 生活支援技術⑤ 移動・移乗の介助、ボディメカニクス 10. 生活支援技術⑥ 移動・移乗の介護-「持ち上げない介護」-リフト 11. 生活支援技術⑦ 排泄の介助 1 12. 生活支援技術⑧ 排泄の介助 2（演習） 13. 介護過程Ⅰ 介護過程の基礎的理解 介護過程の意義・目的 14. 介護過程Ⅱ 介護過程の展開の実際① 具体的事例の理解 15. 介護過程Ⅱ 介護過程の展開の実際② 具体的事例の理解								
事前・事後学習について	介護福祉の基本的な学習になります。毎回授業の終わりに小テストを行い、それを全体の評価とします。欠席をした場合も、テストを取りに来てやって提出していただければ加点になりますので、必ず取りにきてください。 実技の授業は介護実習室になります。動きやすい服装で、かかとのある上履きを持参してください。								
準備学習に必要な時間	実務者研修受講者は、併せて通信の提出課題に取り組んでください。（各課題 2 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	70	各回小テストを行う。(5×14)						
	実践	0							
	レポート	30	介護を実践する時に大切にしたいこと						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	実務者研修のスクーリング（1～3 日目）にあてられますので、実務者研修受講生は必ず受講してください。 実務者研修の課題は添削し、回答例と共に返却します。 小テストは採点して、レポートはコメントを付けて返却します。								
使用テキスト	毎回、プリントを配布します。 介護福祉士実務者研修テキスト第 2 巻（中央法規出版） 介護福祉士実務者研修受講者は指定のテキストを持参してください。								
参考書	介護職員等実務者研修テキスト（中央法規出版） ＊「介護福祉士実務者研修」（通信課程）を受講する人は、上記テキストの購入が必要ですが、受講料に含まれていますので、受講手続きをすれば初日に配布されます。								

対象学生	基礎（自然と生活） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活と化学 B31108			前期	講義	2				
担当教員	千 裕美									
授業の概要	化学は物質をミクロな目で捉えるため、苦手意識をもつ人が多い。しかし、実は生活に関わるすべての物質は元素記号で表すことができる。また、各専門を学ぶためには基礎化学の知識が必要である。本講義では、基礎化学の知識を学ぶと共に、安全で健康的な環境にやさしい生活を営むために必要な、空気・水・食物・住居・衣類・洗剤・プラスチック等についての科学的な知識を学ぶ。さらに、多角的なものの見方・考え方を身に付け、自分で情報を整理し、物を選択する力を養う。									
到達目標	化学的な基礎知識を習得すると共に、生活に必要なもの（空気・水・食物・金属・セラミックス・衣類・洗剤・プラスチック）について、科学的なものの見方を身に付ける。さらに、健康で安全な生活であるとともに環境に配慮した生活を送るために、様々な情報を多角的にとらえ、判断する力を身に付ける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 化学の基礎① 化学という学問、元素について 2. 化学の基礎② 原子の構造・性質 3. 化学の基礎③ 元素の周期表 4. 化学の基礎④ イオンの成り立ちとイオン結合 5. 化学の基礎⑤ 共有結合・金属結合・分子間にはたらく力・結合の強さ 6. 化学の基礎⑥ 物質量 7. 化学の基礎⑦ 化学反応式 8. 化学の基礎⑧ 酸と塩基の反応 9. 化学の基礎⑨ 化学反応と熱 10. 生活の中の化学① 酸性と塩基性の化学 11. 生活の中の化学② 衣服の化学 12. 生活の中の化学③ 洗濯の化学・水の化学 13. 生活の中の化学④ プラスチックの化学・料理の化学 14. 生活の中の化学⑤ コロイドの化学・薬の化学 15. 生活の中の化学⑥ 化石資源の化学・身近な材料（セラミックス 金属）の化学									
事前・事後学習について	専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身に付けるために、元素記号に慣れ、物質を化学式で表すことができるよう予習・復習をしてください。そして、化学反応式も理解できるよう練習しましょう。また、身の回りのものについて、成分表示を気にしたり、添加物やシャンプー成分などにも関心を持ちましょう。生活に必要な物質の性質を理解し、健康・環境を保持するために必要なことを調べてまとめ、人に伝える能力を身に付けましょう。そのためにも、化学の基礎について必要な知識を習得するため、講義毎の課題に取り組みましょう。									
準備学習に必要な時間	前半の化学の基礎では、授業計画を確認し、使用するテキストや高校の教科書の該当する内容を予習してください（30 分程度） 後半の生活の中の化学においては、あらかじめ授業プリントを配布するので記入してきてください（毎回およそ 1 時間）。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	授業プリント、小テスト							
	レポート	50	レポート							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の終了後、授業プリントを完成させ、感想・質問等を書いて提出してください。そこに書かれていた質問に対して次の授業時に解説し、フィードバックします。									
使用テキスト	「身の回りから見た化学の基礎」 芝原寛泰・後藤景子 化学同人									
参考書	教養としての基礎化学：身につけておきたい基本の考え方 馬場 正昭（著）化学同人 まるわかり!基礎化学（教養基礎シリーズ）田中永一郎（著）、松岡雅忠（著）南山堂 基礎化学（栄養科学イラストレイテッド） 土居 純子（著）羊土社									

対象学生	基礎（自然と生活） 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生物学 B31109			前期	講義	2				
担当教員	千 裕美									
授業の概要	専門科目を学ぶために必要な生物の知識を学ぶ。そのためには化学的な知識も必要となるため、それらも合わせて学ぶこととする。食物が消化されて栄養となる過程の理解を充実させるために、生物体を構成する成分や細胞、組織、物質輸送のしくみ、遺伝子の設計図をもとにたんぱく質が作られるしくみ、恒常性を保つしくみ（神経系・内分泌系）、外敵から身を守るしくみ（免疫系）などについて学習する。									
到達目標	まず、生物体の特徴を理解する。さらに、細胞、体を構成する成分（水・たんぱく質・脂質・糖質・無機質・微量成分）、遺伝子、ホルモンによる調節のしくみ、免疫・アレルギーについて理解する。そして、その理解したことを定着させることを目標とする。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 第1章 生物学の基礎（1）生物と無生物の違い 2. （2）生物の分類と進化 （3）生命の誕生 細胞の構造と機能 3. 第2章 人体の構造 （1）人体は何からできているのだろう （2）人体の構成 4. （3）細胞 5. （4）組織 （5）生体膜 6. 第3章 糖質の構造と機能 7. 第4章 脂質の構造と機能 8. 第5章 たんぱく質の構造と機能 9. 第6章 核酸、遺伝子の構造と機能およびその代謝 （1）核酸とは 10. （2）ヌクレオチド 11. （3）核酸、遺伝子 12. 第7章 個体の恒常性とその調節機構 （1）ホルモンの分類と作用機構 （2）ホルモン分泌量の制御 13. （3）ホルモンによる代謝調節 （4）女性ホルモンと性周期 14. 第8章 免疫、アレルギー （1）免疫とは （2）免疫の種類 15. （3）免疫系の破綻－エイズとは （4）アレルギー （5）自己免疫疾患									
事前・事後学習について	事前学習プリント（授業でも用いる）を配布しますので、あらかじめ自分で調べて記入し、予習しましょう。そのときに分かりづらい点、疑問点をチェックして授業に臨みましょう。授業後には学んだことをもう一度ノートにまとめましょう。その時は、章ごとの問い（課題）に従い、自分の言葉でまとめて書けるようにしましょう。復習をしっかりと、小テストに臨みましょう。									
準備学習に必要な時間	毎回、予習・復習にそれぞれ1時間程度									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	70	定期試験							
	実践	30	授業プリント、まとめノート、小テスト							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中または授業後に質問があれば、授業の最後に配布する振り返りシートに記入してください。次の授業時に全体に対して解説します。 まとめノートは、区切りのよいところで1～2回集めますので、毎回の授業のまとめをその都度行っておきましょう。小テストは、授業の進み具合に応じて3回程行います。									
使用テキスト	生化学 ヒトのからだの構成と働きを学ぶために 化学同人									
参考書	新しい教養のための生物学 赤坂 甲治（著）裳華房 大学で学ぶ 身近な生物学 吉村 成弘（著）羊土社 やさしい基礎生物学 第2版 今井 一志 他著 羊土社 まるわかり！基礎生物（教養基礎シリーズ）小林秀明（著）、小林直人（監修）南山堂 教養としての生命科学 いのち・ヒト・社会を考える 小泉 修（著）丸善出版									

対象学生	基礎（自然と生活） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	環境と人間 B31110			後期	講義	2				
担当教員	高木 一代									
授業の概要	環境の変化は私たちの生活を大きく変える可能性があります。この授業では、①人の成長に、身近な環境（家庭環境や地域社会）がどのように関与しているのか、②地球の環境問題と私たちの生活との関わり、③急激な環境変化（災害など）への対応について学びます。									
到達目標	・ 環境は人にさまざまな影響を与えているとすることができる ・ 地球の環境問題と私たちの生活を関連づけて考えられる ・ 急激な環境変化への対応を考えられる									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. はじめに 人間と環境との関わり（私の常識・非常識） 2. 地球の歴史と温暖化の現状 3. 地球環境を考える① ～ゴミ問題～ 4. 地球環境を考える② ～日本の災害の歴史～ 5. 地球環境を考える③ ～水とのかかわり～ 6. 地球環境を考える④ ～紫外線～ 7. 地球環境を考える⑤ ～外部講師の先生を予定しています～ 8. 環境変化への対応① ～炊き出し計画 献立を考えてみよう～ 9.-10. 環境変化への対応② ～炊き出し体験 パッククッキング（2 コマ連続）～ 11. 救命救急法① ～人工呼吸、AED の使い方～ 12. 救急救命法② ～三角巾の使い方～ 13. 環境変化への対応③ ～避難を考える（いつ、どのように避難するのか マイタイムラインの作成）～ 14. 環境変化への対応④ ～災害時における避難所生活を考える～ 15. まとめ									
事前・事後学習について	環境問題に関する新聞等の報道に関心を持ち、環境省などのホームページへも積極的にアクセスし最新の情報を収集する。									
準備学習に必要な時間	環境日誌に、家庭で環境保全活動を行なった記録の記入（毎日）と、新聞やインターネットなどから環境に関連する記事を探し、環境日誌に添付する（一週間で一つ）。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	授業への取り組み、課題（環境日誌）							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	新型コロナウイルスの状況により授業内容を変更する場合があります。また、対面授業が難しい状況になった場合や授業内容により、遠隔授業または授業を補講日に変更しておこなう場合があります。炊き出し体験は白衣またはエプロン、三角巾、手ふき用のタオルを持参して下さい。									
使用テキスト	なし（授業時にプリントを配布します）									
参考書	「環境白書」環境省									

対象学生	基礎（自然と生活） 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	数学基礎 B31112			後期	講義	2				
担当教員	宮澤 傳二									
授業の概要	この授業では、基本的な数学の問題を解くことを通して論理的に考える力を養う。									
到達目標	・ 数学的能力を高める。 ・ 就職試験に対応できる数学力を身に付ける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. ガイダンス、SPI 対策 1 料金の割引、代金の清算 2. SPI 対策 2 分割払い、損益算 3. SPI 対策 3 速さ、集合 4. SPI 対策 4 順列・組合せ、確率 5. SPI 対策 5 推論〔1〕〔2〕 6. SPI 対策 6 推論〔3〕〔4〕〔5〕 7. SPI 対策 7 資料の読み取り、グラフと領域 8. SPI 対策 8 ブラックボックス、流れと比率 9. 基礎確認 1 計算問題、割合と比 10. 基礎確認 2 方程式、因数分解 11. 基礎確認 3 関数、いろいろな問題(1) 12. 基礎確認 4 平面図形、作図 13. 基礎確認 5 合同と相似、円の性質 14. 基礎確認 6 空間図形、三平方の定理 15. 基礎確認 7 場合の数と確率、いろいろな問題(2)									
事前・事後学習について	事前：授業前までにテキストを一読すること。 事後：解けなかった問題を再度解いて、数学的な考え方を確認する。									
準備学習に必要な時間	30～40 分程度。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	50	数学の基礎に関する理解度							
	実践	50	主体性：課題への取り組み							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	繰り返し、解けなかった問題に挑戦し解法を身につける。 講義で扱った問題用紙は、採点・添削し返却。									
使用テキスト	文系女子大学生の数学演習 東洋英和女学院大学学習サポートセンター 編 誠文堂新光社									
参考書										

対象学生	基礎（外国語） 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	英語 B41113			前期	演習	2			
担当教員	ジョナサン・ヒギンズ								
授業の概要	応用のきく基礎力をつけることに重点を置く。家庭学習よりも授業に参加して、その場で集中した演習を行い、英語の持つ独特なイントネーションやアクセントを身につけてゆく。								
到達目標	基礎会話をテキストで学び、それをもとに、“買い物をする”“レストランの場面”“友達と趣味や興味のある事柄について語り合う”といった、日常の様々なシチュエーションを短い文章を用いて会話することができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○	○						
授業計画	基本会話をテキストで学び、それをもとにレストランにて、買い物をする、友達と趣味や興味のある事について語り合うといった日常の様々なシチュエーションを短い簡単な文章で会話してみる。グループごとに役を割り当て発表する。 授業は次の 3 段階をふまえて行われる。 1. グループごとに場面設定とテキストを考える。 2. 作成されたテキストの修正を教師がする。 3. それぞれに発表する 1. 1. The Family 2. People You Know 2. 5. Life 10. Accidents 3. 11. Shops 14. Kitchen 4. 15. Food 16. Heath 5. Review 1 6. 19. Shapes 20. Measurements 25. Hotels 7. 26. Travelling 28. Weather 8. 33. Using Your Hands 34. Do and Make 9. 36. Phrasal Verbs 1 10. Review 2 11. 37. Phrasal Verbs 2 12. 38. Thanking 13. 39. Giving Directions 14. 40. On the telephone 15. Review 3								
事前・事後学習について	取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましょう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。								
準備学習に必要な時間	授業の内容に合わせて必要な時間準備してください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	50	授業内で会話テストを行います。						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	50	授業内でリスニングテストを行います。						
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは積極的に質問してください。								
使用テキスト	Glennis Pye “Vocabulary in Practice Book 3”, CAMBRIDGE.								
参考書	和英・英和辞書								

対象学生	基礎（外国語） 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	英会話（生活科学専攻） B41114			後期	演習	2	必修			
担当教員	ジョナサン・ヒギンズ									
授業の概要	応用のきく基礎力をつけることに重点を置く。家庭学習よりも授業に参加して、その場で集中した演習を行い、英語の持つ独特なイントネーションやアクセントを身につけてゆく。									
到達目標	基礎会話をテキストで学び、それをもとに、“買い物をする”“レストランの場面”“友達と趣味や興味のある事柄について語り合う”といった、日常の様々なシチュエーションを短い文章を用いて会話することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○	○							
授業計画	基本会話をテキストで学び、それをもとにレストランにて、買い物をする、友達と趣味や興味のある事について語り合うといった日常の様々なシチュエーションを短い簡単な文章で会話してみる。グループごとに役を割り当て発表する。 授業は次の3段階をふまえて行われる。 1. グループごとに場面設定とテキストを考える。 2. 作成されたテキストの修正を教師がする。 3. それぞれに発表する 1-3. At Immigration and Customs 4-5. Getting to a Hotel 6-8. Taking the Subway 9-10. At a Fast-Food Restaurant 11-12. Shopping 13-15. At the Airport									
事前・事後学習について	取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましょう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。									
準備学習に必要な時間	授業の内容に合わせて必要な時間準備してください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	授業内で会話テストを行います。							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	50	授業内でリスニングテストを行います。							
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは積極的に質問してください。									
使用テキスト	Takuji Shimada, Bill Benfield(2019)“Travel English at Your Fingertips”,SEIBIDO.									
参考書	和英・英和辞書									

対象学生	基礎（外国語） 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	英会話（介護福祉専攻・食物栄養専攻） B41114			前期	演習	2	必修			
担当教員	ジョナサン・ヒギンズ									
授業の概要	応用のきく基礎力をつけることに重点を置く。家庭学習よりも授業に参加して、その場で集中した演習を行い、英語の持つ独特なイントネーションやアクセントを身につけてゆく。									
到達目標	基礎会話をテキストで学び、それをもとに、“買い物をする”“レストランの場面”“友達と趣味や興味のある事柄について語り合う”といった、日常の様々なシチュエーションを短い文章を用いて会話することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○	○							
授業計画	基本会話をテキストで学び、それをもとにレストランにて、買い物をする、友達と趣味や興味のある事について語り合うといった日常の様々なシチュエーションを短い簡単な文章で会話してみる。グループごとに役を割り当て発表する。 授業は次の3段階をふまえて行われる。 1. グループごとに場面設定とテキストを考える。 2. 作成されたテキストの修正を教師がする。 3. それぞれに発表する 1-3. At Immigration and Customs 4-5. Getting to a Hotel 6-8. Taking the Subway 9-10. At a Fast-Food Restaurant 11-12. Shopping 13-15. At the Airport									
事前・事後学習について	取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましょう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。									
準備学習に必要な時間	授業の内容に合わせて必要な時間準備してください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	授業内で会話テストを行います。							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	50	授業内でリスニングテストを行います。							
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは積極的に質問してください。									
使用テキスト	Takuji Shimada, Bill Benfield(2019)“Travel English at Your Fingertips”,SEIBIDO.									
参考書	和英・英和辞書									

対象学生	基礎（自己表現） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	スポーツと健康 B51116			通年	講義・実技	2	必修		
担当教員	高野 喜宏								
授業の概要	スポーツ・運動の実践を通して受講生の健康増進を図るとともに、健康とスポーツ・運動との関連、安全に運動を行うための方法について講義を行う。								
到達目標	・スポーツ・運動に楽しく参加することができる。 ・他者と協力しながら、スポーツを行うことができる。 ・健康的なライフスタイルについて理解する。 ・安全にスポーツを行う態度・知識を身につけることができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
			○						
授業計画	【前期】 1. 実技 オリエンテーション 2. 実技 選択実技① 3. 実技 選択実技① 4. 実技 選択実技① 5. 実技 選択実技② 6. 実技 選択実技② 7. 実技 選択実技② 8. 講義 健康を推進するためのライフスタイルとは?① 9. 講義 健康を推進するためのライフスタイルとは?② 10. 講義 運動習慣と生活習慣病ー運動不足病と高血圧ー 11. 講義 運動習慣と生活習慣病ー糖尿病と脂質異常症ー 12. 講義 運動習慣と生活習慣病ーメタボリックシンドロームー 13. 講義 運動とストレスー運動とストレスの関係って?ー 14. 講義 運動とストレスー運動がこころに与える影響ー 15. 講義 まとめ 【後期】 16. 実技 オリエンテーション 17. 実技 選択実技③ 18. 実技 選択実技③ 19. 実技 選択実技③ 20. 実技 選択実技③ 21. 実技 選択実技④ 22. 実技 選択実技④ 23. 実技 選択実技④ 24. 実技 選択実技④ 25. 講義 安全に運動を行うためにーウォーミングアップとクーリングダウンー 26. 講義 安全に運動を行うためにー環境と運動ー 27. 講義 安全に運動を行うためにー応急処置ー 28. 講義 安全に運動を行うためにー心肺蘇生法ー 29. 講義 健康的な生活のためにーダイエット計画ー 30. 講義 まとめ・小テスト								
事前・事後学習について	実技はバスケットボール、バレーボール、ソフトバレー、バドミントン、卓球、テニス、ターゲットバードゴルフ、フットサルなどを行います。実技・講義ともに受講人数や状況によってシラバスの内容が多少変更することがあります。								
準備学習に必要な時間	講義では、健康と運動の関連や安全に運動を行うための知識を身につけてもらいます。復習として資料を見返したり、図書館等に置いてある本を読み、学習を深めてください（30 分程度）。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	75	授業への参加態度、意欲						
	レポート	25	健康的なライフスタイル、運動と健康の関連についての理解						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	試験後に確認します。								
使用テキスト	講義の際に毎時プリントを配布する								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	スポーツと健康（実技） B51117			前期	実技	1				
担当教員	高野 喜宏									
授業の概要	近年、生活習慣病や過剰なストレス、それに伴う健康不安感の増大、生活意識の変容などにより、健康に対する意識が高まっている。授業では、スポーツの実践を通して、体力向上や健康の維持・増進を図ることを目的とする。また、選択した種目について計画を立て、実行することを通して、卒業後も自己の健康を維持・増進できるような主体的な姿勢を築くことを目標とする。									
到達目標	・他者と協力してスポーツを行うことができる。 ・安全にスポーツを行う態度を身につけることができる。 ・スポーツのルールを理解して、実技内容を計画することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
			○							
授業計画	1. オリエンテーション 2. 体ほぐし運動・体づくり運動・ストレッチ 3. バドミントン 4. テニス 5. 卓球 6. ソフトボール 7. ソフトバレー 8. ターゲットバードゴルフ 9. バスケットボール 10. バレーボール 11. フットサル 12. 選択実技 13. 選択実技 14. 選択実技 15. 選択実技									
事前・事後学習について	選択実技では、学生の皆さんと相談して内容を決めます。受講人数や状況によってシラバスの内容が多少変更することがある。									
準備学習に必要な時間	各自で週に 2、3 回程度、30～60 分程度のストレッチ及び軽い運動（ウォーキング、ジョギング、縄跳びなど）に取り組んでおくこと。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	25	スポーツの意味について							
	実践	75	参加態度・意欲							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却する。									
使用テキスト	特に指定しない									
参考書	特に指定しない									

対象学生	基礎（自己表現） 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	音楽（基礎） B51118			前期	講義	2			
担当教員	宮下 幸子								
授業の概要	現在われわれの呼ぶ「音楽」とは西洋音楽であることを踏まえ、西洋芸術音楽の成立について知るとともに、作曲家や歴史の背景を学び、クラシック音楽に親しむ。								
到達目標	西洋音楽の基礎知識として、西洋音楽史の大きな流れや、作曲家、有名な楽曲等に触れることにより、敷居が高いように思われる西洋音楽(クラシック)に親しみを持って、より音楽を楽しめるようになる。 また普段あまり意識されないが、確実に我々に影響を与えている音や音楽の存在に気づき、さまざまな視点から音楽をとらえられるようになる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○	○	○						
授業計画	1. 導入、西洋音楽(クラシック)とは何か、西洋音楽史概観、使用される楽器の紹介 2. 交響曲/ベートーヴェン、ブラームス、マーラー 3. 交響曲/ブラームス、マーラー他、古典からロマン 4. 声楽曲①/シューベルト、シューマン 5. 声楽曲②/ドイツリート以外の世界の歌カンツォーネ（伊）、シャンソン（仏）等 6. オペラ①、声楽＋管弦楽＋演劇＋美術等総合芸術として/ヴェルディ、プッチーニ 7. オペラ②/イタリアオペラとドイツオペラ/ワーグナー 8. 独奏曲①、ピアノ曲、ヴァイオリン曲等/ショパン、 9. 独奏曲②/リスト、ドビュッシー 10. 協奏曲①、独奏楽器（ピアノ）＋管弦楽/ラフマニノフ、チャイコフスキー 11. 協奏曲②、独奏楽器（ヴァイオリン）＋管弦楽/メンデルスゾーン・バルトルディ 12. 宗教曲①、バロック/バッハ、ヘンデル 13. 宗教曲②/古典からロマン 14. オールマイティな作曲家/モーツァルト、R. シュトラウス 15. 音楽療法と西洋音楽の関係								
事前・事後学習について	特に予習は必要ありませんが、授業で用いた楽曲や紹介した楽曲については再聴してみてください。 また、TVやBGMなど、身の回りでは意外と多くのクラシック音楽が用いられています。 そのような曲にも耳を傾け、興味を向けてほしいと思います。 西洋音楽史の流れに沿って紹介していくので、授業がすべて終了する頃には大まかな時代の名前と流れが理解できているように、随時復習しておくことを求めます。								
準備学習に必要な時間	次回に取り上げる作曲家やお薦めの曲などを紹介しますので、聴いてみてください。10 分～30 分程度。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	70	音楽だけではなく社会的背景を含めた歴史の理解について、資料から自らの見解を述べることを求める						
	その他	30	授業毎にレポートを作成、提出						
受講上の注意・課題のフィードバック	レポートは添削の上返却します。								
使用テキスト	特になし。 必要なプリントを随時配布する。								
参考書	授業中に紹介する。								

対象学生	基礎（自己表現） 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	美術 B51119			後期	演習	2				
担当教員	青木 千恵美									
授業の概要	身の周りにある様々なモノに関わるテクスチャー、色彩について学ぶ。サンプリングを通してこれらの要素を改めてとらえ、味わい、また、資料の解説などにより理解を深める。自身の感性にフィットするテクスチャーや配色、心地よく感じられる生活空間などについて意識し、考える。									
到達目標	ケント紙の特徴を活かし、様々なテクスチャーを作成することができる。 色彩の分類、配色の基本的な考え方について理解し、資料や配色のサンプルを作成することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○		○							
授業計画	1. オリエンテーション、身の周りからのテクスチャーの採集 2. ケント紙のテクスチャーバリエーションの作成① 3. ケント紙のテクスチャーバリエーションの作成② 4. テクスチャーの採集、バリエーションの作成に関する合評会 5. 色彩の分類 6. 色彩の三要素 7. トーン分類① 8. トーン分類② 9. 色の対比 10. 配色の基本的な考え方① 色相配色 11. 配色の基本的な考え方② トーン配色 12. 色彩の心理的効果 13. 言葉のイメージを表現する配色① 14. 言葉のイメージを表現する配色② 15. 合評会 まとめ									
事前・事後学習について	身の周りにあるモノや自然の中にある色や形、テクスチャー等を改めて観察し、とらえてみてください。 課題およびワークシートのファイリングは、自身の興味、関心が詰まったものになるよう、課題に取り組んでください。									
準備学習に必要な時間	素材の収集、構成の試行錯誤等に対して積極的に取り組み、自身の発想力、構成力を高めていきましょう。（30 分程度～）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	70	サンプリング、ワークシートの内容の充実度、資料としての完成度							
	レポート	0								
	その他	30	課題への取り組みの姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	提出された課題およびワークシートに対して、コメントを記載し返却します。 演習の内容から、受講人数については、3 6 名までとします。（登録おいて、3 7 名以上となった場合は抽選とします。）									
使用テキスト	プリントを配布します。材料費として1 0 0 0 円を集金します。									
参考書	必要に応じて紹介します。									

対象学生	基礎（キャリア） 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	キャリアデザイン(生活科学専攻) B61120			前期	演習	1				
担当教員	田中 洋 他									
授業の概要	未来史の作成、卒業生など人生の先輩の話、各種講座を通して自分をみつめ、自分のキャリアについて考える。									
到達目標	演習や講義を通して、自主的に進路を考えるために必要な基本的な知識と情報を得る。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○	○	○							
授業計画	1. オリエンテーション 生活科学専攻の履修の仕方、学習成果及び学習成果ノートの使い方 アコーディオンノートづくり 2. 教員紹介、未来史の作成 1 3. 教員紹介、未来史の作成 2 4. ようこそ先輩 1 卒業生からのメッセージ 5. 教員紹介、未来史の作成 3 6. 教員紹介、未来史の作成 4 7. ようこそ先輩 2 本学職員からのメッセージ 8. 未来史の発表 9. 講座 1 リラクゼーション 1 スキンケア & ビジネスメイク 10. 講座 2 リラクゼーション 2 アロマで気持ちをほぐす 11. 講座 3 ワークライフバランス 1 妊娠と出産 12. 講座 4 ワークライフバランス 2 子育てと仕事 13. 講座 5 ワークライフバランス 3 介護と仕事の両立 14. 講座 6 ワークライフバランス 4 法令（基本的知識・労働法を中心に） 15. 講座 7 ワークライフバランス 5 TP0 & カラーコーディネート 生活科学専攻の半年間の学習成果の確認、ルーブリックの記入 ※講義の順序が変わる場合があります。授業で日程表を配布します。									
事前・事後学習について	新聞の記事を読む習慣をつけ、文章表現、漢字の読み書き、時事問題への感度を高められるようにしましょう。 その際、どの新聞雑誌の記事なのか確認することをお勧めします。 資格取得だけではなく、人としてどう成長したいか考えてみましょう。									
準備学習に必要な時間	所要時間は特に定めませんが、未来史作成のための写真を探す時間、憧れる仕事とその分野で働く人について調べる必要があります。授業前後に取り組みましょう。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	90	未来史、授業内の小課題							
	レポート	0								
	その他	10	授業に対する姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	未来史について、「未来史の発表」の時間に解説を行います。									
使用テキスト	資料配布									
参考書	渡辺俊・伊藤健市 編著「学生のためのキャリアデザイン入門」中央経済社 2015									

対象学生	基礎（キャリア） 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	キャリアデザイン(介護福祉専攻) B61120			後期	演習	1				
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	自分の卒業後の生き方について主体的に考えていきます。介護福祉士の仕事を理解し、短大で学んだ知識や技術をどのように活かし、どこで働いていくのか、どのように生きていくのかを考えていきます。また、社会人としての意識を培い、社会の一員として自立できる力をつけていきます。									
到達目標	・介護福祉士として働くことが具体的にイメージできる。 ・自分のキャリアを見通して、計画を策定することができる。 ・社会のマナーを知り、社会人として自立する手段を考えられるようになる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○	○	○							
授業計画	1. 私と介護 2. 介護福祉士に必要な力 1 グループワーク 3. ようこそ先輩① 先輩の仕事の様子を聞いて、介護福祉士の仕事を理解する。 4. ようこそ先輩② 先輩の仕事の様子を聞いて、介護福祉士の仕事を理解する。 5. 介護福祉士に必要な力 2 グループで検討した必要な力や、現在の自分達の課題をまとめる。 6. 介護福祉士に必要な力 3 グループでまとめた介護福祉士に必要な力を発表する。 7. 就職活動を始める前に知っておきたいこと 8. 社会人に求められるマナーを学び、ますます素敵な大人を目指しましょう① 身だしなみや立居振舞いを学ぶ。 9. 社会人に求められるマナーを学び、ますます素敵な大人を目指しましょう② ビジネス会話について（敬語などもあわせて）学ぶ。 10. 自分の未来像を描く 11. 介護福祉士になるための自分を見つめよう 12. 経済的な自立とは 自己の金銭管理の方法やマネープランについて考える。 13. 仕事の理解 就業規則、労働に関わる法律、賃金体系などを理解する。 14. 就職活動について 今後の就職活動のスケジュールの確認と自分の就活プランを考える。 15. 私のキャリアデザイン 自分の将来を見通して、キャリアデザインを描く。									
事前・事後学習について	介護福祉士資格取得を目指して入学したみなさんですが、具体的なことを知らない人は多いと思います。先輩たちの話を聞いたり、より具体的な話を提供しますので、みなさんも就活の方向性を見いだせるように真剣に考えて下さい。また、キャリアデザインは、就活のことだけを考えるのではなく、その先も含めて「自分がどう生きていくか」という大きなテーマに向かって考えていくことです。自分のことですので、主体的に取り組み、悩み、成長して行って下さい。									
準備学習に必要な時間	新聞を読む習慣をつけておいてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	30	介護福祉士に必要な力の感想・グループワーク・発表（30）							
	レポート	60	私のキャリアデザイン							
	その他	10	グループワークへの参加態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	自分の中で就職活動やその後のキャリアなど「介護福祉士としてどう生きていくのか」を考える授業にしますので積極的にグループワークなど参加してください。 レポートに関しては、添削をして返却をします。									
使用テキスト	ファイルと資料・ワークシートを配付する。									
参考書										

対象学生	基礎（キャリア） 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	キャリアデザイン(食物栄養専攻) B61120			前期	演習	1				
担当教員	学科教員									
授業の概要	この授業では、自分をみつめ、自分のキャリアを考えるきっかけを作ります。									
到達目標	自主的・自立的に進路設計をする際に必要な基本的な知識・情報を講義、演習を通して習得する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○	○	○							
授業計画	1. 総論 ① あなたはどんな大人になりたいですか 2. 総論 ② なぜ生き方・働き方のデザインが必要なのでしょう 3. 総論 ③ 自分の性格・能力を見つめ直そうー自己分析のすすめー 4. 総論 ④ あなたはどんな分野で働きたいですか？ 5. 社会人に必要な力 ー接遇・マナーー 6. 栄養士に必要な力 ① 計算（問題集の解説） 7. 栄養士に必要な力 ② 食生活 <課題の返却> 8. 栄養士に必要な力 ③ 漢字 9. 女子学生の不安にこたえる ー 就職するまで、そして就職してからー 10. 栄養士に必要な力 ④ 塩分濃度 11. 栄養士に必要な力 <レシピの返却> ① 代表レシピの試作 12. 栄養士の活躍する職場 給食受託会社 13. 栄養士に必要な力 ② 代表レシピの試作 14. ようこそ先輩 ① 15. ようこそ先輩 ②									
事前・事後学習について	事前学習：新聞を読む習慣をつけておいてください。 事後学習：資格の取得だけではなく、人間としてどう成長したいかを考えるようにしてください。									
準備学習に必要な時間	授業内で配布するワークシートの内容について、事後学習と調べてください（毎回 1 時間程度）。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	授業内の演習（ワークシートほか）							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。									
使用テキスト	各教員の指示に従う。									
参考書	「学生のためのキャリアデザイン入門」，渡辺俊・伊藤健市：編著，中央経済社									

対象学生	基礎（キャリア） 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	地域社会学 B61121			前期	講義	2				
担当教員	武分 祥子									
授業の概要	本学のある飯田市および周辺地域についての歴史、特徴、コミュニティの現状を社会学の視座から学びます。その上で、将来、地域で生活し専門職としての役割を果たして行く上で必要な視点を持ち、さらに地域づくりのために自分たちは何ができるかをグループ単位で考えます。様々な学科専攻の学生との交流・取り組みも本授業の課題です。									
到達目標	①飯田下伊那地域を中心にこの地域の特徴をさまざまな素材をもとに幅広く学ぶ。 ②将来地域で個人としてよりよく豊かに生き、さらに専門職としての役割を果たしていくために必要な社会学的視点を身につける。 ③自分自身が地域づくりの担い手となることを自覚し、取り組む課題を見出せる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○	○							
授業計画	1. 地域社会学を学ぶために（全体のながれ） 2-3. 飯田下伊那地域の特徴（統計、自然、文化） 4-6. 飯田下伊那地域の歴史（歴史的な出来事を中心に） 7-9. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの担い手（3つの自治体の取り組み：特別講師） 10-11. 地域での活動 12-13. フィールドワーク 14. フィールドワークのまとめ、発表 15. 総括									
事前・事後学習について	飯田下伊那地域に関わる情報を事前に収集し受講してください。各授業において随時課題を出しますので、それをもとにグループ単位で授業を進めていきます。学んだことをもとにして調査（フィールドワーク）を実施します。調査ガイダンスをもとに、実際の場所へ行ったり、調査したりしますので、現地まで自分で行けるように事前準備をお願いします。									
準備学習に必要な時間	授業回ごとに事前に必要な情報収集を求めます（1 時間程度）。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	フィールドワークでの取り組み（①②③）							
	レポート	50	学んだことを総括したレポートの内容（①②③）							
	その他	10	参加時の発言、積極性、態度（②③）							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題にはコメントを記入し返却します。									
使用テキスト	特に指定しない。授業中に資料を配布する。									
参考書	特に指定しない。									

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	基礎コミュニケーション B61122			前期	講義	2				
担当教員	黒岩 長造									
授業の概要	コミュニケーションについての基本的な考え方について学ぶ。 自身のコミュニケーション様式を知り、より良い他者とのコミュニケーションとは何かについて実際の体験を通じて考える。									
到達目標	(知識・理解) コミュニケーションに関する心理学の基本的な理論を理解できる。 (技能・技術) 他者とのコミュニケーションを行うことができる。 (思考・判断) 自身のコミュニケーション様式について考えを深めることができる。 (関心・意欲・態度) 自身のコミュニケーション様式を見直し、他者とのより良いコミュニケーションについて意欲を高めることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○	○								
授業計画	1. オリエンテーション：人とコミュニケーションをしてみようⅠ（偏愛マップ） 2. 人とコミュニケーションをしてみようⅡ（一文回し書き・句読点音読） 3. コミュニケーションの基本的な考え方：言語・非言語コミュニケーションと感情 4. 言語コミュニケーションを体験するⅠ（絵のワーク） 5. 言語コミュニケーションを体験するⅡ（話す位置・態度のワーク） 6. 非言語コミュニケーションを体験するⅠ（パーソナルスペースのワーク） 7. 非言語コミュニケーションを体験するⅡ（ボール投げのワーク） 8. 自分を知るⅠ：現在の自分のコミュニケーション様式を把握する（エゴグラム） 9. 自分を知るⅡ：現在の自分の心の状態を把握する（カラーージュ） 10. 自分と他者の違いを知る：カラーージュの共有 11. 他者との関係のなかの自分を知るⅠ：他者からの影響：説得的コミュニケーション 12. 他者との関係のなかの自分を知るⅡ：集団のなかの自分：援助行動・同調行動 13. 他者とコミュニケーションを豊かにする方法Ⅰ：共感力を高めるワーク 14. 他者とコミュニケーションを豊かにする方法Ⅱ：ワークを考えよう 15. ワークの発表会									
事前・事後学習について	事前学習：日常生活において、自身のコミュニケーションスタイルについて考えを深めておくこと 事後学習：講義やワークを通して学んだことを日常生活のコミュニケーションに活かす									
準備学習に必要な時間	授業に集中できるように事前に毎回1時間程度プリントを読んで理解しておいてください。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	・講義やワークの体験から学んだ「コミュニケーション」を高めるための方法を考えることができる。							
	レポート	0								
	その他	50	毎回のリアクションペーパー：・講義の内容の理解度・自分の感じたことや考えの説明力							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。									
使用テキスト	授業で資料を配布します。									
参考書	藤本忠明・東正訓. (2004). ワークショップ 人間関係の心理学. 京都：ナカニシヤ出版. 藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子・橋本尚子・東正訓. (1993). ワークショップ心理学. 京都：ナカニシヤ出版. 齋藤孝. (2004). コミュニケーション力. 東京：岩波書店. 齋藤孝. (2004). 偏愛マップ. 東京：NTT 出版.									

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	文章表現 B61123			前期、後期 (通年ではありません)	演習	2			
担当教員	中野 裕子								
授業の概要	レポートを書く時の基本的ルールを始め、社会人として必要な実践的文章の書き方(履歴書、小論文、報告書、メール、手紙、敬語の使い方)を学びます。授業の前半でその日の単元の講義、問題演習等をし、後半では課題に取り組み、提出して頂きます。								
到達目標	・ 実践的文章を書くための基本的な知識を身につける。 ・ 明快な文章で論理的な思考を組み立て、意図が伝わる文章をかくことができる。 ・ ある題材について、情報を整理し、意見文が書けるようになる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○	○						
授業計画	1. ガイダンス 自己紹介文を書いてみよう。 2. 必要な情報の入った文章(5W1H) 絵をみて説明文を書いてみよう。 3. 筋の通った文章の書き方(主語・述語の呼応、接続詞の使い方) 例文を分かりやすく直してみよう。 4. 意見文の書き方① 中心的な柱となる文の作り方 200 字で意見文を書いてみよう。 5. 意見文の書き方② 柱を補強する文の作り方 200 字で意見文を書いてみよう。 6. 小論文の書き方① 事実と意見を分けて書く 例文の事実と意見を分けて二段落で書こう。 7. 小論文の書き方② 二段落で小論文を書く 与えられた論題を 400 字で書こう。 8. 小論文の書き方③ 二段落の小論文を書く 与えられた論題を 400 字で書こう。 9. 小論文の書き方④ 三段落で小論文を書く 事実、意見(賛否)、意見(根拠)の三段落で小論文を書こう。 10. レポートを書く時の 3 つの法則 事実、意見(賛否)、意見の三段落で小論文を書こう。 11. 履歴書・エントリーシートの書き方 自己 PR 文を書いてみよう。 12. 手紙・メールの書き方 恩師に手紙を書いてみよう。 13. 敬語の使い方① 尊敬語・謙譲語・丁寧語の問題演習 14. 敬語の使い方② 決められた題材で小論文(400 字～600 字)を書こう。 15. 決められた題材で小論文(400 字～600 字)を書こう。								
事前・事後学習について	特に必要ありませんが、教員の指示に従って、提出物は必ず時間内に出してください。またプリント類は保管し、就活、レポートの際に活用して下さい。								
準備学習に必要な時間	各自、必要に応じて学習してください。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	100	随時、提出する課題で評価します。						
受講上の注意・課題のフィードバック	課題の作業は集中して時間内に提出しましょう。課題はその都度、添削して返却しますが、十五回目の課題は提出後、返却しません。								
使用テキスト	適宜、資料配布。								
参考書	樺島忠夫『文章表現法－五つの法則による十の方策－』（角川選書 303、1999 年 3 月） 藤吉豊・小川真理子『「文章術のベストセラー100 冊」のポイントを一冊にまとめてみた』（日経 BP、2021 年 1 月）								

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活の中の経済 B61124			後期	講義	2				
担当教員	武分 祥子									
授業の概要	本授業は学生が自分の生活のなかの経済動向を、自分たちを取り巻く題材をもとに理解を深めます。普段の生活は何に誰に支えられているのか、労働は社会にとってどのような価値があるのか、社会動向と経済はどのような関係があるのかなど、身の回りの実際の経済状況がわかる新聞やライフイベントなどを取り上げた資料を活用します。学生の要望に応じて教材を検討していきます。最後に本授業で学んだことや考えたことをもとにレポート作成し総括していきます。									
到達目標	①自分の生活や人生、職業と関わっていく経済のしくみを理解することができる。 ②身の回りの経済の理解に基づいて、自分の将来をより具体的に設計できる。 ③将来個人としてよりよく豊かに生き、さらに専門職としての役割を果たしていくために必要な経済学的視点を身につける。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○	○							
授業計画	1. 「生活の中の経済」の全体像～授業の進め方、目標 2. アダム・スミスの生活・人生 3. ロビンソン・クルーソーの体験 4. 女性と男性の労働と収入は異なるのか 5. 子どもの貧困はいつから問題になったのか 6. 家事労働は社会にとってどんな価値があるのか 7. 戦争、紛争、ウォール街と経済 8. 金、銀、お金の価値 9. 市場の誕生～売買と競争の始まり 10. ナイチンゲールとお金の話 11. 格差社会の誕生 12. 自分への投資を考えよう 13. 子どもの自立と個人主義 14. これからの経済と私たち 15. 総括 ＊本授業はゼミ形式（課題の分担、発表、ディスカッション）で実施するため、3 名以上の登録により開講が可能となります。登録者数によっては開講できない場合があります。									
事前・事後学習について	受講生の皆さんの考えや知りたいことを中心に授業を進めていきたいと考えています。そのために受講生には必ずテキストを読み担当を決めてまとめて、討論の柱を考えてもらいます。授業では毎回ゼミ形式で、積極的にディスカッションしながら授業をつくりあげていきますので、授業の事前・事後学習ではいろんなことに対して自分の考えをもつよう心がけてください。									
準備学習に必要な時間	一人ひとり課題を決定し、その発表準備のためにレジュメと資料を準備してもらいます(1 時間程度)。受講生の人数によっては、2～3 回の担当となります。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	課題の取り組み（到達目標②③）							
	レポート	40	小論文の内容（①②③）							
	その他	20	参加時の発言・積極性・態度（①③）							
受講上の注意・課題のフィードバック	一人ひとりのレジュメと資料に対して添削しコメントを返却します（口頭、記述）。必要によって複数回やり取りをします。									
使用テキスト	カトリーン・マイサル 高橋璃子訳「アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？」河出書房新社、2021 年。									
参考書	特に指定しない。適宜資料を配布する。									

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	情報処理（生活科学専攻） B61125			前期	演習	2	必修			
担当教員	篠田 恵									
授業の概要	ICT を活用するための基礎的能力を養うため、アプリケーションの基礎を学び、実務に対応できるスキルを身につける。 また、情報化社会に伴い、ネットワークコミュニケーションの特徴や、セキュリティ対策の必要性についての意識の向上と理解を深める。									
到達目標	タッチタイピングを身につける。 修学・研究に最低限必要なスキルおよび、就職後、実務に必要なスキルを習得する。 また、ネットワーク社会で身に着けておくべき基本的なセキュリティーやモラルについても理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. Windows 基礎とパソコンの基本、Word の画面構成、タッチタイピング、Teams のクラス登録について 2. 文字入力の方法と文章入力、Teams を活用したアンケート、課題提出、データダウンロードについて 3. セキュリティーと情報モラル、Teams を活用した遠隔授業について 4. Word の基本機能、書式設定、ビジネス文書 5. 様々な文書の作成と編集、表の利用 6. 表現力をアップする機能を使った文書の作成 7. レポートの作成、Excel の画面構成、データ入力と基本操作 8. セルの書式設定と印刷準備 9. ビジネスで使われる計算式と簡単な関数 10. 実務に対応した関数（統計・数学／三角・論理） 11. グラフの作成と編集（目的別グラフの作成） 12. データベースの利用（検索・並べ替え・抽出）、Word と Excel の連携、実技試験（Word, Excel） 13. PowerPoint の基本操作、スライドの作成、グラフィックを利用したアピール方法とアニメーション効果 14. 実技試験解説、Teams を活用した共同作業 15. タイピングテスト、理解テスト（NESS 利用）、Teams を活用した共同作業（発表）									
事前・事後学習について	タッチタイピングを自分のものにできるよう、毎日少しの時間を取り分けて練習しましょう。 毎回復習として課題（必須）を出しますので、早めに取り組み、学んだことを自分のものとしてしっかり身につけましょう。課題提出は Teams を基本とします。									
準備学習に必要な時間	タイピング練習（毎日 15 分） 授業内で配布する課題（宿題）への取り組み（毎回 20 分～1 時間 30 分程度 個人差あり）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	85	オフィスソフトを利用したデータ分析・文書作成の実技試験（第 12 回目）、タイピングテスト（第 15 回目）、NESS 上でプレゼン・情報セキュリティ分野理解テスト（第 15 回目）							
	実践	0								
	レポート	10	毎回の提出課題到達度							
	その他	5	授業に取り組む姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	どんな職業に就くとしても、パソコンの基本技術は必ず身につけておきたいものです。 この授業では、タッチタイピングといった基本操作から幅広くいくつかのソフトウェアについて学びますが、そのどれもが今後役に立つはずのものです。ぜひ自分のものにしましょう！ 授業で新しく習得した知識・技能は、毎回宿題として出される課題を通してしっかり復習しましょう（課題提出は必須）。 また、実技試験後、14 回目の授業で解説を行いますので、欠席しないようにしてください。									
使用テキスト	イチからしっかり学ぶ！ Office 基礎と情報モラル Office2016 対応（noa 出版） Teams による遠隔授業の受け方（学校から配布される資料）									
参考書	特に指定しない									

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	情報処理（介護福祉専攻） B61125			前期	演習	2	必修			
担当教員	稲垣 みき									
授業の概要	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）による文書作成、表計算、プレゼンテーションの基礎を学び、実務に対応できるスキルを身につける。 また、情報化社会におけるセキュリティ対策の必要性についての意識の向上と理解を深める。									
到達目標	・タッチタイピングを身につける ・遠隔授業における Teams の使い方を理解する ・Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）の操作を習得し、活用できる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. Windows の基本 タッチタイピング ファイル管理の方法 インターネットの活用 2. 遠隔授業における Teams の使い方 3. Word の基本機能 書式設定と文字入力 4. Word の応用 歌集の作成① 5. Word の応用 歌集の作成② 6. Word の応用 文章の作成と編集 7. Excel の基本① 画面構成、基本操作とデータ入力 8. Excel の基本② 表の作成、データ入力 9. Excel の基本③ グラフの作成、データ入力 10. Excel の応用 表とグラフの作成 11. P o w e r P o i n t の基本① プレゼンテーションと発表について学ぶ 12. P o w e r P o i n t の基本② スライドの作成、表やグラフの挿入方法 13. P o w e r P o i n t の基本③ グラフィックやアニメーション効果を利用したアピール方法 14. プレゼンテーション資料の作成 1 15. プレゼンテーション資料の作成 2									
事前・事後学習について	この演習で学ぶ技術は、社会にでてから様々な仕事で活用しうるものです。「正確に、早く、美しく」文書・資料を作成できるようになりましょう。苦手な操作があった場合は、ぜひ復習してください。									
準備学習に必要な時間	授業で行った演習は、放課後パソコン室で練習したり、自宅でも練習する必要があります。（30分以上）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	10	タッチタイピングの速さと正確さ							
	実践	0								
	レポート	90	課題の理解、発想、各テクニックをまとめる力							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	それぞれの学生のレベルが違うので、まずは各自のトレーニングが必要です。 どうしてもできない場合は、次の授業までに個人指導をしますので、担当した教員にご相談ください。 提出課題に関しては、添削を行い返却をします。									
使用テキスト	noa 出版 イチからしっかり学ぶ！Office 基礎と情報モラル Office2016 対応									
参考書										

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	情報処理（食物栄養専攻） B61125			前期	演習	2	必修			
担当教員	篠田 恵									
授業の概要	ICT を活用するための基礎的能力を養うため、アプリケーションの基礎を学び、実務に対応できるスキルを身につける。 また、情報化社会に伴い、ネットワークコミュニケーションの特徴や、セキュリティ対策の必要性についての意識の向上と理解を深める。									
到達目標	タッチタイピングを身につける。 修学・研究に最低限必要なスキルおよび、就職後、実務に必要なスキルを習得する。 また、ネットワーク社会で身に着けておくべき基本的なセキュリティーやモラルについても理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. Windows 基礎とパソコンの基本、Word の画面構成、タッチタイピング、Teams のクラス登録について 2. 文字入力の方法と文章入力、Teams を活用したアンケート、課題提出、データダウンロードについて 3. セキュリティーと情報モラル、Teams を活用した遠隔授業について 4. Word の基本機能、書式設定、ビジネス文書 5. 様々な文書の作成と編集、表の利用 6. 表現力をアップする機能を使った文書の作成 7. レポートの作成、Excel の画面構成、データ入力と基本操作 8. セルの書式設定と印刷準備 9. ビジネスで使われる計算式と簡単な関数 10. 実務に対応した関数（統計・数学／三角・論理） 11. グラフの作成と編集（目的別グラフの作成） 12. データベースの利用（検索・並べ替え・抽出）、Word と Excel の連携、実技試験（Word, Excel） 13. PowerPoint の基本操作、スライドの作成、グラフィックを利用したアピール方法とアニメーション効果 14. 実技試験解説、Teams を活用した共同作業 15. タイピングテスト、理解テスト（NESS 利用）、Teams を活用した共同作業（発表）									
事前・事後学習について	タッチタイピングを自分のものにできるよう、毎日少しの時間を取り分けて練習しましょう。 毎回復習として課題（必須）を出しますので、早めに取り組み、学んだことを自分のものとしてしっかり身につけましょう。課題提出は Teams を基本とします。									
準備学習に必要な時間	タイピング練習（毎日 15 分） 授業内で配布する課題（宿題）への取り組み（毎回 20 分～1 時間 30 分程度 個人差あり）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	85	オフィスソフトを利用したデータ分析・文書作成の実技試験（第 12 回目）、タイピングテスト（第 15 回目）、NESS 上でプレゼン・情報セキュリティ分野理解テスト（第 15 回目）							
	実践	0								
	レポート	10	毎回の提出課題到達度							
	その他	5	授業に取り組む姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	どんな職業に就くとしても、パソコンの基本技術は必ず身につけておきたいものです。 この授業では、タッチタイピングといった基本操作から幅広くいくつかのソフトウェアについて学びますが、そのどれもが今後役に立つはずのものです。ぜひ自分のものにしましょう！ 授業で新しく習得した知識・技能は、毎回宿題として出される課題を通してしっかり復習しましょう（課題提出は必須）。 また、実技試験後、14 回目の授業で解説を行いますので、欠席しないようにしてください。									
使用テキスト	イチからしっかり学ぶ！ Office 基礎と情報モラル Office2016 対応（noa 出版） Teams による遠隔授業の受け方（学校から配布される資料）									
参考書	特に指定しない									

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	簿記論 I B61126			前期	演習	1				
担当教員	橋本 幸二郎									
授業の概要	楽譜が世界共通の音楽言語であるように、簿記は世界共通のビジネス言語です。 本授業では簿記初学者を対象として、会計の基礎である複式簿記を理解することにより社会・経済の仕組みを学んでいきます。 簿記は全てのビジネスの原点です。わずかな期間の学習であっても修得したその知識は、必ず皆さんの生涯にわたって役に立ちます。 ぜひ簿記の学習を通じて、自らの可能性を広げてください。 なお教員は税理士資格（官報合格）日商簿記1級を有し、関東信越税理士会に所属しています。									
到達目標	複式簿記の理解とともに、社会、経済の仕組みを理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 簿記の基礎 2. 商品売買 その1 3. 商品売買 その2 4. 商品売買 その3 5. 現金預金 6. 小口現金・有形固定資産 7. 約束手形・電子記録債権債務 8. その他の取引 その1 9. その他の取引 その2 10. その他の取引 その3 11. その他の取引 その4 12. 仕訳問題・答案練習 その1 13. 仕訳問題・答案練習 その2 14. 仕訳問題・答案練習 その3 15. 仕訳問題・答案練習 その4 ※特別講義について 本授業では、プロサッカークラブチーム松本山雅 FC のご厚意により、同クラブの財務諸表を教材として使用させて頂いています。 また、同社代表取締役神田社長の特別講義を予定しています。 プロスポーツビジネスの最前線でご活躍されておられる神田社長の特別講義は、みなさんが学ぶ簿記が実社会において、どのように必要とされているのかを具体的に知る機会になるはずです。 なお日程は変更になる場合があります。									
事前・事後学習について	簿記がわかると経済がわかります。 本授業では、毎回その時々には起きている経済事象を紹介しながら進めていきます。 いつも行くバーガーショップの商品の値段がなぜ上がったのか、または、なぜ下がったのか。 喫茶店で飲むコーヒー1杯の利益はいくらなのか。 そんな身近なことに、ほんの少しだけ興味をもって、授業に臨んでみてください。 また事後学習として、授業で使用了演習問題を繰り返し解き、知識の定着を図ってください。									
準備学習に必要な時間	事後学習として、授業で使用了演習問題の再確認（おおむね 30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	40	複式簿記の理解							
	実践	30	演習問題への取り組み							
	レポート	0								
	その他	30	目的意識をもって取り組む姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	毎授業において、問題演習を行います。 また答案練習については、解答解説を行います。									
使用テキスト	滝澤ななみ「簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第11版」TAC 出版									
参考書	特に指定はありません。									

対象学生	基礎（キャリア） 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	簿記論Ⅱ B61127			後期	演習	1				
担当教員	橋本 幸二郎									
授業の概要	資格は見えないアクセサリーです。 本授業では、日本商工会議所が実施する簿記検定（日商簿記３級）に合格するために必要な知識と技術を、演習を通じて習得していきます。 そのため簿記論Ⅰを修得後に履修することが望まれます。 簿記の知識と資格を得ることは、職業の選択肢を増やし、社会での活躍の場を広げます。 検定の合格には当然に努力が必要となりますが、将来の自分のために、今の時間を使ってみてください。 なお、上位級を目指す学生については別途教材を用意します。									
到達目標	・ 会計の基礎である複式簿記を理解し、企業の取引を仕訳により記録することができる。 ・ 簿記一巡の手続きを理解し、財務諸表（貸借対照表及び損益計算書）を作成することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果１	学修成果２	学修成果３							
		○								
授業計画	１．現金過不足 ２．当座借越・貯蔵品 ３．貸倒引当金 ４．固定資産の減価償却・売却 ５．売上原価の算定 ６．前払費用・前受収益 ７．未収収益・未払費用 ８．消費税・法人税等 ９．勘定の締切・剰余金の配当 １０．商品有高帳 １１．答案練習 第２問対策 １２．答案練習 第１問対策 １３．答案練習 第３問対策 精算表 １４．答案練習 第３問対策 決算整理後残高試算表 １５．答案練習 第３問対策 財務諸表									
事前・事後学習について	簿記は「習うより慣れろ」です。簿記とは企業の経済活動を記録するための技術であり、その習得には、ただテキストを読むだけではなく、実際に手を動かし演習問題を繰返し解くことが必要となります。 本授業は、演習問題を解くことを中心に進めますが、事後学習として各自が積極的・自発的に演習問題に取り組む姿勢が望まれます。 ぜひ、強い目的意識と積極性をもって、簿記の学習に取り組んでください。									
準備学習に必要な時間	・ 事後学習として、授業で使用した演習問題の再確認（おおむね 30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	基本的な商業簿記の知識と理解							
	実践	30	演習問題への取り組み							
	レポート	0								
	その他	20	目的意識をもって、取り組む姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	毎授業において、演習問題の解答解説を行います。									
使用テキスト	滝澤ななみ「簿記の問題集 日商３級 商業簿記 第 11 版」TAC 出版									
参考書	特に指定はしませんが簿記検定試験を目指す学生には、授業で使用する演習問題等とは別に、試験対策用の教材を用意します。									

対象学生	基礎（キャリア） 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	社会貢献活動 B62128			1・2年次 通年	演習	1			
担当教員	学務部長・学科専攻長								
授業の概要	本科目では、社会貢献活動（ボランティア活動等）を通し、建学の精神を学びます。								
到達目標	1. 学外における自主的・実践的な活動を通して、社会に貢献することができる。 2. 自身が活動した中で学んだことを、実践レポートにまとめることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○	○	○						
授業計画	単位認定方法 本科目の単位認定は、シラバスに基づいて履修を行う科目ではありません。 在学期間中に取り組んだ、実働 30 時間以上行った社会貢献活動（ボランティア活動・地域支援活動・福祉活動・学習支援活動・NPO 活動・国際貢献活動他※1）について単位認定を行います。 活動後、実践レポート（※2）と必要書類を教務課へ提出し単位認定を行ってください。必要書類の提出をもって履修登録を兼ねることとします。 提出書類 ・単位認定申請書 ・30 時間以上の活動実践記録 ・社会貢献活動の実践レポート ※1 サークル活動で行うボランティアも該当します。 ※2 実践レポートは、学外における自主的・実践的な活動を通して学んだこと、身につけたこと等を文章としてまとめてください。								
事前・事後学習について	活動を行う上で、必要なことを事前に学習してください								
準備学習に必要な時間	1 時間程度								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	50	活動を通して何を学んだか						
	その他	50							
受講上の注意・課題のフィードバック	お世話になったボランティア先の責任者（あるいはそれに相当する方）の証明をいただいた活動実践記録を提出してください。態度やマナーも含めての社会貢献活動であることを自覚して、自分の活動を振り返ってください。								
使用テキスト	使用しない。								
参考書	特に指定しない。								

2. 生活科学専攻

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	生活経営学 L13001			前期	講義	2			
担当教員	富田 勝彦								
授業の概要	私たちの生活は社会や環境、歴史・文化など様々な面と相互に関連しあっている。しかし、毎日は比較的単純で反復的なことから、その関連性や論理性を意識することは少ない。そこで本授業では、生活の諸側面の論理と社会の仕組みや関連性などの理解を通して、各人が主体的に自身の生活を営むするという意識を再認識し、構築することを目指す。								
到達目標	・生活に関する基礎知識を理解する ・家族、家計、労働、福祉、環境など、生活の実態と関係性を理解する ・生活上の諸問題に対して、生活経営学の視点からアプローチし考察する ・生活者としての主体性を構築する								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○								
授業計画	1. 生活とは何か、生活経営学とは何か 2. 生活の組織と単位の変化 3. 家族に関わる法律 4. 生活と地域共生社会 5. 生活時間のとらえ方と生活時間の実態 6. 家計のとらえ方と実態 7. 人間関係の捉え方と関係性の実態 8. ケイパビリティ・アプローチ 9. 生活手段でとらえる 10. 働くこと職業をもつこと（職業労働と家事労働） 11. 生活と福祉 12. 社会保障の仕組み 福祉と情報 13. 生活と契約・消費者問題 14. ライフスタイルと環境 15. 持続可能な社会の生活設計								
事前・事後学習について	「生活する＝生きていく」とはどういうことか、意識して考えてみましょう。 （日ごろから新聞・テレビのニュースやネットニュースを見る習慣をつけ、気になる事柄を意識して考えてみてください。）								
準備学習に必要な時間	今、社会ではどんなことが起こっているのか、新聞・テレビのニュースやネットニュースなどで毎日 10 分程度する習慣を身につけましょう。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	生活に関する基礎知識の理解、生活経営の現状と課題の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	質問や意見等があれば、授業の中で積極的に発言してください。課題として取り上げます。議論していきましょう。								
使用テキスト	「持続可能な社会をつくる 生活経営学」日本家政生活経営学部会 編 朝倉書店. 2020 年								
参考書	必要に応じて随時、授業内で案内								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	衣生活概論 L13002			後期	講義	2				
担当教員	前澤 純子									
授業の概要	消費者の視点から衣生活を捉え、被服の的確な選択と購入、快適な着方、清潔な管理などについて学習する。 加えて、衣服をあらゆる角度から、学ぶ。									
到達目標	「日常の衣生活への関心を高める。」 生活に密着した衣生活への知識の習得。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
	○									
授業計画	1. 衣服のはじまりと変遷(1) 着衣のはじまり 2. 衣服のはじまりと変遷(2) 流行について 3. 身のまわりの衣服と素材(1) 身のまわりの繊維製品 4. 身のまわりの衣服と素材(2) 衣服を構成する布、糸 5. 身のまわりの衣服と素材(3) 繊維の種類 6. 衣服の選択-色彩とファッション- 7. 体型に合わせた衣服の購入 8. 衣服を快適に着用するために 9. 衣服の清潔な管理(1) 着用による衣服の汚れ、性能変化 10. 衣服の清潔な管理(2) 家庭洗濯と商業洗濯 11. 衣服の清潔な管理(3) 洗濯以外の手入れ 12. 環境に配慮した衣生活 13. 進化する衣服性能と技術(1) 高性能衣服素材 14. 進化する衣服性能と技術(2) スポーツウェア 15. ユニバーサルデザイン・省エネ・災害への対応を考える 乳幼児から高齢者の衣服、災害時の衣服									
事前・事後学習について	新聞や雑誌等で衣服や繊維などに関する情報に目を向ける。									
準備学習に必要な時間	テキストを読む時間として 30 分程度									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	小テスト							
	レポート	50	専門性							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業内の終わりに、小テストか、レポートが出ます。									
使用テキスト	消費者の視点からの衣生活概論 菅井清美・諸岡晴美 井上書院									
参考書	ファッションビジネス論 衣料管理士協会 マーケティング論 -アパレルビジネスのための- 衣料管理士協会									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	食生活概論 L13003			前期	講義	2				
担当教員	高木 一代									
授業の概要	食文化の成り立ちや食生活の変遷に目を向け、社会の仕組みとの関わりにおいて食をとらえる意識を持つ。 社会環境の変化に伴い家族の形態やライフスタイルが大きく変わり、これらの問題は食生活のあり方へも影響を及ぼしていることを認識し、健康で豊かな食生活とは何かを考える。									
到達目標	・食文化や食嗜好の形成要因を捉え、自身の食生活へ立ち戻って考えることができる。 ・様々な食の課題に対する意識を高め、健康で豊かな食生活を構築するために重視すべき事項について理解できる。 ・社会の動きが食生活も含めた自分の生活へ及ぼす影響の大きさに対する認識を持つ。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
	○									
授業計画	1. 食生活の概念 2. 食生活と衛生管理 3. 現在の食生活とエネルギー消費① 4. 現在の食生活とエネルギー消費② 5. 社会の変化と食生活 6. 食生活に関わる諸問題 7. 日本の食文化 8. 食環境と食生活 9. 食品の表示 10. ライフスタイルと食生活① 11. ライフスタイルと食生活② 12. 日本型食生活① 13. 日本型食生活② 14. ライフステージと食生活① 15. ライフステージと食生活②									
事前・事後学習について	授業内容を自分の問題として捉えるために、食生活に関連するテレビや新聞等の報道に関心を持つ。 食に関する記事を配布する食生活概論ノートに貼り、コメントを記入する。									
準備学習に必要な時間	食に関する情報収集と食生活概論ノートの記入。(約 1 時間)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	食生活概論ノートの記入							
	レポート	50	食の課題に対する意識							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	意欲的に授業に臨んでください。 新型コロナウイルスの影響で対面授業が難しいと判断した場合、遠隔授業となる場合があります。									
使用テキスト	「食生活論」岡崎光子編著，光生館，2015.									
参考書	「ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学」關戸啓子編，メディカ出版，2020.									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	住生活概論 L14004			後期	講義	2			
担当教員	篠田 尚幸								
授業の概要	生活していく中で欠かせない住居。そこに住まう人々を中心に、住居を取り巻く環境を人々が快適に住むための様々な観点から考察し、豊かでな住生活のあり方を多面的に学ぶ。								
到達目標	住生活を支点に生活の様々な場面に目を向け、豊かな生活をみることのできる知識と視点を養う。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○								
授業計画	1. さまざまな建物 2. 歴史に学ぶ建築～温暖化と住居～ 3. 住生活と SDGs 4. 住居とアトリエ 5. 住環境と環境問題～ミナペルホネン・信州松本まち歩き～※レポート 6. 青森の BORO※レポート 7. 豊かさとはなにか：①住生活と生活道具（用の美） 8. 豊かさとはなにか：②住生活と民藝 9. 豊かさとはなにか：③アフガニスタン用水路が運ぶ恵みと平和※レポート 10. 豊かさとはなにか：④小さな森の家 11. 時代遅れの新しさ 12. 無駄のある家 13. 集まって住もう～目を養い手を練れ～ 14. 建築とヒューマニティー：建築とは誰のためにあるのか 15. ガウディの建築・生き方※レポート								
事前・事後学習について	住生活をさまざまな角度からみてみましょう。レポートを課す授業回があります。課題と向き合うことで豊かな住生活とは何かを考えていきましょう。								
準備学習に必要な時間	1 時間程度								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	100	思考・判断・感性						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	意欲的に臨んでください。								
使用テキスト	「二十四節季に合わせ心と体を美しく整える」村上百代著 ダイアモンド社 「小さな森の家-軽井沢山荘物語」吉村順三著 建築資料研究社 「聴竹居」松隈章著 平凡社								
参考書	「春夏秋冬のある暮らし」金田正夫著 風工社 「江戸時代はエコ時代」石川英輔著 講談社文庫								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	生活学演習 L12005			後期	演習	1			
担当教員	坂上 ちおり・今村 由香								
授業の概要	社会人として必要な、基本的なビジネスマナーについて学ぶ。 履歴書にふさわしい文章表現について、知識を習得し、書く技術を身につける。 履歴書を作成し、模擬面接を経験する。								
到達目標	①社会人としての基本的ビジネスマナーについて、理解、習得することができている。 ②自身の進路希望に沿った、履歴書を作成することができる。 ③模擬面接（就職試験を想定）において、マナーの実践、自己表現をすることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○								
授業計画	1. オリエンテーション・就職活動ノートの全体像を把握する ※生活科学専攻の学習成果と学習成果ノートの記入 2. ビジネスマナー 1 社会人としての心構え、身だしなみ、挨拶、入退室の方法 3. ビジネスマナー 2 ことばづかい、敬語の基本用法 4. ビジネスマナー 3 電話対応 5. ビジネスマナー 4 来客対応 6. ビジネスマナー 5 訪問のマナー、名刺交換、服装チェック 7. ビジネスマナー 6 ビジネス文書、新聞からの情報収集 8. ビジネスマナー 中間テスト 9. 就職活動セミナー① 就職活動について知る 10. 就職活動セミナー② 志望職種について知る 11. 履歴書を書くために必要な知識と技術 12. 履歴書の作成と添削 13. 履歴書の作成と添削 14. 社会保険制度について知る 15. 履歴書に基づいた模擬面接会 ※生活科学専攻の半年間の学習成果の確認、ルーブリックの記入								
事前・事後学習について	あなたは、将来どのような人になりたいと思っていますか。また、自分のどのようなところが素敵だと思っていますか。「今の自分」について、「これからの自分」について考えることは社会人に向かう第1歩です。 この授業では、これからの自分を考えることと合わせて、社会人としての基本的なビジネスマナーをより実践的に学びます。さらにその学習成果の確認の機会として、履歴書作成と模擬面接を設けています。自分自身を成長させる機会として、積極的に取り組んでください。								
準備学習に必要な時間	事後学習として、毎回 30 分程度 授業内で配布するビジネスマナーのプリントを読みなおしてください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	60	ビジネスマナーの基本と応用の理解						
	実践	20	模擬面接						
	レポート	20	履歴書作成						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	中間試験および履歴書は、返却します。								
使用テキスト	学生課作製の就職活動ノート 適宜配布のプリント								
参考書	特になし								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	調理学及び調理実習 L11006			前期	講義・実習	2			
担当教員	富口 由紀子								
授業の概要	この授業では、食品の調理性や調理操作に関する理論を実習を通して理解します。食品の持つ調理性や調理方法における要点を理解し、調理技術を習得します。 実務経験（栄養士）のある教員の科目								
到達目標	・ 基本的な調理操作や食品の調理性について理解できる。 ・ 調理器具や食材を衛生的に扱い、安全に留意して実習を行うことができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○								
授業計画	1-3. 実習に当たって・計量・包丁の使い方と切り方・うま味 4-6. 炊飯・巣ごもり卵の清汁・ほうれん草の浸し・蛇腹きゅうり 7-9. かやくご飯・厚焼き卵・さんまの南蛮漬・茶碗蒸し・水ようかん 10-12. サンドウィッチ・ハンバーグステーキ・ポテトサラダ・せん切り野菜のスープ 13-15. パン・ムニエル・粉ふきいも・野菜ポタージュ・フルーツサラダ・カスタードプディング 16-18. ポークカレー・野菜サラダ・ヨーグルトゼリー 19-21. 炒肉片・涼拌茄子・牛乳かん・中国茶 22-24. 春巻き・麻婆豆腐・冷拌三糸・カステラ 25-27. 炒米粉・酸辣湯・青椒肉絲・白玉だんご 28-30. まとめ・実技試験								
事前・事後学習について	事前学習：授業計画に従い、テキストに該当するページを読んできてください。 事後学習：授業で学んだ要点をノートにまとめてください。実習で作った料理を作ってみてください。								
準備学習に必要な時間	各調理の手順を理解してきてください（毎回 1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	40	筆記試験						
	実践	40	実技試験						
	レポート	20	理解、関心						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。								
使用テキスト	「調理実習の手引き」 飯田女子短期大学調理研究室								
参考書	「NEW 調理と理論 第二版」山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子・米田千恵・大石恭子（共著）、同文書院。								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	家族関係学 L13008			後期	講義	2			
担当教員	村山 真紀子								
授業の概要	児童虐待や少年犯罪など、現代の社会問題とされている事件が、その原因は家族にあるのではないかとされている。では、家族とは、家族内外の人間関係はどうあればよいのだろうか。歴史の変遷から現代の日本社会をふまえつつ、「家族とは何か」を探究していく。								
到達目標	・ 家族の変遷について理解する ・ 家族に関する社会問題の現状を認識し、考察することができる ・ 家族について関心をもち、家族と社会の関連性、社会情勢などを考察し論ずることができる								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○	○							
授業計画	1. 家族とは何か 「家族」とは何か、自分にとってまたは社会にとってどんな存在なのか、どんな役割や機能があるのか考察してみよう。 その上で家族関係学を学ぶ意義を考えてみよう。 2. 生まれる・育つ① 子どもの社会化と家族のかかわりについて考察してみよう。 3. 生まれる・育つ② 家族のほかに子どもの社会化にかかわりのある環境を探ってみよう。 4. 子どもが直面している問題 現代社会は子どもにとって生きやすい社会なのか考察してみよう。 5. 青年期の自立と親子関係 青年期の特徴をふまえて青年期の親子関係を考察してみよう。 6. セクシュアリティ、性、生殖 多様な性と産む・産まないということについて考えてみよう。 7. パートナーの選択と結婚 結婚とは何か、若者の意識と実態から探ってみよう。 8. 夫婦関係の諸相① 夫婦関係とは何か考察してみよう。 戦後における夫婦関係の変化を探ってみよう。 9. 夫婦関係の諸相② 夫婦のパートナーシップの現状と課題を探ってみよう。 10. 離婚・再婚とステップファミリー 離婚の動向を探ってみよう。 再婚とステップファミリーの現状を探ってみよう。 11. 子育てと子どもの社会化 親として子どもの社会化にどうかかわっていくのか現状と課題を考察してみよう。 12. ワーク・ライフ・バランス 真のワーク・ライフ・バランスとは何か、現状と課題を通して考察してみよう。 13. 親のケアにかかわること 親のケアと家族のかかわりについて考察してみよう。 14. 高齢期の社会関係と生きがい 高齢者を取り巻く社会関係について探ってみよう。 高齢者の支援について考えてみよう。 15. 社会の変化・家族の変化 これからの社会・家族はどうなるのか考えてみよう。								
事前・事後学習について	レポートの作成と学習効果を上げるため、「家族」に関する政策や社会問題などに関心をもち、できるだけ毎日、新聞に目を通すようにしましょう。レポートや授業に関連のありそうな記事は切り取って、授業で配布したワークシートや資料などとともにファイリングしていきましょう。新聞記事はレポート作成に使用します。予習より復習を中心に学習を進めていってください。								
準備学習に必要な時間	今、社会でどんな家族問題が起こっているのか、どんな対策がなされているのかなど、新聞やネットニュースなどを毎日 10 分程度チェックしましょう。新聞はレポートに使用しますので、「家族」に関する記事を集めておきましょう。 ワークシートと小テストが返却されたら、小テストの添削を見ながら 30 分程度の復習をしてください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	60	家族関係学の基礎知識の理解、家族に関する社会問題の現状と課題の理解						
	実践	0							
	レポート	40	家族に関する社会問題などへの関心・考察						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の最後に毎回、小テストを行います。ワークシートと小テストは授業終了後に提出してもらい、添削・採点し、後日返却します。 レポートの提出は 2 回です。添削をし、後日返却します。								
使用テキスト	「改訂 新しい家族関係学」、長津美代子・小澤千穂子 編著、井田瑞江・井上清美・大石美佳・菊地真理・平野順子・冬木春子・細江容子・山下美紀 共著、建帛社、2018 年								
参考書	授業内で紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	保育学 L14009			後期	講義	2			
担当教員	坂上・三浦・壬生・友竹・青木・松永・中山								
授業の概要	人間の成長発達の過程で、乳幼児期の重要性を認識する。また、核家族化、女性の社会進出など子どもをとりまく社会や家庭環境の変化の中で、心身ともに健やかな成長を目指した保育のあり方を考える。								
到達目標	・乳幼児期の重要性について理解する ・社会や家族の変化と保育のかかわりについて理解する ・健やかな成長を目指した保育について思考を深めることができる								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○								
授業計画	1. 保育を学ぶ 2. 子どもを育てる：①親の役割、社会の役割 3. 子どもを育てる：②親のかかわりとその影響 4. 子どもの発育・発達：①子どもの精神発達 5. 家庭における看護：①乳幼児健康診査 6. 子どもの発育・発達：①母体の健康管理と子どもの誕生～妊娠と出産～ 7. 子どもの発育・発達：②母体の健康管理と子どもの誕生 ～新生児の特徴～ 8. 子どもの発育・発達：③母子・父子の愛着形成 9. 家庭における看護：②小児の病気 10. 家庭における看護：③小児の病気と看護 11. 子どもが育つ環境の整備：①子どもの食生活 12. 子どもが育つ環境の整備：②子どもと絵本 13. 子どもが育つ環境の整備：③子どもと造形(1) 14. 子どもが育つ環境の整備：④子どもと造形(2) 15. 子どもが育つ環境の整備：⑤児童福祉・子育て支援								
事前・事後学習について	具体的評価物として、初回にワークシート（1～15 回）を配布します。授業の要点と受講した感想を書いてください。授業の最終回に提出します。その内容が成績に反映されます。								
準備学習に必要な時間	今、子どもを取り巻く環境はどうなっているのか、どんな対策がなされているのかなど、新聞やネットニュースなどを毎日 10 分程度チェックしましょう。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	100	保育に関する基礎知識の理解、保育に対する関心・考察						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	専門の教員によるクラス分けの授業です。質問等はでき得る限り授業内で発言し、疑問を明らかにしてください。毎時間記入するワークシートは最終回に提出し、評価後に返却します。								
使用テキスト	「新保育学 改訂 5 版」、岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子・武田京子・吉川はる奈 著，南山堂，2011 年								
参考書	授業内で適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	アパレル材料学 L11010			後期	講義	2			
担当教員	前澤 純子								
授業の概要	衣服の中で、その素材、繊維、特性を学び、身近な衣服の知識を深める。								
到達目標	衣服を購入する際、または、仕事や生活で生地や繊維に関わる際には、その知識を活かして、適切な選択ができるようにする。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○			○					
授業計画	1. 序章 生活と衣服 2. 第 1 章 繊維の種類と構造 3. 糸の種類と構造 （１）糸の分類 4. 糸とより （２）糸の番手 5. 第 3 章 布の種類と構造 6. 布の種類と構造 織物 7. 布の種類と構造 編物 8. 布の種類と構造 不織布 9. 第 4 章 衣服素材の性質 耐久性 10. 衣服素材の性質 形態的性質 11. 衣服素材の性質 寸法安定性 12. 衣服素材の性質 防しわ性 13. 第 5 章 衣服素材の染色加工 14. 第 6 章 繊維科学技術の発展と開発 15. 第 7 章 衣服と資源・環境問題								
事前・事後学習について	衣生活概論やアパレル管理学と関連させて学習することにより理解が深まる。								
準備学習に必要な時間	授業で扱った内容を 1 5 分程度復習しておく。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	50	授業内小テスト						
	レポート	50	授業内レポート						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の終わりに小テスト、またはレポートを出します。 配布物と、教科書に書き込み、貼り付けていくので赤ペン、マーカー、ノリ、ハサミなどを持参する。								
使用テキスト	衣服材料学の科学〔第 3 版〕 編著 島崎恒蔵 建帛社								
参考書	業界マイスターに学ぶせんいの基礎講座 JTCC 編集・繊維学会監修 「おもしろサイエンス繊維の科学」日本繊維技術士センター 編 日刊工業新聞社発行								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	アパレル管理学 L12011			後期	講義	2				
担当教員	前澤 純子									
授業の概要	洗濯機 1 台で乾燥までできる昨今、まだまだ人の手により衣服を管理すること、知っておくべき知識は多い。 より生活に寄り添った観点から、衣服の洗濯や取り扱いについて科学的に学ぶ。									
到達目標	衣生活に活かせる洗濯や管理について、時代に寄り添った視点で知識を身に付ける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
	○			○						
授業計画	1. 衣服の汚れ 汚れの種類 2. 洗濯用水と洗剤(1) 洗濯用水、市販洗剤 3. 洗濯用水と洗剤(2) 洗浄補助剤 4. 洗濯機 洗濯機の歴史と種類 5. 汚れ除去のメカニズム 界面活性剤の性質、機械作用 6. 洗浄力の試験法 洗濯のモデル化、汚染度の表示法 7. 家庭洗濯(1) 洗濯条件と洗浄力の関係 8. 家庭洗濯(2) 洗濯の手順と方法 9. 商業洗濯 ドライクリーニング、ランドリー、ウェットクリーニング 10. 漂白と増白 11. 糊つけと柔軟仕上げ 12. しみ抜き 13. 衣服の保管 14. 衣服の廃棄とリサイクル 15. まとめ									
事前・事後学習について	日常の洗濯や、衣服の洗濯表示などに関心を持つ。洗濯する機会があるときは、授業内容を実践し、経験と失敗により学んでいく。									
準備学習に必要な時間	授業で扱う内容を 30 分程度予習しておくこと。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	授業内小テスト							
	レポート	50	授業内レポート							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の終わりに小テストまたはレポートを出します。									
使用テキスト	「衣服管理の科学」 建帛社 片山倫子他									
参考書	被服整理学 日本衣料管理士協会 衣料管理士養成のための消費生活論 日本衣料管理士協会 衣生活のための消費科学 日本衣料管理士協会									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	栄養学 L12012			後期	講義	2	必修		
担当教員	岩瀬 彩香								
授業の概要	人体における栄養素の基本的な働きを学ぶ。また、様々なライフステージにある人々の健康の保持・増進に寄与するため、栄養アセスメント、食事摂取基準、現代の食についても学ぶ。								
到達目標	・ 栄養素の役割を理解し、ライフステージごとの栄養管理に必要な知識を習得する。 ・ 食事摂取基準に基づく食事設計の基礎を理解する。 ・ 自分自身の食について振り返ることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○	○	○						
授業計画	1. 人と栄養 2. 健康と栄養・食生活 3. 食品の成分と機能①（炭水化物、脂質） 4. 食品の成分と機能②（たんぱく質、ビタミン） 5. 食品の成分と機能③（ミネラル、その他の栄養素） 6. からだのしくみと栄養素の働き①（栄養素の消化） 7. からだのしくみと栄養素の働き②（栄養素の吸収） 8. 栄養状態の評価（栄養アセスメント） 9. 食事摂取基準と私たちの食生活 10. ライフステージと栄養①（妊娠・授乳期） 11. ライフステージと栄養②（乳幼児期） 12. ライフステージと栄養③（学童期・思春期） 13. ライフステージと栄養④（成人期・高齢期） 14. 日常生活と栄養（運動と栄養） 15. 現代社会の食と栄養（食料自給率・食品ロス）								
事前・事後学習について	事前学習：テキストの該当箇所を一読し、授業に臨んでください。 事後学習：授業内容を忘れないうちに復習を行い、理解を深めてください。								
準備学習に必要な時間	毎回、事前にテキストの該当箇所を読んで予習しておいてください。（30 分程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	70	栄養素や栄養管理の理解						
	実践	30	取り組み状況、提出物						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	提出物は目を通し、返却します。返却時に、必要があれば補足します。								
使用テキスト	「健康づくりの栄養学」小林修平編著・蕪木智子・松本範子・三宅義明著，建帛社								
参考書	特になし								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	臨床栄養実習 L12013			後期	実習	1				
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	福祉施設入所者や在宅ケアにおいて、高齢者が安全でおいしく食事をするための理論を学び、適切な食品を選択し食事をつくるための手法を学ぶ。また、実習を通して高齢期における疾病・症状（糖尿病・高血圧症・嚥下困難）に対応した食事づくりを習得する。									
到達目標	・ 高齢者がより高いＱＯＬを目指し、安全でおいしく食べられる食事を理解する。 ・ 疾病・症状（糖尿病・高血圧症・嚥下困難）に対応した食事を理解し、調理することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
	○									
授業計画	1. 高齢者の食事介護について 高齢者の精神・身体機能の特徴を理解し、食事改善の重要性を理解する 2. 味付けご飯の炊き方と調味割合、だし汁のとり方、ほうれん草のゆで方を理解する かやくご飯、豆腐の味噌汁、ほうれん草のごま和え 3. 麺類の種類と扱い方を理解する 魚の味噌煮、白あえの作り方を習得する 五目うどん、サバの味噌煮、白あえ 4. 軟菜食に向く食品と調理法を理解する 全がゆ、空也蒸し、かぼちゃのそぼろあんかけ 5. すし飯の作り方を習得する サバ寿司、けんちん汁、抹茶ミルクゼリー 6. 天ぷらの作り方を習得する 天ぷら、じゃがいもとわかめの味噌汁、おろし和え 7. 煮物の作り方を理解する 雑炊、魚の照り焼き、炊き合わせ、きゅうりとわかめの酢の物 8. 高齢者に好まれる西洋料理を理解する グラタン、サーモンのマリネ 他 9. 高血圧症の食事を理解する 食塩相当量 6g 以下の食事 10. 糖尿病の人の食事を理解する 1,600kcal の食事 11. 中等度口腔障害食を学ぶ 全粥、味噌汁とろみ付き、まぐろ月見風、かぼちゃマッシュ 他 12. 高齢者向きのおやつ さつまいもの茶巾しぼり、クレープ、豆腐白玉のこしあんかけ、煎茶 13. 高齢者ソフト食 変りのり巻き、かぼちゃのがんも、りんごのコンポート 14. 咀嚼・嚥下障害がある人の食事を学ぶ 小田巻き蒸し、ほたてと鮭の寒天寄せ、スイートポテト 15. 行事食（雛祭り） ひな祭り寿司、蛤の潮汁、菜の花のおひたし、いちご									
事前・事後学習について	事前学習：事前に配布する資料を、手順を考え実習計画表に書いて実習 2 日前までに提出する（グループで 1 部）。 事後学習：実習した料理を毎日の食生活の中で実践することで習得して下さい。									
準備学習に必要な時間	前の週に配布したレシピをみて、作業手順を考え計画表に記載してください。（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	30	実習における意欲・態度・技能・思考力・判断力・協調性							
	レポート	35	知識・理解							
	その他	35	各回の提出物による知識・理解							
受講上の注意・課題のフィードバック	提出された実習計画表は、確認して事前に返却します。 味の評価表には目を通し、反省箇所など、次週実習の初めにコメントします。									
使用テキスト	毎回、資料を配布します。									
参考書	「嚥下障害食のつくりかた」藤谷順子，金谷節子，林静子(著) 日本医療企画									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	体のしくみと健康 L41014			前期	講義	2				
担当教員	村山 真紀子									
授業の概要	より健康的な生活を送るうえで、欠かせないのは病気の予防と病気の早期発見です。そのためにバイタルサインのしくみやその見方、しばしばみられる様々な症状のもつ意味やとらえ方を学びます。									
到達目標	1. 体しくみと働き（バイタルサイン、栄養、排泄、睡眠など）を理解できる。 2. 気になる症状（運動器症状、循環器、呼吸器、消化器、感覚器症状など）を理解できる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
	○		○							
授業計画	1. 日本における「健康」の現状 2. バイタルサイン① 五感を用いた観察、バイタルサインのしくみについて解説します。 3. バイタルサイン②体温・呼吸 体温調節のしくみ、呼吸のしくみと役割→実際に測定してみましょう。 4. バイタルサイン③脈拍・血圧 脈拍のおきるメカニズム、血圧調整のしくみ→実際に測定してみましょう。 5. 排泄①排尿・排便 尿・便がつくられる過程、排泄の異常 6. 視力・聴力・平衡感覚 目・耳のしくみと視力・聴力・平衡感覚の異常 7. 栄養と食事 嚥下機能のしくみと消化吸収の異常 8. 睡眠 概日リズム、睡眠リズムと睡眠の異常 9. 気になる症状①運動器症状 10. 気になる症状②循環器 11. 気になる症状③呼吸器 12. 気になる症状④消化器 13. 気になる症状⑤感覚器 14. 応急手当、救急処置の基本 15. 看取り 危篤と死、家での看取りについて実際に考えてみましょう。									
事前・事後学習について	体のしくみや気になる症状を学び自分や家族の健康について興味をもってください。授業で学ぶ体のしくみに関する知識や健康観察の技術を応用し、日常生活のなかで活かしていきましょう。 毎時間小テストを行いますのでそれに向けて事前学習を行ってください。									
準備学習に必要な時間	小テストの準備学習として 1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	60	定期試験							
	実践	0								
	レポート	40	毎時間 10 分程度の小テスト「からだのしくみ」							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	小テストは採点、添削して次の授業の冒頭で返却します。必要があれば授業内で解説を行います。									
使用テキスト	「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井建雄 橋本尚詞 成美堂出版 「健康の地図帳」大久保昭行 講談社									
参考書	随時紹介									

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	生活文化演習 L23015			前期	演習	1			
担当教員	矢澤 文昭・大蔵 淳子								
授業の概要	さまざまな生活文化のなかで、特に「茶道」「華道」について学ぶ。								
到達目標	「茶道」「華道」を中心に講義を受けた後、演習を通して現代の生活の中に伝統的な文化を見出し、豊かな感性を養うことを目的とする。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○		○	○					
授業計画	1. 茶道・華道とは 2-8. 華道（7 回） ※材料費として 6,000 円 (1,000 円×6 回) が必要 (1) 玄関の花（おもてなしの心で行ける花） (2) センターピースの花（テーブルの真ん中に飾ってどちらからでも楽しめる花） (3) 床の間の花（生花） (4) プレゼントの花（生けたお花をそのまま誰かにプレゼントする） (5) 行事の花（母の日、七夕、バースデー、バレンタインデー等うれしい時に飾りたい花） (6) ゆれる花（次元の違った空間に飾る花） (7) 自分のための花（自分が作った器や好きな器に、自分で楽しんで生ける、自分自身のための花） 9-15. 茶道（7 回） ※菓子代として 1,190 円 (170 円×7 回) が必要 (1) 菓子とお茶について (2) 点前の構成 (3) 割稽古 (4) (5) 手前に挑戦 (6) 茶の湯とは (7) お茶事の体験								
事前・事後学習について	華道—インターネット花展に応募します。 茶道—日本文化の茶道を学習して、“もてなし”とは何かをお茶事の体験から見つけて下さい。								
準備学習に必要な時間	特に指定なし								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	60	授業への取り組み・授業態度						
	レポート	20	レポート（華道：各時間生けた花をスケッチ・感想を書き、レポートとして提出／茶道：終了後レポートの提出）						
	その他	20	演習成果を総合的に評価						
受講上の注意・課題のフィードバック	意欲的に臨んでください。								
使用テキスト	授業の時指示								
参考書	特に指定しない								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	メディカル英会話 L41016			後期	講義・実習	2				
担当教員	奥井 現理・ジョナサン・ヒギンズ									
授業の概要	・医療現場でもにスタッフが用いる英語を楽しく学ぶ授業です。 ・ネイティブ・スピーカーの教員と日本人教員の二名が全ての授業を担当します。 ・おもにスピーキングにおいて、ペアワークやロールプレイング等のさまざまな方法が用いられます。									
到達目標	・単語やリスニング・スピーキングの学習を通して、語学に求められる感性のトレーニングを継続的に行うことができる。 ・スピーキング等の学習を通して、英語学習に求められる知識や技能を体得することができる。 ・日々の学習と親和性の高い内容をもつ英文を味読することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
	○		○							
授業計画	1. Unit1. 用語練習・リスニング・スピーキング 2. Unit2. 用語練習・リスニング・スピーキング 3. Unit3. 用語練習・リスニング・スピーキング 4. Unit4. 用語練習・リスニング・スピーキング 5. Tests1 6. Unit5. 用語練習・リスニング・スピーキング 7. Unit6. 用語練習・リスニング・スピーキング 8. Unit8. 用語練習・リスニング・スピーキング 9. Unit9. 用語練習・リスニング・スピーキング 10. Tests2 11. Unit10. 用語練習・リスニング・スピーキング 12. Unit12. 用語練習・リスニング・スピーキング 13. Unit14. 用語練習・リスニング・スピーキング 14. Unit15. 用語練習・リスニング・スピーキング 15. Tests3									
事前・事後学習について	とくに予習・復習を課しません。 ただし、文章読解は、わからない単語の意味を調べておくなどの予習をしておく、とても深く学ぶことができるでしょう。 また、教員に質問したいことを英語でメモする学習方法は、あなたに大きな利益をもたらすでしょう。 講義内容全般に、日常生活の中で何か関連することを見たり聞いたりしたときは、ノートにメモを取るとよいでしょう（英語のことでなくても構いません）。									
準備学習に必要な時間	自分の学習・習熟状態に応じて必要となる準備をしてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	技能・意欲等が評価されるパフォーマンス評価のほか、知識を問うミニペーパーテストが行われます。							
	レポート	0								
	その他	0	教育上の必要に応じて、上の方法を見直すこと上がります							
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは積極的に質問してください。英語で質問するとよりいいですが、日本語でもサポート可能です。									
使用テキスト	Akihiro Higuchi・John Tremarco 著『Check Up! Basic English for Nursing』（金星堂、2023 年）									
参考書	各種英語辞書（電子辞書でも構いませんが、通信機能の付いた機器をミニテストに使用することは禁止します） なお紙の辞書でおすすめなのは、研究社の『リーダーズ英和辞典』です。									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	ビジネス情報処理			後期	演習	1				
担当教員	篠田 恵									
授業の概要	情報処理（前期）の学習を土台とし、Microsoft Word の様々な機能を効果的に使いこなすスキルを段階的に身につけ、資格試験(マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 試験)に挑戦する。資格試験対策学習を通し、PC を使う実務力を伸ばす。									
到達目標	Microsoft Word 2016 の利用スキルを証明できる資格(マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 試験)に対応した知識や技術の修得を目指す。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 試験について 学習スケジュール表の記入、Teams の登録 出題範囲 1 文書の作成と管理(1) 2. 出題範囲 1 文書の作成と管理(2)、確認問題 3. 出題範囲 2 文字、段落、セクションの書式設定(1) 4. 出題範囲 2 文字、段落、セクションの書式設定(2)、確認問題 5. 出題範囲 3 表やリストの作成(1) 6. 出題範囲 3 表やリストの作成(2)、確認問題 7. 出題範囲 4 参考資料の作成と管理、確認問題 8. 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定(1) 9. 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定(2)、確認問題 10. 模擬試験プログラムの使い方、習熟度チェック表の記入、第 1 回 模擬試験 11. 第 1 回模擬試験ポイント解説、第 2 回 模擬試験 12. 第 2 回模擬試験ポイント解説、第 3 回 模擬試験 13. 第 3 回模擬試験ポイント解説、第 4 回 模擬試験 14. 第 4 回模擬試験ポイント解説、第 5 回 模擬試験 15. 第 5 回模擬試験ポイント解説、ランダム試験									
事前・事後学習に ついて	テキストの各セクションに理解度チェックの項目があります。 授業前、授業後に自分の理解度を確認し、不確実な部分はしっかり復習しましょう。 確認問題は宿題になる場合もあります。									
準備学習に 必要な時間	テキストの理解度チェック 事前事後各 30 分程度 確認問題 事後 20～50 分程度（個人差あり）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	100	マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 模擬試験（ランダム試験）							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題 のフィードバック	テキスト、学習スケジュール表、習熟度チェック表を活用し、各自の理解度をチェックしながら進めます。 確認問題でしっかり復習しながら進めましょう。 模擬試験プログラムを活用し、各模擬試験が 100%になるまで繰り返し実習しましょう。 確認問題などの課題提出は、Teams を基本とします。									
使用テキスト	Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集（FOM 出版）									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	ビジネス情報処理 I L41017			後期	演習	1				
担当教員	篠田 恵									
授業の概要	情報処理（前期）の学習を土台とし、Microsoft Word の様々な機能を効果的に使いこなすスキルを段階的に身につけ、資格試験(マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 試験)に挑戦する。資格試験対策学習を通し、PC を使う実務力を伸ばす。									
到達目標	Microsoft Word 2016 の利用スキルを証明できる資格(マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 試験)に対応した知識や技術の修得を目指す。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
	○		○							
授業計画	1. マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 試験について 学習スケジュール表の記入、Teams の登録 出題範囲 1 文書の作成と管理(1) 2. 出題範囲 1 文書の作成と管理(2)、確認問題 3. 出題範囲 2 文字、段落、セクションの書式設定(1) 4. 出題範囲 2 文字、段落、セクションの書式設定(2)、確認問題 5. 出題範囲 3 表やリストの作成(1) 6. 出題範囲 3 表やリストの作成(2)、確認問題 7. 出題範囲 4 参考資料の作成と管理、確認問題 8. 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定(1) 9. 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定(2)、確認問題 10. 模擬試験プログラムの使い方、習熟度チェック表の記入、第 1 回 模擬試験 11. 第 1 回模擬試験ポイント解説、第 2 回 模擬試験 12. 第 2 回模擬試験ポイント解説、第 3 回 模擬試験 13. 第 3 回模擬試験ポイント解説、第 4 回 模擬試験 14. 第 4 回模擬試験ポイント解説、第 5 回 模擬試験 15. 第 5 回模擬試験ポイント解説、ランダム試験									
事前・事後学習について	テキストの各セクションに理解度チェックの項目があります。 授業前、授業後に自分の理解度を確認し、不確実な部分はしっかり復習しましょう。 確認問題は宿題になる場合もあります。									
準備学習に必要な時間	テキストの理解度チェック 事前事後各 30 分程度 確認問題 事後 20～50 分程度（個人差あり）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 模擬試験（ランダム試験）							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	テキスト、学習スケジュール表、習熟度チェック表を活用し、各自の理解度をチェックしながら進めます。 確認問題でしっかり復習しながら進めましょう。 模擬試験プログラムを活用し、各模擬試験が 100%になるまで繰り返し実習しましょう。 確認問題などの課題提出は、Teams を基本とします。									
使用テキスト	Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集（FOM 出版）									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	保健統計 L31019			後期	演習	1			
担当教員	三浦 弥生								
授業の概要	Excel2016 を用いて保健統計の基礎を学びます。また、Word2016 を用いたアンケート調査票の作成および Excel2016 を用いたデモデータ集計等を行い、保健統計の実際を演習を通して修得します。								
到達目標	1. アンケート調査票が作成できる。 2. Excel2016 を用いて統計処理ができる。 3. 統計処理したものから傾向を読み取り報告書の作成ができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
	○	○	○						
授業計画	1. Excel の便利機能 グラフの作成 グラフの Word 貼り付け 便利な Excel 関数 ピボットテーブルを活用したクロス集計 2. 統計の基礎①代表値と散布度：平均値・分散・標準偏差・グラフ 3. 統計の基礎②代表値と散布度：中央値・四分位範囲・グラフ 4. 統計の基礎③クロス集計・オッズ・オッズ比・リスク・リスク比 5. 統計の基礎④相関・相関係数 6. 統計の基礎⑤度数分布表・ヒストグラム 7. 統計の基礎⑥点推定・区間推定 8. 仮説検定①カイ二乗検定(独立性の検定) 9. 仮説検定② t 検定(平均値の差の検定) 10. 仮説検定③分散分析 11. アンケート調査①質問紙の作成・Excel 入力画面の作成 12. アンケート調査②質問紙の回答・入力 13. アンケート調査③集計：グラフの作成 14. アンケート調査④集計：仮説検定 15. アンケート調査⑤考察：報告書の作成								
事前・事後学習について	毎時間の最後に課題の演習を行います。基本的には時間内に提出して貰いますが、演習で時間内にできなかったところがあれば、次の授業時間までに学習しておきましょう。								
準備学習に必要な時間	復習に 30 分程度（配布資料を確認してください）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	40	課題（Excel2016 での処理状況）						
	レポート	50	調査票・データ処理・報告書（Excel2016 を用いたグラフ作成と考察）						
	その他	10	保健統計への関心・意欲・態度（演習への取り組み状況）						
受講上の注意・課題のフィードバック	演習でわからないところは、その都度質問してください。								
使用テキスト	資料配布								
参考書	30 時間でマスターExcel2016 実教出版								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	ファッションⅠ L21020			前期	講義・実習	2			
担当教員	前澤 純子								
授業の概要	自分がデザインしたブラウスを1着作る。 授業を通して、縫製と衣類の知識を学ぶ。								
到達目標	・流行を取り入れ、アイデアと発想力を養う。 ・製作過程で、洋裁、衣服の基礎知識を身につける。								
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4					
	○			○					
授業計画	1. ブラウスデザイン。デザイン。原型作図。 2. 作図。 3. 作図。衿、袖。カフス。 4. 型紙化。 5. 生地裁断。 6. 縫製準備、接着芯、ロックミシン。 7. 縫製。 8. 縫製。身頃。 9. 縫製。肩、身返し、裾。 10. 衿作り。 11. 衿付け。 12. 袖作り。 13. 袖付け。 14. ボタンホール。 15. ボタン付け。仕上げ。総評。								
事前・事後学習について	洋裁初心者も受講可能。 配られた配布物は、ファイリングし、全て保管する。								
準備学習に必要な時間	日常的にメディアを通して流行に敏感に、ファッションを楽しむ。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	60	作品の完成度。						
	レポート	30	最後の授業に配布物とレポートをまとめて提出。						
	その他	10	作品製作に取り組む姿勢。						
受講上の注意・課題のフィードバック	・完成を想像する。 ・物作りが好き。 ・着た自分を想像する。								
使用テキスト	文化学園大学 ファッション造形学講座 春夏アイテムⅠ ブラウス/スカート 服装造形学科編 文化出版局 2015								
参考書	「改訂版・服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース」文化服装学院編 文化出版局 2009								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	ファッションⅡ L22021			後期	演習	2				
担当教員	前澤 純子									
授業の概要	自分がデザインしたカジュアルコーディネートを制作する。 制作例：ワンピース。トップス+パンツ。ブラウス+スカート。セットアップ。和風コーディネート。 授業を通して、縫製と衣類の知識を学ぶ。									
到達目標	・流行を取り入れ、アイデアと発想力を養う。 ・製作過程で、洋裁、衣服の基礎知識を身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
				○						
授業計画	1. デザイン。デザイン。原型作図。 2. 作図。身頃。 3. 作図。衿。袖。カフス。 4. 型紙化。 5. 生地裁断。 6. 縫製準備、接着芯、ロックミシン。 7. 縫製。 8. 縫製。身頃。 9. 縫製。肩、身返し、裾。 10. 衿作り。 11. 衿付け。 12. 袖作り。 13. 袖付け。 14. ボタンホール。 15. ボタン付け。仕上げ。総評。									
事前・事後学習について	洋裁初心者も受講可能。 配られた配布物は、ファイリングし、全て保管する。									
準備学習に必要な時間	日常的にメディアを通して流行に敏感に、ファッションを楽しむ。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	60	作品の完成度。							
	レポート	30	最後の授業に配布物とレポートをまとめて提出。							
	その他	10	作品製作に取り組む姿勢。							
受講上の注意・課題のフィードバック	上記進行状況よりも個人で大幅に制作が遅れる場合は、宿題になることもあります。 基本的には授業内で制作していきます。									
使用テキスト	配布物。									
参考書	「改訂版・服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース」文化服装学院編 文化出版局 2009 文化学園大学 ファッション造形学講座 春夏アイテムⅠ ブラウス/スカート 服装造形学科編 文化出版局 2015									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	ファッションⅢ L23022			前期	演習	2			
担当教員	前澤 純子								
授業の概要	1つの全身コーディネート（フォーマル）を作製する。自分のデザインによる作品を作る。 作品例：ワンピース、ドレス、スーツ、コート、アンサンブル、、ハーフコート＋スカート、ウェディングドレス。ウェディングドレスや、スーツ等を製作希望の場合はⅡとファッションⅢを合わせて1年かけて製作も可能。 全員が違うテーマで進んでいくため、個別指導型授業。よって、ファッションⅠ、Ⅱを受講していない人でも受講可能。								
到達目標	・流行を取り入れ、アイデアと発想力を養う。 ・製作過程で、洋裁、衣服の基礎知識を身につける。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. デザイン作図 2. 作図、型紙 3. パターン 4. 型紙、裁断 5. 印つけ。ロック。芯。テープ。 6. 縫製。身頃。 7. 縫製、えりぐり、袖ぐり。 8. 裏地見返し、裁断。 9. 裏地見返し、縫製。 10. 縫製。衿。袖。 11. 内部構造の仕上げ。 12. 装飾。 13. 装飾。 14. 装飾。 15. 仕上げ。完成発表。総評。								
事前・事後学習について	初心者、ファッションⅠもⅡも受講していない人も受講可能。 配られた配布物は、ファイリングし、全て保管する。								
準備学習に必要な時間	日常的にメディアを通して流行に敏感に、ファッションを楽しむ。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	60	作品の完成度						
	レポート	30	最後の授業時にレポートをまとめて提出						
	その他	10	作品制作に対する取り組み姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	上記進行状況よりも個人で大幅に制作が遅れる場合は、宿題になることもあります。 基本的には授業内で制作していきます。								
使用テキスト	授業における配布物。								
参考書	「改訂版・服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース」文化服装学院編 文化出版局 2009 文化学園大学 ファッション造形学講座 秋冬アイテムⅠとⅡ 文化出版局 2015 文化女子大学講座 服装造形学 技術編Ⅲ フォーマル編 文化出版局 2015								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	染織基礎 L21023			前期	講義・実習	2			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	染め、織りの基礎技法を学び、作品を制作する。 この授業は、1年後期以降の授業（染め1、染め2、織り1、織り2、卒業制作）へ発展させるための基礎科目として設定され、1科目で染め織り両方を学ぶことができる。								
到達目標	染め、織りの基本を理解できる。 ・ 摺込、浸染、縫い絞りの技法を用いて、天然繊維を顔料や染料で染めることができる。 ・ 染織の道具の名称を覚え、使うことができる。 ・ 平織で布を織ることができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	◆はじめての染め 1. オリエンテーション 技法「摺込」（型紙を彫り、布を顔料で染める） 制作するもの：インテリアファブリック、風呂敷等から1つ選択 技法紹介と練習、デザイン、型彫り 2. 型彫り、配色を考える、摺込 3. 摺込 4. 摺込、仕上げ 技法「縫い絞り」（糸で布を括る、染料で染める） 技法「板締め」（板で布を挟む、染料で染める） 制作するもの：綿スカーフ2枚 技法紹介と練習、デザイン 5. 縫い絞り 6. 縫い絞り、色の決定、染色準備 7. 染色、板を外す（後日 糸を解く、仕上げ） ◆はじめての織り 8. 技法「平織または斜文織」（糸を染料で染め、織機で織る） 制作するもの：ウールマフラー 織りの構造、練習、デザイン 9. デザイン、染色準備 10. 糸染め 11. ウールマフラーを織る 整経、道具の紹介と作品鑑賞 12. ウールマフラーを織る 機仕掛け1 13. ウールマフラーを織る 機仕掛け2、織る1 14. ウールマフラーを織る 織る2 15. ウールマフラーを織る 縮絨、仕上げ、講評								
事前・事後学習について	事前学習： 日頃から、自然の風景、絵画、彫刻、工芸など様々な作品にふれ、美しい色あい、かたちに気づけるよう心がけましょう。そして、それらの写真や印刷物などをノートやクロッキー帳にまとめることをお勧めします（スクラップブック）。インターネットで見つけた参考資料も、自分の見やすい方法で1つにまとめておくとよいです。 事後学習： 制作に遅れがでた場合は、授業以外に時間を作り、制作してください。								
準備学習に必要な時間	時間では測れませんが、常にノートかクロッキー帳を携帯し、アイディアがひらめいた時すぐ描きとめられるようにしましょう。特に課題制作のデザインを考える際に役立ちます。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	作品（技法の習得、発想、構造の確かさ、色彩）						
	レポート	10	理論、正しく記録がとれているか						
	その他	10	制作に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	作品の講評を行います。 欠席した場合は、空き時間に遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。								
使用テキスト	田中秀穂監修「テキスタイル 表現と技法」武蔵野美術大学出版局 2010								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	染めⅠ L22024			通年（後期）	講義・実習	2				
担当教員	白柳 まどか									
授業の概要	一人の手で、始めから最後まで行う、手染の技法を習得する。 防染法（型染と絞り染）を行って、実際に作品制作をする。身に着けられるサイズの、布の小作品を制作する。									
到達目標	手仕事の個性と、技術から生まれる独特の美の世界を知り、各々の感性や自由な発想力を養う。 技法による制約や限界に挑戦しながら、作業を進める中で、技法による何らかの発見があることを期待する。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
				○						
授業計画	1. 絞り染（シルクスカーフ）をくくり、下漬け液に入れる。植物染料を準備し、煮出す。 2. 型染の制作（小巾綿布）デザインを決め、型紙を彫る。 3. 型紙に紗張りをする、型付（糊置き）、張り手で乾燥させる。 4. 板締め染色（1 回目）植物染料を漉して、染める。 5. 板締め染色（2 回目）ほどいて後処理をする。 6. 顔料を準備する。 7. 顔料を豆汁で溶き、色差しをする。 8. 顔料を豆汁で溶き、色差しをする。 9. 蒸し器を準備する。型染と絞り染を蒸す。 10. 藍染の制作（小巾綿布）、型紙を彫る、送りつつなぎをつける。 11. 型付（糊置き）、おが粉をふるいでかける。 12. 絞り染（綿ミニスカーフ）布をたたんで、輪ゴムでくくる。 藍を建てる。 13. 型染を藍に入れる～染色～後処理。 14. 絞り染を藍に入れる～染色～後処理～ほどいて乾燥。 15. 講評 片付け。									
事前・事後学習について	デザインを考えてくる、絞り染をくくる、ほどいてくる、という準備が必要。									
準備学習に必要な時間	予習、復習それぞれ、30 分程度必要。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	80	作品の完成度、デザイン性、オリジナリティーなどを評価する。							
	レポート	0								
	その他	20	受講態度や、取り組む姿勢などについて、評価する。							
受講上の注意・課題のフィードバック	課題 4 点の提出が原則なので、それぞれの工程を行って、完成するように努力する。									
使用テキスト	資料配布									
参考書	「植物染料による絞り染め」 寺村祐子 豊仁美 文化出版局 「完全マスター 型染めレッスン」 土屋直人 誠文堂新光社									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	染めⅡ L21025			前期	講義・実習	2			
担当教員	大蔵 光彦								
授業の概要	友禅染、ステンシル、オパール加工の制作をする。								
到達目標	友禅染、ステンシル、オパール加工の独創的制作ができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. オリエンテーション（友禅染、ステンシル、オパール加工） 友禅糊作り（もち粉、白糠、塩、亜鉛粉末） 2. デザイン（立体装飾、壁面装飾、布絵本）から選択 下絵制作、生地選択 3. 小布へ下絵描き写す。 友禅糊の自由な練習（太細表現） 4. 友禅糊の下絵に添う練習 糊の各種引き方の練習 5. 糊置きした小布を試し染め 6. 下絵を描き写した小布へ友禅糊置き 7. 糊置き完成小布を彩色前下処理 小布彩色 1 樹脂顔料 8. 小布彩色 2 樹脂顔料 9. 小布彩色部分へ伏せ糊を施す。 （マスキング防染） 10. 地色染め、樹脂顔料 乾燥後、水洗仕上げ、講評 11. ステンシル技法紹介 型紙（ラミネートフィルム） 下絵描き後、型彫り 12. 色差し（スポンジ、丸刷毛） 13. オパール加工技法紹介 下絵描き後（布海苔液マスキング） オパール加工糊置き 14. オパール加工糊置き後下処理 彩色 1 樹脂顔料 15. 彩色 2 樹脂顔料、水洗仕上げ 講評								
事前・事後学習について	日頃より、視、聴、臭、味、触 の五感を養い受けたイメージから表現する訓練が、役立つ。								
準備学習に必要な時間	時間では測れませんが、常にノートかクロッキー帳を携帯し、アイディアがひらめいた時すぐ描きとめられるようにしましょう。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	作品（創造力と発想力）						
	レポート	10	作者の 満足感、達成感						
	その他	10	制作中の熱意						
受講上の注意・課題のフィードバック	作品講評をします。								
使用テキスト	適宜紹介								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	織り I L22026			後期	講義・実習	2			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	平織、斜文織の技法を学ぶ。様々な糸、原毛をさわって、色とテクスチャーについて研究し、作品を制作する。								
到達目標	平織と斜文織を織り、その構造について理解できる。 経糸と緯糸で構成される色と様々な繊維素材によるテクスチャーの違いを感じとり、表現につなげることができる。 織機と道具の名称、使い方を覚える。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. 作品紹介、糸の種類と織り方について（天然繊維、合成繊維、糸になる前の原毛など） 試織 整経 2. 機仕掛け 1 3. 機仕掛け 2、織る 1 4. 織る 2 5. 織る 3、機からはずす、デザイン 1（制作するものを考える、デザインを描く） 6. テーブルランナーまたはウォールハングの制作 デザイン 2（素材、色、組織を考える） 7. 染色（シリアス染料またはダイヤモンドファースト染料） 8. 糸巻き、整経 1 9. 整経 2、機仕掛け 1 10. 機仕掛け 2 11. 織る 1 12. 織る 2 13. 織る 3 14. 織る 4 15. 仕上げ、展示方法について考える、講評								
事前・事後学習について	事前学習： ・日頃から、自然の造形や、絵画、彫刻、工芸など様々な作品にふれ、美しい色あい、かたちに気づけるよう心がけましょう。そして、それらの写真や印刷物などをノートやクロッキー帳にまとめることをお勧めします（スクラップブック）。インターネットで見つけた参考資料も、自分の見やすい方法で 1 つにまとめておくとよいです。 ・美術館等で本物を見る機会を増やすことが望ましいです。 ・自然観察の時間をつくりましょう。 事後学習： 制作に遅れがでた場合は、授業以外に時間を作り、制作してください。								
準備学習に必要な時間	時間では測れませんが、常にノートかクロッキー帳を携帯し、アイディアがひらめいた時すぐ描きとめられるようにしましょう。特に課題制作のデザインを考える際に役立ちます。 納得いくまで準備時間をつくってください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	90	作品（技法の習得、発想、構造の確かさ、色彩）						
	レポート	0							
	その他	10	授業、制作に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 欠席した場合は、空き時間に遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。								
使用テキスト	田中秀穂監修「テキスタイル 表現と技法」武蔵野美術大学出版局 2010								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	織りⅡ L23027			前期	講義・実習	2				
担当教員	田中 洋江									
授業の概要	この授業では、糸になる前の繊維（原毛、原麻など）、糸、布をあつかいます。 綴織、フェルト、フリーテクニックで、素材の使い方や構造を自由にした制作をこころみます。 繊維の美しさ、おもしろさを感じ取り、自分にとっての「美しい表現」「おもしろい表現」を見つけましょう。 展示方法によって作品の見え方が変わることを知り、空間を意識した展示方法も研究します。									
到達目標	テキスタイルアート、ファイバーアートが生まれ、発展してきた歴史を把握する。 実際に制作することを通して、新しい表現の可能性を感じる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
				○						
授業計画	1. テキスタイルアート、ファイバーアートとは 作品紹介 展示方法、布と空間、光 照明効果 2. 素材研究「様々な素材（意外な素材）を使い、美しい表現、おもしろい表現をさがそう」 3. 綴織の基本 整経 4. 機仕掛け 1 5. 機仕掛け 2 6. 織る 1 7. 織る 2 8. 織る 3 9. 素材研究、綴織の基本を踏まえ、織機またはフリーテクニックで制作する 10. 織る 1 11. 織る 2 12. 織る 3 13. 織る 4 14. 織る 5 15. 仕上げ、壁面又は空間に展示 講評									
事前・事後学習について	「素材そのものの美しさ」「展示方法による見え方のちがいを」見つけてもらいたと思います。 斬新な発想も期待しています。伝統技法にこだわらず、自由な発想で制作してください。									
準備学習に必要な時間	素材の美しさを感じるために、映像ではなく実物（動物、植物の葉や幹、空、土などの自然物）をよく観察しましょう。されるものはさわって、触覚を研ぎ澄ませましょう。 絵画、彫刻をなるべく多く観に行きましょう。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	90	作品（発想、構成力、配色）							
	レポート	0								
	その他	10	制作に対する姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 欠席した場合は、空き時間にテキストを読む、制作するなどして遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。									
使用テキスト	プリントを配布。 参考作品の写真、実物を紹介します。									
参考書	「テキスタイル 表現と技法」 田中秀穂監修 武蔵野美術大学出版局 2010 適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	陶芸 L22029			前期	演習	2				
担当教員	土屋 智恵									
授業の概要	陶芸の基本的な技法、工程、ものを作る楽しさを学ぶ。道具について考える。									
到達目標	自分の考えを形に出来る。出来た作品について言葉で表現出来る。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
				○						
授業計画	1. キャンパス内の身近なモチーフ（木の葉）を題材に作品を作る 2. 紐作りの楽しさを学ぶ 3. 魂作りの可能性を考える 4. 伝統技法鶴手による組み物作り 5. 電動轆轤を体験する 6. 下絵・デザイン・釉薬掛け・本焼き準備を学ぶ 7. 合評会 * 毎回小レポートを提出 8. 土について学ぶ 土練り 9. 毎日使う道具をつくる：湯飲み、マグカップ、茶碗など 10. 自由制作 図作・デザインの検討 11. 作陶 12. 素焼き 13. 釉薬掛け 14. 本焼き 15. 講評									
事前・事後学習について	毎日使っている焼き物に興味を持ってください。 どんな焼き物が好きか？どんな焼き物が嫌いか？それはどうして好きか？どうして嫌い？ 一万年前の縄文土器から始まった焼き物にはこれからどんな未来があるのか？考えていると楽しいです。									
準備学習に必要な時間	身近にある焼き物について考えてください。 どんな焼き物がありますか？それはどのように作られたと思いますか？									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	70	作品、授業への取り組み他							
	レポート	30	作品のコンセプト等							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	自分で考え、イメージしたものを紙にかいてみる。 それを実際に作品にことを常に考える。									
使用テキスト	常時プリントを配ります。									
参考書	焼き物の世界 江口洸著 岩波書店 * 飯田市図書館にあるので読んでみてください。									

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	イラストⅠ L22030			後期	演習	1			
担当教員	北原 志乃								
授業の概要	形のとらえ方、リアルな描写の基本を体験し、学ぶ								
到達目標	平面・立体（人工物、植物、動物、人間）をいろいろな画材で立体的に、リアルに描写する								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. オリエンテーション・平面を描く 2. 平面・立体を描く 3. 立体（人工物）を描く 4. 立体（植物）を描く 5. 立体（植物）を描く 6. 立体：動物の体のとらえ方 7. ハードパステル(画材)にふれる 8. パステルで動物を描く 9. 人間の体のとらえ方・手を描く 10. 人間の体のとらえ方・顔を描く 11. 人間の体のとらえ方・全身を描く 12. 人間の体のとらえ方・全身を描く 13. 自由作品制作(主にパステルを使用、自然物を描く) 14. 自由作品制作(主にパステルを使用、自然物を描く) 15. 自由作品制作、発表								
事前・事後学習について	モノをよく観察し、その形態を正確にとらえて描くことを意識します。 モノをよく観察することで、そのモノの本質をつかむことができるかと思います。 課題を時間内に完成することができなかった場合は、各自宿題として取り組み完成させ、提出してください。 イラストⅠ・Ⅱをセットで受講してください。								
準備学習に必要な時間	特にありません (ただし 10 において軽い事前課題あり)								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	70	課題・作品						
	レポート	0							
	その他	30	授業姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	イラストⅠ・Ⅱを通した「前半連続 15 回分がイラストⅠ」となります。 イラストⅠは各時間内容が異なり、それぞれに達成課題があります。 主にプリント、スケッチブックに描画して各時間の課題を進めますが、特に 8・15 終了時には課題作品を提出して、成績評価します。 個人的な自由作品がある場合は、講評・指導等しますので是非活用してください (成績には影響しません)。								
使用テキスト	必要に応じてプリントを配布								
参考書	適宜指示								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	イラストⅡ L22031			後期	演習	1			
担当教員	北原 志乃								
授業の概要	羊毛フェルトのマスコットキャラクター制作								
到達目標	学生オリジナルデザイン(キャラクターの背景・物語を含む) による ニードルフェルトのマスコットキャラクターづくり								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. モチーフ選定、背景物語づくり 2. 資料収集、スケッチ 3. マスコットキャラクターのイメージスケッチ 4. マスコットキャラクターのイメージスケッチ 5. 立体化、モデル作成 (紙粘土) 6. 立体化、モデル作成 (紙粘土) 7. 本制作 (メラミンスポンジ) 8. 本制作 (メラミンスポンジ) 9. 肉付け (羊毛) 10. 肉付け (羊毛) 11. 色付け (羊毛) 12. 色付け (羊毛) 13. 仕上げ 14. キャプションボード作り 15. 写真撮影、まとめ、発表								
事前・事後学習に ついて	イラストⅠの学び(立体をとらえる)を発展させて、イメージを広げ、自分の「オリジナルキャラクター」をデザインし、羊毛フェルトをニードルフェルト技法により、楽しみ・試行錯誤しながら「平面」作品を「立体」作品へと作り上げる課題に取り組めます。作る過程・「手仕事」の感覚も大切に、また、日頃から身の回りにある様々なイラスト表現や造形、自然物にも関心を持ちましょう。 イラストⅠ・Ⅱをセットで受講してください。								
準備学習に 必要な時間	特にありません								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	70	課題・作品						
	レポート	0							
	その他	30	授業姿勢						
受講上の注意・課題 のフィードバック	イラストⅠ・Ⅱを通した「後半連続 15 回がイラストⅡ」となります。 授業最終日(イラストⅡ 15 回目)までに作品本体、キャプションボードを提出し、 総合的に成績評価したのち返却します。 個人的な自由作品がある場合、講評・質問できます(成績には影響しません)。								
使用テキスト	必要に応じてプリントを配布								
参考書	適宜指示								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	色彩学及び演習 L21032			前期	講義・演習	2			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	光と色の関係、混色、色の表示と分類、心理的效果など色彩の基礎を学ぶ。 染色技法を学び、制作する。 ※色彩検定3級を受験する場合は（11月に本学で試験をします）、前期「色彩学及び演習」と後期「色彩コーディネート演習Ⅰ」を併せて履修する必要があります。								
到達目標	光と色の関係、色の表示、日本色研配色体系、心理的效果といった色彩の基本的な知識を身につける。 染織の技法を使った表現の技術を習得する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4					
				○					
授業計画	<講義・作品制作> テキストの内容理解のために、絵画や絵本、染織の技法で制作する時間があります。 1. 光と色 2. 眼の仕組み、照明の色と見え方 3. 混色 4. 色の分類と三属性 5. 課題1 色をみつける（自然の色を写真に記録する 色鉛筆で色を塗り重ねる） 6. 色の心理効果 7. 色の視覚効果1 8. 色の視覚効果2 9. 課題2 布を染める1（ハンカチ、スカーフなどから1つ選択） デザイン 10. 染色1 11. 染色2 12. 染色3、仕上げ 13. 色彩調和 配色の基本1 14. 色彩調和 配色の基本2 15. 小テスト								
事前・事後学習について	11月の資格試験に向けて覚える範囲が広いので、後でまとめて覚えようとせず、こまめに復習して覚えましょう。 日頃から、空の色を眺めるなど、自然の色に興味を持つようにしましょう。 美術館で絵画を見る機会を増やすことも大切です。								
準備学習に必要な時間	授業内で覚えきれなかった箇所は、毎回復習して覚えましょう（毎回約30分～1時間程度）。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	40	小テスト						
	実践	50	作品（色彩、技法の習得、構成）						
	レポート	0							
	その他	10	授業に取り組む姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	演習後に講評を行います。 欠席した場合は、空き時間にテキストを読む、制作するなどして遅れを取り戻してください。判らない箇所は質問してください。								
使用テキスト	文部科学省後援色彩検定公式テキスト3級編 色彩検定協会 2019								
参考書	参考書、絵本など適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	色彩コーディネート演習Ⅰ L22033			後期	演習	1			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	日本色研配色体系による配色の基本的な考え方を学ぶ。 制作を通して、様々なイメージを意識した色彩表現を習得する。 ※色彩検定3級を受験する場合（11月に本学で試験をします）は、前期「色彩学及び演習」と、後期「色彩コーディネート演習Ⅰ」を併せて履修する必要があります。								
到達目標	色彩検定3級合格。 色相配色、トーン配色に関する基本的な考え方が理解できる。 染織の技法を使った表現、技術を習得する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4					
				○					
授業計画	<講義・作品制作> テキストの内容理解のために、絵画や絵本、染織の技法等で制作する時間があります。 1. 配色イメージ1 2. 配色イメージ2 3. ファッションと色彩 4. インテリアと色彩 5. 慣用色名 6. 検定試験対策 模擬試験1 7. 検定試験対策 模擬試験2 8. 色を楽しむ ～手拭いを染める～ 雪花絞り1（作品紹介、技法紹介、布をたたむ） 9. 色を楽しむ 雪花絞り2（布をたたむ） 10. 色を楽しむ 雪花絞り3（染色） 11. 色を楽しむ 雪花絞り4（仕上げ） 12. 自然界の色を引き出す ～天然染料でウールマフラーを染める～ 1 13. 自然の色を引き出す ～天然染料でウールマフラーを染める～ 2 14. 自然の色を引き出す ～天然染料でシルクショールを染める～ 1 15. 自然の色を引き出す ～天然染料でシルクショールを染める～ 2 ※履修生の興味関心によって、内容を変更する場合があります。								
事前・事後学習について	色彩検定3級受験のための授業です。検定の出題範囲が広く、試験直前に全て暗記しようとするとは大変ですので、授業後こまめに復習するとよいでしょう。 日頃から、自然の造形やファッション、インテリアの配色などに注目しましょう。 美しい、面白いと感じた配色はノートなどにまとめておくと、色の勉強や作品制作に役立ちます（スクラップブック）。								
準備学習に必要な時間	授業内で覚えきれなかった事や、わかりにくかった事は、毎回復習して覚えましょう（毎回約30分程度）。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	50	色彩検定、模擬試験結果						
	実践	40	作品（色彩、技法の習得、発想）						
	レポート	0							
	その他	10	授業、課題に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	模擬試験後、答え合わせと解説を行います。 講評を行います。 欠席した場合は、空き時間にテキストを読む、制作するなどして遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。								
使用テキスト	文部科学省後援色彩検定公式テキスト3級編 色彩検定協会 2019								
参考書	参考書、絵本、画集など適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	色彩コーディネート演習Ⅱ L23034			通年 ※11 月の検定試験に合わせるため6月～11 月まで開講（全15回）。日程は掲示板で連絡します。	演習	1			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	「色彩学及び演習」「色彩コーディネート演習Ⅰ」で学んだ内容をふまえ、さらに、ビジュアルデザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザインなどの知識を学ぶ。 ※色彩検定2級取得のための授業です。11月に学内で試験を行います。								
到達目標	色彩検定2級合格。 配色のテクニックなど色彩検定2級相当の専門知識を身につける。 色彩に関する知識を作品制作に応用できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4					
				○					
授業計画	<講義・作品制作> テキストの内容理解のために、絵画や絵本、染織の技法等で制作する時間があります。 1. 色のはたらき、ユニバーサルデザイン 2. 色覚、光と色 3. マンセル表色系 4. 色の視覚効果、心理効果 5. 色彩調和1 6. 色彩調和2 7. 配色イメージ 8. ビジュアルデザイン、ファッションにおける色彩 9. インテリアデザインにおける色彩 10. 景観色彩 11. 検定試験対策 模擬試験1 12. 検定試験対策 模擬試験2 13. 検定試験対策 模擬試験3 14. 作品制作「自然の色を引き出す ～天然染料でシルクスカーフを染める～」 染料づくり 15. 染色 ※履修生の興味関心によって、制作課題を変更する場合があります。								
事前・事後学習について	色彩検定2級受験のための授業です。色彩検定受験については、授業に加えて自主的な学び、復習が必要です。 日頃からファッション、インテリアの配色などに注目し、気に入った配色があれば、ファイリングしてください。								
準備学習に必要な時間	授業で覚えきれなかった事は、毎回復習して覚えましょう（30分程度）。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	70	色彩検定、模擬試験結果						
	実践	20	作品（色彩、技法の習得、発想）						
	レポート	0							
	その他	10	授業、課題に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 欠席した場合は、空き時間にテキストを読む、制作するなどして遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。								
使用テキスト	文部科学省後援色彩検定公式テキスト2級編 色彩検定協会 2019								
参考書	参考書、画集など適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	フェルト L22035			後期	演習	2				
担当教員	田中 洋江									
授業の概要	羊の種類や特徴、フェルトの基礎技法を学び、マット、ブローチ、袋状のもの（バッグ、帽子など）を制作する。 色や形を工夫し、羊毛という素材や技法を活かした表現を研究する。									
到達目標	フェルトの工程を理解し、平面と立体の両方を制作することができる。 ドライフェルティング、ウェットフェルティングの技法で制作することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
				○						
授業計画	1. 原毛の種類と特徴 世界のフェルト 作品紹介 色の混ぜ方と効果 ボール（ウェットフェルティング） テーブルマットの配色を考える 2. テーブルマット（ウェットフェルティング） 3. くるみボタン 練習、デザイン、ニードルで刺す（ドライフェルティング） 4. ニードルで刺す、ボタンに仕立てる 5. ブローチ 4 種類（ドライフェルティング） 習作 1 重ねた断面を見る 習作 2 ワイヤーを入れる 6. 習作 3 半立体にする 7. 習作 4-1 自由制作 8. 習作 4-2 9. 袋状の布（バッグ、帽子、インスタレーションなどから 1 つ選択） デザイン、混色 10. 型づくり、繊維をのせる 11. 繊維をのせ、こする 12. 繊維をこする 13. ニードル 1 14. ニードル 2 15. 仕上げ 講評									
事前・事後学習について	ふわふわの羊の毛を、石けん水でこすったり、専用ニードルでつつくと、しっかりとした布に変化します。 この演習では、「色」や「素材感」を楽しむことを一番大切にしたいと考えています。 日頃から自分らしい色、美しいと思う色あいについて考えましょう。									
準備学習に必要な時間	時間では測れませんが、常にノートかクロッキー帳を携帯し、アイディアがひらめいた時すぐ描きとめられるようにしましょう。特に課題制作のデザインを考える際に役立ちます。 納得いくまで準備時間をつくってください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	90	作品（技法の習得、構造の確かさ、発想、色彩）							
	レポート	0								
	その他	10	制作に対する姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 欠席した場合は、空き時間に制作するなどして遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。									
使用テキスト	プリント配布									
参考書	「テキスタイル 表現と技法」 田中秀穂監修 武蔵野美術大学出版局 2010 授業内で適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	グラフィックデザイン演習 L22036			後期	演習	1			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	パソコンの「Photoshop Elements」「Illustrator」の基本を学び、グリーティングカード、各種印刷物をデザインするテクニックを身につける。 カメラの基本、撮影した写真をパソコンに取り込む方法、写真の補正や合成などのテクニック、図形の描画方法を学ぶ。 家政専攻の展覧会「卒業制作展」のための案内ハガキもデザインするため、卒業制作に取り組む人は履修することが望ましい。								
到達目標	基本的な写真の撮り方がわかる。 「Photoshop Elements」「Illustrator」の基本的な操作方法を理解し、パソコンを使いハガキなどの印刷物をデザインできる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. 写真の撮り方 デジタルカメラのしくみ すぐれた写真作品を観る 2. 課題 1「写真撮影と画像処理」 画像の取り込み 3. 写真の編集 1（色調補正、トリミングなど） 4. 写真の編集 2（様々な補正） 5. 写真の編集 3（合成など） 6. 文字の装飾 1 7. 文字の装飾 2 8. 図形 9. 課題 2-1「展覧会 DM のデザイン」 作例紹介 宛名面 1 ※卒業制作展の DM をつくります。 10. 課題 2-2 宛名面 2、デザイン面 1 11. 課題 2-3 デザイン面 2 12. 課題 2-4 デザイン面 3 13. 課題 3 「グリーティングカード」 14. 課題 4-1「ノートカバー」 15. 課題 4-2 ※撮影のためにデジタルカメラ（カメラ付き携帯電話も可）を使用します。カメラが用意できない場合は、1 回目の授業時に相談してください。								
事前・事後学習について	パソコンのキーボードで文字を打つことができるようにしておくことが望ましいです（早く文字を打つ技能は求めません）。 写真をパソコンに取り込むことで、写真の色調を変化させたり、様々に加工することができます。また、四角形、円などの図形を組み合わせでイラストを描くこともできます。絵をあまり描いたことがない人、描くことが苦手な人も、表現の幅が広がります。								
準備学習に必要な時間	制作に遅れがでたり欠席した場合は、空き時間に制作し遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	90	作品（Photoshop Elements と Illustrator の習得、構成力、色彩）						
	レポート	0							
	その他	10	制作に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 履修生の制作物は、研究室で印刷し、後日渡します。								
使用テキスト	なるほどデザイン 筒井美希 エムディエヌコーポレーション 2015 プリント配布								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	テキスタイルアート L24028			前期	演習	2			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	この授業では、オフルーム、木枠でミニアチュール（小さな作品）を制作します。「織り II」（2年前期の授業）の内容とつながる授業です。								
到達目標	様々なテクスチャーの布、布になる前の糸、糸になる前の繊維を知り、その美しさ、面白さを感じることができる。 簡易織機で織る方法を理解し、制作できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. テキスタイルアートとは？ 作品紹介（写真と実物資料） 2. パンチニードル サンプル 1 基礎技法 3. パンチニードル サンプル 2 4. パンチニードル 自由課題 1 5. パンチニードル 自由課題 2 6. パンチニードル 自由課題 3 7. パンチニードル 自由課題 4 8. 和紙 素材研究 1 9. 和紙 素材研究 2 10. 和紙を使った造形表現 1 11. 和紙を使った造形表現 2 12. 和紙を使った造形表現 3 13. 和紙を使った造形表現 4 14. 和紙を使った造形表現 5 15. 和紙を使った造形表現 6 講評 ※学生の興味関心、地域とのコラボレーション企画等により内容を変更する場合があります。								
事前・事後学習について	「素材そのものの美しさ」を見つけてもらいたと思います。 斬新な発想も期待しています。伝統技法にこだわらず、自由な発想で制作してください。								
準備学習に必要な時間	素材の美しさを感じるために、映像ではなく実物（動物、植物の葉や幹、空、土などの自然物）をよく観察しましょう。 されるものはさわり、触覚を研ぎ澄ませましょう。 絵画、彫刻なども、なるべく多く観に行きましょう。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	90	作品（発想、構成力、配色）						
	レポート	0							
	その他	10	制作に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 欠席した場合は、空き時間に制作するなどして遅れを取り戻してください。 判らない箇所は質問してください。								
使用テキスト	プリントを配布 参考作品を紹介								
参考書	「テキスタイル 表現と技法」田中秀穂監修 武蔵野美術大学出版局 2010 適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	ファッションビジネス論 L23037			集中	講義	2				
担当教員	増井 敦子									
授業の概要	・ファッションの現場で応用する様々な知識の習得。 ・ファッションビジネス知識、ファッション造形知識を身につけるにあたり、ファッションビジネス能力検定試験 3 級の公式テキストを使用。 ・衣料品の縮尺表現技術を身につける事で、実際の商品に対する知識と表現力を身につける。									
到達目標	・広域にわたるファッションビジネスの基礎知識を習得。 ・一般財団法人 日本ファッション教育振興会主催、年 2 回 6 月と 11 月に実地されるファッションビジネス能力検定試験、3 級以上の取得を目指し、ファッション業界への就職活動に役立てる。 ・商品のアイテム画表現を通して、普段着ている衣服への新たな関心とそれを表現する技術を身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
				○						
授業計画	〈ファッションビジネス知識〉 1. ファッションビジネスの概要 2. ファッション生活・ファッション消費 3. ファッション産業構造 4. ファッションマーケティング 5. ファッションマーチャンダイジング 6. ファッション流通 7. ファッション産業の職種概要 8. ビジネス基礎知識 〈ファッション造形知識〉 9. ファッション・デザイン・アパレル、ファッションコーディネート 10. ファッション商品知識、ファッションデザイン、ファッション・エンジニアリング 11. 商品アイテム画基礎①スカート 12. 商品アイテム画基礎②パンツ 13. 商品アイテム画基礎③シャツ 14. 商品アイテム画基礎④ジャケット 15. ファッションビジネス能力検定試験 3 級、過去問題による模試									
事前・事後学習について	特に事前に準備する必要はないですが、普段、自分が何気に着用している衣服・アクセサリー・小物、自分を取り囲むファッション環境に目を向けてみて下さい。 今までと異なる視点で捉えてみると、そこには様々な発見や情報があり、今までのファッションの受け手から、送り手への理解が深まると思います。									
準備学習に必要な時間	テキストに一通り目を通しておいてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	ファッションビジネス能力検定試験 3 級、過去問題による模試							
	実践	40	商品アイテム画表現							
	レポート	10	授業内容の確認と理解							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	前半、ファッションビジネス知識では、テキストに基づく講義が中心となりますので、集中力、途切れることなく聴講、板書に集中してください。最終日には過去問題の模試を予定。 後半、ファッション造形知識では、アイテムの縮尺表現を取得して、普段身につけている衣服を描ける基礎技術を習得。 集中講義なので、1 日の欠席、遅刻がその後の授業に大きく影響を与えますので、極力、欠席、遅刻のないように心がけてください。									
使用テキスト	一般財団法人 日本ファッション教育振興会発行 ファッションビジネス 3 級 新版 ファッションビジネス能力検定 3 級 公式テキスト									
参考書	ファッションデザイン画 ビギナーズ超速マスター 高村是州著 グラフィック社									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	造形論 L22038			後期	講義	2			
担当教員	田中 洋江								
授業の概要	染織を中心に、アート・デザイン・クラフト（工芸）の多様な表現や、それらを扱う博物館について学ぶ。 表現のための様々な素材、技法、作家の考え方を知り、より深く作品を鑑賞する力を養う。								
到達目標	絵画、染織の基本的な画材や素材、技法、表現を把握できる。 日本の伝統的な染織と、新しいテキスタイルアートの両方を把握できる。 博物館についての基礎知識を身につけ、生涯学習の意義について理解できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
				○					
授業計画	1. 情報収集力（本の魅力、インターネットの可能性） 画材と表現 光と写真 2. 表現の裏側 フォトグラファーのインタビューより 3. 画材と表現 映像 4. 画材と表現 絵本 5. 画材と表現 絵画 1 6. 画材と表現 絵画 2 7. 画材と表現 工芸 8. 博物館とは 9. 博物館へ行こう 10. 画材と表現 染織 1 繊維の種類クイズ、染料と顔料 11. 画材と表現 染織 2 先染と後染、様々な技法 12. 画材と表現 染織 3 様々な技法 13. 現代の作家たち 染め、織り 14. 現代の作家たち ファイバーアート、テキスタイルアート 15. 博物館見学 ※博物館見学は土日または祝日に行い、通常授業 1 回分にかえます。 日程と見学先は講義内で相談のうえ決定します。 ※履修生の興味関心などにより、内容を変更する場合があります。								
事前・事後学習について	多様な素材、技法、表現を知することは、自分が制作する際にとても役立ちます。 染織に関する講義の時は、テキストを持参してください。								
準備学習に必要な時間	テキストはカラー写真が沢山掲載され、技法がよく理解できるようになっています。 所要時間は定めませんが、授業でふれた箇所を含めテキスト全体をよく読みましょう。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	90	博物館レポート、学期末レポート（内容の理解、制作する人としての考える力）						
	その他	10	授業に取り組む姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	レポートを添削し、返却します。								
使用テキスト	「染と織の鑑賞基礎知識」小笠原小枝 至文堂								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	保健衛生学 L54040			後期	講義	2		必修	
担当教員	村山 真紀子								
授業の概要	健康について課題を持ち、その課題について知識を深め、自分や他者の健康について考えます。主体的に学ぶため、新聞やテレビのニュースなど身近にある情報についても取りあげながらまとめていきます。								
到達目標	1. 健康科学の領域の与えられたテーマの中から健康課題を見付けることができる。 2. 健康課題に対して、文献検索等を用いて知識を深め、わかりやすくまとめることができる。 3. 積極的に学び、自分自身の健康的な生活習慣について述べるができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○	○						
授業計画	1. 健康について ―健康の定義・ライフサイクルにおける健康上の課題― 2. 健康について ―保健福祉サービス― 3. 健康について ―生活習慣病― 4. 日常生活と健康 ―食生活― 5. 日常生活と健康 ―日常生活活動― 6. 日常生活と健康 ―睡眠― 7. 日常生活と健康 ―健康関連行動（喫煙・飲酒・薬物濫用） 8. 日常生活と健康 ―こころの健康― 9. ライフステージと健康 10. 環境と健康 ―感染症― 11. 環境と健康 ―地球環境問題― 12. 環境と健康 ―ノーマライゼーション― 13. セクシュアリティと健康：LGBT― 14. 倫理と健康：臓器移植・脳死 15. 総括								
事前・事後学習について	健康に関するこれまでの知識をより集められるよう、身近にある情報にこれまで以上に興味を持ちましょう。								
準備学習に必要な時間	30分～1時間程度を要す。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	20	授業毎の感想や質問を用紙に記入し提出する。						
	レポート	80	課題の理解度						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	受講に際しては、テキストと配布プリントを必ず持参してください。 授業毎に記載した感想や質問に対しては、次の授業でコメントします。								
使用テキスト	ライフスキルのための健康科学 建帛社								
参考書	適宜指示								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	公衆衛生学 L51041			前期	講義	2		必修	
担当教員	村山 真紀子								
授業の概要	公衆衛生学とは、健康を支援する社会防衛機能としての保健医療福祉活動であり、そのための技術と科学的根拠を提供する学問です。変貌するわが国の健康の実態と健康を支援する公衆衛生活動を学びます。								
到達目標	1. 日本における健康の実態を述べることができる。 2. 健康を支援する公衆衛生の取り組みを述べることができる。 3. 公衆衛生活動と自身の生活との関連を述べることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○	○						
授業計画	1. 公衆衛生と健康の概念 2. 公衆衛生と健康の概念 3. 公衆衛生と健康の概念 4. 感染症対策 5. 感染症対策 6. 感染症対策 7. 地域保健活動 8. 地域保健活動 9. 地域保健活動 10. 環境保健 11. 環境保健 12. 環境保健 13. 母子保健 14. 母子保健 15. 母子保健								
事前・事後学習に ついて	公衆衛生学は私たちが健康な生活を営むために欠かせない内容を包含しています。用語をはじめとして政策や法律等難解な部分も多い科目です。事前学習としては、テキストに載っている用語の理解を中心に行ってください。事後学習は、授業で習ったことを、日常生活のさまざまな場面に当てはめて考えてください。また、新聞・TV・書籍などから公衆衛生に関連する身近な情報に関心を持つ態度を養ってください。								
準備学習に 必要な時間	事前学習：テキストに掲載されている用語を理解を中心に行ってください（30 分程度）。 事後学習：授業で習ったことを、日常生活のさまざまな場面に当てはめて考えてください（30 分程度）。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	80	定期試験。公衆衛生と健康の概念、他						
	実践	20	授業毎に感想や質問を用紙に記述する。						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題 のフィードバック	受講に際しては、テキストと配布プリントを必ず持参してください。 授業毎に記載した感想や質問に対しては、次の授業でコメントします。								
使用テキスト	「公衆衛生がみえる」 MEDIC MEDIA								
参考書	「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	学校保健 L31042			前期	講義	2	必修			
担当教員	澤田 有香									
授業の概要	学校保健安全法等を中心に法律によって説明される学校保健や養護教諭の職務の根拠について学校保健実務必携等により理解を深める。									
到達目標	学校保健はどのような領域で構成され、どのような職種の人がかかわっているかを知り、チームワークで推進していることを理解する。また、それらの法的根拠及び基本的な考え方を学び、養護教諭の役割を理解する。さらに、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康教育が求められていることを理解するとともに、学校経営における保健室経営の重要性について理解する。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. 「学校保健の概要・オリエンテーション」学校保健の概要を知る。 2. 「学校保健の構造（保健教育、保健管理、学校保健組織活動）」学校保健の構造を具体的な内容で理解する。 3. 「学校保健計画」学校保健計画を立て、教職員や保護者の共通理解のもと、実行していくことの重要性を知る。 4. 「学校保健関係者と学校保健組織活動」学校保健関係者のそれぞれの役割を理解し、組織活動の重要性を知る。 5. 「保健教育」保健教育は、教科保健と特別活動における保健の指導、保健指導から成り、計画的かつ系統的に行われていることを知る。 6. 「保健管理①」健康相談の意義・基本的プロセスについて学ぶ。 7. 「保健管理②」健康観察の重要性と目的を学び、子供たちの具体的なサインについて知る。 8. 「健康診断①」健康診断の変遷・目的・意義・種類を知る。 9. 「健康診断②」健康診断の実施の流れを理解し、望ましい健康診断について考える。 10. 「疾病の予防と管理」疾病管理の目的・注意事項・実際について理解する。 11. 「感染症予防」学校における感染症予防について理解する。 12. 「学校環境衛生」学校環境衛生の目的と学校環境衛生基準について理解する。 13. 「心身の健康問題への支援（現代の子どもの実態、支援方法）」心身の健康問題の現状を知り、子どもの支援について理解する。 14. 「保健室及び保健室経営」保健室設置に関する法的根拠と保健室経営の重要性について学ぶ。 15. 「学校保健を効果的に推進するための方策」今までの学びを総合的にとらえ、学校保健を効果的に推進するための方策を考える。									
事前・事後学習について	養護教諭の職務の基礎・基本となる科目です。覚えることが多いので、要点をまとめたプリントを用意します。毎回必ず復習し、一つ一つ確実に身に付けていきましょう。事前に必ず実務必携の該当ページを読んでから授業に臨んでください。									
準備学習に必要な時間	30 分～1 時間程度を要する。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	知識・理解							
	実践	0								
	レポート	20	知識・理解 提出物（ノート点検）							
	その他	10	授業態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	しっかり復習して、わからないことは質問をしてください。									
使用テキスト	「学校保健実務必携」戸田芳雄他著 第一法規									
参考書	適宜指示する									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	養護概説 L32043			後期	講義	2	必修		
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	養護教諭の専門性と職務内容について学び、養護教諭に求められる資質や望ましいあり方について理解を深める。								
到達目標	養護教諭の専門性と職務内容について理解し、どのように養護活動を行っていくかグループワーク等で互いに協力して考えることができる。また、養護教諭に求められる資質やあり方を理解し、自己評価することができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 第 5 章 第 2 節 健康診断 児童生徒等の健康診断の進め方 1 2. 児童生徒等の健康診断の進め方 2 グループワーク 3. 児童生徒等の健康診断の進め方 3 模擬職員会議の実施 4. 第 5 章 第 3 節 健康観察 対応方法 5. 健康観察 病気について調べて発表する 6. 第 5 章 第 4 節 疾病管理 生活管理指導表について 7. 第 6 章 保健教育 教科保健と保健指導について 8. 保健指導① 歯科 9. 保健指導② 性に関する指導 10. 保健指導③ 薬物乱用防止教育 11. 先輩の話を聞く会 12. 第 7～10 章 健康相談 子どもの心のケア 13. 健康相談 事例検討 14. 第 11 章 保健室経営 15. 第 12 章 保健組織活動 養護概説まとめ								
事前・事後学習について	養護教諭として持っておくべき知識を確実に定着させ、執務内容を深く理解するために、事前に教科書を読んでおき、事後にノートを見返しまとめるなどする。								
準備学習に必要な時間	予習として教科書を読み、事後にノートや資料などを見返し復習を行う。60 分程度を要する。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	70	知識・理解 養護教諭の職務内容についてその概要を理解することができる						
	実践	0							
	レポート	20	思考・判断 提出物(ノート点検)						
	その他	10	授業態度が積極的でまじめに取り組もうとしている						
受講上の注意・課題のフィードバック	養護教諭に求められる資質について理解し、その職務について積極的に学ぼうとする真摯な姿勢が必要になります。ぜひ積極的に発言し、発表し、質問してください。また、グループワークでは協働的な姿勢が求められます。								
使用テキスト	「新養護概説」 采女智津江 少年写真新聞社								
参考書	適宜支持する								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	健康相談活動 L33044			前期	講義	2	必修		
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	1 年で学んだ体の病気や心の不調についての知識をもとに、心身両面からの児童生徒の健康状態の把握の仕方、適切な健康相談活動のプロセス等について、演習等により理解する。								
到達目標	・養護教諭が行う健康相談活動の意義、プロセスについて理解する。 ・児童生徒の様々な心身の健康上のニーズに対して、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を活かし対応する。 ・事例研究や連携を行う方法について理解する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 「健康相談の基本的理解」学校における健康相談活動の概略について学ぶ。 2. 「児童生徒の心身の健康課題の現状と背景」社会の変化と子供の健康問題と養護教諭の役割について学ぶ。 3. 「養護教諭の職務の特質及び保健室の機能を活かした健康相談活動」様々な資源の健康相談活動への活かし方について学ぶ。 4. 「健康相談活動に関連する諸理論」健康相談活動の基本となる諸理論と技法について学ぶ。 5. 「健康相談活動の原理・構造と必要な資質能力・技能」健康相談活動のプロセスと行う姿勢について学ぶ。 6. 「健康相談活動の初期対応」気づきから判断の過程、分析、関係者との連携について学ぶ。 7. 「健康相談活動に活かすカウンセリングの技法」基本的なカウンセリング技法についてロールプレイを通して学ぶ。 8. 「健康相談活動におけるヘルスアセスメント」ヘルスアセスメントの方法を理解し、ロールプレイを通して学ぶ。 9. 「保健室での健康相談活動」保健室での対応を想定した課題で、ロールプレイを通して学ぶ。 10. 「保健室登校の捉え方と対応」保健室登校の教育的意義を理解し、望ましい支援体制と養護教諭の役割について学ぶ。 11. 「問題に応じた対応」児童虐待やいじめへの対応や自然災害及び事件事故等の心のケアの進め方について学ぶ。 12. 「健康相談活動における連携」健康相談活動における連携の意義について学び、どのように連携するか学ぶ。 13. 「健康相談活動の記録と事例研究」健康相談活動における記録の意義・目的・方法について学ぶ。 事例研究の方法と進め方について体験的に学ぶ。 14. 「健康相談活動の評価」健康相談活動における評価について学ぶ。 15. まとめと確認								
事前・事後学習について	事前に必ずテキストの該当ページを読んでから授業に臨んでください。当日の演習を効果的に進めるために事前に課題を出すこともあります。								
準備学習に必要な時間	30 分～1 時間程度の時間を要する。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	60	知識・理解						
	実践	30	技能・判断力・表現力						
	レポート	0							
	その他	10	授業態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことはそのままにせず必ず質問してください。								
使用テキスト	「新訂 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践」 三木とみ子・徳山美智子 りょうせい								
参考書	適宜指示する								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	解剖学 L53045			前期	講義	2		必修	
担当教員	水上 佳樹								
授業の概要	神の創造を思わせるような構造の巧緻さ、機能の神秘さ、厳格な規則性と調和のとれた運行など、神秘に満ちた小宇宙である体全体を、広く偏りなく理解する。								
到達目標	詳しい知識・情報は教科書に記載されている。必要とする情報や知識が、どこに記載されているかわかり、日常に活用できるようになる								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○	○						
授業計画	1. 頭部と頸部：①頭頸部、頭蓋、脊柱、脳 2. 頭部と頸部：②脊髄、筋、血管 3. 頭部と頸部：③眼、耳、鼻、口腔、顎、口、咽頭 4. 胸部：①胸部、心臓、血管、心拍のしくみ 5. 胸部：②気管、気管支、ガス交換、横隔膜、食道 6. 腹部：①腹部、胃、小腸、大腸と肛門、消化管壁 7. 腹部：②肝、門脈、胆嚢と膵臓、脾 8. 腹部：③腎、尿を作る、尿管、膀胱、 								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態		単位数		教員免許資格の有無		
科目名	生理学 L52046			後期	講義		2		必修		
担当教員	高木 一代										
授業の概要	生理学とは人間のからだの構造とその働きを理解し、生命の神秘に迫る学問です。生体がどのように機能しているのかを体系的・有機的に学び、医学の基礎科目である生理学の深い理解を目指します。										
到達目標	ヒトの体のしくみが理解でき、説明できる。ヒトの生命現象に興味を持ち、自分の身体が機能していることの不思議さや生命の尊さに気づき、体を大切にしようとする意識を持つ。食物栄養に関する体のしくみを深く掘り下げることができる。										
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4							
		○	○								
授業計画	1. 1 章 細胞からヒトへ (細胞生理学) 2. 8 章 消化吸収のしくみ (消化器系) 3. 8 章 消化吸収のしくみ (肝臓・胆道系・膵臓・腹膜) 4. 9 章 代謝のしくみ (三大栄養素の代謝) 5. 1 0 章 排泄のしくみ (腎・泌尿器系) 6. 6 章 循環のしくみ (心臓・血管) 7. 7 章 呼吸のしくみ (呼吸器系・ガス交換とガスの運搬) 8. 5 章 血液のしくみ (血液・造血系) 9. 1 3 章 防御のしくみ (免疫) 10. 1 1 章 ホルモンのしくみ (内分泌系) 11. 1 2 章 ホメオスタシスのしくみ (代謝・体温) 12. 4 章 身体運動のしくみ (筋・骨格系と運動の生理) 13. 2 章 神経系のしくみ (脳・神経系) 14. 3 章 感覚のしくみ (感覚系) 15. 1 4 章 生殖のしくみ (生殖器系)										
事前・事後学習について	講義は解剖用語を覚えさせるようなものではなく、生理メカニズムをイメージで理解する内容になっています。事前学習では教科書を一読して、わからないところは前もって調べておく、講義内での理解がより深まると思います。事後学習では授業の振り返りノートを作り、わからなかったところは図書館などを利用して、いろいろな本で調べてみましょう。										
準備学習に必要な時間	事前学習では、テキストを読んでおきましょう。特にわかりにくいところをチェックして授業に臨みましょう (毎回 30 分程度)。 事後学習では、各自ノートに学んだことをまとめましょう (毎回 1 時間半程度)。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	100	定期試験								
	実践	0									
	レポート	0									
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	適宜小テストを行います。 対面授業が難しいと判断した場合、遠隔授業となる場合があります。										
使用テキスト	生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理 第3版 高松研・堀内ふき 株式会社医学映像教育センター										
参考書	Visual 栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I 解剖生理学 福島光夫 中山書店 のほほん解剖生理学 玉先生 (著), 大和田 潔 (監修) 永岡書店 動画マスター 機能形態学 生理学から薬理学への橋かけ 佐藤進他 株式会社廣川鉄男事務所 イラストでまなぶ生理学 第3版 田中越郎 医学書院 いちばんやさしい生理学 加藤尚志 南沢 亨 成美堂出版										

対象学生	生活科学専攻 2		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	微生物学 L54047		前期	講義	2	必修			
担当教員	野上 綾子								
授業の概要	人間と共存する微生物の特性を知ることによって実際の医療現場における関連性、感染予防あるいは感染拡大予防のための知識や技術を学ぶ。								
到達目標	医療関連施設や教育現場における微生物や感染との関係を学び、患者に安全な医療を提供するための知識・技術の習得を目指す。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○	○						
授業計画	1. 微生物と感染 2. 免疫① 抗原と抗体 3. 免疫② 感染免疫, アレルギー 4. 細菌学総論 5. 細菌と病原性① グラム陽性球菌・グラム陽性桿菌 6. 細菌と病原性② グラム陰性桿菌・グラム陰性球菌 7. 細菌と病原性③ 抗酸菌, その他の細菌 8. 細菌感染症と細菌検査・化学療法 9. 真菌, 原虫 10. ウイルスと病原性① DNA ウイルス 11. ウイルスと病原性② RNA ウイルス 1 12. ウイルスと病原性③ RNA ウイルス 2 13. 感染症と法令, 滅菌・消毒, 医療廃棄物 14. 感染管理 15. まとめ								
事前・事後学習について	特別な事前学習はありませんが、実際の現場では求められる知識です。後に活用できるようまとめておきましょう。								
準備学習に必要な時間	30 分～1 時間程度を要する。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100							
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは必ず質問してください。 授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。								
使用テキスト	医学書院 系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学								
参考書	特に指定しない								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	薬理学概論 L53048			前期	講義	2		必修	
担当教員	吉澤 忍								
授業の概要	医薬品・医薬部外品・化粧品の正しい知識を深めるため、薬理学の基本を理解する。各論では薬の作用と及ぼす影響等中心に、又、医薬品情報の正しい捉え方も含め、養護教諭に必要な医薬品に対する知識を習得する。 実務経験のある教員（薬剤師）の科目								
到達目標	養護教諭に必要な薬理学の知識を身につける。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○	○						
授業計画	1. 薬に関する基礎知識① 2. 薬に関する基礎知識② 3. 中枢神経に作用する薬物 4. 末梢神経に作用する薬物 5. ホルモンと代謝障害治療薬 6. 抗炎症薬と抗アレルギー薬 7. 循環器系に作用する薬物 8. 血液・造血器官に作用する薬物 9. 呼吸器系に作用する薬物 10. 消化器系に作用する薬物 11. 泌尿器・生殖器系に作用する薬物 ビタミン剤 12. 抗感染症薬について 13. 消毒薬と皮膚・粘膜に作用する薬物 14. 抗悪性腫瘍薬と免疫抑制薬 15. 総括								
事前・事後学習について	授業前までにテキストを一読すること								
準備学習に必要な時間	30 分～1 時間を要す								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	試験又はレポート						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは必ず質問してください。 授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。								
使用テキスト	看護学入門 2 巻 メディカルフレンド社								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	精神保健 L52049			後期	講義	2	必修			
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	1. ライフサイクルにおける精神保健の特徴を理解する。 2. 精神疾患および発達障害を理解する。 3. 精神疾患および発達障害に対してどのような支援が必要か理解する。									
到達目標	1. ライフサイクルにおける精神保健の特徴を理解し、精神保健がどうあるべきか考えることができる。 2. 精神疾患および発達障害がどのようなものであるか理解できる。 3. 精神疾患および発達障害に対してどのような支援が必要か考えることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○	○							
授業計画	1. 精神保健・医療・福祉の歴史 2. 認知・社会性・言語の発達 3. 精神症状とはなにか 精神疾患①器質性精神障害：認知症・内分泌異常・代謝障害 4. 精神疾患②統合失調症 5. 精神疾患③気分障害：躁病・うつ病・躁うつ病 6. 精神疾患④気分障害：うつ病の実際 7. 精神疾患⑤依存症：薬物・アルコール・ギャンブル・ゲーム 8. 精神障害⑥神経症性障害：パニック・強迫性・PTSD・解離性 9. 精神障害⑦摂食障害 10. 発達障害①学習障害(LD)・注意欠陥多動症(ADHD)・自閉スペクトラム症(ASD) 11. 発達障害②発達障害の実際 12. 社会と精神保健①家族・学校 13. 社会と精神保健②職場・病院・施設 14. 社会と精神保健③災害・治療 15. 総括：精神保健のあり方									
事前・事後学習について	(1) 授業内容の感想：授業回ごとに提出します。 (2) レポート：①精神疾患、②発達障害、③社会と精神保健について、授業内容を踏まえて自らの考えを書くレポートを課します。※レポートは概ね 1200～2000 字程度で、精神保健の専門用語等を書く力をつけることも期待し、指定用紙に手書きのものを提出します。									
準備学習に必要な時間	2 時間程度 ①授業内容を踏まえ、自らの考えを書くレポートへの取り組み ②社会の中でどのような精神保健に関する課題があるか、常日頃から社会の動向に関心をもってください。新聞を読んだり、テレビやネットのニュースや情報に目を通すなど									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	60	精神保健の理解、精神保健上の課題の把握、支援のあり方など自らの考え							
	その他	40	毎授業内容の感想：授業への参加姿勢、精神保健の理解							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業回ごとに提出する感想及びレポートは授業内に示す評価基準により評価、採点および添削のうえ返却します。									
使用テキスト	教科書は指定しない ※資料を配布									
参考書	新版精神保健第 3 版 石井厚監修 医学出版社									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	看護学Ⅰ L31050			前期	講義	2	必修		
担当教員	三浦 弥生								
授業の概要	学校における看護の実際、さまざまな生活習慣と支援技術、特別な支援を要する身体上の課題のある子どもと家族の理解と支援について学びます。また、看護の対象である人間を理解するうえで必要な体のしくみについても合わせて学びます。								
到達目標	1. 基本的な看護のあり方やその根拠を理解する。 2. 学校における看護を理解する。 3. 生活習慣における支援や特別な支援を要する子どもの支援について理解する。 4. 看護の対象である人間を理解するうえで必要な体のしくみを理解する。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 学校看護概論：看護とは（F．ナイチンゲールの看護理論） 体のしくみ：骨 2. 日常生活を支える技術①：食事と栄養 体のしくみ：筋肉 3. 日常生活を支える技術②：排泄（排便） 体のしくみ：消化器 4. 日常生活を支える技術③：排泄（排尿） 体のしくみ：泌尿器 5. 日常生活を支える技術④：清潔 体のしくみ：皮膚 6. 日常生活を支える技術⑤：休養と睡眠・活動 体のしくみ：脳 7. 急性期症状の理解と援助①：頭痛 体のしくみ：脳神経 8. 急性期症状の理解と援助②：腹痛・嘔気・嘔吐 体のしくみ：循環器① 9. 急性期症状の理解と援助③：便秘・下痢 体のしくみ：循環器② 10. 急性期症状の理解と援助④：発熱・熱中症 体のしくみ：感覚器（目） 11. 急性期症状の理解と援助⑤：ショック・意識障害 体のしくみ：感覚器（耳） 12. 急性期症状の理解と援助⑥：性感染症 体のしくみ：生殖器 13. 慢性疾患のある子どもの理解と援助：炎症性腸疾患 体のしくみ：呼吸器 14. 慢性疾患のある子どもの理解と援助：悪性腫瘍 体のしくみ：口腔・鼻腔 15. 特別な支援を要する子どもの理解と援助：医療的ケア								
事前・事後学習について	事前学習：体のしくみについて毎時間課題を提示します。＊その内容の理解を次の授業時間の冒頭の 小テストで確認します。 事後学習：授業後、テキストとノートを復習してください。								
準備学習に必要な時間	事前・事後学習には 1 時間ほど必要です。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	50	基本的な看護・学校における看護のあり方とその根拠の理解						
	実践	40	体のしくみについての小テスト（毎時間行います）						
	レポート	0							
	その他	10	看護への関心・意欲・態度（授業への取り組み状況）						
受講上の注意・課題のフィードバック	小テストは採点、添削して次の授業の冒頭で返却します。必要があれば授業内で解説を行います。								
使用テキスト	養護教諭、看護師、保健師のための学校看護 新版 遠藤伸子他 東山書房 2022 年 「ぜんぶわかる人体解剖図」 坂井建雄・橋本尚詞 成美堂出版								
参考書	随時紹介								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	看護学Ⅱ L32051			後期	講義	2	必修			
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	学校における子どもの疾病・異常について、学校保健実務必携にある疾患・異常について学ぶ。									
到達目標	学校における子どもの疾病・異常を理解することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. 整形外科疾患①：学校の運動器疾患・障害 2. 整形外科疾患②：脊柱・上肢・股関節・下肢 3. 整形外科疾患③：スポーツ外傷 4. 眼科疾患①：感染性・アレルギー性・屈曲・眼位 5. 眼科疾患②：その他の疾病及び異常・色覚異常 6. 耳鼻咽喉科疾患①：中耳炎・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎・扁桃肥大・扁桃炎 7. 耳鼻咽喉科疾患②：嚁声・難聴・眩暈 8. 皮膚科関連：感染症・感染症以外の疾患 9. 歯科口腔外科関連 10. 寄生虫症 11. 内科疾患①：先天性心疾患 12. 内科疾患②：川崎病・心筋症・心筋炎 13. 内科疾患③：不整脈 14. 内科疾患④：腎臓の疾患 15. 内科疾患⑤：糖尿病									
事前・事後学習について	事前学習：学校保健実務必携の授業で取り扱う箇所を一読して授業に臨んでください。 事後学習：授業の内容を振り返るための課題を授業冒頭に配布します。事後学習としてその課題を自宅で行ってください。									
準備学習に必要な時間	1～2 時間程度 学校保健実務必携の授業で取り扱う箇所を一読し、わからないところを使用テキストや参考書等で確認する。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	定期試験。学校における子どもの疾病・異常・予防の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	授業態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業で配布する課題(自宅学習用)に質問があれば、次の授業の冒頭で解説を行います。									
使用テキスト	学校保健実務必携 第 4 次改訂版 第一法規 こどもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳沢正義 講談社 改訂版 学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き 運動器の 10 年・日本協会									
参考書	新版 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護 遠藤伸子 池添志乃 龍谷恵 東山書房									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	看護学実習 L31050			前期	実習	2	必修			
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	学校看護の基本的な技術を、根拠と看護観に基づきながら学びます。 実務経験（看護師）のある教員の科目									
到達目標	養護教諭として学校現場で求められる看護の知識と技術を習得する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. 看護技術①：コミュニケーション：看護者と患者のコミュニケーション過程、コミュニケーションの実際 2. フィジカルアセスメント①：バイタルサイン（血圧・脈拍・呼吸・体温・意識）の測定 3. 看護技術②：包帯法（巻軸帯・三角巾・チューブ包帯） 4. 看護技術③：環境整備（ベッドメイキング） 5. 看護技術④：環境整備（シーツ交換・寝衣着脱） 6. 看護技術⑤：安楽な体位（ボディメカニクス・良肢位・体位） 7. 看護技術⑥：感染予防技術（標準予防策：スクラブ法・ラビング法・个人防护具・洗浄・消毒・滅菌） 8. 看護技術⑦：移動・移送（車いす・担架・松葉杖） 9. 看護技術⑧：食事の援助 10. 看護技術⑨：罨法（湯たんぽ・アイスパック） 11. フィジカルアセスメント②：目・鼻・口腔・頸部のアセルメント 12. フィジカルアセスメント③：胸部（呼吸器・循環器）のアセルメント 13. フィジカルアセスメント④：腹部のアセルメント 14. フィジカルアセスメント⑤：脳神経のアセスメント 15. 総括：看護技術・フィジカルアセスメントの技術確認									
事前・事後学習について	事前・事後学習は課しません。看護技術は何度も行うことで確かな技術として身に付きます。演習は何度も繰り返してできるよう授業を進めていきますので、できないからと諦めることのないように、意欲的に演習に臨んでください。包帯・三角巾を配布します。必要な人は自宅でも包帯法を練習してみましょう。 「臨床実習」履修予定者は、医療機関での学外実習の基礎知識となります。									
準備学習に必要な時間	1 時間程度 （復習：包帯法・バイタルサイン測定の技術の修得）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	基本的な看護技術の理解							
	実践	30	基本的な看護技術の実践							
	レポート	10	看護技術の日常生活への応用							
	その他	10	看護技術への関心・意欲・態度（演習への取り組み状況）							
受講上の注意・課題のフィードバック	ノート（A4 サイズの資料が貼付できる大きさ）と糊を用意してください。 授業終了の 10 分前に感想や質問等をノートに記述する時間をとります。ノートは不定期に集め、感想や質問等に対しコメントしたうえで、次の授業までに返却します。									
使用テキスト	新版 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護 遠藤伸子 池添志乃 籠谷恵 東山書房									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	救急処置 L32053			後期	実習	2		必修	
担当教員	三浦 弥生								
授業の概要	学校等において発生する突発的な事故及び病気の対応と、医療へ繋ぐまでの救急処置が落ち着いてできるように演習をしながら学びます。授業前半は疾病やフィジカルアセスメント、救急処置についての知識を主に学習し、後半は実際の学校での救急場面を想定した事例を基に演習を行います。								
到達目標	病気やけがによる保健室来室者に対し適切なフィジカルアセスメントができる。 知識を基に、周りの人と連携しながら落ち着いて、適切な救急処置を実施することができる。 心配蘇生法を確実に身につけ、とっさの時に落ち着いて正確に実施することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 救急処置で大切なこと 救急処置の基本：RICE 処置・体位・包帯法・バイタルサインの確認 2. 市民が行う救急蘇生法：①一次救命処置 3. 市民が行う救急蘇生法：②気道異物除去③ファーストエイド（止血など） 4. 創傷：切創・擦過創・刺創・咬創・指の切断 5. 骨折・捻挫・脱臼・突き指：副子・弾性包帯を用いた固定 6. 打撲：①頭蓋内出血・眼窩底骨折・鼻出血 7. 打撲：②歯牙脱臼・歯牙破折・口腔内出血 8. 打撲：③心臓振盪・内臓損傷・腸管損傷 9. 呼吸困難：気管支喘息・過換気症候群・気胸 10. 食物アレルギー：アナフィラキシーショック・エピペンの使い方 11. 意識障害：低血糖症状・てんかん発作 12. 熱傷 13. 熱中症 14. 感染症：ノロウイルス感染症（嘔吐・下痢・吐物の処理） 15. 総括：演習のまとめ（事例）								
事前・事後学習について	事前学習：上級救命講習を受講してください。※別途連絡します 事後学習：けがや病気等の救急処置についてのレポート								
準備学習に必要な時間	事前学習：上級救命講習に 8 時間程度を要す 事後学習：レポート作成に 30 分程度を要す								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	40	知識・理解 病気やけがについての知識について理解することができ、救急処置に生かすことができるようになる。						
	実践	40	技能・判断力 けがや病気等の問診と、適切な救急処置ができるようになる。						
	レポート	10	判断力・表現力 けがや病気等の救急処置についてのレポートの提出						
	その他	10	授業中の態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことはその都度質問してください。								
使用テキスト	新版 学校救急処置 監修草川功 農文協 先生！大変です！どうしたらいいですか！！ 監修玉川進 東山書房 新版 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護								
参考書	学校の応急処置がよくわかる 著玉川進 東山書房								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	臨床医科学 L42054			後期	講義	2				
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	医療事務に必要な体のしくみと疾患のなりたち及びその治療や検査項目等について学びます。									
到達目標	医療事務の基礎知識として必要な疾病およびその発生機序や治療法を理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. 循環器系疾患：①狭心症②心筋梗塞 2. 循環器系疾患：③不整脈④心不全⑤心筋症 3. 呼吸器系疾患：①気管支喘息②気管支炎 4. 呼吸器系疾患：③肺炎④肺気腫⑤肺がん 5. 消化器系疾患：①胃潰瘍②十二指腸潰瘍③胃がん④大腸がん⑤虫垂炎 6. 消化器系疾患：⑥肝炎⑦肝硬変⑧肝がん⑨胆石症⑩膵炎⑪膵がん 7. 内分泌系疾患：①糖尿病②バセドウ病 8. 泌尿器系疾患：①腎炎②腎不全③尿路結石症④前立腺肥大 9. 婦人科系疾患：①子宮筋腫②子宮内膜症③子宮がん④卵巣嚢腫⑤乳腺炎⑥乳腺症⑦乳がん 10. 運動器系疾患：①骨折②椎間板ヘルニア③変形性関節症④関節リウマチ⑤骨粗鬆症 11. 感覚器系疾患：①白内障②緑内障③眼底出血④網膜剥離 12. 感覚器系疾患：①中耳炎②副鼻腔炎③扁桃炎④アデノイド 13. 感覚器系疾患：眩暈 14. 脳神経系疾患：①頭蓋内出血②脳梗塞③脳腫瘍 15. 造血器系疾患：①貧血②白血病③悪性リンパ腫									
事前・事後学習について	事前学習：体のしくみを「ぜんぶわかる人体解剖図」で確認しておいてください。 事後学習：毎時間、課題を配布します。ノートやテキストを確認し、内容の理解に努めてください。									
準備学習に必要な時間	1 時間程度 ・課題をまとめる									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	疾病・治療・検査および体のしくみの理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	臨床医科学への関心・意欲・態度（授業への取り組み）							
受講上の注意・課題のフィードバック	ノートをとってください。 15 回目にノートを中心にこの授業で取り扱ってきた疾患についてまとめを行います。									
使用テキスト	病気の地図帳 山口和克 講談社 五改訂病院で受ける検査がわかる本 高木康 田口進 法研 2022 ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄・橋本尚詞, 成美堂出版									
参考書	臨床医科学入門 石田均 板倉弘重 志村二三夫 田中清 光生館 2010									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	臨床実習 L32055			後期	実習	2	必修			
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	「看護学ⅠⅡ」「看護学実習」で得た知識を基礎におき、実際の医療機関において医療や看護がどのように行われているか見学、体験することで、養護教諭として必要な医療や看護の知識の向上をはかります。 実務経験（現場の看護師等）のある教員の科目									
到達目標	1. 医療機関を理解することができる。 2. 医療機関で行われている医療や看護を理解することができる。 3. 養護教諭として知っておくべき医療・看護を理解することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. 医療機関の理解：①医療機関の理念や地域における役割を知る 2. 医療機関の理解：②医療機関の部署や組織間の連携を知る 3. 医療機関の理解：③医療機関と地域との連携を知る 4. 医療や看護を理解する：①看護の実際を知る 5. 医療や看護を理解する：②救急医療、周産期医療、災害支援及び医療機関の危機管理等の実際を知る 6. 医療機関で行われる医療や看護を理解する：③社会的弱者の医療とその対応の実際を知る 7. 医療機関で行われる医療や看護を理解する：④地域包括ケア及び心のケアの実際を知る 8. 養護教諭として知っておくべき医療・看護を理解する：①基礎看護技術の見学・体験をする 9. 養護教諭として知っておくべき医療・看護を理解する：②医療や看護の実際を見学する 10. 総括：カンファレンス									
事前・事後学習について	事前・事後学習については事前に行う「学内オリエンテーション」でその内容を示します。2 週間の病院実習です。健康障害をもった方々が実際に治療、療養する病院という場所での学びです。実習で学ぶ視点を明確に持ち意欲的に実習に臨んでください。また、自らの健康管理を十分に行ってください。									
準備学習に必要な時間	概ね 2～3 時間程度 ＊準備学習は時間より内容が大切です。わからないところを理解してから実習に臨んでください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	基礎看護技術の理解（体験・見学）、実習意欲・態度							
	レポート	30	実習内容の理解							
	その他	30	臨床実習記録の作成							
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意・課題は「学内オリエンテーション」で説明します。記録は評価後すべて返却します。									
使用テキスト	臨床実習要項									
参考書	適宜指示する									

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	医療秘書実務（調剤）L42056			後期	講義	2				
担当教員	加藤 浩子									
授業の概要	医療事務、特に調剤報酬請求事務に必要な基本的・専門的知識と技術を一連の流れのなかで関連付けて学びます。									
到達目標	保険調剤薬局における窓口業務と会計業務の実際を理解し、処方せんの正確な読み取りと調剤報酬請求のスキルを修得する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. 医療保険制度 2. 調剤報酬請求の流れ 3. 処方せんの交付 4. 薬剤入門 5. 調剤報酬点数表 6. 調剤報酬に関する知識（調剤技術料） 7. 調剤報酬に関する知識（薬学管理料） 8. 調剤報酬に関する知識（薬剤料） 9. 調剤報酬に関する知識（特定保険医療材料料） 10. 調剤報酬の算定 11. 調剤報酬明細書記載要領 12. 調剤報酬明細書作成 13. 調剤報酬明細書点検 14. 公費負担 15. まとめ									
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。医療事務資格（調剤報酬請求事務技能認定）取得の基本となる授業です。日本医療教育財団認定の調剤報酬請求事務技能の取得を目標としていますので、知識を確実に身につけてください。									
準備学習に必要な時間	以下、1 時間程度の学習が必要です ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	調剤報酬請求事務の知識と技能の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	授業への取り組み							
受講上の注意・課題のフィードバック	・期末試験の合格と授業への取り組みに応じて、調剤報酬請求事務技能認定資格が付与されます。 ・期末の試験は、100 点満点での合格となります									
使用テキスト	医療事務講座・調剤 ニチイ									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	医療秘書実習 L43057			前期	実習	1			
担当教員	坂上 ちおり								
授業の概要	医療秘書実務士認定資格取得に必要なとなる 3 日間の病院実習です。実際の医療機関で医療事務の職務を見学・体験します。								
到達目標	1. 医療機関における受診の流れを理解する。 2. 保険診療、診療報酬明細書作成の実際を理解する。 3. 医療機関における窓口業務および接遇マナーの実際を学ぶ。 4. 医療機関という組織のなかの医療事務の位置づけを学ぶ								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
			○						
授業計画	1. 受付業務 2. 医事コンピュータ処理 3. 会計業務 4. 病歴（カルテ）管理 5. 病棟クラーク業務 6. 滅菌・物品管理 7. 医療ソーシャルワーカー業務 8. 診療情報管理 9. レセプト点検 10. 電話対応業務 11. 診療報酬明細書作成業務 12. 保険診療と自費診療について 13. 接遇マナー 14. 他職種との連携 15. 病院の機能								
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。医療事務関連科目は必修ですが、その他に「ビジネスマナー演習」の履修を勧めます。短期間の実習ですが学ぶことは多くあります。緊張感をもち、意欲的に臨んでください。								
準備学習に必要な時間	「ビジネスマナー演習」の時間に、事前準備を行います（2 時間程度）。身支度等も、実習に必要な資質です。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	90	医療事務職務の体験，見学（知識・理解/関心・意欲・態度）						
	レポート	0							
	その他	10	実習記録（知識・理解）						
受講上の注意・課題のフィードバック	実習記録が返却されたら、実習指導者からのコメントについて振り返りを行ってください。								
使用テキスト	プリントを配布する 実習記録のため日誌を使用する								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	医療事務概論 L41058			前期	講義	2			
担当教員	加藤 浩子								
授業の概要	医療事務概論、医療制度論、医療保険論および医療事務演習では医療事務に必要な基本的・専門的知識と技術を一連の流れのなかで関連付けて学びます。								
到達目標	医療機関における診療報酬の仕組みを理解し、医療事務の知識、技術に応用できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
			○						
授業計画	1. 医療事務の仕事について 2. 医事担当者の役割 3. 接遇マナー 4. 患者接遇の基本（窓口対応の基本） 5. 患者接遇の基本（電話対応の基本） 6. 患者接遇の基本（受付窓口対応） 7. 患者接遇の基本（会計窓口対応） 8. 受付の事例(1) 9. 受付の事例(2) 10. 受付の事例(3) 11. ロールプレイング例 12. 個人情報保護法 13. 医事業務における個人情報の取り扱いについて 14. 医療機関で取り扱う帳票について 15. まとめ								
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。日本医療教育財団が認定する医療事務技能審査資格（メディカルマーク）取得に必要な授業内容です。資格試験合格が目標となります。他の関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。								
準備学習に必要な時間	以下の学習に 1 時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	90	医療事務の知識と技能の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	10	授業に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。								
使用テキスト	医療事務講座・医科 ニチイ								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	医療福祉制度論 L41059			前期	講義	2			
担当教員	加藤 浩子								
授業の概要	医療事務概論、医療制度論、医療保険論および医療事務演習では、医療事務に必要な基本的・専門的知識と技術を一連の流れのなかで関連付けて学びます。								
到達目標	医療保障についての知識を広く学び、医療事務の基礎となる医療保険制度についての理解を深める。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
			○						
授業計画	1. 医療保険制度の基礎知識 2. 医療機関の分類 3. 健康保険法と療養担当規則 4. 医療保険の分類と運用 5. 社会保険と国民健康保険 6. 保険料と保険給付 7. 被保険者証と医療受給者証 8. 後期高齢者医療制度 9. 診療報酬のしくみ 10. 医療事務の業務 11. 電子カルテシステム 12. D P C 制度 13. 公費負担医療制度 14. 介護保険制度 15. 労災保険と自賠責保険								
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。日本医療教育財団が認定する医療事務技能審査資格（メディカルマーク）取得に必要な授業内容です。資格試験合格が目標となります。他の関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。								
準備学習に必要な時間	以下、1 時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	90	医療事務の知識と技能の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	10	授業に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。								
使用テキスト	医療事務講座・医科 ニチイ								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	医療保険論 L41060			前期	講義	2			
担当教員	加藤 浩子								
授業の概要	医療事務概論、医療制度論、医療保険論および医療事務演習では、医療事務に必要な基本的・専門的知識と技術を一連の流れのなかで関連付けて学びます。								
到達目標	診療報酬点数の算定方法を理解し、診療報酬明細書の作成・点検に必要な知識を身につける。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
			○						
授業計画	1. 診療報酬点数表 2. 初診料・再診料の算定 3. 投薬料の算定 4. 注射料の算定 5. 処置料の算定 6. 手術料の算定 7. 麻酔料の算定 8. 検査料の算定 9. 病理診断料の算定 10. 画像診断料の算定 11. 医学管理料の算定 12. 在宅医療料の算定 13. 入院料の算定 14. リハビリテーション料の算定 15. 算定ルールのまとめ								
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。医療事務資格(メディカルクラーク)取得に必要な授業内容です。資格試験合格が目標となります。ほか関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。								
準備学習に必要な時間	以下、1 時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	90	医療事務の知識と技能の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	10	授業に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。								
使用テキスト	医療事務講座・医科 ニチイ学館								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	医療保険演習 L41061			前期	演習	1			
担当教員	加藤 浩子								
授業の概要	医療事務概論、医療制度論、医療保険論および医療事務演習では、医療事務に必要な基本的・専門的知識と技術を一連の流れのなかで関連付けて学びます。								
到達目標	医療事務業務における、診療報酬請求業務に精通する。電子カルテの導入、診療報酬のオンライン請求など、医療事務のIT化が進む中、根拠に基づいた診療報酬請求の実践ができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
			○						
授業計画	1. 診療報酬明細書の役割 2. 診療報酬明細書の記載要領 3. 診療報酬明細書の記載例 4. 診療報酬明細書の作成（外来症例） 5. 診療報酬明細書の作成（入院症例） 6. 医事システムについて 7. 公費負担医療の診療報酬明細書 8. 医療保険請求の仕組み 9. 診療報酬明細書の点検 10. 診療報酬明細書の点検演習（外来）① 11. 診療報酬明細書の点検演習（外来）② 12. 診療報酬明細書の点検演習（外来）③ 13. 診療報酬明細書の点検演習（入院）① 14. 診療報酬明細書の点検演習（入院）② 15. 総括								
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。医療事務資格(メディカルクラーク)取得に必要な授業内容です。資格試験合格が目標となります。ほか関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。								
準備学習に必要な時間	以下、1 時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	90	医療事務の知識と技能の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	10	授業に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。								
使用テキスト	医療事務講座・医科 ニチイ学館								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	医師事務作業補助概論 L42062			後期	講義	2				
担当教員	加藤 浩子									
授業の概要	医師事務作業補助演習と合わせ、医療機関で必要とされる法律や制度ならびに、医師事務作業補助に必要な医療の基礎知識・医療関連文書の書類様式や記載方法を学びます。									
到達目標	医師事務作業補助の役割を理解し、代行業務に必要な関連知識・法律を身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. 医師事務作業補助の役割 2. 医療関連法規（医療法、医師法） 3. 医療保険制度 4. 医学一般 1（人体の構成および機能 1） 5. 医学一般 2（人体の構成および機能 2） 6. 医学一般 3（人体の構成および機能 3） 7. 薬学一般 1（薬事法） 8. 薬学一般 2（薬物の使用法・効果） 9. 診療録 1（診療録の記載） 10. 診療録 2（電子カルテ） 11. 個人情報保護 12. 医療機関における安全管理 13. 医師事務作業補助の実際と重要事例 14. ヒューマンスキル 15. ビジネススキル									
事前・事後学習について	全日本病院協会、日本医療教育財団認定の医師事務作業補助技能資格（ドクターズクラーク）取得に必要な授業内容です。資格試験合格が目標となりますので、関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。メディカルクラークの上位資格となりますので、メディカルクラークに必要な科目の単位が取得されていることが、履修条件です。									
準備学習に必要な時間	以下、1 時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	医師事務作業補助の知識と技能の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	授業に対する姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。									
使用テキスト	メディカルドクターズクラーク講座 ニチイ									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	医師事務作業補助演習 L42063			後期	演習	1			
担当教員	加藤 浩子								
授業の概要	医師事務作業補助概論と合わせ、医療機関で必要とされる法律や制度ならびに、医師事務作業補助に必要な医療の基礎知識・医療関連文書の書類様式や記載方法を学びます。								
到達目標	医師事務作業補助者の主要な役割である代行業務の文書作成を多数の演習問題で修得する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
			○						
授業計画	1. 診断書と証明書 2. 健康診断書 3. 入院、手術証明書 4. 出生証明書 5. 傷病手当金申請書 6. 死亡診断書（死体検案書） 7. 院外処方せん 8. 診療情報提供書 9. 医療要否意見書 10. 休業補償給付支給請求書 11. 自動車損害賠償責任保険診断書 12. 治療用装具を必要とする意見書 13. 重症急性膵炎臨床調査個人票 14. 介護保険主治医意見書 15. まとめ								
事前・事後学習について	全日本病院協会、日本医療教育財団認定の医師事務作業補助技能資格（ドクターズクラーク）取得に必要な授業内容です。資格試験合格が目標となりますので、関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。メディカルクラークの上位資格となりますので、メディカルクラークに必要な科目の単位が取得されていることが、履修条件です。								
準備学習に必要な時間	以下、1 時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	90	医師事務作業補助の知識と技能の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	10	授業に対する姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。								
使用テキスト	メディカルドクターズクラーク講座 ニチイ								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	歯科事務概論 L43064			前期	講義	2				
担当教員	加藤 浩子									
授業の概要	歯科事務概論、歯科事務実務論、歯科事務演習では、医療事務の歯科に必要な基本的知識・専門的知識と実践的技術を学習します。									
到達目標	・メディカルクラーク（歯科）の資格取得を目指し、必要な知識、技能を修得する。 ・医療事務の歯科を仕事として選択するためのスキルを身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. 歯科の基礎知識①（口腔の解剖と生理） 2. 歯科の基礎知識②（歯の解剖） 3. 歯科の基礎知識③（歯の表示のしかた） 4. 診療報酬算定 初診料 5. 診療報酬算定 再診料 6. 診療報酬算定 医学管理等 7. 診療報酬算定 在宅医療 8. 診療報酬算定 投薬 9. 診療報酬算定 画像診断 10. 診療報酬算定 歯科検査 11. 診療報酬算定 麻酔 12. 歯冠修復・歯冠形成① 13. 歯冠修復・歯冠形成② 14. 歯冠修復・歯冠形成③ 15. 処置・手術の法則									
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。日本医療教育財団が認定する医療事務技能審査資格（メディカルクラーク歯科）取得に必要な受講内容です。資格試験合格が目標となります。他の関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。									
準備学習に必要な時間	以下、一時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	医療事務（歯科）の知識と技能の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	授業に対する姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。									
使用テキスト	医療事務講座・歯科 ニチイ									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	歯科事務実務論 L43065			前期	講義	2				
担当教員	加藤 浩子									
授業の概要	歯科事務概論、歯科事務実務論、歯科事務演習では、医療事務の歯科に必要な基本的知識・専門的知識と実践的技術を学習します。									
到達目標	・メディカルクラーク（歯科）の資格取得を目指し、必要な知識、技能を修得する。 ・医療事務の歯科を仕事として選択するためのスキルを身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. 初期う蝕（症例算定、明細書点検） 2. 歯髄炎（症例算定、明細書点検） 3. 歯根膜炎（症例算定、明細書点検） 4. 歯周疾患の治療（症例算定、明細書点検） 5. 口腔粘膜の治療（症例算定、明細書点検） 6. 感染根管の治療（症例算定、明細書点検） 7. その他の治療（症例算定、明細書点検） 8. 欠損補綴 種類 9. 欠損補綴 診断料（算定方法、症例算定） 10. 欠損補綴 ブリッジ（算定方法、症例算定） 11. 欠損補綴 有床義歯（算定方法、症例算定） 12. 欠損補綴 有床義歯内面適合法（算定方法、症例算定） 13. 欠損補綴 有床義歯修理（算定方法、症例算定） 14. 再装着と修理（算定方法、症例算定） 15. 未装着請求（算定方法、症例算定）									
事前・事後学習に ついて	授業で学んだことを必ず復習してください。日本医療教育財団が認定する医療事務技能審査資格（メディカルクラーク歯科）取得に必要な受講内容です。資格試験合格が目標となります。他の関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。									
準備学習に 必要な時間	以下、一時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	医療事務（歯科）の知識と技能の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	授業に対する姿勢							
受講上の注意・課題 のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。									
使用テキスト	医療事務講座・歯科 ニチイ									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	歯科事務演習 L43066			前期	演習	1				
担当教員	加藤 浩子									
授業の概要	歯科事務概論、歯科事務実務論、歯科事務演習では、医療事務の歯科に必要な基本的知識・専門的知識と実践的技術を学習します。									
到達目標	・メディカルクラーク（歯科）の資格取得を目指し、必要な知識、技能を修得する。 ・医療事務の歯科を仕事として選択するためのスキルを身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. 歯科 診療報酬明細書の点検（点検にあたって） 2. 歯科 診療報酬明細書の点検①（カルテとのつけ合わせ点検） 3. 歯科 診療報酬明細書の点検②（カルテとのつけ合わせ点検） 4. 歯科 診療報酬明細書の点検③（カルテとのつけ合わせ点検） 5. 歯科 診療報酬明細書の点検④（カルテとのつけ合わせ点検） 6. 歯科 診療報酬明細書の点検⑤（カルテとのつけ合わせ点検） 7. 歯科 保険請求の仕組み 8. 歯科 保険請求 明細書請求 9. 歯科 保険請求 明細書上の点検 10. 歯科 診療報酬明細書の点検演習① 11. 歯科 診療報酬明細書の点検演習② 12. 歯科 診療報酬明細書の点検演習③ 13. 歯科 診療報酬明細書の点検演習④ 14. 歯科 診療報酬明細書の点検演習⑤ 15. 総括									
事前・事後学習について	授業で学んだことを必ず復習してください。日本医療教育財団が認定する医療事務技能審査資格（メディカルクラーク歯科）取得に必要な受講内容です。資格試験合格が目標となります。他の関連科目と合わせ、意欲的に学んでください。									
準備学習に必要な時間	以下、1 時間程度の学習が必要です。 ・履修内容を理解するために、ドリルを解いてください。 ・試験に持ち込む資料作りのため、使用教材へのマーカー、補足事項の書き込みを行ってください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	医療事務（歯科）の知識と技能の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	授業に対する姿勢							
受講上の注意・課題のフィードバック	・日本医療教育財団が実施する資格試験に合格すると資格が付与されます。 ・期末の試験終了後、解説と各自のウイークポイントの洗い出しをして資格試験の対策を行います。									
使用テキスト	医療事務講座・歯科 ニチイ									
参考書	適宜紹介									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	ビジネスマナー演習 L43067			前期	演習	1				
担当教員	加藤 浩子									
授業の概要	医療事務に必要な患者接遇と医療知識を学びます。医療秘書実習に必要な基礎知識であるほか、ホスピタルコンシェルジュの資格試験に対応しています。									
到達目標	医療事務に必要な患者接遇のスキルと医療知識を修得する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
			○							
授業計画	1. ホスピタルコンシェルジュの役割 2. 接遇①（患者サービス） 3. 接遇②（電話対応） 4. 接遇③（応対用語） 5. 接遇総括 6. 医療知識①（医療法） 7. 医療知識②（医療保険制度） 8. 医療知識③（医療機関の組織） 9. 医療知識④（公費負担医療/介護保険） 10. 医療知識⑤（労働保険/自賠責保険/損益管理と医事統計） 11. 医療知識⑥（個人情報保護法） 12. 医療知識⑦（診療報酬患者負担金の計算/医療用語） 13. 医療知識総括 14. 接遇④（ロールプレイング） 15. 医療秘書実習について									
事前・事後学習について	授業後に必ずテキストを再読し、授業で取り扱った内容を整理してください。わからない部分はそのままにせず、次の授業で必ず質問してください。									
準備学習に必要な時間	事前・事後学習として 30 分～1 時間程度を要します。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	接遇・医療知識の総括での課題における内容の理解度							
	実践	20	患者接遇に必要とされるコミュニケーションへの取り組み姿勢							
	レポート	0								
	その他	10	授業態度と意欲							
受講上の注意・課題のフィードバック	接遇・医療知識の総括では課題を提示します。次の授業に採点・添削して返却しますので、わからないところは授業等で質問してください。 コミュニケーションの実践では、授業での積極的な発言を求めます。 技能認定振興協会（jsma）のホスピタルコンシェルジュ検定 3 級取得に必要な科目です。									
使用テキスト	医療事務（患者接遇マナー/医療保険制度）									
参考書	適宜指示する									

対象学生	生活科学専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	臨床心理学 L42068			後期	講義	2			
担当教員	坂上 ちおり								
授業の概要	高齢者や障害者の心理を学ぶことを通して、支援の基本的な姿勢について考えを深めます。								
到達目標	(知識・理解) (思考・判断) 高齢者の方やその家族、障害を持つ方と関わるにあたり、その方の人生やこころを心理学の理論に基づいて考えを深めることができる。また支援者の陥りやすい危険について意識を持つことができる。 (関心・意欲・態度) 高齢者や障害者について、理解したいという気持ちを持つことができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
			○						
授業計画	1. オリエンテーション・支援の基本的態度について：自分の傾向を知るワーク 2. 発達とは： 老年期を中心とした生涯発達理論 3. 学習・記憶・知能 4. 遺伝と環境・動機づけ・自己概念 5. 適応機制・人格など 心理臨床の考え方 6. 高齢者対象の心理療法：バリデーション・回想法 7. 老年期の人の心理 『野いちご』 8. 中年期の人の心理・介護による成長・家族システム論 9. 人間関係の形成・ストレスマネジメント 10. 「支援をするということ」「死」について考える 11. 障害の概念・障害や疾患の受容 12. 知的障害・精神障害 13. 大人の発達障害 14. 発達障害者の就労とその支援 15. 総括								
事前・事後学習について	事前学習：老年期の人、障害を持つ方と多くの関わりを持つこと。また、時事問題に関心を持っておくこと。 事後学習：講義で説明された考え方や心理学の理論について、自分はどのようなことを考えたのかを整理してまとめておくと良い。								
準備学習に必要な時間	各回のテーマや理論について 30 分ほど、関連するテキスト等を読んでおいてください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	40	最終のレポート						
	その他	60	6 回のワークに対するリアクションペーパー						
受講上の注意・課題のフィードバック	リアクションペーパーについては、採点次第、授業内で返却をしています。その際、修正すべき点や加筆ポイントをアドバイスしています。提出済みのリアクションペーパーに加筆して、再提出した場合には加点して、返却します。								
使用テキスト	なし								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	保健管理 L32069			後期	講義	2	必修		
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	学校保健、保健管理は養護教諭の職務の基礎・基本となる科目です。1 年前期で学んだ学校保健の保健管理について、具体的にどのように動き、児童生徒の健康を支援するかを学びます。								
到達目標	①児童生徒の定期健康診断の進め方や事後措置について具体的に理解する。 ②学校環境衛生検査の基準と方法を学び、適切な管理について理解する。 ③学校において予防すべき感染症の種類と予防方法、個人・集団発生時の対応について理解する。 ④学童期に注意すべき疾病及び異常について理解する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 「児童生徒等の健康診断の実際①」（保健調査・検診方法） 2. 「児童生徒等の健康診断の実際②」（健康診断票・学級保健簿の記入と管理） 3. 「児童生徒等の健康診断の実際③」（器材管理・歯式記入） 4. 「児童生徒等の健康診断の事後措置①」（勧告書の記入と管理） 5. 「児童生徒等の健康診断の事後措置②」（成長曲線の作成と評価） 6. 「児童生徒等の健康診断の事後措置③」（身長別標準体重、肥満度、肥満度曲線の作成と評価） 7. 「教職員健康診断・就学時健康診断」 8. 「学校環境衛生検査の実際①」（実施方法） 9. 「学校環境衛生検査の実際②」（衛生基準） 10. 「学校環境衛生検査の実際③」（検査の体験と結果の評価） 11. 「感染症の予防と対応①」（集団発生時の対応） 12. 「感染症の予防と対応②」（嘔吐時の対応） 13. 「学童期に注意すべき疾病及び異常①」全員で分担し、調べてまとめる 14. 「学童期に注意すべき疾病及び異常②」全員で分担し、調べてまとめる 15. 「学童期に注意すべき疾病及び異常③」自分の学びを発表し、全員で知識を共有する（冊子は養護実習時に持参）								
事前・事後学習について	養護教諭の職務の基礎・基本となる科目です。法令や基準、マニュアルなどを十分に読み込み理解する必要があります。毎回プリントを用意しますので、必ず復習をし、一つ一つ確実に身に付けていきましょう。								
準備学習に必要な時間	1 時間程度要する。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	60	知識・理解						
	実践	20	技能・発信力						
	レポート	10	思考・判断 提出物（ノート点検）						
	その他	10	授業態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	課題を適宜、指示します。プリント類は全てノートに貼り付けて復習しやすいよう保管してください。								
使用テキスト	「学校保健実務必携」戸田芳雄他著 第一法規								
参考書	適宜指示する								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	保健養護概論 L31070			前期	講義	2	必修			
担当教員	澤田 有香									
授業の概要	養護教諭はどのような職務を担っているのか、職務の変遷や現代的な健康課題、学校保健のあり方などから、その概要を学びます。養護教諭の資質を理解し、児童・生徒に寄り添い、保護者・職員・地域と連携を図り活動していくことのできる養護教諭を目指し学んでいきます。									
到達目標	養護教諭は目の前の子ども一人一人の成長に寄り添い、その健やかな発達と幸せを目指し、子どもを取り巻く人々と協働して、養護を推進して行かなければならないことを理解する。さらに、グループワーク等を通して積極的にチームで協働できるようになる。また問題に応じた養護活動の対応について自分なりに考えることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. オリエンテーション 養護教諭を目指す 2 年間の学習の流れ 自己紹介 2. 自分の目指す養護教諭像 3. 養護の概念について 養護教諭の専門性や資質について 4. 第一章 養護教諭の歴史・執務内容について 5. 第二章 学校教育と学校保健 6. 第三章 子どもの現代的な健康課題について① まとめる 7. 子どもの現代的な健康課題について② 発表 8. 第四章 養護教諭の職務 各自まとめる 養護実習について 9. 養護教諭の職務 概説 10. 養護実習報告から養護教諭の執務を学ぶ① 11. 養護実習報告から養護教諭の執務を学ぶ② 12. 養護実習の心得と事前訪問について 13. 第五章 保健管理 第 1 節 学校における救急処置 14. 災害共済給付金制度 日本スポーツ振興センターの手続きの仕方 15. 災害共済給付金制度 日本スポーツ振興センターの手続きの仕方（実習）									
事前・事後学習に ついて	授業前には教科書を読み、事前の予習を行う。また、授業後には大切なことをまとめ復習する。									
準備学習に 必要な時間	事前 30 分、事後 60 分程度要する。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	知識・理解 養護教諭の執務についてその概要を理解することができる							
	実践	10	技能・思考力・表現力・判断力・協調性 養護教諭の保健室での対応がイメージできる							
	レポート	10	思考・判断 提出物(ノート点検)							
	その他	10	教育者として養護教諭の資質を意識して授業に臨む							
受講上の注意・課題 のフィードバック	教育者としてまた、養護教諭としての資質について常に意識しながら授業に臨む。 毎時間課題を持って授業に臨み、授業中はしっかりノートを取り、わからないことは積極的に質問する。 養護教諭の執務では、常に周囲と協働することが大切となるため、積極的にグループ学習を行うこと。									
使用テキスト	「新養護概説」 采女智津江 少年写真新聞社									
参考書	適宜指示する。									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	養護特講 L34071			後期	講義	2	選択		
担当教員	安富 和子								
授業の概要	養護実習や授業で学んだ知識や方法を基に、養護教諭の執務について具体的に学ぶとともに、保健指導教材作りと、その教材をつかった保健指導について学びあう。 教員は養護教諭の資格を有し、現場での実務経験があります。 実務経験のある教員（養護教諭）による科目								
到達目標	①手づくり教材を使つての指導案の作成と、保健指導の実施ができる ②性教育・初経指導の実際について理解することができる ③養護学校におけるの執務の実際について理解することができる。 ④二年間の学びで、養護教諭として、ついでいる力と、ついでいない力について自己分析し学びを深めることができる。 ⑤養護教諭の職に就くにあたっての心構えと、準備について理解することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 後期の計画と養護教諭の進路について 手づくり教材についての説明と計画 2. 手洗い指導資料の作成 手洗いチェッカーの作成① 3. 手洗い指導資料の作成 手洗いチェッカーの作成② 4. 手洗い指導資料の作成 手洗いチェッカーの作成③ 5. 養護教諭の就職について個人面接と履歴書の記入について 6. 手洗いチェッカーを使った保健指導の実施 20 分間の授業の実施 7. 感染症の予防と歯科保健指導の実際 8. 救急処置について AED の使い方と学校の対応について 9. 養護教諭の執務内容についての復習 10. 養護教諭の歩んだ道 11. 養護学校における養護教諭の執務と学校保健の現状について 外部講師の講話 12. 性教育 二次性徴と初経指導について （ビデオの視聴） 13. 初経指導の実際について現場の養護教諭の講話 14. 口腔細菌の観察と今後の進路について 面接 15. 長野県養護教諭育成指標のチェックリストの実施 養護教諭として 4 月から勤務する時の心構えと新年度の準備について 後期の反省								
事前・事後学習について	養護教諭の職に就いた時に、すぐに役立つ保健指導教材を作ります。養護教諭を目指す学生さんは是非受講し自分の宝物として教育現場に持って行ってください。有効な保健指導教材なので、丁寧に作りあげ、子ども達にわかりやすい教材と指導案作りを行い保健指導のイメージを膨らませてください。養護教諭として勤務する場合の具体的なことや必要なことを学びます。しっかりノートを取り、疑問があれば積極的に聞いて学んでください。								
準備学習に必要な時間	手造り教材づくりの時間は十分にとつてありますが、欠席等で、時間通りに完成できなかった場合は、各自制作し完成させて提出してください。 保健指導の指導案は、子ども達にわかりやすく楽しい保健指導ができるように工夫し、準備をしてください。 120 分								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	90	思考力・判断力・表現力・技能・行動力・態度						
	レポート	5	3 回提出 提出状況						
	その他	5	授業態度・協調性・協力度・積極性						
受講上の注意・課題のフィードバック	作業は安全に心掛け、手早くスムーズに行い時間内に完成させるように努力する。 レポートの提出期限は厳守し、授業に使用する物品は忘れ物がないように事前に確認する。 作品の制作は協力し合い助け合つて制作活動ができるようにする。								
使用テキスト	テキスト代として、手洗いチェッカーの箱代 300 円。ブラックライト 1400 円を集金します。								
参考書	必要な場合はその都度資料を用意します。								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	養護診断 L33072			前期	演習	1		選択	
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	保健室に様々な訴えを持って来室する児童生徒に対して、養護教諭が実施する問診や検診、処置や対応の仕方を理論に基づき具体的に習得し、実際の場面で慌てず確実に対応できるための知識と技術を身につけていきます。保健室来室者のおもな傷病について対応ができるように学びます。								
到達目標	保健室来室者の救急処置について、特に頻度の多いものについて、正しい知識と技術、理論をもとに、適切に判断し対応することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 養護教諭の専門性におけるフィジカルアセスメント「保健室来室者の対応の仕方についての演習を行う」 2. 養護教諭が行うフィジカルアセスメントの考え方・すすめ方 3. 子どもの訴えに応じた救急処置（足首捻挫） 4. 子どもの訴えに応じた救急処置（歯牙破折） 5. 子どもの訴えに応じた救急処置（突き指） 6. 子どもの訴えに応じた救急処置（熱傷、擦り傷・刺し傷等） 7. 子どもの訴えに応じた救急処置（過呼吸） 8. 子どもの訴えに応じた救急処置（急性虫垂炎の疑い） 9. 子どもの訴えに応じた救急処置（頭部打撲） 10. 子どもの訴えに応じた救急処置（眼部打撲） 11. 子どもの訴えに応じた救急処置（熱中症） 12. 子どもの訴えに応じた救急処置（喘息） 13. 子どもの訴えに応じた救急処置（インフルエンザ、アナフィラキシーショック） 14. 心肺蘇生法 事例への対応 15. スクールソーシャルワーカーの職務内容と役割								
事前・事後学習について	1 年後期に学んだ救急処置を復習しておく。演習での自己評価に基づいて、再度復習するなど事後学習に取り組む。								
準備学習に必要な時間	1 時間程度要する。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	60	救急場面での適切な応急処置や保健指導の実践						
	レポート	30	救急場面での効果的な救急処置や保健指導の在り方						
	その他	10	意欲的な学習態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	演習で互いにフィードバックを行い、かつ自己評価します。そのためにも 1 年時に学習したことをしっかりと復習して参加してください。 毎授業の最初に採用試験過去問等の小テストを実施します。								
使用テキスト	「初心者のためのフィジカルアセスメント ―救急保健管理と保健指導―」 荒木田美香子著 東山書房								
参考書	適宜指示する。								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	養護処置 L34073			後期	演習	1	選択		
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	様々な事例について、養護診断した結果に基づきどのように養護処置を行うか演習していきます。また、特別活動における養護実践なども取り入れていきます。								
到達目標	様々な事例で的確に養護診断し、必要な養護処置を判断し実施できるようになる。さらに特別活動での養護実践や校種による対応の違いなどを理解する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 体験学習オリエンテーション（特別支援学校について） 2. ～5. 特別支援学校での体験学習 6. 体験学習の振り返り 7. 養護診断と養護処置 養護実習での体験の共有 一連の流れについて1つの事例をもとに確認する 8. ～11. 事例による演習 12. ヒヤリハット事例分析（グループディスカッション） 13. 行事での救急処置（グループ演習） 14. アレルギー対応研修（グループ演習） 15. けいれん対応研修（グループ演習）								
事前・事後学習について	既習の養護診断・養護処置に関する知識を確認する。学校関連の情報収集を行う。								
準備学習に必要な時間	予習（30分程度）、報道資料などを読む（30分程度）								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	50	事例への取組（養護診断・処置のプロセス）など						
	レポート	50	実践の振り返り						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	グループで演習を行います。それぞれの知識、経験、判断をシェアし、よりよい養護処置ができるように協力し合いスキルアップしましょう。実践の振り返りをその都度まとめて提出します。								
使用テキスト	なし								
参考書	適宜資料を配布								

対象学生	生活科学専攻 1				開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教職論 L31074				前期	講義	2	必修		
担当教員	中井 文彦									
授業の概要	教職の意義や歴史と使命、教員の仕事や服務などを学びながら、今求められる学校経営や教師像などについて理解を深め、学校組織の一員として、児童生徒の前に立つ自分自身の在り方を問うていく。									
到達目標	・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解を深め、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 ・公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。 ・学校における教育活動の年間の流れと学校評価の在り方、その重要性を理解する。 ・学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。 ・教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. 本講義のねらい・教師の歴史と教育論 2. 教育制度の成立と求められる教員の資質 3. 教育職員免許法と教育を取り巻く社会環境の変化 4. 教師に必要な資質・教員の仕事と役割 5. 教員の研修 6. 教員の服務と教育法規 7. 教員の服務規程と身分保障 8. 教員の危機管理意識（安全対策と非違行為根絶にかかわる心構え） 9. 体罰・いじめをなくす取り組み（グループ討議） 10. 学級崩壊と教職員の取り組み 11. 学校内の教員間の連携・保護者、地域社会との連携（開かれた学校づくり） 12. 学校組織と校務分掌（チームで行う学校づくり） 13. 生徒指導とキャリア教育 14. 学級経営と理想の教師像 15. 教員評価と教職との適性（総括）									
事前・事後学習について	・「振り返りシート」を活用し学習内容の復習を毎時間後に行う。 ・子どもの前に立つ教師のあり方を常に考え、日頃から新聞・インターネットにおける教育の話題について情報収集し、講義に持ち寄る。 ・事前に配付された資料をもとに、著名な教師の生き方について感想を書き提出する。									
準備学習に必要な時間	・予習・復習に要する時間（1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	知識・理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	30	提出物、その他							
受講上の注意・課題のフィードバック	・毎時間、学習内容の振り返りを行います。積極的に授業に臨んでください。									
使用テキスト	教職論 教員を志すすべての人へ 教職問題研究会編 ミネルヴァ書房 解説教育六法（2021 令和3年度版） 三省堂									
参考書	特に指定なし									

対象学生	生活科学専攻 1				開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教育原理		L32075		後期	講義	2	必修		
担当教員	奥井 現理									
授業の概要	教育や学校・教師の必要性や使命を考え、教員免許状を有するに値する人間としての姿勢を涵養する科目です。本来教育とは何か、本来教師は何をする職なのかを、深く考えましょう。									
到達目標	・教育の諸概念、教育の意義・使命（本質・目標）を理解することができる ・地域、家庭、学校等における教育を、さまざまな位相から考察・理解することができる ・過去・現代（西洋・日本）における教育の歴史及び思想を学び、課題を見いだし未来の教育を考察することができる									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. ワーク（1） 本講義のガイダンス（課題提示と演習、長期的課題学習の提示ほか） 2. 序章 教育に関する〈ことば〉—その概念の規定（1） 教育の理念や教育の定義を、まったくのゼロベースから考えてみましょう。 3. 序章 教育に関する〈ことば〉—その概念の規定（2） 「学校」や「人間形成」とは何であるかを、「教育」概念をもとに考えてみましょう。 4. 「ホモ・エドゥカンドゥス（教育を必要とするヒト）」の来歴（1） ルソーやカントなどの思想を学び、現代の教育観や子ども観の源流を学習します。 5. 「ホモ・エドゥカンドゥス（教育を必要とするヒト）」の来歴（2） 「子どもは教育を必要とする」という現代の教育観・子ども観を学習します。 6. 〈学校〉の誕生とその発展 「学校」の誕生期から近代までの社会の変化・歴史的経緯及び思想を振り返ります。 7. ワーク（2） 新しい課題提示と演習ほか 8. 公教育の黎明と受容過程——日本の学校教育（1） 日本の公教育制度誕生から発展の歴史的経緯を学び、その教育観・子ども観の形成された歴史的・思想的経緯を振り返ります。 9. 教育改革の動向と背景——日本の学校教育（2） 平成以降の教育改革は、はたしていかなる教育理念や思想・制度の下に行われているのかを考察します。その際「学校・家庭・地域の連携」という方策で取り組まれる教育活動（安全教育・対応含む）を具体的に取ります。 10. 生徒指導上の諸問題と教員の現在 学校安全や児童虐待をはじめとする具体的な課題を取扱い、考察します。乳児～児童への虐待問題への対応や、学校安全への対応等に、学校・家庭・地域で連携していかに取り組むべきかを考察します。 11. ワーク（3） 新しい課題提示と演習ほか 12. 「教育を必要とする子供」の現実（1） 実際には、子どもはどのように知識や技能を身に付けているのかを学習します。 13. 「教育を必要とする子供」の現実（2） 文化と人間形成との関連を考察します。 14. 教えることの意味と公の教育への期待（1） 人間が人間に「教える」とは、本当には何をしていることなのかを考察します。 15. 教えることの意味と公の教育への期待（2） 新たな教育理念や思想の方向付けを考えましょう。									
事前・事後学習について	授業の終わりに、毎回のワークシート提出を求めます。これは次回に返却します。返却されたワークシートをノートに貼り付け、考察の手がかりとして下さい。 三回のワークで提示される課題は、知識観点で評価されます。									
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	知識・思考・理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。									
使用テキスト	『教育の原理—子供・学校・社会をみつめなおす—改訂版』 紺野祐ほか著 学術出版会、2019 年									
参考書	適宜指定する。									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	教育史 L32076			後期	講義	2		選択	
担当教員	奥井 現理								
授業の概要	未来の教育をよりよいものにするために、歴史上の多くの発想や実践、それらの成功や失敗の背景や経緯を講義します。多くの場合、最初の十数分にプリント練習、最後の十数分にプリント練習を生かす演習があります。								
到達目標	・代表的教育家の思想及びその歴史的影響を理解することができる。 ・近代教育制度の成り立ちやその歴史的影響を理解することができる。 ・地域・家庭・学校等における教育・学習の歴史を理解し、その視点から現代的な教育課題を考察することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 西洋教育思想の源流―古代・中世（1）レトリックと教育 2. 西洋教育思想の源流―古代・中世（2）哲学と教育 3. 西洋教育思想の源流―古代・中世（3）キリスト教と教育 4. 近代西洋の教育思想（1）ルネサンスとヒューマニズム 5. 近代西洋の教育思想（2）コメニウス 6. 近代西洋の教育思想（3）ロック 7. 近代西洋の教育思想（4）ルソー 8. 近代西洋の教育思想（5）ペスタロッチ 9. 近代西洋の教育思想（6）フレーベル 10. 近代西洋の教育思想（7）ヘルバルト 11. 現代の教育思想 デューイと新教育 12. 日本の教育思想（1）近世以前の日本の教育 13. 日本の教育思想（2）近世日本の教育 14. ワーク（1） 15. ワーク（2）								
事前・事後学習について	授業の前後に、知識を得るための学習活動を行います。そこで得られた知識と授業（講義）で記録したノートをてがかりに、理解を深めて下さい。								
準備学習に必要な時間	必要に応じて、90 分程度参考書等を学習して下さい。授業で毎回提示される知識学習を復習するのもよいでしょう。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	知識・理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。								
使用テキスト	『教育思想史』今井康夫ほか著（有斐閣アルマ、2009 年）								
参考書	適宜指定するが、コメニウス『世界図絵』、ルソー『エミール』、ペスタロッチ『シュタンツ便り』、デューイ『学校と社会』等は授業に組み込む形で必ず紹介される。								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	教育心理学 L31077			前期	講義	2	必修			
担当教員	坂上 ちおり									
授業の概要	子どもの発達や学習に関する基本的な心理学の理論を学びます。									
到達目標	①子どもの行動や発達像、障害や疾患、②発達や学習に関する心理学の理論、③子どもの発達の評価・測定および分析の方法について基本的な知識を説明することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. オリエンテーション・研究法 2. 障害の種別と特別支援教育 3. 「発達」の基本的な考え方・ピアジェの理論 4. 乳児期の発達（愛着・愛着障害・情動調律） 5. 幼児期の発達①（情動の発達分化・心の理論・ことば） 6. 幼児期の発達②（自己概念・道徳性・遊び） 7. 児童・青年期の発達(エリクソン含) 8. 集団心理・集団で行う学習方法 9. 学習理論・記憶と動機付け 10. 「知能・性格」の基本的な考え方 11. 教育の評価と測定①・・・知能検査・性格検査 12. 教育の評価と測定②・・・検査の活用とまとめ 13. 最終レポートの書き方 14. 統計分析①・・・データの入力法 15. 統計分析②・・・T 検定・相関・カイ二乗検定									
事前・事後学習について	事前学習：シラバスの授業計画で示された理論について、該当する教科書のページを読んでおくこと。 事後学習：講義のなかで示された理論について、自分のことばで説明できるようにまとめる。さらに、理論に沿って日常の子どもの様子を説明できると良い。									
準備学習に必要な時間	各回で紹介する理論について、教科書の該当するところを読んでおくこと（各回 30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	60	最終レポート：基本的知識の習得度・根拠に基づいた説明力							
	その他	40	ワークに対するリアクションペーパー：根拠に基づいた説明力・意欲							
受講上の注意・課題のフィードバック	リアクションペーパーについては、採点次第、授業内で返却をしています。その際、修正すべき点や加筆ポイントをアドバイスしています。提出済みのリアクションペーパーに加筆して、再提出した場合には加点して、返却します。 最終レポートについては、提出前の指導を複数回行います。									
使用テキスト	教育・学校心理学 小山望（編著）建帛社									
参考書	特になし									

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	特別支援教育論 L33078			前期	講義	2	必修		
担当教員	中井 文彦・黒岩 長造								
授業の概要	特別支援教育の意義や歴史と使命、障害の種類や支援の在り方を学び、特別支援学校・特別支援学級の児童生徒や特別の教育的ニーズのある児童生徒との養護教諭としての対応、支援の在り方を演習を通して学んでいく。								
到達目標	・特別支援学校と特別支援学級ならびに通級指導教室の役割と概要、基本的な発達や育ちを学び、特別支援教育に関する理解を深める。 ・障害のある児童生徒や特別の教育的ニーズのある児童生徒への支援のあり方、活動の多様性について理解し、実際に支援方法を身に付ける。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 本講義のねらい・オリエンテーション 2. 特別支援教育の理念・関連する制度・インクルーシブ教育 3. 発達障害の成長過程に伴う発達の変化（小学校期） 4. 発達障害の成長過程に伴う発達の変化（中学校期） 5. 発達障害の成長過程に伴う発達の変化（青年期・大人） 6. 発達障害の中の「学習障害」・「知的障害」 7. 特別支援学校の学習指導要領と教育課程 8. 特別支援学校のセンター的機能と活用、他機関との連携 9. 個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成の意義と作成方法 10. 幼・小・中・高における特別支援教育の概要と特別の教育的ニーズのある児童生徒の対応 11. 特別支援学級の教育活動、通級による指導、家庭との連携（就学指導相談） 12. 小・中学校の通常の学級における特別支援教育と特別支援教育コーディネーター 13. 学習のユニバーサルデザインと合理的配慮 14. 特別支援教育を進める教師の在り方、様々な検査法・療法 15. 障害以外に特別支援の必要な幼児、児童及び生徒について								
事前・事後学習について	・自己理解を深め、他者の支援に役立てていく。								
準備学習に必要な時間	予習及び復習に要する時間（1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	50							
	その他	50	発言、振り返りシート内容、その他						
受講上の注意・課題のフィードバック	分からないことがあったら質問をしてください。								
使用テキスト	必要な資料を配付します。								
参考書	生徒指導提要（最新版）文部科学省/著 教育図書								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	教育課程・生徒指導論(生活科学専攻) L31079			前期	講義	2	必修			
担当教員	中井 文彦・北原 幹久									
授業の概要	学校における教育活動の全体計画である教育課程（カリキュラム）の編成方法を理解し、加えて、その基準となる学習指導要領の変遷と現状を把握し、諸外国の教育課程も学びつつ、合わせて生徒指導の理論や方法、カリキュラム・マネジメントを行う意義などについて考える。									
到達目標	・教育課程の意義を理解するとともに、各学校で編成する際の基礎的知識や方法等を習得する。 ・学習指導要領の変遷と現状、思想や制度を理解し、また、諸外国の教育課程を学ぶ。 ・生徒指導の理論や方法、カリキュラム・マネジメントを行う意義や在り方を考える。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. 本講義のねらいと概要「教育課程・生徒指導とは何か」（教育課程編成の意義と役割・機能・生徒指導との関連、位置づけなど） 2. 教育課程理論の歴史的変遷、教育課程の編成原理（新教育とカリキュラム・児童中心主義・構造化） 3. 我が国の教育課程の変遷 1（江戸・明治の教育の変遷） 4. 我が国の教育課程の変遷 2（大正の自由教育と国民学校における戦時下の教育） 5. 戦後の教育改革と学習指導要領の変遷 1（昭和時代まで） 6. 学習指導要領の変遷 2 と学力問題 7. 学習指導要領の変遷 3 と現在の教育 8. 現在日本が抱える教育課程の課題解決の道（諸外国の教育課程） 9. 教育課程編成の基本問題とカリキュラム・マネジメント 10. 教育課程の実践と評価（PDCAサイクルと個別・集団評価） 11. 生徒指導理論（生徒指導の意義と重要性、校務分掌上の役割、日々の取組など） 12. 生徒指導の理論と実際（校則・懲戒・体罰などの法令理解と暴力行為・いじめ・不登校・インターネットや性に関する課題など） 13. 今日の課題と教育課程（命の教育、自己肯定感を育むなど） 14. 教科外学習（特別活動・道徳教育・総合的な学習の時間など） 15. 生徒指導の課題と関係機関との連携（総括）									
事前・事後学習について	・「振り返りシート」によって、学習内容の復習、自他の意見をまとめる習慣をつけること。 ・現行の小中学校の学習指導要領の総則と保健体育や家庭科について、特に「保健指導」や「食に関する指導」について、必ず目を通してくること。 ・学校現場での実習に生きるよう、体育・保健体育、特別活動、総合的な学習の時間等における保健健康教育について発展的な可能性を考えて自分の意見をまとめてくること。									
準備学習に必要な時間	・予習及び復習に要する時間（1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	知識・理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	30	提出物、その他							
受講上の注意・課題のフィードバック	・授業に臨む際、自分の意見をまとめてきてください。 ・わからない事があったら質問をしてください。									
使用テキスト	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房									
参考書	新版 教育課程カリキュラムマネジメント入門 大学図書出版 生徒指導提要（最新版）文部科学省/著 教育図書 「生徒指導入門～ブレない生徒指導の極意とは～」寺崎賢一（明治図書）									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	道徳・特別活動・総合的な学習の時間論 L32080			後期	講義	2		必修	
担当教員	奥井 現理								
授業の概要	道徳教育と特別活動とは、相互に補完しあいながら子どもの能力や資質を育んでいます。総合的な学習の時間をはじめとする他領域の教育活動との連携を視野にいれつつ、道徳の本質や道徳教育の目標といった内容から、特別活動の目標・実践にいたるまで、教育を広い視野で見通し、自らの教育者としての役割や使命を考えていく授業になります。								
到達目標	・学習指導要領の目標や内容をふまえたうえで、道徳の本質・道徳教育の歴史・道徳教育の課題・子どもの心身の発達及び道徳性の発達などの基礎的理解を得ることができる。 ・学習指導要領の目標や内容をふまえたうえで、特別活動の特質・内容・課題の基礎的な理解を得ることができる。 ・総合的な学習の時間との連携を視野に入れた特別の教科道徳・特別活動の教育活動を、授業をする者としての視点で構想することができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 特別の教科道徳とは（各教科等他領域との関連。総合的な学習の時間の内容も扱い、関連付ける） 2. 道徳教育の目標（道徳性） 3. 道徳教育の基礎理論（道徳の本質） 4. 道徳教育の基礎理論（道徳性、子どもの心身の発達をふまえた道徳性発達） 5. 道徳教育の基礎理論（実践を視野にいれた概念整理） 6. 道徳教育の実践（教育活動全体における道徳教育の役割をふまえて） 7. 道徳教育の実践（教育方法） 8. 道徳教育の実践（評価） 9. 特別活動の目標（総合的な学習の時間の内容も扱い、関連付ける） 10. 特別活動の目標（諸目標及び育成されるべき資質・能力） 11. 特別活動の理論・実践（教育活動全体における特別活動の役割をふまえて） 12. 特別活動の理論・実践（教育方法） 13. 特別活動の理論・実践（具体的な教育活動・指導） 14. 特別活動の理論・実践（家庭や地域・外部との連携） 15. 特別活動の評価（教職員間との連携、評価）								
事前・事後学習について	毎回、B5 もしくは B4 のワークシートを配布・返却します。適時的にもとめられる事前・事後学習があればそれに記します。それ以外は、返却されたワークシートをノートに貼り付け、思いついたことを書き込むという形で、事前・事後学習を行って下さい。また、知識ワークを毎回課しますので、その復習もいいでしょう。								
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	知識・理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。								
使用テキスト	小学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東山書房								
参考書	適宜指定します。								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	教育方法論Ⅰ（生活科学専攻） L32081			後期	演習	1		必修	
担当教員	中井 文彦・北原 幹久								
授業の概要	教育実習の意義と目標、児童生徒と相対する教師としての心構え、留意事項など、養護教諭としての基礎的な在り方、考え方を学びながら、学習指導案を作成し、保健授業を行う。								
到達目標	・教育実習に自信をもって取り組めるように、養護教諭としての、学習指導案作成、教材研究、板書計画、教材資料作りなどの方法を会得し、自ら推進していけるようになる。 ・教育実習における心構えや学校現場の在り方を総括的に理解する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 本講義のねらいと概要・教育実習の意義と目的 2. 教育方法の歴史的概観〈現代における教育方法〉 3. 授業と学力（日常生活に結び付いて力となるもの） 4. 学校における学習指導の理念とその方法・板書・話法などの技術 5. 小中学校における実際の授業参観の視点と授業記録のとり方 6. 学習指導の実際（授業参観） 7. 学習指導案の形式とその立案方法・教育機器の使い方 8. 学習指導案の立案と授業準備① 9. 学習指導案の立案と授業準備② 10. 保健・食育の模擬授業 11. 授業の評価と授業研究の進め方 12. 教育機器を活用した教材の作り方 13. 児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法 14. 教育方法と保健室経営 15. 教育実習に向けての準備と総括								
事前・事後学習について	・養護教諭になろうとする目標を明確にイメージして授業に臨む。 ・来年度の教育実習予定校（近隣校か母校）を想定しながら、小中の保健領域の指導内容を予習・復習する。 ・学習指導本時案を書きながら、模擬授業展開を構想する。 ・養護教諭を目指す中で、心構えやカウンセリング方法などを学ぶ。								
準備学習に必要な時間	・予習・復習に要する時間（1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	50	知識・理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	50	学習指導案作成・模擬授業・意見感想発表・提出物など						
受講上の注意・課題のフィードバック	・将来の養護教諭の姿をイメージして、授業に取り組んでください。								
使用テキスト	保健、保健体育教科書（小学校 3・4 年、小学校 5・6 年、中学校） 小学校学習指導要領解説 体育編（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房								
参考書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房 「教育方法論」 谷田貝公昭他編 一藝社								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	教育方法論Ⅱ L33082			前期	演習	1		選択	
担当教員	中井 文彦・安富 和子								
授業の概要	様々な教育方法を理解しながら、教材研究・児童生徒研究を基に、学習指導案を作成し、保健学習の在り方を追究して、一人一人、模擬授業を公開する。合わせて授業研究会を行う。								
到達目標	養護教諭としての教育実習を体験しながら、児童生徒の実態に添って学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して、教育の方法、教育の技術、情報教育機器及び教材の活用に関する基礎的な知識や技能を身に付ける。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 本講義のねらいと概要・教育実習と養護教諭の学習指導（保健学習） 2. 教材研究のあり方①（学習指導要領と指導計画） 3. 教材研究のあり方②（教科書・板書・資料作成・学習カードの作成） 4. 教育機器・情報機器を活用した教材の作り方 5. 模擬授業・授業研究会①小学校低学年：食事と栄養、食育 6. 模擬授業・授業研究会②小学校低学年：歯科保健 7. 模擬授業・授業研究会③小学校高学年：食事と栄養、食育 8. 模擬授業・授業研究会④小学校高学年：歯科保健 9. 模擬授業・授業研究会⑤小学校高学年：性教育 10. 模擬授業・授業研究会⑥中学校：食事と栄養、食育 11. 模擬授業・授業研究会⑦中学校：歯科保健 12. 模擬授業・授業研究会⑧中学校：性教育 13. 模擬授業・授業研究会⑨まとめ 14. T T指導と授業評価 15. 養護教諭になるための心構えと夢								
事前・事後学習について	・教育実習の経験を生かし、体育・保健体育・特別活動での学習指導案の作成と模擬授業、授業研究会を通して、保健指導、保健学習における養護教諭の指導のあり方について学習します。 事前に、児童生徒の前に立つ、自分の姿を思い浮かべながら、授業を構想すること。 ・事後に、自分が養護教諭になったときを想定し、保健業務体系を整理し、認識し、即戦力を磨いていくこと。								
準備学習に必要な時間	校種や学年に応じた子どもたちの実態について考え、指導案の作成、指導教材の作成など模擬授業の準備を行う。（1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	75	学習指導案作成・模擬授業の実際						
	レポート	0							
	その他	25	模擬授業準備と授業研究会の発言内容 等						
受講上の注意・課題のフィードバック	模擬授業の事前の準備をしっかりと行う。模擬授業を受ける（参加する）場合は授業のいいところと改善したいところを見極め、自分の授業に生かしていく。								
使用テキスト	保健、保健体育教科書（小学校 3・4 年、小学校 5・6 年、中学校） 小学校学習指導要領解説 体育編（平成 2 9 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 2 9 年告示）文部科学省/著 東山書房								
参考書	小学校学習指導要領（平成 2 9 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成 2 9 年告示）文部科学省/著 東山書房								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教育相談 L32083			後期	講義	2	必修		
担当教員	坂上 ちおり								
授業の概要	教員の行う教育相談活動、学校不適応や子どもにまつわる今日的な課題の現状、そして教育相談を行う際の臨床心理学の基本的な知識について学びます。								
到達目標	・教育相談活動について理解し、多職種の連携のもと支援計画を立てることができる。 ・学校不適応や子どもにまつわる現代的な課題の現状を理解し支援計画を立てることができる。さらにその支援計画について担任や保護者に説明することができる。 ・学校職員として子どもの支援に関わる際の心理臨床的な方法を身に着ける。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. オリエンテーション 2. 校務分掌における教育相談の位置付け・スクールカウンセラーの職務 3. スクールカウンセラーとの学内における連携 4. 心理臨床の基本的な考え方 5. 面接の進め方 6. 学校場面で活かすカウンセリングの基本技術 7. 学校不適応の現状と支援① 暴力・不登校・いじめ・学級崩壊 8. 学校不適応の現状と支援② 精神疾患・人格障害・性・児童虐待 9. 発達障害のある児童生徒の学内場面における困り感とその支援 10. 発達障害のある人の幼少期と青年期以降の発達 11. 学校外の関係機関との連携・緊急支援 12. ストレスマネジメント・うつおよび自殺と自傷行為 13. 架空事例のアセスメントと支援計画の立て方 14. エンカウンター・子どもと関わる際の小道具 15. コラージュ								
事前・事後学習について	事前学習：本講義内で伝えられることはあくまでも教育相談における基本的な知識・考え方だけです。この基本的な知識・考え方を組みたて、子どもの支援について方針を立てていく力を身につけていくためには、講義以外の様々な経験を積み想像力を働かせていく必要があります。この力を日常で鍛えておいてください。特に、心動かされる沢山の経験を短大時代にしてほしいと思います。 事後学習：講義内で学んだ基本的な考え方を、保護者や担任に説明できるようにまとめておくことと良い。								
準備学習に必要な時間	各回で紹介する理論について、関連する資料等該当するところを読んでおくこと（各回 30 分程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	60	最終レポート：基本的知識の習得・アセスメント力						
	その他	40	リアクションペーパー：体験したことについて根拠に基づいた説明ができる						
受講上の注意・課題のフィードバック	リアクションペーパーについては、採点次第、授業内で返却をしています。その際、修正すべき点や加筆ポイントをアドバイスしています。提出済みのリアクションペーパーに加筆して、再提出した場合には加点して、返却します。 最終レポートについては、提出前の指導を複数回行います。								
使用テキスト	特になし								
参考書	小学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東山書房 生徒指導提要（改訂版）文部科学省/著 東洋館								

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	養護実習指導（1年）L32084			後期	講義・実習	1	必修			
担当教員	安富 和子									
授業の概要	養護実習の目的や目標を明らかにして、学校保健や養護教諭の職務・役割等について学習し理解する。養護実習の課題である保健指導や保健学習、保健だよりの作成について事前に学び合い、養護実習を迎えられるように準備する。 養護実習の心がまえは、「挨拶・笑顔・一生懸命さ・素直さ・はいの返事・ハウレンソウ（報告、連絡、相談）」の6つであるから、授業においてもこれを意識して臨む。 実務経験のある教員（養護教諭）による科目									
到達目標	養護実習を行うための事前の準備を充分に行い、実習がスムーズに迎えられるようにする。 実習校での保健の指導や全校の児童・生徒・職員の前での挨拶や指導は、言葉が明瞭であり事前の準備がしっかりできるように、授業の中ではできるだけ人前で発表する機会を多くする。保健だよりの作成方法を学び、それを生かした保健だよりを作ることができる。保健の指導や保健学習の方法を学び事前準備をすることができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○								
授業計画	1. 養護実習の意義と目的 夏休み中の学校訪問の報告 2. 保健だよりの発表と展示 3. 保健だよりの作成 パソコン室 ① 4. 保健だよりの作成パソコン室 ② 5. 保健だよりの発表と鑑賞 6. 養護実習の目標及び実施したい事項について考え発表する 7. 実習前の準備と実習の開始について 教科書 8. 保健指導の実際について先輩のビデオから学ぶ 9. 歯の構造と歯式、歯科指導内容についての説明 10. 歯科指導用 顎模型の作成① 11. 歯科指導用 顎模型の作成② 12. 歯磨き指導の実際と歯磨き指導の練習 13. 歯磨き指導の発表① 14. 歯磨き指導の発表② 保健の指導教材の学習 15. 実習初日の挨拶文の作成と発表									
事前・事後学習について	3週間の養護実習は不安に思う人も多いかと思いますので、先輩から養護実習の話を聞く機会を数回設けます。事前の準備が大変重要です。細かい指導が入りますが、前向きに真面目に取り組んで下さい。挨拶がしっかりでき、コミュニケーション能力があり、自己表現のできる力をこの授業の中でしっかりと付けて下さい。それが3週間の養護実習を成功させる大切な要素になってきます。実習では、「挨拶・笑顔・一生懸命さ・素直さ・はいの返事」にハウレンソウ（連絡・相談・報告）を日頃から心がけてください。また、実習についての悩み・相談は教員に気軽に声をかけてください。									
準備学習に必要な時間	必要な資料を配布しますので、ノートに貼ってきちんと管理し、実習の準備に生かせるようにする。 制作した教材を使って保健の指導をする場合は、練習を行い、スムーズに指導ができるようにしておく。 45 分									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	80	知識 ・ 表現力 ・ 保健だよりの作成・額模型の作成と歯科指導							
	レポート	10	実習への心構えと準備							
	その他	10	実習への意欲と態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	養護実習の目標を常に意識して学習を進めていく。 保健指導用教材作りは制作時間を十分にとって行うが、予定時間内に完成できない場合は、各自で完成させ提出する。 作品が計画された時間内に作れるように、事前の準備や使用器具等を忘れないようにする。 クラスメイトと協力して教材づくりが進めるように心がけるとともに、クラス内でのコミュニケーションを心がける。 養護実習に行くための事前準備の授業であるので、欠席した場合は必要に応じて補講を行うこともあります。									
使用テキスト	「養護実習ハンドブック」大谷尚子・中桐佐智子著 （東山書房） 「駒崎さんの保健だより」駒崎亜里（東山書房） 指導用額模型と歯ブラシは各自持ちとするため必要経費を集金します。									
参考書	その他必要な資料はその都度用意します。									

対象学生	生活科学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	養護実習指導（2 年）L32084			前期	講義・実習	1	必修		
担当教員	安富 和子								
授業の概要	養護実習の意義と心構えを学び、自分の養護実習の目標に沿って今まで学んできたことを、教育現場で養護教諭として生かしてみる。 養護実習の目的や目標を明らかにして、学校保健や養護教諭の職務・役割等を、学校現場での実際を通して学習し理解する。 実務経験のある教員（養護教諭）による科目								
到達目標	養護実習の事前準備がきちんとでき、実習に望むことができる。実習終了後は報告及びまとめがきちんとできる。（実習報告会・実習校への礼状・研究のまとめ・保健だよりの提出・実習日誌の提出等がきちんとできる。「挨拶・笑顔・一生懸命さ・素直さ・ハイの返事・報告、連絡、相談」の6つの実習の目標が達成できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 養護実習の意義と目標についての確認と実習日程の確認 事前訪問の確認と実習の事前準備 2. 養護実習の内容と方法についての事前指導 3. 養護実習の内容と方法についての事前指導 4. 学校教育計画と保健室経営計画学校組織についての理解 保健の指導及び保健学習の準備 実習報告のプレゼンについて 5. 学校教育現場における保健室の役割についての理解 6. 保健室整備・備品 保健室来室者の対応の練習 病気・怪我 ① 7. 保健室整備・備品 保健室来室者の対応の練習 病気・怪我 ② 8. 実習の事前準備 持ち物チェック 最終チェック① 9. 実習の準備 最終チェック② 10. 実習報告会① パワーポイントを使つての発表 11. 実習報告会② パワーポイントを使つての発表 12. 実習報告会③ パワーポイントを使つての発表 13. 実習報告会④ パワーポイントを使つての発表 14. 実習報告会⑤ パワーポイントを使つての発表 15. 保健だより集・保健指導案集の発行と養護実習のまとめの会								
事前・事後学習に ついて	5 月になると養護実習がスタートします。もう一度 1 年後期に学習した実習ノートを見て振り返り、復習してください。実習が終わるとそれぞれ実習について 1 人 15 分で報告会を行います。自分の反省や感想をまとめ振り返ることで、養護教諭としての自分の適性について考えてください。実習校への礼状は 1 週間以内に書き感謝の気持ちを伝える等実習後の各種報告書の提出をしてください。								
準備学習に 必要な時間	1 年後期に学んだ実習の準備事項について復習し養護実習がスムーズにできるように準備する。 30 分								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	50	表現力・判断力 実習報告						
	レポート	40	知識・思考力・判断力 ・保健だより・日誌の提出・指導案の提出・報告書の提出						
	その他	10	実習に取り組む姿勢・実習後の報告 ・積極性						
受講上の注意・課題 のフィードバック	実習の事前準備をしっかり行い養護実習を迎えられるようにする。実習の二つの課題①保健だよりの作成②保健学習また保健の指導の実施に向けて積極的に取り組むために、保健の指導の練習や教材作りの準備をしっかりと行う。実習の課題に沿って計画的に学習を進め、新聞等に目を通し、社会情勢や現代的な健康課題について常に情報を得ていく。 提出レポートについては、添削して返却します。								
使用テキスト	「養護実習ハンドブック」大谷尚子・中桐佐智子（東山書房） 「コマザキ先生のほけんだより」駒崎亜里（東山書房） 保健の授業づくり戸部秀之・齋藤久美著（少年写真新聞社）								
参考書	その都度用意します								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	養護実習 L33085			通年	実習	3	必修		
担当教員	安富 和子								
授業の概要	3週間の教育実習を通して、学校保健や養護教諭の職務の実際を理解し、養護教諭の実践力を身に付ける。 実務経験（現場の教員等）のある教員の科目。								
到達目標	実習校での大切にしたい実習態度として、「挨拶・笑顔・一生懸命さ・素直さ・ハイの返事・報告・連絡、相談、」の6つが必ず達成できること。また実習を通して養護教諭として自分の適性について見つめる機会とする。児童、生徒、先生方との人間関係を深め養護教諭としてコミュニケーションを図ることができるようになる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1. 3週間の養護実習は小学校・中学校・高校のいずれかの学校を決定し、指導校の方針に基づき実習を行うものとする。 2. 養護実習は、学内において学んだ事柄を具体的な教育の場面において検証していくことができる。また学校現場において今、抱えている問題や課題を直に感じ取り、理解することができる。そしてそのような学校現場で体験した事柄を、大学に戻ってから新たな問題意識によって捉えなおし整理していくなかで、先に学んでいた事柄の整理をさらに深めたり改変させたりして、発展させていくことができるものである。 3. 養護実習の目標 ①学校（教育）現場の実態を知る ②学んだ事柄を試みる ③現場実践に関する研究を行う ④望ましい養護教諭像を描き自らの特性（適正）を知る 内容 学校教育計画と学校組織についての理解 学校教育現場における保健室の役割についての理解 養護教諭の執務計画 保健室の計画経営・一日の保健室経営 保健室整備・備品 健康管理体制の理解 保健室来室者への対応スキル 保健指導の実践方法 健康教育の実践方法 ヘルスプロモーションについて概念理解と実践との関連性 実習のまとめと記録 自己評価・研究								
事前・事後学習について	養護実習指導の時間に実習の目標を立て、保健だよりの作成等についての事前学習をしっかりとて来ました。今まで短大で学んできたことを3週間の実習で生かし、児童・生徒、職員としっかりと触れ合い、思い出に残る実習にしてください。先輩たちも始めは緊張して大変だったようですが、実習が終わる頃には、子ども達や先生方にもすっかり慣れ、別れが辛くなるほど思い出に残る実習を体験してきます。きっと皆さんも養護実習が人生の宝物になることと思います。頑張ってください。								
準備学習に必要な時間	授業の復習を行い、養護実習の課題に沿って保健指導や保健学習の指導案作成と指導教材の製作とを行う。 また、保健だより発行の練習も行う。けがや病気の子どもたちの対応について、教科書で学び実習中に実践できるようにする。60分								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	97	実習校の校長及び担当教諭、養護教諭の評価による						
	レポート	0							
	その他	3	実習への意欲と態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	「えがお・よりそう・ともに・つながる・まなぶ」という長野県が求める養護教諭像を意識して受講する。								
使用テキスト	「養護実習ハンドブック」 大谷尚子・中桐佐智子著 （東山書房）								
参考書	その都度資料を用意します								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教職実践演習（養護教諭） L34086			後期	演習	2	必修		
担当教員	奥井 現理・澤田 有香								
授業の概要	養護教育養成課程における二年間の学びを統合するための科目です。毎回課題が提示され、それに取り組むことを通して、自分の学んできたこと、他の学習者が学んできたこと、新しく学んだことなど、多くの学びを統合してゆきます。								
到達目標	実践的な内容に関する研究活動を通して、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけることができる。グループによる活動やペアワーク等を通して、教員にふさわしい社会性や対人関係能力を身につけることができる。事例研究・場面指導・模擬授業等を通して、各人が身につけてきた養護教諭としての実践的な知識や技能を統合することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4					
		○							
授業計画	1.「コミュニケーションを高めるために―児童生徒と養護教諭」ロールプレイングを通して、児童生徒と養護教諭の気持ちを体験・理解します。 2.「コミュニケーション力を高めるために―保護者と養護教諭(1)」ロールプレイングを通して、保護者と養護教諭の気持ちを体験・理解します。 3.「コミュニケーション力を高めるために―保護者と養護教諭(2)」ロールプレイングを通して、保護者と養護教諭の気持ちを体験・理解します。 4.「学校保健計画を作成・提案しよう (1)」学校保健計画を立案します。 5.「学校保健計画を作成・提案しよう (2)」学校保健計画を発表します。 6.「保健室を設計・発表しよう (1)」集団で保健室を設計・発表します。 7.「保健室を設計・発表しよう (2)」集団で設計した保健室を製作します。 8.「保健室を設計・発表しよう (3)」集団で保健室を製作し、発表に向けた準備を行います。 9.「保健室を設計・発表しよう (4)」集団で保健室を製作し、発表に向けた準備を行います。 10.「保健室を設計・発表しよう (5)」集団で保健室を発表・見学します。 11.「保健室を設計・発表しよう (6)」集団で保健室を発表・見学します。 12.「保健学習計画を立案・発表しよう (1)」系統的な保健学習計画を研究立案します。 13.「保健学習計画を立案・発表しよう (2)」系統的な保健学習計画を研究立案します。 14.「保健学習計画を立案・発表しよう (3)」系統的な保健学習計画の研究・立案、発表の準備を行います。 15.「保健学習計画を立案・発表しよう (4)」保健学習計画の発表・聴講・質疑応答を行います。 このほか、卒業研究発表会で6-11回の成果を発表します（この活動の評価も評価に含まれます）。								
事前・事後学習について	特別の予習は必要ありません。復習として、ポートフォリオの作成、提出を原則として毎回求めます。ポートフォリオにするためのノートは、通常の大学ノート（B5 版）よりも、ワンサイズ大きい A4 版が望ましいです。 これまでの学習物（授業や実習で作成した指導案、レポート、作品その他）をなくさないように、保管しておいてください。 ポートフォリオ作成のために、糊とハサミが必要になります。糊は、テープ糊だと学習物が歪まず、かつ手軽なので、とてもおすすめです。								
準備学習に必要な時間	必要に応じ 90 分程度までを目安に、折に触れてノートを見返し、思いついたことや今後必要となっていることを書き足しましょう。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	100	原則としてポートフォリオ評価 40%（理解、思考、判断等）、パフォーマンス 60%（理解、思考、判断、技能、意欲、態度等）です。						
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。								
使用テキスト	印刷物を配布します。大学ノート（A4 版が望ましい）を各自用意してください。								
参考書	小学校学習指導要領解説 体育編（最新版）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領解説 保健体育編（最新版）文部科学省/著 東山書房 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（最新版）文部科学省/著 東山書房 教師のためのモンスターペアレント対応 55 諏訪耕一編著 黎明書房								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	卒業制作Ⅰ L24090			後期	実習	1			
担当教員	田中 洋江・前澤 純子								
授業の概要	2年間の学びの集大成として卒業制作に取り組み、展覧会で発表する。								
到達目標	計画的に制作し、作品を完成させることができる。 各自テーマを追求し、素材や技法を活かした表現ができる。 展覧会の運営方法や、作品発表の意義を理解できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4					
				○					
授業計画	染め、織り、フェルト、ファッション、テキスタイルアートの中から1分野選択し、制作する。 （デザイン系学生は、卒業制作Ⅰ、卒業制作Ⅱの両方を履修することが望ましい。その場合、2分野を履修する。） 内容や進め方は、担当教員と相談しながら決定する。 各分野の担当教員 染め、織り、フェルト、テキスタイルアート： 田中 ファッション： 前澤 作品は「卒業制作展」で発表。そのための展覧会運営も学ぶ。 6月頃にミーティングを行い、詳細を説明する。								
事前・事後学習について	大きな作品を制作することになるので、時間が足りなくならないよう、計画的に進めましょう。 制作の進み具合をこまめに指導教員へ報告し、指導を受けてください。								
準備学習に必要な時間	納得いくまで準備時間をつくってください。 アイディアはクロッキー帳などに描きとめる癖をつけましょう。 参考資料は紙媒体をスクラップすることが望ましいです（一覧できるため）。 曖昧にせず、図書館などでよく調べてください。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	作品						
	レポート	0							
	その他	20	制作や展覧会運営にかかわる姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 卒業制作展（学内展、学外展）を行います。								
使用テキスト	各指導教員から資料の提示、プリントが配布されます。								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	卒業制作Ⅱ L24091			後期	実習	1			
担当教員	田中 洋江・前澤 純子								
授業の概要	2年間の学びの集大成として卒業制作に取り組み、展覧会で発表する。								
到達目標	計画的に制作し、作品を完成させることができる。 各自テーマを追求し、素材や技法を活かした表現ができる。 展覧会の運営方法や、作品発表の意義を理解できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4					
				○					
授業計画	染め、織り、フェルト、ファッション、テキスタイルアートの中から1分野選択し、制作する。 （デザイン系学生は、卒業制作Ⅰ、卒業制作Ⅱの両方を履修することが望ましい。その場合、2分野を履修する。） 内容や進め方は、担当教員と相談しながら決定する。 各分野の担当教員 染め、織り、フェルト、テキスタイルアート： 田中 ファッション： 前澤 作品は「卒業制作展」で発表。そのための展覧会運営も学ぶ。 6月頃にミーティングを行い、詳細を説明する。								
事前・事後学習について	大きな作品を制作することになるので、時間が足りなくならないよう、計画的に進めましょう。 制作の進み具合をこまめに指導教員へ報告し、指導を受けてください。								
準備学習に必要な時間	納得いくまで準備時間をつくってください。 アイディアはクロッキー帳などに描きとめる癖をつけましょう。 参考資料は紙媒体をスクラップすることが望ましいです（一覧できるため）。 曖昧にせず、図書館などでよく調べてください。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	作品						
	レポート	0							
	その他	20	制作や展覧会運営にかかわる姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	講評を行います。 卒業制作展（学内展、学外展）を行います。								
使用テキスト	各指導教員から資料の提示、プリントが配布されます。								
参考書	適宜紹介								

対象学生	生活科学学科 1			開講学期	授業形態		単位数		教員免許資格の有無		
科目名	ゼミナールⅠ（生活科学学科） L11087			通年	演習		1				
担当教員	担当教員										
授業の概要	学科の教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、学生が選択し受講します。専門分野を深めたい、専門以外の分野も体験してみたい・・・など自分の学びや興味を広げるチャンスです。少人数制で行われ、専攻をこえて学べるのもメリットの1つです。ゼミナールの学びが卒業研究へと発展することもあります。										
到達目標	自分の学びや興味を広げる。または、専門分野を深める。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4							
	○										
授業計画	各教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、年間 15 回実施します。 （テーマ例） 映画で時事対策 映画で学ぶ発達心理学 Choice Theory を学ぼう フェルト ～絵本の世界を作る～ 飯田市の社会教育資源から学ぶ 補食について考える 味覚の科学 食品について学ぼう！ コロナ禍および災害時の行動を考えよう ～運動（ウォーキングを含む）とパッキング～ おやきを作る										
事前・事後学習について	事前学習：各回の実施内容を把握しておく。 事後学習：学習した内容について、各自で復習する。										
準備学習に必要な時間	授業内で配布するプリントを事後学習として解いてください（毎回 1 時間程度）。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	0									
	実践	0									
	レポート	0									
	その他	100									
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。										
使用テキスト	各教員の指示に従う。										
参考書	適宜指示する。										

対象学生	生活科学学科 2			開講学期	授業形態		単位数		教員免許資格の有無		
科目名	ゼミナールⅡ（生活科学学科） L13088			通年	演習		1				
担当教員	担当教員										
授業の概要	学科の教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、学生が選択し受講します。専門分野を深めたい、専門以外の分野も体験してみたい・・・など自分の学びや興味を広げるチャンスです。少人数制で行われ、専攻をこえて学べるのもメリットの1つです。ゼミナールの学びが卒業研究へと発展することもあります。										
到達目標	自分の学びや興味を広げる。または、専門分野を深める。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4							
	○										
授業計画	各教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、年間 15 回実施します。 （テーマ例） 映画で時事対策 映画で学ぶ発達心理学 Choice Theory を学ぼう フェルト ～絵本の世界を作る～ 飯田市探索～飯田市の社会教育資源に触れる～ 補食について考える 味覚の科学 食品について学ぼう！ コロナ禍および災害時の行動を考えよう ～運動（ウォーキングを含む）とバッククッキング～ おやきを作る										
事前・事後学習について	事前学習：各回の実施内容を把握しておく。 事後学習：学習した内容について、各自で復習する。										
準備学習に必要な時間	授業内で配布するプリントを事後学習として解いてください（毎回 1 時間程度）。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	0									
	実践	0									
	レポート	0									
	その他	100									
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。										
使用テキスト	各教員の指示に従う。										
参考書	適宜指示する。										

対象学生	生活科学学科 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	卒業研究（生活科学専攻・食物栄養専攻） L53089			後期	演習	2				
担当教員	担当教員									
授業の概要	生活科学専攻又は食物栄養専攻の学修成果をもとに自らの研究テーマを明確にし、そのテーマに対して、適切な方法（文献研究・調査・実験など）の学修をもとに自らの研究テーマにある課題に対する結論を導き出す、一連の過程を学びます。									
到達目標	・研究テーマを明確にできる。 ・研究テーマを解決するうえで適切な方法（文献研究・調査・実験など）を用いて課題解決ができる。 ・結論に至る経過や、考察の根拠を明瞭且つ論理的に述べることができる。 ・論文の体裁を整え、卒業研究発表会で発表することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4						
		○	○							
授業計画	【卒業研究の流れ】 履修登録変更期間内に履修登録を行う。 （5月中旬） 「卒業研究申込書」を教務課へ提出 （12月初旬）「卒業研究題目提出書」を教務課へ提出 （1月初旬） 「卒業研究提出票」「卒業研究」を教務課へ提出 【卒業研究の授業計画例】 ・卒業研究の進め方（スケジュールの確認） ・研究テーマの設定・課題の設定 ・先行研究のまとめ ・方法（文献研究・調査・実験など）の設定 ・研究・中間報告 ・卒業研究要旨の作成 ・発表用 Power point の作成 ・卒業研究発表・リハーサル ※担当指導教員の指導方法により授業計画の内容が異なります。									
事前・事後学習について	・自らの設定したテーマについて、常日頃から情報を収集する視点を持ちましょう。 ・指導教員と連絡を取り合い、率先して卒業研究に向き合いましょう。									
準備学習に必要な時間	自らのテーマの課題解決に要する準備学修時間：概ね 1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	先行文献の検索及びそのまとめ、卒業研究発表での発表							
	レポート	50	論文としての体裁及びその内容、判断力・思考力							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	・自らスケジュールを決め、課題解決に向けて計画的に学修をすすめていきましょう。 ・分からないことなどは、早め早めに担当教員に確認しましょう。									
使用テキスト	適宜指示する									
参考書	適宜指示する									

3. 介護福祉専攻

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	人間の尊厳と自立 C11001			前期	講義	2				
担当教員	矢澤 敦子									
授業の概要	人間を多面的に理解することを基礎とし、尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎を学習します。また、尊厳の保持と自立支援が、人の幸せに深く関わっていることを学びます。									
到達目標	・人間の尊厳とは何かを理解できる。 ・尊厳を保持し、自立（自律）した生活を支えることの必要性を理解することができる。 ・自立（自律）について理解し、自立支援とは何かを自分の言葉で表現することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○		○	○				
授業計画	1. 人間の尊厳という理念 2. 人権思想の潮流 3. 人権や尊厳に関する日本の諸規定 4. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷① 5. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷② 6. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷③ 7. QOL という考え方 8. 人権尊重と権利擁護 9. 自立の概念① 10. 自立の概念② 11. 介護を必要とする人の自立と自立支援① 12. 介護を必要とする人の自立と自立支援② 13. 尊厳を守る介護① 14. 尊厳を守る介護② 15. 利用者の自立支援を考える									
事前・事後学習について	授業中にその都度課題を出します。指定した期日までに提出してください。 また、毎回その日の授業内容に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。 授業終了時に「チャレンジ 100」を配布します。									
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習（30分程度） 毎回配布される「チャレンジ 100」を次の授業までに行う。（20分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	人間の尊厳と自立についての理解							
	実践	0								
	レポート	20	授業中の課題・「調べ学習」							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業中に出てくるキーワードや重要事項は、授業終了時に配布される「チャレンジ 100」に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共に行いましょう。国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。指示に従って綴っておきましょう。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	人間関係とコミュニケーション C11002			前期	講義	2				
担当教員	矢澤 敦子									
授業の概要	授業を通じてコミュニケーションの基本を体験し、自己理解を深めます。自分のコミュニケーションの特性や他者から見た自分を理解し、人間関係を広げるためのコミュニケーションについて、演習を行いながら理解します。									
到達目標	・自分のコミュニケーション傾向を知ることができる。 ・他者を理解するために必要な態度を理解することができる。 ・人間関係の形成のためのコミュニケーション能力を習得することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○	○				
授業計画	1. 対人関係におけるコミュニケーション コミュニケーションの基本構造を学ぶ。 2. コミュニケーションの手段 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて学ぶ。 3. 人間と人間関係 人間関係の形成とコミュニケーションについて学ぶ。 4. 自分を知る① 自分のコミュニケーションの傾向を知る。 5. 自分を知る② 演習を通して自分の感情を意識する。 6. 人間関係形成のために必要なこと 他者に自分を適切に自己開示することを考える。 7. 他者を理解するために 価値観の違いを体験する。 8. 人間の発達段階からみた人間関係 人間の段階的な発達に応じたコミュニケーションを学ぶ。 9. 社会心理学から見た人間関係 対人認知と集団でのかかわりについて学ぶ。 10. 人間関係とストレス ストレスについて知り、ストレス対処行動を考える。 11. 対人援助関係とコミュニケーション 相手を尊重しながら、自分の意見を伝える体験をする。 12. 対人援助における基本的態度 受容、共感、傾聴について学ぶ。 13. 援助的人間関係の形成とバイステックの 7 原則 援助者として必要な態度をバイステックの 7 原則を通して理解する。 14. 組織の条件としてのコミュニケーションの特徴 組織とは何かを知り、組織における情報の流れ学ぶ。 15. 組織において求められるコミュニケーション 組織においての情報の流れの重要性を学ぶ。									
事前・事後学習について	毎回その日の授業内容に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。授業終了時に「チャレンジ 100」を配布します。答え合わせ、解説も行いますので、毎回見直しましょう。									
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習をしましょう。（20分程度） 授業で配布するワークシートを復習し、「チャレンジ 100」を行い提出してください。（30分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	自己および他者理解と、人間関係の形成のために必要なコミュニケーション能力について							
	実践	10	演習への取り組み							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	演習を交えて授業をします。演習への取り組みも評価します。国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ 100」の解説までしっかり聞き、間違えたところは復習しましょう。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第 2 版」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第 2 版」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	チームマネジメント C14003			後期	講義	2				
担当教員	矢澤 敦子									
授業の概要	介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を学びます。また、演習を交えながら、チームで働くために必要な能力を理解します。									
到達目標	・介護実践におけるチームマネジメントの意義を理解することができる。 ・介護サービスを支える組織について理解することができる。 ・チームの一員として、自分が働く姿をイメージすることができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○	○				
授業計画	1. 介護実践におけるチームマネジメント① ヒューマンサービスである介護サービスと他のサービスとの違いについて学ぶ。 2. 介護実践におけるチームマネジメント② なぜ介護現場でチームマネジメントが求められるのか、その理由について考える。 3. 介護実践におけるチームマネジメント③ チームマネジメントの取り組みについて学ぶ。 4. 介護実践におけるチームマネジメント④ 演習を通して、介護サービスの特性とチームのあり方について考える。 5. ケアを展開するためのチームマネジメント① ケアを展開するために必要なチームについて学ぶ。 6. ケアを展開するためのチームマネジメント② チームにおける情報共有について学ぶ。 7. ケアを展開するためのチームマネジメント③ 演習を通して、情報共有のあり方について具体的にイメージする。 8. ケアを展開するためのチームマネジメント④ チームの力を発揮するためのマネジメントについて学ぶ。 9. ケアを展開するためのチームマネジメント⑤ 演習を通して、リーダーシップとフォロワーシップのバランスについて考える。 10. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント① キャリアに応じた実践力について学ぶ。 11. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント② 介護福祉職としてのキャリアデザインについて学ぶ。 12. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③ 介護福祉職のキャリア支援・開発について学ぶ。 13. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④ 演習を通して、働き始めた自分の姿をイメージし介護観を深める。 14. 組織の目標達成のためのチームマネジメント① 介護サービスを支える組織について学ぶ。 15. 組織の目標達成のためのチームマネジメント② 法令遵守（コンプライアンス）について学ぶと同時に、介護現場で求められる人材について考える。									
事前・事後学習について	毎回その日の授業内容に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。授業終了時に「チャレンジ100」を配布します。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページに目を通してください。（30 分程度） 授業で配布するワークシートを復習し、「チャレンジ100」を行い提出してください。（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴と、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎について							
	実践	10	演習への取り組み							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	講義だけでなく演習を交えて授業をします。演習への取り組みも評価します。 「チャレンジ100」は、毎回答え合わせ、解説をします。間違えたところは復習をしましょう。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	社会の理解 I C13004			前期	講義	2			
担当教員	太和田 雅美								
授業の概要	介護保険制度の基本的なしくみや運用、サービスの種類について理解できるようにします。また、介護保険制度創設の背景と目的、制度の体系や動向についても学びます。日常生活に密接に関わるこの制度が、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、自立生活を支援するために必要な社会的制度であることを理解します。さらに、社会保障制度についての基本的な考え方、歴史と変遷についても理解します。								
到達目標	・介護保険制度の基本的な仕組み、サービスの種類が理解できる。 ・介護保険制度の関連機関の役割を理解することができる。 ・社会保障の基本の考え方としくみ、発達が理解できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
	○		○	○					
授業計画	1. 介護保険の基本① 制度の対象・用語の理解・保険者と被保険者の資格要件と保険料徴収 2. 介護保険の基本② 保険給付の対象者と種類・利用者負担・介護保険制度のサービスの利用までの流れ 3. 介護保険制度のサービス種類・内容の理解① 施設サービスの理解 4. 介護保険制度のサービス種類・内容の理解② 居宅サービスの理解 5. 介護保険制度のサービス種類・内容の理解③ 地域密着型サービスの理解 6. 制度の概要と体系化した流れ 7. 地域支援事業、地域包括ケアシステムの実現に向けて 8. 介護保険制度における国、都道府県、市町村、団体の役割 9. 介護保険制度の改正の方向性 10. 介護保険制度創設の背景と目的 11. 介護保険制度のまとめ 12. 社会保障制度の基本的な考え方 役割と意義・機能・目的 13. 社会保障制度の発達 戦後から昭和 30 年代 14. 社会保障制度の発達 昭和 40 年代から現代まで 15. 日本の社会保障制度のしくみ 保険と扶助、給付や負担の方法								
事前・事後学習について	介護福祉を学ぶ中では介護保険制度のしくみや内容がわからないと理解できないことが多くあります。また、介護保険制度も含めて社会保障制度は社会でも注目されている問題ですので関心を持つことも事前学習になります。事後学習としては、国家試験に直結する科目になります。制度の内容をわかりやすくノートをまとめてください。								
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 200〉をやっておくこと(30 分程度)								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	100	介護保険制度の基本的な仕組み・介護サービスの種類の理解、社会保障制度の基本と発達の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	新聞・ニュースに度々取り上げられるので、見ておくこと。 チャレンジは知識の積み重ねになります。理解できるようにきちんとやっておきましょう。チャレンジ 200 を採点して返却します。 授業は理解できたことの積み重ねになっていきます。わからないことは、早めに解決しておきましょう。								
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	社会の理解Ⅱ C14005			後期	講義	2				
担当教員	稲垣 みき									
授業の概要	社会保障の具体的な体系としくみや、介護実践に関連する諸制度の基礎的知識について理解をします。社会生活での基本的な営みに必要な制度を知り、福祉制度の基本を理解できるようにします。また、家族、地域の単位で人間を捉える視点を養い地域共生社会の実現について理解します。また、介護福祉士として適切な支援を行うために制度を活用できる能力を養います。									
到達目標	・ 社会保障の基本的な考え方を理解できる。 ・ 介護実践に必要な諸制度の基本的な仕組みを理解できる。 ・ 人間の生活と地域・社会との関わりが理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
			○	○	○					
授業計画	1. 社会保障制度の仕組み 年金保険 2. 社会保障制度の仕組み 医療保険 3. 社会保障制度の仕組み 雇用・労災保険 4. 各種社会扶助の概要 5. 現代社会と社会保障制度 現代社会の人口動態と社会保障費などについて 6. 個人の権利を守る制度・施策 成年後見制度など 7. 個人の権利を守る制度・施策 日常生活自立支援事業 8. 個人の権利を守る制度・施策 虐待防止や消費者保護やその他の制度 9. 保健医療に関する制度・施策 健康や公衆衛生についての施策について 10. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 生活保護制度について 11. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 生活困窮者自立支援法・他について 12. 地域生活を支援する制度・施策 就労支援・その他の制度 13. 社会と生活の仕組み 家族の機能と役割 14. 社会と生活の仕組み 地域・地域社会における生活支援 15. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策									
事前・事後学習について	社会保障制度の具体的な年金や医療保険等、学ぶ上では大切な基盤になりますので、新聞・ニュースなどに関心を持っていると理解がスムーズです。私達の生活や地域社会がどのように構成されているか、ニュースなどに関心を持ってもらって理解しやすいです。事前学習としてそうした新聞などやテキストには目を通して来て下さい。事後学習としては授業で配布するワークシートの復習をしてください。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 200〉を授業内でやり切れなかった場合やっておくこと(15 分程度)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	家族・地域の機能・社会保障制度、介護実践に関する制度の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	新聞・ニュースに度々取り上げられるので、見ておくこと。 毎回のチャレンジは知識の積み重ねになります。理解できるようにきちんとやっておきましょう。授業は理解できたことの積み重ねになっていきます。早めに理解できないことは解決しましょう。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	臨床栄養実習 C12006			後期	実習	1				
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	福祉施設入所者や在宅ケアにおいて、高齢者が安全でおいしく食事をするための理論を学び、適切な食品を選択し食事をつくるための手法を学ぶ。また、実習を通して高齢期における疾病・症状（糖尿病・高血圧症・嚥下困難）に対応した食事づくりの基礎を習得する。									
到達目標	・ 高齢者がより高いＱＯＬを目指し、安全でおいしく食べられる食事を理解する。 ・ 疾病・症状（糖尿病・高血圧症・嚥下困難）に対応した食事を理解し、調理することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
			○	○						
授業計画	1. 高齢者の食事介護について 高齢者の精神・身体機能の特徴を理解し、食事改善の重要性を理解する 2. 味付けご飯の炊き方と調味割合、だし汁のとり方、ほうれん草のゆで方を理解する かやくご飯、豆腐の味噌汁、ほうれん草のごま和え 3. 麺類の種類と扱い方を理解する 魚の味噌煮、白あえの作り方を習得する 五目うどん、サバの味噌煮、白あえ 4. 軟菜食に向く食品と調理法を理解する 全がゆ、空也蒸し、かぼちのそぼろあんかけ 5. すし飯の作り方を習得する サバ寿司、けんちん汁、抹茶ミルクゼリー 6. 天ぷらの作り方を習得する 天ぷら、じゃがいもとわかめの味噌汁、おろし和え 7. 煮物の作り方を理解する 雑炊、魚の照り焼き、炊き合わせ、きゅうりとわかめの酢の物 8. 高齢者に好まれる西洋料理を理解する グラタン、サーモンのマリネ 他 9. 高血圧症の食事を理解する 塩分 6g 以下の食事 10. 糖尿病の人の食事を理解する 1,600kcal の食事 11. 中等度口腔障害食を学ぶ 全粥、味噌汁とろみ付き、まぐろ月見風、かぼちマッシュ 他 12. 高齢者向きのおやつ さつまいもの茶巾しぼり、クレープ、豆腐白玉のこしあんかけ、煎茶 13. 高齢者ソフト食 変りのり巻き、かぼちのがんも、りんごのコンポート 14. 咀嚼・嚥下障害がある人の食事を学ぶ 小田巻き蒸し、ほたてと鮭の寒天寄せ、スイートポテト 15. 行事食（雛祭り） ひな祭り寿司、蛤の潮汁、菜の花のおひたし、いちご									
事前・事後学習について	事前学習：事前に配布する資料を、手順を考え実習計画表に書いて実習 2 日前までに提出する（グループで 1 部）。 事後学習：実習した料理は、毎日の食生活の中で実践することで習得して下さい。									
準備学習に必要な時間	前の週に配布したレシピをみて、作業手順を考え計画表に記載してください。（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	30	実習における意欲・態度・技能・思考力・判断力・協調性							
	レポート	35	知識・理解							
	その他	35	各回の提出物による知識・理解							
受講上の注意・課題のフィードバック	提出された実習計画表は、確認して返却します。 味の評価表には目を通し、反省箇所など、次回の初めにコメントします。									
使用テキスト	毎回、資料を配布します。									
参考書	「嚥下障害食のつくりかた」藤谷順子、金谷節子、林静子(著) 日本医療企画									

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護予防論 C14007			後期	講義	2				
担当教員	太和田 雅美・村山 真紀子									
授業の概要	介護予防とは何か、一次予防・二次予防の視点・重度化予防の視点の理解を深めます。運動機能向上のため、マシンを使い具体的な実践を体験します。 介護現場で実際に行われている事例を参考にして、安全で楽しく、より効果的なアクティビティのプログラムが実践できるようその方法を学びます。									
到達目標	・介護予防について基礎的な知識を理解することができる。 ・介護予防における筋力トレーニングの必要性を理解することができる。 ・集団でのアクティビティサービスの計画と実践・評価ができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
				○	○					
授業計画	1. 自立支援と介護予防① 介護予防とは何か、介護予防の目的と必要性を学ぶ 2. 自立支援と介護予防② 介護予防の種類とその展開について学ぶ 3. 自立支援と介護予防③ 高齢者の身体的特徴と介護予防のプログラムについて学ぶ 4. 介護予防プログラムの実際① 体力測定と運動機能検査を体験する 5. 介護予防プログラムの実際② ストレッチの方法について学ぶ 6. 介護予防プログラムの実際③ 高齢者に向けたマシーントレーニングを学ぶ 7. 介護予防プログラムの実際④ 軽運動とコグニサイズについて学ぶ 8. 転倒予防・骨折予防のトレーニング 高齢者の特徴と転倒の原因について考える 9. 体の手入れとトレーニングの実践① 加齢に伴う痛みや筋力低下の予防について考える 10. 体の手入れとトレーニングの実践② 加齢に伴う痛みや筋力低下の予防について考える 11. 集団でのアクティビティサービス 集団でのアクティビティサービスについて考える 12. 集団でのアクティビティサービスの計画・立案① アクティビティサービスを計画してみる 13. 集団でのアクティビティサービスの計画・立案② アクティビティサービスを計画してみる 14. 集団でのアクティビティサービスの実施・評価① 計画したアクティビティサービスを実施してみる 15. 集団でのアクティビティサービスの実施・評価② 実施したアクティビティサービスを振り返る									
事前・事後学習について	テキストの指定がある場合は事前に目を通す。 ワークシートと「チャレンジ」を配布するので、各自復習をしておく。									
準備学習に必要な時間	毎回配布される「チャレンジ」を次の授業までに行う（30分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	75	介護予防に関する基本的な知識、高齢者の特徴と転倒の原因など							
	実践	25	アクティビティサービスの計画と実践							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業ではトレーニングマシンを使ったり、体操・ストレッチなどを行うため、運動のできる服装・かかとのある靴で参加して下さい。									
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」 中央法規出版									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	アクティビティ演習 C11008			前期	演習	1				
担当教員	稲垣 みき									
授業の概要	介護を必要とする人の多様なニーズに応えられるように、幅広い分野から学び基礎知識をつけます。また、習得した知識を介護実践に結び付けることができるように体験を通し学んでいきます。そして、利用者の生活に楽しみや生きがいを持てるようアクテビティについて理解を深めていきます。									
到達目標	・介護を必要とする人の多様性を考え、引き出しつくりの意味を理解することができる。 ・犬との関わりを通し、自分以外の人や動物の思いを考えられるようになる。 ・季節行事について理解し、実践をすることができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○		○		○				
授業計画	1. アクティビティ・サービスとは何か アクティビティ・サービスとは何かを考える。 2. 動物との暮らし① 犬について学ぶ 3. 動物との暮らし② 犬のしつけ part I 4. 動物との暮らし③ 犬のしつけ part II 5. 動物との暮らし④ 犬と一緒に散歩をしてみよう part I 6. 動物との暮らし⑤ 犬と一緒に散歩をしてみよう part II 7. 動物との暮らし⑥ 犬のケアについて 8. 動物との暮らし⑦ 役割を持って活躍する犬たち part I 9. 動物との暮らし⑧ 役割を持って活躍する犬たち part II 10. アクティビティ・サービスの計画とは何か アクティビティ・サービスの基本的な考え方について 11. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス① 季節感のある年中行事 12. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス② 趣味活動のアクティビティ part I 13. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス③ 趣味活動のアクティビティ part II 14. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス④ パーソナルケアに力を入れたアクティビティ 15. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス⑤ 身体活動のアクティビティ(シニアヨガ)									
事前・事後学習について	利用者さんが生きてきた時代を考えながらアクティビティを学びます。事前に季節行事などを予習してきて下さい。授業では、演習が中心となります。初めての事であっても、積極的に参加しましょう。また、授業毎に配布されるワークシートは事後学習としてまとめておいて下さい。									
準備学習に必要な時間	授業以外の時間を使って、指定された調べ学習をしてきて下さい。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	80	『アクティビティ演習を通しての学び』(80)							
	その他	20	提出物(15)、授業態度(5)							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業ごとに準備が必要になります。その都度指示が出ますので注意して下さい。授業では、利用者体験もします。アクテビティ演習を通し感じた瞬間やその思いなどを大切にして下さい。課題になっているレポートは、添削を行い返却します。									
使用テキスト	授業内で配布されるワークシート									
参考書	特に指定しない。									

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	介護の基本 A C21009			前期	講義	2			
担当教員	原 義隆								
授業の概要	介護福祉士は災害時においてもその専門性を発揮して、少しでも安心して暮らせるように支援しなければなりません。その際に、非日常としての生活を捉えることや、人々の心理状態を把握した上で活動する方法を学びます。 高齢者が生きてきた時代背景を理解し、介護を必要とする人の生活の個別性に対応する力を養い、介護実践に活かせるヒントを探ります。								
到達目標	・災害に対する備えと災害時における介護福祉士が果たす役割について考えることができる。 ・高齢者が慣れ親しんできた歌を調べ、歌詞カードを作成することができる。 ・高齢者の生きてきた時代の生活背景を知り、地域とのつながりの中で自分にできることは何かを考えることができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
			○	○					
授業計画	1. 日本における災害の歴史 これまで日本でどんな災害が起き、その時何が起こっていたのかを知る 2. 災害に備える① 災害備蓄の基礎知識 備えることの重要性を考え、何をどれくらい、どのように備えるのか 3. 災害に備える② 災害が起きた時のために考えておくことは何か 4. 災害時の介護① 避難所における生活支援 5. 災害時の介護② 災害時における介護福祉士の役割とは何か 6. 私たちの生活の理解 生活とは何かを知り、生活の特性を学ぶ 7. 高齢者の生きてきた時代を知る① 昭和～20 年代（戦前・戦中）の生活背景を知る 8. 高齢者の生きてきた時代を知る② 昭和 30 年代（戦後）からの生活背景を知る 9. 童謡・唱歌・流行歌を学ぶ① 高齢者がよく歌う歌を学ぶ 10. 童謡・唱歌・流行歌を学ぶ② 高齢者がよく歌う歌を学ぶ 11. 童謡・唱歌・流行歌を学ぶ③ 高齢者がよく歌う歌を学ぶ 12. 童謡・唱歌・流行歌を学ぶ④ 高齢者がよく歌う歌を学ぶ 13. 地域の出来事を学ぶ① 昭和の時代にこの地域で何があったのかを調べる 14. 地域の出来事を学ぶ② 昭和の時代にこの地域で何があったのかを調べる 15. 地域の出来事について知る 調べ学習の発表を聞き、地域の出来事について理解する								
事前・事後学習について	入学前課題で調べた「日本の災害」について、災害ごとに発表していただきます。そして、その災害で得た教訓は、今の私たちの生活に活かされているかを検証しましょう。家庭での防災備蓄を確認してもらいますので、家庭での防災備蓄を確認してもらいますので、家族みんなで共有しましょう。利用者理解の基本となる授業です。授業内で配布された資料の整理や調べ学習の資料はその都度整理し、実習で活かせるようにしてください。								
準備学習に必要な時間	指定したテキストのページには目を通す（30 分程度） 防災備蓄品のリストアップ、調べ学習などを計画的に進めてください。 昭和の時代に注目し、その頃の流行や生活様式に注目してください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	50	防災備蓄品リスト作成および実物の準備						
	レポート	0							
	その他	50	歌調べ、歌詞カード作成、歴史年表作成						
受講上の注意・課題のフィードバック	防災意識を高めておくことは、社会人として身に付けておかねばならないことと言えますが、介護福祉士として働く際には、利用者の命を守らなければなりません。まずは自分の身を守る方法を知ること、そして利用者の安全の確保につなげられる力をつけていきます。 利用者さんを理解するためには、その人が暮らしてきた時代を知る必要があります。授業で学んだことを、介護実習等で出会う利用者さんとのコミュニケーションに活かしてください。								
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」 中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護の基本B C21010			前期	講義	2				
担当教員	原 義隆									
授業の概要	感染症に対する基本的な知識と予防法、自分の身体を守るための具体的な方法を学びます。介護における安全の確保とは何かを考えながら、リスクマネジメントの基礎知識を学びます。利用者にとってのよりよい暮らしを支えるためには、どのようなことに注意したり、どのようなことを理解しておく必要があるのか考えながら学びます。									
到達目標	・感染症の基本的な知識、予防法について理解することができる。 ・自分の身体を知り、腰痛を予防するための方法が理解できる。 ・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○	○	○				
授業計画	1. 自分の身体の守り方を知る① 感染に関する正しい知識と感染対策について知る 2. 自分の身体の守り方を知る② 腰痛の原因とその予防方法を知る 3. 自分の身体の守り方を知る③ ボディメカニクスと準備運動の必要性を知る 4. マシーントレーニング① トレーニングマシンの使い方とその効果を知る 5. マシーントレーニング② 自分の体力を知る① 6. マシーントレーニング③ 自分の体力を知る② 7. 介護における安全の確保とリスクマネジメント① リスクマネジメントとは何か 8. 介護における安全の確保とリスクマネジメント② 苦情とは何か 9. 介護における安全の確保とリスクマネジメント③ 身体拘束について考える① 10. 介護における安全の確保とリスクマネジメント④ 身体拘束について考える② 11. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤ 福祉サービスに求められる安全・安心 12. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥ 事故防止のための対策① 13. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑦ 事故防止のための対策② 14. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑧ 事故防止のための対策③ 15. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑨ 介護福祉士の責務と安全の確保について考える									
事前・事後学習について	テキストの指定がある場合は事前に目を通す。 ワークシートと「チャレンジ」を配布するので、各自復習をしておく。									
準備学習に必要な時間	次回、予告されたページを一読する（30分程度）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	100	感染対策、身体の守り方、リスクマネジメント、身体拘束、事故防止のための対策、介護福祉士の責務と安全の確保							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	利用者の生活を支援するためには、身体構造や力学的な理解も必要となってきます。また、リスクマネジメントによる生活の安全の確保は、要介護者やその家族の生活の質、生活の満足度を高めることにつながります。 チャレンジは採点をして返却します。									
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護の基本C C22011			後期	講義	2				
担当教員	稲垣 みき									
授業の概要	福祉とは何か、介護福祉とは何か、介護福祉士とはどんな仕事を学びます。 わが国の介護福祉の歴史を概観することで、制度の変遷から介護福祉士誕生の歴史を理解します。また、専門職としての役割と機能、そして職業倫理を学びます。									
到達目標	・介護福祉士誕生の歴史を理解できる。 ・介護福祉士を取り巻く状況や背景が理解できる。 ・社会福祉士および介護福祉士法を理解できる。 ・介護福祉士の職業倫理が理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○		○	○						
授業計画	1. 介護とは－「介護」という言葉のはじまり 介護はいつから使われた？ 2. 介護の成り立ち 専門職による「介護」が誕生した経緯を理解する。 3. 介護の概念の変遷① 時代とともに「介護」はどう捉えられてきたのか考える。 4. 介護の概念の変遷② 時代とともに「介護」はどう捉えられてきたのか考える。 5. 戦後の福祉 第二次世界大戦後の日本の福祉を知る。 6. 介護問題の背景 介護問題が深刻になったのは何故か知る。 7. 介護福祉士誕生の歴史 介護福祉士はこうして誕生した、 8. 福祉とは何か－どらえもん的存在の意味 介護福祉士はどらえもんであることの意味を考える。 9. 社会福祉士及び介護福祉士法① 目指す資格の根拠法を理解する。 10. 社会福祉士及び介護福祉士法② 法改正により何が変わったのか。 11. 求められる介護福祉士像 私達はどう求められているのか。 12. 介護福祉士を支える団体 介護福祉士を支える職能団体や生涯研修、学会の活動について理解する。 13. 介護実践における倫理 介護に携わる人が持つべき職業倫理を学ぶ。 14. 日本介護福祉士会倫理綱領の理解① 倫理綱領とは何か。 15. 日本介護福祉士会倫理綱領の理解② 倫理綱領の内容を理解する。									
事前・事後学習について	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。事前学習の指示があった時には、予習も含めて行いましょう。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業の最後に配布される『チャレンジ』に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共に行いましょう。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 100〉をやり、POINT は覚える。(30 分程度)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	介護の変遷、根拠法および職業倫理の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	前半は調べ学習が入ります。自分の担当の時代背景を調べ、当時の社会を創造しながら、その中で「介護」というものが誰によってどう行われてきたのか、そして当時の制度・政策はどのようなものであったのか真剣に調べ、考えてみましょう。また、他の人の発表を聞きながら、自分の調べた時代と比較してどう違うのか考えてみましょう。試験の解説を配布します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護の基本D C22012			後期	講義	2				
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	障害福祉サービスを必要とする人の生活を支援する観点から、障害福祉サービスについて理解します。障害者総合支援法のしくみや内容を学びます。多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解します。さらに、地域連携等、フォーマル・インフォーマルなサービスを理解します。									
到達目標	・ 障害者のためのサービスについて理解できる。 ・ 障害者総合支援法のしくみが理解できる。 ・ 多職種連携・協働に求められる基本的な能力、専門職の専門性が理解できる。 ・ 地域連携の意義と目的について理解できる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○					
授業計画	1. 介護福祉を必要とする障害者の暮らし 障害を持つ人の生活について理解する。 2. 障害福祉サービスについて調べる。 障害福祉サービスを調べてまとめる 3-4. 障害福祉サービスの理解 障害福祉サービス調べを発表する。 5. 障害者総合支援法の理解① 障害福祉サービスの利用手続きの流れを知る。 6. 障害者総合支援法の理解② 自立支援給付と地域生活支援事業を理解する 7. 障害者総合支援法の理解③ 相談支援事業と相談支援専門員について理解する。 8. 障害者保健福祉の動向 障害福祉の現状と障害者の法的定義について理解する。 9. 障害者保健福祉の歴史 精神障害者福祉への歩みについて理解する。 10. 多職種連携の必要性 連携・協働の必要性について学ぶ。 11-12. 保健・医療・福祉職の役割と機能 介護福祉職と協働するさまざまな職種について知る。 13. 地域連携① 生活を支えるインフォーマルサービスと地域連携の意義と目的を理解する。 14. 地域連携② 地域連携の担い手を知る。 15. 高齢者のためのフォーマルサービスの概要 介護保険制度におけるサービスの種類									
事前・事後学習について	実習Ⅰ－1 に向かって、障害福祉サービスを理解します。常日頃から障害福祉サービスについてのニュース等に関心をもっていてください。授業で配布されるチャレンジは、重要ですので自宅で復習しておいてください。									
準備学習に必要な時間	『チャレンジ100』は復習ですので、配布された時には必ずやってきて下さい。（20分程度）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	90	試験							
	実践	0								
	レポート	10	障害福祉サービスについて調べ							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	実習施設の理解に直結する授業ですので、ワークシート等を復習しておいてください。障害分野の国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ100」の解説までしっかり聞いてください。障害福祉サービス調べは、提出後配布して活用していきます。チャレンジは採点して返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護の基本E C23013			前期	講義	2				
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	地域で暮らす利用者の生活を支えていくために、地域社会における生活ニーズとその支援方法についての基礎的な知識を身につけます。介護の現場で活躍している専門職の立場から学び、多職種協働を実践することができるように専門性や組織について学び、チーム運営の基本を理解できるようにします。									
到達目標	・チームケアを実践するための連携の必要性を理解する。 ・保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できる。 ・介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など多職種協働による介護を実践する意義を理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○					
授業計画	1. 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 地域共生社会を理解する。 2. 介護福祉士が連携する多職種について 地域にある介護サービスの実践の具体例を学ぶために事前に準備をする。 3. 地域包括支援センターについて 地域包括支援センターの業務について理解する。 4. 居宅介護支援事業所について 介護支援専門員の役割とケアプランについて理解する。 5. 住宅改修・福祉用具等を活用した環境整備 6. 地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の違い 福祉住環境コーディネーター・福祉用具専門相談員について理解する。 7. 訪問看護について 訪問看護の業務と役割について理解する。 8. リハビリ職種について リハビリの専門職の業務と役割を理解する。 9. 小規模多機能型居宅介護について 小規模多機能型居宅介護の業務とその役割について 10. 介護老人福祉施設について 介護老人福祉施設の施設長の業務と役割を理解する。 11. 訪問入浴について 訪問入浴の業務と利用者像を理解する。 12. 歯科衛生士について 介護老人福祉施設における業務とその役割について 13. 地域の介護サービスの理解のまとめ 介護福祉士が連携するサービスのまとめ 14. 多職種連携・協働の必要性 多職種と連携するために必要な力を考える。 15. 自立支援介護における多職種連携・協働の実際 介護福祉主導の連携の実際を理解する。									
事前・事後学習について	介護福祉士が介護を行う上で必要な、多職種・サービス内容の理解につながる授業です。事前学習を指示された場合は、予習を含めて行ってください。授業内で配布された資料等の整理や調べ学習の資料はきちんと整理し実習で活かせるようにしておいてください。									
準備学習に必要な時間	指定したテキストのページには目を通す（30 分程度） 授業で配布するワークシートを確実に復習し、＜チャレンジ 200＞を行い要点を理解する。（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	45	保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解							
	実践	0								
	レポート	55	専門職の講義を受けて、学んだこと(9×5)、多職種と連携するために必要な力(10)							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	前半では、調べ学習が入ります。各自担当の部分について調べ、授業の準備を進めてください。担当した専門職については、授業の進行を担当してもらいます。積極的に質問するようにしてください。提出してもらったワークシートは、コメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護の基本F C24014			後期	講義	2				
担当教員	小川 晃美									
授業の概要	休息・睡眠の必要性を理解したうえで、高齢者に多い睡眠障害を学び、心地よい眠りを支えるとはどういうことかを学びます。 介護福祉士の役割として、人生の最終段階にある人への介護の視点を学びます。終末期～危篤時・死後の身体的変化や看取りの支援、家族への支援を深めます。 介護従事者の安全として、自分自身を守る法制度や、心身の健康管理、労働環境についても考えます。									
到達目標	・睡眠のしくみとはたらきと高齢者に多い睡眠障害及び観察ポイントが理解することができる。 ・人生の最終段階を支えるための基礎的な知識・役割と終末期から危篤状態、死後の身体的変化が理解することができる。 ・介護従事者自身が心身とに健康で安全に働くための労働環境の権利について理解することができる。 ・介護従事者自身の安全確保のための基礎的な知識や予防について理解することができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○					
授業計画	1. 睡眠の意義と目的 睡眠がなぜ必要なのかを考え、睡眠のしくみとはたらきの理解を深める。 2. 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 睡眠の問題を引き起こす原因と高齢者の睡眠障害を理解する。 3. 睡眠における介護技術 睡眠での観察ポイントを理解して高齢者が安眠できる条件を考える。 4. 終末期における介護の意義と目的、「死」とは何かを考える 5. 人生の最終段階における介護職の役割とケアについて学ぶ① ターミナルケアとは、ターミナルケアのポイント、「死の受容プロセス」について学ぶ。 6. 人生の最終段階における介護職の役割とケアについて学ぶ② ターミナルケアのアセスメントを学ぶ。 7. 人生の最終段階に関する「死」の捉え方 終末期から「死」までの身体的及びこころの変化を理解する。 8. 終末期ケアにおける他職種との連携・協働 終末期の介護におけるチームケアの意味及び他職種との連携を理解する。 9. 人生の最終段階における介護・家族支援 グリーフについて遺族および職員へのケアを学ぶ。 10. 介護従事者の安全・健康問題 働く人の健康や生活を守る法制度を知る。 11. 介護従事者の健康管理① 介護職の労働特性を確認し、対処方法を学ぶ。 12. 介護従事者の健康管理② 介護現場で働く人のストレス、こころの健康問題を学ぶ。 13. 介護従事者の健康管理③ 介護従事者の健康管理と感染症対策を理解する。 14. 介護従事者の健康管理④ 介護福祉士の身体・健康障害の要因、特に腰痛要因について理解する。 15. 労働環境の整備 労働環境・条件の整備について理解する。									
事前・事後学習について	予定表に基づき、その章を一読してください。また、授業毎にワークシートを配布し、授業終了時にチャレンジテストを配布するので、ワークシートとともに事後学習としてまとめておきましょう。また授業で伝えるキーワードをノートにまとめていきましょう。									
準備学習に必要な時間	指定された箇所を一読してくる。(30分以上)									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	100	安全の確保の理解、睡眠及び終末期の理解、リスクマネジメント理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	指定した当該ページには目を通しましょう。(30分程度) 授業で配布するワークシートを復習し、授業中に伝えたキーワードやチャレンジ200とともにまとめていきましょう(30分程度)									
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規									
参考書	金子哲雄著「僕の死に方 エンディングダイアリー500日」小学館 石飛幸三著『「平穏死」のすすめ』講談社 矢永由里子・佐々木格編著「風の電話」とグリーフケア心に寄り添うケアについて風間書店 共同通信生活報道部『最期をどう迎えるか』岩波書店									

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ C21015			前期	講義	2				
担当教員	矢澤 敦子									
授業の概要	介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本を理解し、介護におけるコミュニケーションとは何かを演習を交えて学びます。後期の介護実習においてより良いコミュニケーション実践を行えるように学びを深めます。 また聴覚障害について学び、手話を使ったコミュニケーションの方法を実践します。									
到達目標	・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について学ぶことができる。 ・聴覚障害者の生活や心理を知り、介護する際の方法を理解することができる。 ・コミュニケーションの方法のひとつとして、簡単な手話を覚え実践できるようになる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○	○	○				
授業計画	1. 介護におけるコミュニケーションとは 2. 介護におけるコミュニケーションの対象 3. 援助関係とコミュニケーション 4. コミュニケーション態度に関する基本技術① 傾聴 5. コミュニケーション態度に関する基本技術② 受容、共感、距離 6. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 7. 目的別のコミュニケーション技術① 8. 目的別のコミュニケーション技術② 9. 集団におけるコミュニケーション技術 10. コミュニケーション障害への対応の基本 11. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 聴覚障害のある人への支援① 12. 聴覚障害のある人への支援② 13. 聴覚障害のある人への支援③ 14. 聴覚障害のある人への支援④ 15. 聴覚障害のある人への支援⑤									
事前・事後学習について	毎回、その日の授業に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。 授業終了時に「チャレンジ 100」を配布します。解答、解説もしますので、間違えたところはその都度見直しましょう。 簡単な手話を覚えて実践できるようにします。指文字や単語など、覚えた手話は忘れないように日々復習しましょう。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページに目を通してください。(20 分程度) 授業終了時に配布する「チャレンジ 100」を行ない提出してください。(20 分程度) 手話の予習、復習（指文字や単語の練習）（20 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	介護におけるコミュニケーションの意義・目的、役割。コミュニケーションの基本的理解・聴覚障害についての理解。							
	実践	20	演習への取り組み（10）手話の実践（10）							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	講義だけでなく演習の時間も多くあります。演習の取り組みは評価に入ります。 手話で歌や自己紹介を行ないます。普段から、手話を生活に取り入れていくことで忘れないようにしましょう。									
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術 第 2 版」中央法規 最新・介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ 第 2 版」中央法規 最新・介護福祉士養成講座 14「障害の理解 第 2 版」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ C22016			後期	演習	1			
担当教員	太和田 雅美								
授業の概要	視覚障害を持つ人の特性を理解し、その特性に応じたコミュニケーション方法を学びます。視覚障害を持つ人への移動支援を演習を交えて習得します。 チームで介護を行う上で必要な情報共有の知識を学びます。情報共有に必要な技術とその具体的な方法、情報の管理の知識を理解します。								
到達目標	・視覚障害を持つ人の特性に応じたコミュニケーションの方法や移動支援が理解できる。 ・視覚障害に特性に応じたコミュニケーションを理解する。 ・視覚障害に応じた介護技術を習得することができる。 ・介護福祉職チーム・多職種連携におけるコミュニケーションの必要性を理解できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
		○	○	○	○	○			
授業計画	1. 視覚障害のおこるしくみ 目が見えにくい、目が見えないことでの生活のしづらさを理解する。 2. 視覚障害者の生活の実際 視覚障害を持つ当事者の方の話を聞き、必要な支援を知る。 3. 視覚障害者とのコミュニケーション方法 点字の構成を知り、身近な生活の中で視覚障害を持つ人の生活を支えている物を調べる。 4. 視覚障害者の外出の方法 視覚障害者の外出の介助方法を体験して覚える。 5. 視覚障害者の外出介助の実際 アイマスク体験と介助体験を交代して学外へ出かけ、買い物を体験する。 6. 視覚障害者の外出介助の実際の振り返り 学内への外出体験を振り返る。 7. チームのコミュニケーション 会議の意義と目的とチームにおける説明の技術 8. 介護場面における利用者とのコミュニケーション コミュニケーション障害への対応の基本 9. 実習事例による振り返り～ロールプレイを使って 構音障害のある人への支援 10. 報告・連絡・相談の意義・方法 報告・連絡・相談の流れやタイミングについて理解する。 11. 記録の技術 記録の意義・目的について理解する。 12. 記録の実際 記録の意義と方法及び保管などについて理解する。 14. 事例検討に関する技術 事例検討を行う意義を学びコミュニケーションの基本姿勢を理解する。 15. 情報活用と管理のための技術 情報の活用と管理について理解する。								
事前・事後学習について	視覚障害を持つ人への配慮がされている環境や物、福祉用具を探して写真を撮って提出してもらいます。演習では、視覚障害を持つ人の移動の介助方法等テキストを一読してから臨んでください。 自己のコミュニケーション傾向を振り返っておき、11月の実習に向かってください。								
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通してください。(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ100〉をやって提出してください。(30分程度) チャレンジは採点して・レポートはコメントをつけて返却します。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	90	介護におけるコミュニケーションの理解及び視覚障害者に特性に応じたコミュニケーションについての理解						
	実践	0							
	レポート	10	アイマスク体験振り返り (5) 視覚障害者に応じた環境 (5)						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	視覚障害者の介助方法では、実際に街に出かけます。注意事項を指示しますので、準備してください。 小テストは採点して、レポートはコメントを付けて返却します。								
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座 5 最新・介護福祉士養成講座 8 最新・介護福祉士養成講座 11 最新・介護福祉士養成講座 14			「コミュニケーション技術」中央法規 「生活支援技術Ⅲ」中央法規 「こころとからだのしくみ」中央法規 「障害の理解」中央法規					
参考書	特に指定しない								

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活支援技術A C21017			前期	演習	1				
担当教員	小川 晃美・原 義隆									
授業の概要	利用者を想定し、実習に向けた生活支援技術を学びます。身だしなみを整えることは、自分らしさという自己表現の一つであり、意欲の向上や社会参加にもつながります。授業では身だしなみを整えるという行為が日常生活では欠かせないことであることを理解し、その基本的な介助の方法を身につけます。									
到達目標	・身じたくの意義と目的が理解できる。 ・利用者の状況に応じた整容介助に関する介護技術が理解できる。 ・利用者の状況に応じた着脱介助の基本が理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○						
授業計画	1. 自立した身じたくとは何か 生活習慣から身じたくについて考える 2. 自立度に合わせた整髪介助① 頭皮の清潔保持について考える 3. 自立度に合わせた整髪介助② 利用者の状態に応じた整髪介助を理解する 4. 整容介助① 耳の清潔の介助について理解する。 5. 整容介助② 爪の手入れの介助について理解する。 6. 整容介助③ 洗顔やベッド上で行う洗顔やベッド上で行う洗顔について理解する。 7. おしゃれを支える支援 基礎化粧や、男性の髭剃りの介助方法を知る。 8. 着脱介助の基本① 衣服のもつ役割を知り、自立支援に向けた着脱介助の方法を考える 9. 着脱介助の基本② かぶりの上着の介助方法を理解する 10. 着脱介助の基本③ 前開きの上着の介助方法を理解する 11. 着脱介助の基本④ ズボン・靴下の着脱介助について理解する 12. 着脱介助の基本⑤ 自立度の高い利用者のベッド上での介助方法を理解する 13. 着脱介助の基本⑥ 自立度の高い利用者のベッド上での介助方法を理解する 14. 利用者役を想定しての介護実践① 15. 利用者役を想定しての介護実践②									
事前・事後学習について	介護実習に向けた技術になります。実技で使用する物を指示しますので、忘れずに用意してください。授業時にはテキストを見ながら演習はしませんので、事前に指示されたテキストを予習してください。ワークシートとチャレンジを配布しますので、授業後は復習をしてください。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ100〉をやっておくこと(30 分程度)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	身じたく・整容の介助の基本的理解							
	実践	10	演習への取り組み							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の内容に合わせて、準備をしてください。実習で実践する介護技術ですので、利用者体験も交えて知識技術を学習していきます。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活支援技術B C21018			前期	演習	1				
担当教員	稲垣 みき・原 義隆									
授業の概要	利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた食事の支援に関する知識と技術を習得し、自分が行う実践の根拠が説明できる能力を身につけます。また、口腔ケアの必要性を理解し、実践できるようになります。									
到達目標	・利用者の食生活習慣に考慮し、基本的な食事介助ができる。 ・利用者の状態に応じた食事形態を理解できる。 ・利用者の食事に関するアセスメントができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○						
授業計画	1. 食事の意義・目的 「おいしく食べる」をささえるために必要なことを考える。 2. 食事のしくみ からだのしくみを理解し、摂食動作と姿勢と食事環境について理解する。 3. 食事介助の方法と福祉用具 基本的な介助の手順と自助具の実際を知る。 4. 誤嚥・脱水・事故予防とその対応 食事の事故について知り、予防の視点を理解する。 5. 視覚障害者の食事の支援 クロックポジションを使った支援を体験する。 6. 口腔ケア① 口腔ケアの必要性、嚥下体操、アイスマッサージ等の方法 7. 食事の介助① 8. 食事の介助② 実際に常食を食べながら摂食姿勢を確認する。 9. 自立度の高い利用者の食事介助① 10. 自立度の高い利用者の食事介助② 片麻痺の利用者を想定しての食事介助を演習する。 11. ソフト食とは何か 12. ベッド上での臥位での食事介助 13. ミキサー食の介助 14. 口腔ケア② 義歯の洗浄、うがいの介助方法 15. 多職種の役割と連携									
事前・事後学習について	「食べる」ことについての授業となりますので、自分にとっての「食べる」ことについて振り返って来てください。また、テキストの該当ページに目を通して来てください。事後学習として授業で配布したワークシートを復習してください。また、チャレンジ 100 を解答して、質問や感想を記入して提出してください。									
準備学習に必要な時間	指定した該当ページには目を通す（30 分程度） 授業で配布したワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 100〉を提出すること（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	食事のしくみ、食事介助の方法、誤嚥・脱水・事故予防とその対応							
	実践	0								
	レポート	10	食事の利用者体験を行って							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	利用者の気持ちを想像して演習を行ってください。食事に関する知識や食事介助の技術を習得することを目的としていますが、利用者体験も交えて学習していきます。レポートはコメントをつけて返却をします。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活支援技術C C21019			前期	演習	2				
担当教員	岩瀬 彩香									
授業の概要	食の支援を行う上で必要な知識と技術を習得する。調理実習を通し、献立の基本、調理技術、介護食や病態食の実際等を学ぶ。また、生活における食の大切さや役割への意識を高めるために、食文化や食生活の変遷や課題について目を向ける。									
到達目標	・基礎的な調理技術を習得し、食材の特性を生かした調理ができる。 ・献立を作成する上での留意点や調理の際の衛生管理について理解する。 ・食文化や食生活の変遷・課題に目を向け、生活における食の大切さや役割への意識を高める。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○						
授業計画	1-2. 講義①：調理の支援・栄養の理解Ⅰ・調理の基本Ⅰ 3-4. 講義②：栄養の理解Ⅱ・献立の基本・調理の基本Ⅱ 5-6. 調理実習①：日本食の献立Ⅰ 7-8. 調理実習②：日本食の献立Ⅱ 9-10. 講義③：安全な食環境づくり・お弁当の注意点・とろみ剤の扱い方 11-12. 調理実習③：郷土食（五平餅を用いた献立） 13-14. 調理実習④：高齢者向けの食事 15-16. 調理実習⑤：介護食Ⅰ（粥、刻み食） 17-18. 調理実習⑥：介護食Ⅱ（ミキサー食、ソフト食） 19-20. 調理実習⑦：病態食Ⅰ（糖尿病の人のための食事） 21-22. 調理実習⑧：病態食Ⅱ（高血圧の人のための食事） 23-24. 調理実習⑨：病態食Ⅲ（骨粗鬆症の人のための食事） 25-26. 調理実習⑩：行事食（ハレの献立） 27-28. 調理実習⑪：季節の献立 29-30. 実技テスト、まとめ									
事前・事後学習に ついて	実習の段取りをスムーズに進めるために、事前に実習の手順に目を通しておいってください。また、家庭等で実習の献立を作ってみるなど台所に立つ機会を増やすことを心がけてください。									
準備学習に 必要な時間	毎回、事前に実習の手順に目を通しておいってください。（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	30	実技試験（厚焼き卵）							
	実践	50	実習の評価表、調理実習計画表、取り組み状況							
	レポート	20	食文化や食の課題に対する意識、献立作成レポート							
	その他	0								
受講上の注意・課題 のフィードバック	調理実習は、身支度を整えて衛生的に行えるようにしてください。 実習計画表は確認して、授業開始までに返却します。講義内での説明を聞いて、加筆してください。 実習の評価表は目を通し、次の授業の冒頭で返却・復習することで理解度を高めます。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活支援技術D C21020			前期	演習	1				
担当教員	原 義隆									
授業の概要	自分の身体を守りながら介護実践をするために必要な移動・移乗に関する基礎知識と福祉用具等の使い方を学びます。また、その人の障害を理解し、障害に応じて自立に向けた移動の介助ができるように、それぞれの介助方法を体験しながら学びます。									
到達目標	・ 基本的な自分の身体の使い方が理解できる。 ・ ベッドメイキングができる。 ・ 利用者の状況に応じた移動・移乗に関する介護技術が理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○						
授業計画	1. ベッドメイキング① 介護の基本とボディメカニクスを知る。 ベッドメイキングの意義と方法を理解する。 2. ベッドメイキング② ベッドメイキングができるようになる。 3. 移動動作の基本 移動動作の基本となる理論を理解する。 4. 上方移動・水平移動/車いす介助 上方移動と水平移動、車いす介助の方法を理解する。 5. 寝返り・体位交換 寝返り・体位交換の介助の方法を理解する。 6. 寝返りから起き上がりまで 寝返りから起き上がりまでの介助の方法を理解する。 7. 起き上がりから立ち上がり 起き上がりから立ち上がりまでの介助の方法を理解する。 8. 立ち上がり・歩行の介助 立ち上がりから歩行の介助の方法を理解する。 9. 車いすの介助 介助される利用者の気持ちを理解する。 車いすの介助の方法を理解する。 10. 車いすへの移乗① 利用者に応じた介助の方法①-車いすの介助・上方移動 11. 車いすへの移乗② 利用者に応じた介助の方法②-片麻痺の人の介助 12. 車いすへの移乗③ 利用者役を想定しての介護実践-スライディングボード 13. 車いすへの移乗④ 利用者役を想定しての介護実践-リフトによる移乗 14. 車いすへの移乗⑤ 利用者役を想定しての介護実践-リフトによる移乗 15. 課題演習 それぞれの課題に対して、自分の達成度を評価する。									
事前・事後学習について	実技では、テキストを見ながら演習はしませんので、演習の前には指示されたテキストを必ず予習してきてください。ワークシートとチャレンジを配布するので、授業後は復習をしてください。 利用者役になる時には、その人の気持ちを考えながら体験しましょう。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す。（30分程度） 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 100〉をやり、POINT は覚える。（30分程度） 実技のチェック表に基づき、自分の理解度を評価しながら進み、最終的に課題に応じて自己評価をしましょう。放課後練習を行うのも有効です。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	移動・移乗に関わる知識							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	実習で実践する介護技術ですので、利用者体験も交えて知識・技術を学習していきます。どの技術も関連しあっているので、積み重ねが必要になります。復習を確実にしておいてください。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規出版									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活支援技術E C22021			後期	演習	1				
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	生活に必要な不可欠な排泄・入浴に関する基礎知識と福祉用具等の使い方を学びます。また、その人の障害を理解し、その障害に応じて自立に向けた介助ができるように、それぞれの介助方法を体験しながら学びます。									
到達目標	・ 基本的な入浴介助が理解できる。 ・ 基本的な排泄介助が理解できる。 ・ 利用者の状態に応じた入浴・排泄介助が理解できる。 ・ 利用者の入浴・排泄に関するアセスメントができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○						
授業計画	1. 自立した入浴とは - 入浴の意義・目的 - 2. 入浴の介助① 家庭浴での入浴介助の方法 3. 入浴の介助② 特殊浴での入浴介助の方法 4-5. 清潔の保持の介助 全身清拭の方法 6. 尊厳と自立が支える排泄とは 排泄動作と排泄関連の福祉用具の活用 7. 自立への支援-トイレの介助 トイレの介助方法 8. 自立への支援 立位でのパット交換 9-10. ベッド上での支援 自立度の高い人のおむつ交換 11-12. 自立への支援 ポータブルトイレの介助の方法 13. 清潔の保持の介助 座位での手浴 14. 清潔の保持の介助 座位での足浴 15. ベッド上での支援 尿器・便器を使った支援 便秘・下痢への対応									
事前・事後学習について	実技では、テキストを見ながら演習はしませんので、演習の前には指示されたテキストを必ず予習してください。ワークシートとチャレンジを配布しますので、授業後は復習をして下さい。 実技演習では、介助者役も体験します。体験を通し、その人の気持ちを考えてみて下さい。									
準備学習に必要な時間	指定した該当ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習しておくこと(30 分程度)									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	90	入浴の介助、排泄の介助に関わる知識							
	実践	0								
	レポート	10	おむつ体験レポート							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	入浴介助では、水着・バスタオル等、排泄介助では利用者役をする時にスパッツ等が必要になりますので、忘れ物をしないように事前に準備をして下さい。 実習で実践する介護技術となりますので、利用者体験を交えて知識技術を学習していきます。どの技術も関連しあっているので、積み重ねが必要になります。復習を確実にしておいてください。 おむつ体験レポートは、コメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2		開講学期	授業形態		単位数		教員免許資格の有無	
科目名	生活支援技術F C23022		前期	演習		1			
担当教員	太和田 雅美								
授業の概要	障害を理解し利用者の能力を活用・発揮しながら、スポーツや動物とのかかわりを通してライフステージに合わせた生活の豊かさや心身の活性化につながる支援を学びます。								
到達目標	・障がい者スポーツの意義と目的を理解する。 ・初級パラスポーツ指導員に必要な資質を理解できる。 ・高齢者の生活を豊かにする動物の存在を理解し、ともに暮らすために知識を理解する。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
		○		○					
授業計画	1. 各障害の理解 知的障害の基礎的理解の復習 2. 障がい者スポーツ指導員に求められる資質 スポーツのインテグリティを理解する。 3. 障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツが、障がい者個人やスポーツ界、社会一般に及ぼす効果について理解する。 4. コミュニケーションスキルの基礎 障がい特性に合わせたコミュニケーション 5. 障がい者スポーツ推進の取り組み 日本の障がい者スポーツの将来像の理解する。 6. 障がい者スポーツに関する諸施策 障がい者スポーツのはじまりや歴史的発展を理解する。 7. 安全管理 スポーツ指導者の安全配慮義務の心得を理解する。 8. 各障がいのスポーツの指導上の留意点と工夫 9. 障がいに応じたスポーツの工夫の基本的視点の理解 10. 車椅子バスケットボールへの参加 車椅子バスケットチームへ参加し、障害に応じたスポーツの工夫を学ぶ。 11. 全国障害者スポーツ大会の概要 全国障害者スポーツ大会の目的を理解する。 12. 人と動物 動物と暮らすことによって生まれる効果 13. 動物と暮らすために 犬や猫に必要なケアについて 14-15. 動物とのふれあい 実際に犬に触れて、介護実践と動物について考える。								
事前・事後学習について	パラスポーツ関連の報道に注目してください。様々な障がいをもっている人が、スポーツに参加してその人らしく楽しんでいることについて注目し、その人の生活の中のスポーツの存在の意味について考えながら学んでください。また、人と暮らす動物についても学びます。自分のとっての動物の存在を考えていきます。								
準備学習に必要な時間	障がい者スポーツ関連の報道に注目理解しておいてください。動物を飼う家庭が増えています。動物に関連した報道にも関心を向けてください。(30 分)								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	100	パラスポーツ調べ (30) 障害者とスポーツについて (70)・動物が高齢者や障害者にもたらす効果 (30)						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	初級パラスポーツ指導員資格の取得を目指します。 レポートはコメントして返却します。								
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規								
参考書	障がいのある人のスポーツ指導教本 ギョウセイ 人はなぜ犬や猫を飼うのか 人を癒す動物たち 有馬もと 大月書店								

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	生活支援技術G C23023			前期	演習	1				
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	生活の継続性を支援する観点から、生活を支える家事支援の基本的な知識を身につけ、利用者の生活歴、生活習慣や価値観を尊重し自立した生活を支える家事支援の重要性を学びます。実際に個別性に応じた支援ができるように演習を交えて学びます。5月に行われる地域実習の生活援助の学びとなります。また、高齢者や障害者が安全で快適に生活するために必要な居住環境の整備の知識を学びます。									
到達目標	・生活を支えるための基本的な家事支援を理解し実際に行うことができる。 ・利用者の生活習慣に合わせた家事支援の必要性が理解できる。 ・家事支援での自立支援・重度化防止のための見守り支援を理解できる。 ・居住環境の整備について理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○						
授業計画	1. 自立を支える家事 自立支援・重度化防止のための見守り支援の視点を理解する。 2. 自立へ向けた家事の介護 家事の重要性と個別性を理解する。 3-4. 掃除の実際①② 実際に掃除を行い手順を確認する。 5. 自立へ向けた家事 洗濯 洗濯の意義と洗濯マークと具体的な方法 6. 自立へ向けた家事 衣類・寝具の衛生管理 衣替えの習慣と防虫剤の使用、寝具の日常の手入れについて理解する。 7-8. 利用者宅での調理の実際①② 9. 買い物の支援と家庭経営 高齢者の買い物の支援と金銭管理について理解する。 10. 自立へ向けた家事 裁縫 衣類の補修の方法を理解する。 11. 居住環境の整備 住まいの役割と機能を理解する。 12. 加齢を生活空間 生活空間の構成に関して留意することについて理解する。 13. 快適な室内環境 快適に生活するための環境整備について理解する。 14. 安全に暮らすための生活環境 住宅内事故の現状を理解する。 15. 高齢者・障害者の住まい 高齢者・障害者の住まいにおける現状を理解する。									
事前・事後学習について	5月に行われる地域介護実習へ向けた家事的支援の授業となります。事前学習として指示された内容はしっかり取り組んでください。家事支援は毎日行われるものですので、自分の生活は自分で整えられるように生活の中で、繰り返し行って知識・技術の習得に努めてください。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ200〉をやり、POINTは覚える。(30分程度)									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	80	生活を支える家事支援の基本的な知識、居住環境の整備							
	実践	0								
	レポート	20	家事的支援の自己課題について							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	講義と演習を組み合わせで行います。指示された持ち物等はしっかりと準備してください。地域介護実習で実践する生活援助ですので、利用者宅でも行えるように自己課題を明確にし克服できるようにしておいてください。食事を支える調理の知識は、毎日の積み重ねが大きいです。レポートは、コメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	生活支援技術H C23024			前期	演習	1			
担当教員	稲垣 みき・原 義隆								
授業の概要	この授業では、これまでの生活支援技術の学びに加えて、リフト等福祉用具を活用する応用の技術を学びます。さらに、学外実習における具体的な実践と結び付けて、一人ひとりの心身の状況に応じた介護技術を検討できる力を養います。								
到達目標	・福祉用具活用による腰痛等対策の有効性が理解できる。 ・リフト、スライディングシート等を用いた介護技術を実践できる。 ・利用者の状態に応じた介護技術を考えることができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
		○	○	○					
授業計画	1. 基本動作・ベッドメイキングの復習① 2. 環境整備 ベッドメイキングの復習② 3. 基本動作・基本の介助 上方移動・水平移動/車いすの介助 4. ベッド上での移動 スライディングシートの活用 5. 介護作業とリフト① 吊具の種類と特徴、リフトの種類と特徴 6. 介護作業とリフト② 吊具の種類と特徴、リフトの種類と特徴 7. 実習を想定した介護技術演習① 実習先で実施する介護技術を想定して、具体的なイメージをもって演習する。 8. 実習を想定した介護技術演習② 実習先で実施する介護技術を想定して、具体的なイメージをもって演習する。 9. 実習を想定した介護技術演習③ 実習先で実施する介護技術を想定して、具体的なイメージをもって演習する。 10. 車椅子移乗の応用 スライディングシート・スライドボードの活用 11. リフレクソロジー入門 介護計画で活用できるリフレクソロジーについて学ぶ 12. リフレクソロジーの実践 足浴後にマッサージをすることを想定して実践する。 13. 具体的な対象者をイメージしたアセスメント演習① 具体的な対象者を想定した福祉用具の選定を行い、その問題点を検討する 14. 具体的な対象者をイメージしたアセスメント演習② リスクマネジメントを考える 15. 具体的な対象者をイメージしたアセスメント演習③ 技術のセルフチェックシートを活用して								
事前・事後学習について	1 年次に学んだ腰痛を予防するための動作は、心がけて生活できているでしょうか。学内の演習や学外実習で、腰痛予防を考えながら、自分の身体を上手く使えるようになりましたか。日常生活の中で腰痛予防を意識した動きができるように心がけましょう。 リフト、スライディングボード、シートが上手く使えるためには、何度も練習が必要です。放課後、自主練習をしましょう。								
準備学習に必要な時間	テキストの指定したページを読んでくる。(30 分程度) 授業で配布したチャレンジを解く。 放課後、自主練習をする。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	40	福祉用具を活用した介護技術						
	レポート	60	福祉用具導入の必要性及び腰痛対策に関する一考察						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	リフトの使い方は体験が重要です。限られた時間内での演習になりますので、集中して行いましょう。技術の習得チェック表を活用して、各自習得状況を把握してください。 レポートはコメントをして返却します。								
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 中央法規								
参考書	「新しい福祉機器と介護サービス革命 導入の視点と活用のポイント」テクノエイド協会（日本医療企画） 「セーフティケアの介護・看護-腰痛をおこさない介助技術と福祉用具」上田善敏 ヒューマン・ヘルスケア・システム								

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	生活支援技術Ⅰ C24025			後期	演習	1			
担当教員	稲垣 みき								
授業の概要	重度の障害をもつ利用者の介護までをイメージし、利用者の障害に応じた介護を提供するために、具体的なアセスメントと介助方法を事例を用いて検討し、体験的に学びます。実習で明らかになった自己課題について考えながら、卒業時の到達目標に向けて介護技術を習得することを目指します。								
到達目標	・ 障害の程度に応じた介護技術を検討するためにアセスメントすることができる。 ・ 利用者本位の介護技術が提供できる。 ・ 卒業時の到達目標に準じた介護技術における自己課題を明確にし、それを克服することができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
		○	○	○	○	○			
授業計画	1. 実習課題演習① 具体的な場面を想定して、実習で利用者本位の技術が提供できるようにする。 2. 実習課題演習② 〃 3. 実習課題演習③ 実習中に困った事例の課題について考える。 4. 実習課題演習④ 介護実習Ⅱで困難だった事例を取り上げて検討する。 5. 実習課題演習⑤ 実習中に明らかになった課題をを明確化し、克服に向けて演習する。 6. 実習課題演習⑥ 〃 7. 洗髪の介護① 寝たきりの人の洗髪の方法をを学ぶ。 8. 洗髪の介護② ベッド上で実際に洗髪の演習を行う。 9. 事例による実技演習① 浴衣の着脱 10. 事例による実技演習② ターミナルケアの人の浴衣の着脱 11. 事例による実技演習① 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 12. 事例による実技演習② 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 13. 事例による実技演習③ 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 14. 事例による実技演習④ 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 15. 事例による実技演習⑤ 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 卒業時実技試験 11/28(火) 介護福祉士養成校の卒業時到達目標である介護技術の習得状況を実技に試験によって確認する。								
事前・事後学習について	介護技術における自己課題を明確にし、それぞれの学外実習の前後には自分の成長を把握してきました。卒業時に習得していなければならない介護技術について、すべて習得できるように努力してください。 自分の課題については、空き時間を活用して実技演習をを行ってください。								
準備学習に必要な時間	各自の課題に応じて必要な時間								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	卒業時実技試験						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	最終実習における介護技術の習得に向けて、各自の課題を明確にして望んでください。 また、課題克服に向けて、授業だけは習得できない場合は、予約をとって指導を受けてください。必要に応じて対応します。								
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 中央法規								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護過程Ⅰ C21026			前期	講義	2				
担当教員	矢澤 敦子									
授業の概要	利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するために必要な介護過程の意義と目的及びその展開のプロセスを学びます。 介護過程の第一段階であるアセスメントの必要性とその方法を、具体的事例により体験的に学び、介護計画がイメージできるように学びます。									
到達目標	・介護過程の展開プロセスと基本的視点を理解できる。 ・アセスメントの重要性とその方法を理解できる。 ・介護計画がイメージできる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○						
授業計画	1. 生活支援の基本的な考え方 生活支援とは何か理解する。 2. 生活支援と介護過程 介護過程とは何かを概観し、その意義と目的及び展開プロセスを知る。 3. アセスメントと ICF の視点 ICF の考え方を ICIDH との関係をふまえて学ぶ。 4. アセスメント①アセスメントとは何か アセスメントとは何か、アセスメントが適切に行われなければどうなるのか考える。 5. アセスメント②情報収集 さまざまな情報収集の方法と種類を学び、正しく取捨選択するためにはどうするのか学ぶ。 6. アセスメント③情報収集演習 アセスメントシートへの記入の仕方を学ぶ。 7. アセスメント④情報収集演習 情報の整理の仕方とまとめのシートへのつなぎ方を学ぶ。 8. アセスメント⑤解釈・関連づけ・統合化 1 集めた情報をどのように整理し、分析していくのか学ぶ。 9. アセスメント⑥解釈・関連づけ・統合化 2 「どうすればさらによくなるのか」を考える。 10. アセスメント⑦解釈・関連づけ・統合化 3 具体的な事例で考える。 11. アセスメント⑧課題の明確化 ニーズとは何かを理解しながらその明確化の方法を学ぶ。ニーズの優先順位を考える。 12. 計画の立案①個別援助計画とは何か 介護サービス計画と個別援助計画の関係を学ぶ。 13. 計画の立案②目標の設定 目標の設定と介護計画の立案の手順を学ぶ。 14. 計画の立案③具体的な援助内容 1 個別援助計画における具体的な援助内容の基本的な考え方を学ぶ。 15. 計画の立案④具体的な援助内容 2 具体的な事例について具体的な援助内容を考える。 援助内容を人に伝える方法を学ぶ。									
事前・事後学習について	「覚える」ことより「考える」ことが中心になります。介護過程ⅠからⅣまで段階的に学んで力をつけていきます。すっかりした答えが得られなくても、もやもやしながらも一生懸命考えましょう。 授業中にできなかったワークシートは、必ず次回までにやってくるようにしましょう。 授業中に出る課題についても、やっていないと授業についてこれなくなってしまう内容です。必ずやってきましょう。									
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習を行なう。(30 分程度) 授業終了時に配布する「チャレンジ 100」を行ない提出する。(30 分程度)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	介護過程の展開プロセスと基本的視点、アセスメントの理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業終了時に配布される「チャレンジ 100」に対応しています。また、国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。 次の授業で答え合わせ、解説をしますので必ずやってきましょう。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 第 2 版」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第 2 版」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護過程Ⅱ C22027			後期	講義	2				
担当教員	矢澤 敦子									
授業の概要	介護過程Ⅰで学んだ基礎的知識を基に、介護計画の立案方法と実践および評価の方法を学びます。また、事例演習で具体的なアセスメントの方法を実践的に学びます。									
到達目標	・介護計画の実施・評価の方法とその留意点を理解することができる。 ・アセスメントの具体的方法を理解することができる。 ・介護計画の書き方をイメージすることができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○					
授業計画	1. 介護計画の実施 介護計画の実施のための準備と実施時の留意点について理解する。 2. 評価の意義と目的・評価の方法 介護過程における評価の意義を理解する。 3. 高齢者施設の事例を使って介護計画の理解を深める① 事例の理解と情報収集 4. 高齢者施設の事例を使って介護計画の理解を深める② アセスメント演習 5. 高齢者施設の事例を使って介護計画の理解を深める③ まとめ 6. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める① アセスメント演習 7. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める② まとめのシートの書き方 8. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める③ 目標の設定 9. 事例から学ぶ①（2年生合同事例報告会） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ。 10. 事例から学ぶ②（2年生合同事例報告会） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ。 11. 事例から学ぶ③（2年生合同事例報告会） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ。 12. 事例から学ぶ④（2年生合同事例報告会） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ。 13. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める④ 個別援助計画立案演習－計画の立案 14. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める⑤ 個別援助計画立案演習－具体的な援助内容の検討 15. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める⑥ 個別援助計画立案演習－まとめ									
事前・事後学習について	具体的な事例を使った演習が増えていくので、授業中に情報収集シートやまとめのシートに記入することが多くなります。授業中に書ききれない場合は、家庭学習で補いましょう。やっていないと、次の授業の内容がわからなくなってしまうので、必ずやりましょう。また、事例演習は、答えがあるわけではないので、自分の発想でプランを立てていきます。そこで必要になるのは、他の授業での学びやさまざまな知識なので、事例に関する情報は、他の科目の予習・復習としてノートをしっかり作るようにしましょう。									
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習を行なう（30分～1時間程度） 授業終了時に配布される「チャレンジ100」を次の授業までに行なう。（30分程度）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	100	介護計画の実施、評価の理解およびアセスメントの具体的方法の習得							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業終了時に配布される「チャレンジ100」に対応しています。また、国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。 次の授業で答え合わせ、解説をしますので必ずやってきましょう。									
使用テキスト	『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』中央法規									
参考書	『ヘルプマン』に学ぶ介護過程 八木裕子 中央法規									

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	介護過程Ⅲ C23028			前期	講義	4			
担当教員	太和田 雅美・稲垣 みき								
授業の概要	ケアマネジメントと個別援助計画の関係性を理解し、施設における介護計画と在宅における介護計画を、それぞれの特徴を理解しながら、事例を通して個別性に応じた介護過程の展開方法を学びます。また、地域における居宅サービスについて、住み慣れた地域で暮らし続けることの意味を考えながら居宅サービスの意義と具体的実践方法を学びます。								
到達目標	・ケアマネジメントと介護過程の関係が理解できる。 ・施設における介護計画を理解し、個別の利用者に対するアセスメント方法と計画の立案を理解できる。 ・居宅における介護計画を理解できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
	○	○	○	○	○				
授業計画	(施設における介護過程の展開－稲垣) 1. 「ヘルプマン」に学ぶ介護過程①-情報収集 2. 「ヘルプマン」に学ぶ介護過程②-アセスメント 3. 片麻痺のある高齢者のゆめの実現に向けた支援① 情報収集の方法 4. 片麻痺のある高齢者のゆめの実現に向けた支援② 情報の理解 5. 片麻痺のある高齢者のゆめの実現に向けた支援③まとめのシートの書き方-グループワーク 6. 片麻痺のある高齢者のゆめの実現に向けた支援④まとめのシートの書き方-発表とまとめ 7. 片麻痺のある高齢者のゆめの実現に向けた支援⑤介護計画の立案 8. 片麻痺のある高齢者のゆめの実現に向けた支援⑥まとめ 9. 実習に向けて-情報収集の具体的な方法 10. 個別援助計画の立案演習 11. 介護老人福祉施設で暮らす N さんの事例-情報収集 12. 介護老人福祉施設で暮らす N さんの事例-アセスメント 13. 介護老人福祉施設で暮らす N さんの事例-計画の立案 14. 介護老人福祉施設で暮らす N さんの事例-計画の立案 15. 介護老人福祉施設で暮らす N さんの事例-まとめ (在宅における介護過程の展開－太和田) 1. チームアプローチにおける介護福祉士の役割 2. チームアプローチの実際―事例：糖尿病で一人暮らしの C さんの事例で考える多職種連携 3. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援①情報収集と情報の理解 4. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援②訪問介護計画の検討 5. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援③訪問介護計画立案演習 6. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援④訪問介護演習へ向けて 7. 家族とのコミュニケーション―家族との関係づくり 8. 家族を支援する視点―相談に応じるコミュニケーション 9. 居宅サービス計画と個別援助計画―ケアプランと個別援助計画の関係 10. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援①情報収集と情報の理解 11. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援②訪問介護計画の検討 12. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援③訪問介護計画立案演習 13. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援④サービス内容の検討 14. 在宅で暮らす利用者の生活の理解―他サービスの理解 15. 在宅で暮らす利用者の生活の理解―介護報酬								
事前・事後学習について	人々はさまざまな場所で暮らし、その多様性を考えながら一人ひとりの個別性にも対応して介護計画を立てるということは、とても難しいことです。だからこそ、たくさんの引き出しを持ち、幅広い知識と技術と豊かな感性が必要です。授業で扱う事例は必ず読んでください。事後には、復習をして各事例の理解を深めてください。 5月～7月に行われる学外実習の指導を含みますので、原則として欠席はしないでください。								
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習 (30 分～1 時間程度) 毎回配布される『チャレンジ』を次の授業までに行う。(30 分程度)								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	施設および在宅における介護計画の理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業の最後に配布される『チャレンジ』に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共にいきましょう。国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。指示に従って綴っておきましょう。								
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規								
参考書	『ヘルプマン』に学ぶ介護過程 八木裕子 中央法規								

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護過程Ⅳ C24029			後期	講義	2				
担当教員	稲垣 みき									
授業の概要	2年間の学びの総まとめとなる介護実習Ⅱにおいて、受け持ち利用者を持ち、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価という一連の介護過程の展開実習を行ったことを振り返りながら、事例研究とは何かを学びます。また、2年間学んできた介護過程の意義・目的を再確認しながら、自分の介護観を構築します。									
到達目標	・利用者を総合的にとらえ、一連の介護過程の展開の方法を理解し、個別援助計画が立案できる。 ・事例検討から、介護実践における基本視点を理解できる。 ・介護過程の意義・目的が説明できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○	○				
授業計画	1. 事例研究の意義・目的 事例検討① 事例研究の意義と目的及びその方法について理解する。 2. 事例－ターミナルを迎える人への介護 1 ターミナルを迎える事例のアセスメントを行う。 3. 事例－ターミナルを迎える人への介護 2 ターミナルを迎える事例のアセスメントを行う－ニーズの明確化 4. 事例－ターミナルを迎える人への介護 3 介護計画の立案 5. 事例－ターミナルを迎える人への介護 4 介護計画の検討 6. 事例－ターミナルを迎える人への介護 5 グループワーク 7. 事例－ターミナルを迎える人への介護 6 介護計画に基づく実践① 8. 事例－ターミナルを迎える人への介護 7 介護計画に基づく実践② 9. 事例－ターミナルを迎える人への介護 8 介護計画に基づく実践③ 10. 事例－ターミナルを迎える人への介護 9 介護計画に基づく実践④ 11. 事例－ターミナルを迎える人への介護 10 介護計画に基づく実践⑤ 12. 事例－ターミナルを迎える人への介護 11 介護計画に基づく実践⑥ 13. 事例－ターミナルを迎える人への介護 12 家族も含めた実践計画 14. 事例－ターミナルを迎える人への介護 13 家族支援とグリーフケア 15. 介護過程の意義・目的 介護過程とは何か 自分の介護観と向き合う									
事前・事後学習について	介護実習Ⅱにおいては、自分の受け持ち利用者さんの個別援助計画を立案し実施しなければならないので、これまでの介護過程の授業の復習をしっかりとっておいてください。 また、実習後には自分の事例をまとめながら、自分なりの介護観を築いていってほしいと思います。 自らの実践の根拠を説明でき、その実践の評価ができるように「考える学習」を進めてください。									
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習（30分程度） 毎回配布される『チャレンジ』を次の授業までに行う。（30分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	100	介護計画の立案、介護過程の意義・目的の理解							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業の最後に配布される『チャレンジ』に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共に行いましょう。国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。指示に従って綴っておきましょう。 レポートはコメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	介護総合演習 I C22030			後期	演習	1			
担当教員	太和田 雅美								
授業の概要	初めての介護実習に向けて実習とは何か、心構え、予備知識、動機付け等の準備を行います。実習では、実践力を身につけて、実習後は十分な振り返りを行うようにし、効果的な実習を行えるように学習します。 障害福祉サービスについての理解を深め、障害者の生活の場について学びます。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目								
到達目標	・実習の意義と目的について理解する。 ・実習に向かう姿勢や心得を理解し実践できる。 ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解し実践することができる。 ・障害者の暮らしの場としての施設やそこで働く職種を理解する。 ・障害に合わせた生活支援について理解する。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
		○	○	○					
授業計画	1. 実習概要の理解 2 年間の実習の流れを理解する。 2. 実習要項 介護実習にふさわしい身じたく・態度について考える。 3. 実習要項 介護実習全体での共通指導項目と実習目標を理解する。 4. 実習要項の理解と実習目標 実習目標・記録について理解する。 5. 実習要項の理解 実習施設の概要と利用者像を理解する。 6. 学生カンファレンスの方法 実習での学生カンファレンスをロールプレイから学ぶ 7. 介護技術演習 施設の 1 日の流れを想定し、どのように実習を行うのか考える。 8. 事前訪問の演習 事前訪問を想定し実際に事前訪問のロールプレイを行う。 9. 実習施設事前訪問 指定された時間に実習施設に訪問しオリエンテーションを受ける。 10. 実習前最終確認 事前訪問の報告・最終確認を行う。 11. 記録物の提出・実習評価と振り返りとお礼状について 実習を振り返り自己評価を行い、自己課題を考える。 12. 実習における介護技術の振り返り 実習中にわからなかった生活支援について、その方法や理由を考える。 13. 14. 実習報告会 施設ごと実習施設の概要や利用者の特性に合わせた生活支援を発表する。 15. 実習のまとめと自己課題の明確化 まとめと自己課題と報告書について								
事前・事後学習について	介護実習を段階的に進めていく最初の指導になるため、わからない点はその都度確認して確実に理解しておいてください。介護の専門教科の知識と関連しているので、他教科の知識を理解しておいてください。								
準備学習に必要な時間	前期で学んだ専門科目を復習し介護実習でより理解を深められるように準備を進めてください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	30	報告会態度・準備						
	レポート	60	実習報告書の内容						
	その他	10	個別指導での取り組み・受講態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	・原則、すべての授業に出席してください。授業時には忘れ物をしないように準備をして臨んでください。 ・実習で学んだことを報告書にまとめ提出してください。製本して返却します。 ・自己課題を明確にし、2 年の実習に向かえるようにしてください。								
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	介護総合演習Ⅱ C23031			前期	演習	1			
担当教員	太和田 雅美								
授業の概要	介護実習Ⅰ－２のための実習前・実習後の実習指導と演習の授業です。地域における様々な介護サービスとそこで暮らす利用者の生活を理解し、老いや障害を持っても住み慣れた地域で暮らし続ける仕組みと具体的な介護実践を学びます。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目								
到達目標	・居宅における介護サービスを理解する。 ・居宅サービスの実習から、在宅で暮らす利用者の生活ニーズとサービス提供の方法を理解する。 ・住み慣れた地域で生活を継続するための連携方法を学ぶ。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
	○	○	○	○	○	○			
授業計画	1. 実習要項・要領の理解① 実習 1-2 の目的・目標を理解する。 2. 実習要項・要領の理解② 実習の課題説明・個人目標・個人票について理解する。 3. 記録類の記入方法・目標指導 記録の記入方法の実際と目標の設定の仕方 4. 実習施設の理解と地域における役割① 実習施設と実習で出会う利用者についての理解 5. 実習施設の理解と地域における役割② 実習施設で行う介護技術（アクティビティ） 6. 介護保険制度と障害者総合支援法 在宅で暮らす利用者が利用する制度の理解 7. 8. 在宅で暮らす利用者宅の疑似訪問介護演習①② 事例から考える訪問介護実習を想定し演習する。 9. 事前訪問の方法とマナーについて 事前訪問のマナーについて理解し、どのように行うのか考える。 10. 実習施設事前訪問 指定された時間に実習施設に訪問しオリエンテーションを受ける。 11. 実習前最終確認 事前訪問の報告・最終確認を行う。 12. 記録物の提出・実習評価と振り返りとお礼状について 実習を振り返り自己評価を行い、自己課題を考える。 13. 14. 実習報告会 種別ごとグループワークを行い、そのサービスの意義と目的を話し合いサービスの特徴を発表する。 15. 実習のまとめ 地域介護実習のまとめと自己課題の明確化								
事前・事後学習について	事前学習としては、前回実習よりの課題を明確にし、実習に向かえるよう準備をしておいてください。 自己課題と思えることは早めに個別の指導にて教員にアドバイスを心得て行動してください。 事後学習として終了後は次の実習に向かって、課題となることを明確にしていきます。 授業時には忘れ物をしないように準備をして臨んでください。 原則、すべての授業に出席してください。								
準備学習に必要な時間	実習Ⅰ－１での課題を明確にしておいてください。そこからこの実習での課題をもって臨みます。記録などの事前学習は各個人で違ってくることになります。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	30	報告会態度（10）個別指導（20）						
	レポート	60	実習報告書（60）						
	その他	10	個別指導での取り組み・受講態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	無断欠席をしないでください。 忘れ物をしないように準備してください。 実習報告書については、製本して振り返りを行います。								
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規								
参考書	特に指定しない								

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	介護総合演習Ⅲ C23032			前期	演習	1			
担当教員	稲垣 みき								
授業の概要	介護実習Ⅰ－Ⅲの実習に向けて、実習の目的や目標を理解しながら主体的に取り組めるようにします。実習では、認知症の方を受け持ち利用者にもち、介護過程の展開におけるアセスメントを実践する力を身に付けます。実習終了後の報告会を通し、自己課題を明確にします。								
到達目標	・ 個々の利用者の心身の状況に応じた介護実践の必要性を理解することができる。 ・ 認知症ケアについて理解することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
	○	○	○	○	○	○			
授業計画	1. 自己課題と到達目標について 自己課題の分析をし、具体的な行動計画を考える。 2. 実習要項・要領の理解① 実習Ⅰ-3の目的、目標を理解する 3. 実習要項・要領の理解② 実習Ⅰ-3の全体の流れと隔週の実習内容を理解する 4. 記録物の書き方について 情報収集の具体的な方法を考え、書き方について学ぶ 5. カンファレンスの方法を理解する 6. 実習施設の理解及び事前訪問について学ぶ 7. 事前訪問 実習施設を訪問し、オリエンテーションを受ける 8. 実習前の最終確認 事前訪問の報告 9. 記録物の提出・実習の評価と振り返り 10. 実習報告会① 11. 実習報告会② 12. 専門的知識の確認① 13. 専門的知識の確認② 14. 専門的知識の構築① 15. 専門的知識の構築②								
事前・事後学習について	介護技術が自信のない学生は、放課後及び空き時間を利用して実技の練習をしてください。コミュニケーションが苦手な人は、普段の生活の中で笑顔をつくる練習や、はっきり話す練習を意識してやってみましょう。Ⅰ－Ⅱの課題をふまえて自己課題を明確にし、目標をもって実習にのぞめるように準備をしてください。								
準備学習に必要な時間	不足している介護技術の練習などは、放課後等に個人で行うことになります。自己課題を明確にして確実に行っておいてください。かかる時間は個人で違うと思いますが、規定時間でできないことは、人よりも余分に一定時間の練習は必要であると考えてください。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	実習報告会(原稿、態度、質疑応答)						
	レポート	0							
	その他	20	提出物及び個別指導を含む全体の頑張り						
受講上の注意・課題のフィードバック	・ 原則、すべての授業に出席をして下さい。無断欠席はしないこと。 ・ 忘れ物はしないこと。 ・ 自己課題を明確にし、次の実習に向かえるようにして下さい。								
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	介護総合演習Ⅳ C23033			通年	演習	1			
担当教員	稲垣 みき								
授業の概要	2年間の総まとめともいえる介護実習Ⅱに向けて自己課題を明確にし、目標達成に向けて主体的に取り組めるようにします。また、受け持ち利用者に対して、一連の介護過程の展開が実践できる力をつけます。実習終了後は、実践した事例をまとめ、自己の介護観を形成することを目指します。								
到達目標	・「利用者本位」「自立支援」を重視した介護過程の展開方法を具体的実践を通して理解できる。 ・介護福祉士として卒業時に習得すべき介護技術ができるようになる。 ・自己課題を主体的に克服し、自己の介護観を構築することができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
	○	○	○	○	○	○			
授業計画	1. 自己課題と卒業時の到達目標に向けて 自己課題を分析し、実習中の課題克服のための具体策を考える。 2. 実習要項・要領の理解① 実習要項・要領にそって実習目標・実習内容を理解する。 3. 実習要項・要領の理解② 実習要項を理解し、実習中のスケジュールを作成する。 4. 記録物の書き方、介護計画の承認の方法 記録物の書き方及び介護計画の実施方法と留意点について学ぶ。 介護計画の承認の方法を理解する。 5. 事前訪問 実習施設を事前訪問し、オリエンテーションを受ける。 6. 介護計画の実施状況の把握と評価の方法 経過記録及びモニタリングと評価の方法を学ぶ。 7. カンファレンスの方法 カンファレンスの目的とその方法について具体的に考える。 8. 事例のまとめ方 実習後に行う事例のまとめについて理解する。 9. 事例のまとめについて 事例のまとめ方及び指導の受け方について理解する。 10. 要旨作成の方法・事例発表について 要旨作成の方法について理解する。 事例の発表について、そのスケジュールと方法について理解する。 11. まとめの進捗状況の確認と個別指導① まとめの進捗状況を確認し、発表に向けて個別指導を受ける。 12. まとめの進捗状況の確認と個別指導② まとめの進捗状況を確認し、発表に向けて個別指導を受ける。 13. まとめの進捗状況の確認と個別指導③ まとめの進捗状況を確認し、発表に向けて個別指導を受ける。 14. 事例報告事例発表の方法、リハーサルについて 報告会の司会等を決定し、発表順を確認する。 15. 2 部のリハーサル 2 部のリハーサルを行い、発表に向けて準備する。 12/7(木)–12/8(金) 事例報告会								
事前・事後学習について	自分が立てた個別援助計画は、科学的根拠・論理的根拠に裏付けられていたのかが問われることになります。勘や経験だけでは、利用者本位の介護実践から逸脱してしまいます。質の高い介護を提供するために、力をつけて欲しいと思います。介護現場には、さまざまな限界がありますが、そこを乗り越えていくのが、介護福祉士養成校で学ぶ皆さんの使命です。2年間の集大成としての事例のまとめは、自分の時間を最大限に使って準備をし、発表では自信をもって自らの介護観を述べてください。								
準備学習に必要な時間	各自、自己課題の分析を行う。(必要時間) 事例のまとめ(各自必要時間－担当教員とのやり取りは平均7～8回で、2年間の総まとめになるため必要な時間は自分の努力に比例する)								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	30	実習報告会(原稿、態度、要旨、質疑応答)						
	レポート	40	事例のまとめ						
	その他	30	個別指導を含む全体の頑張り度						
受講上の注意・課題のフィードバック	事例のまとめは授業時間外となるため、各担当教員の指導は予め予約をとって指導を受けるようにする。やり取りの中で指導を行うので、不明な点はわかるまで説明を受けて、修正した事例を確認した上で、次の指導日には前回の赤入れした事例も持参する。								
使用テキスト	実習要項・実習要領 「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規								
参考書	「事例のまとめ方と発表のポイント」佐藤眞一著、中央法規								

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護実習Ⅰ－1 C22034			後期	実習	1				
担当教員	太和田・小川・稲垣・矢澤敦									
授業の概要	障害を持つ利用者の生活の場で実習を行い、障害福祉サービスについて学びます。また、利用者の障害について知り、その障害特性を理解し、その人にあったコミュニケーションの必要性について学びます。さらに、そこで行われている生活支援技術を体験します。実習を体験しながら、自らのコミュニケーションについて振り返りを行い自己課題を明確にします。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目									
到達目標	・ 障害福祉サービスの概要とそこで働く職種を理解できる。 ・ 利用者の障害特性の基礎的理解ができる。 ・ 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解し実践することができる。 ・ 障害に合わせた生活支援について理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
			○	○						
授業計画	実習期間 令和 5 年 11 月 13 日（月）～11 月 28 日（火）10 日間 障害支援施設等での実習 第 1 週 実習施設の概要と 1 日の流れを知る。 職員や利用者により自己紹介を行う。 利用者とのコミュニケーションを体験する。 職員とのコミュニケーションを体験する。 実習内容を記録に書く。 第 2 週 前半に引き続き実習を行う。 指導者のもとで、利用者に対する生活支援を体験する。 利用者とのコミュニケーションを体験し自己課題を明確にする。 介護職と連携し働く専門職の役割を知る。 カンファレンスを運営し、実習指導者、教員、実習メンバーと学びを共有する。									
事前・事後学習に ついて	冬期の実習になります。感染症対策など体調管理を含め準備を行ってください。障害者支援施設等での実習になります。「障害の理解 1」「介護の基本 D」で学ぶ障害福祉サービスの内容と関連した学びとなりますので、そちらの理解も深めてください。									
準備学習に 必要な時間	介護総合演習Ⅰで準備について指示をしますので、それを理解し準備してください。介護技術について実習前に各自で練習をしておくなど、計画的に準備を進めてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	実習の行動・態度、実習記録など実習全般							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題 のフィードバック	実習は原則的に全日程出席することが前提です。この実習の課題は、次の実習への課題に繋がります、課題の未達成が多いと次の実習が大変になりますので、準備をしっかりしておくなど、計画的に進めてください。実習記録・評価はコメントをつけて返却します。									
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護実習Ⅰ－2 C23035			前期	実習	1				
担当教員	太和田・稲垣・小川・原									
授業の概要	利用者の在宅生活を支える事業所で実習を行い、在宅における支援内容について理解します。地域における様々サービスとそこで暮らす利用者の生活を理解し、老いや障害をもっても住み慣れた地域で暮らし続けるしくみと具体的な介護実践を学びます。また、地域で暮らす利用者・家族について理解し、利用者を取り巻く社会資源について理解します 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目									
到達目標	・地域で暮らす利用者を支えるサービスについて理解し、多職種連携について理解することができる。 ・居宅介護サービス計画に基づいた個別援助計画について理解することができる。 ・介護サービスの内容・提供の方法を理解し、個別性に応じた介護技術を実践することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5	学修成果6				
		○	○	○	○					
授業計画	実習期間 令和5年5月12日（金）～5月26日（金）10日間の実習 訪問介護・通所介護・訪問入浴・小規模多機能居宅介護等の事業所で実習を行う。 居宅介護サービスの役割を知る。 実習先で提供されているサービスを交替して実習する。 サービスの対象となる利用者・家族を知る。 多職種連携の場であるサービス担当者会議やカンファレンスに参加する。 ケアプランと個別援助計画との連携性を理解する。 指導者と介護技術を行い、利用者の生活を理解する。 訪問介護 自宅における生活支援を体験する。 訪問時に必要な適切な態度と知識・技術を身につける。 訪問介護では指導者と同行し、可能な範囲で家事的支援（掃除、洗濯、衣類の補修、ベッドメイク、調理、買い物等）を行う。 在宅で暮らす利用者の生活環境を知る。 通所介護 介護技術を見学し、体験して技術を習得する。 送迎を体験し、車内での安全確保を学ぶ。 個別のアクティビティ活動へ参加の支援を行う。 集団のアクティビティ活動を体験し内容を知る。 利用者の安全確保にはどのような工夫や配置がなされているか知る。									
事前・事後学習について	介護保険制度の学習や障害者総合支援法のサービスをよく理解しておいてください。地域で暮らす利用者宅へ訪問して、指導者と共に生活援助を行うので、家事援助の基本（野菜の皮をむく、掃除機をかけるなど）ができるように経験を積んでおいてください。実習後、報告書を作成し介護実習のまとめとします。									
準備学習に必要な時間	介護総合演習で準備について指示しますので、準備を行ってください。介護技術についても実習前に各自で課題に取り組むなど計画的に準備を進めてください。特に家事支援については、自己課題を明確にし、その課題にどう取り組むのかを考え準備してください。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	実習の行動・態度・実習記録など実習全般							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	実習後に報告書をまとめ、実習中の振り返りを行い、地域介護実習のまとめを行います。実習評価・記録に評価・コメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護実習Ⅰ－3		C23036	前期	実習	1				
担当教員	稲垣・太和田・小川・原・矢澤敦									
授業の概要	特別養護老人ホーム・グループホームに分かれて実習を行い、生活の継続性を理解し、認知症の特性に応じた支援の方法、地域との関わりを学び、住み慣れた環境で生活を送ることの意味について考えます。さらに、受け持ち利用者さんを持ち、介護過程の展開におけるアセスメントの実際を体験しながら学びます。 実習報告会では、実習施設の違いについて互いの発表の中から学びます。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目									
到達目標	・認知症の特性に応じた自立支援を理解する。 ・利用者とのかかわり方の実際を学ぶ。 ・介護過程の展開におけるアセスメントの方法を理解する。									
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5	学修成果6				
		○	○	○	○					
授業計画	実習期間 令和5年6月26日（月）～7月7日（金）10日間 前半 6月26日～6月30日 1. 施設の介護理念、事業内容、日課や週間計画・年間計画、地域との関わり等についてオリエンテーションを受ける。 2. 利用者及び職員とのコミュニケーションの中で、これまでに学んだことを実践してみる。 3. 指導者の指導の下、利用者への介護技術を体験しながら学ぶ。 4. 受け持ち利用者の情報収集を行う。 後半 7月3日～7月7日 1. 受け持ち利用者とのコミュニケーションを工夫しながらアセスメントを行い、生活ニーズを明らかにする。 2. 指導者と共に介護技術を経験し、利用者の個性を意識しながら状態に応じた介護技術を学ぶ。 3. 実習を振り返り、自分の介護実践についての経過と考察を作成し、学生カンファレンスで発表する。									
事前・事後学習について	実習Ⅰ-1・2で、自分はどんな課題があったのかを明確にし、その課題に対して、この実習前、実習中にどのように取り組むのかをしっかりと考えてください。 受け持ち利用者のアセスメントを行うので、介護過程のテキストやこれまでの授業ノートを復習しておいてください。次の介護実習Ⅱでも介護過程の展開はありますので、解らないところは早めに解決しておいてください。									
準備学習に必要な時間	介護総合演習で準備については指示しますので、それをしっかりと行ってください。 介護技術についても実習前に各自で練習しておくなど準備を計画的にしておいてください。 各個人の状況により準備時間は違いが出ます。 実習中にはアセスメントが課題になるので、実習場でできるように練習や準備をしておいてください。わからない部分は確認を必ずしておいてください。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	実習中の態度、実習記録など実習全般							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	実習は原則的には全日程出席することが前提です。 この実習での課題は、次の実習Ⅱへの課題となりますが、課題の未達成が多いと次の実習が困難になりますので、準備をしっかりと行い実習中の課題についてはクリアできるようにしておきましょう。特に次の実習では今回の実習で行ったアセスメントを短期間で行うので、できなかった部分は必ず復習しておきましょう。 実習についての評価は、自己評価、実習担当者の評価、教員の評価をつけ返却をします。									
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	介護実習Ⅱ C24037			後期	実習	4				
担当教員	稲垣・太和田・小川・矢澤敦									
授業の概要	本実習では、介護技術全般の習得を目指しながら、介護過程の展開を通して、介護福祉士として必要な技術と知識を身につけていきます。学内で学んだ知識・技術・態度を介護現場で具体的に実践し、基本的な技術が実施できるように、すべての場面で実践的に学びます。また、受け持ち利用者の介護過程の展開実践を通して、利用者理解を深め、自己の介護観を形成し、介護福祉専門職としての態度を養います。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目									
到達目標	・利用者を総合的にとらえ、一連の介護過程が実践できる能力を養う。 ・あらゆる場面を通して自己啓発を図り、介護実践における基本的技術を身につけ、専門職としての態度を形成する。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○	○	○	○	○	○				
授業計画	実習期間 前半 令和 5 年 8 月 28 日(月) ～9 月 12 日(火)12 日間 後半 令和 5 年 9 月 14 日(木)～10 月 11 日(水) 18 日間 第 1 週 受け持ち利用者とのコミュニケーションを図りながら、情報収集・アセスメントを行う。 1. 施設の介護理念、事業内容、日課や週間計画・年間計画等についてオリエンテーションを受ける。 2. 受け持ち利用者の情報収集を行い、全体像を捉える。 3. 指導者との指導の下、利用者への介護技術の方法を学ぶ。 第 2 週 利用者の全体像をアセスメントし、介護ニーズを明らかにし、個別援助計画を立案する。 1. アセスメントを行い、生活ニーズを明らかにする。 2. 個別援助計画の原案を作成する。 3. それぞれの利用者への援助方法について学び、指導の下で介護技術を実践する。 第 3 週 受け持ち利用者の個性に応じた介護計画を立案し、チームに承認を得る。 1. 個別援助計画を説明し、承認を得る。 2. 承認された個別援助計画にそって実践し、その経過を記録していく。 3. 自分の介護技術について中間評価を行い、課題を明らかにすると共に、課題解決の取り組みを検討する。 第 4～5 週 個別援助計画を実践しながら経過を観察し、必要に応じて評価・修正する。 1. 個別援助計画にそって実践し、その経過を記録していく。 2. 実践毎、計画に基づいて評価し、修正・追加等行う。 3. 自己課題に基づいて、介護実践を行う。 第 6 週 実習全体を振り返り、自己の介護観を形成する。 1. 実習を振り返り、自分の介護実践についての経過と考察及び個別援助計画を実践してみての振り返りを作成し、学生カンファレンスで発表する。									
事前・事後学習について	最終実習です。介護福祉士として必要な技術を習得するために、自分の「できること」と「できないこと」を明確にして、「まだできていないこと」を積極的に体験し、「できる」ようになってください。そのためには、実習前の介護総合演習での積極的な取り組みと、介護技術の自主練習が大変重要です。また、実習中には積極的に体験させてもらう姿勢も大切です。 受け持ち利用者の介護過程の展開は、2 年間のまとめとなる実習ですので、全力投球してください。									
準備学習に必要な時間	受け持ち利用者のアセスメント及び介護計画の立案に際しては、多様なニーズに応えるための知識と技術が求められます。これまでのすべての教科の復習と実践に活かせるための準備を備えておく必要があります。特に夏休みには、疾病の理解、障害の理解、実践に必要な技術をくり返し復習しておきましょう。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	実習中の態度、実習記録、介護過程の展開など実習全般							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	受け持ち利用者の事例をまとめ『事例報告会』にて発表します。 事例をまとめる過程で、教員とのやり取りを通して、自己課題を振り返り自分と向き合うと共に、専門的知識を確認しながら事例の理解を深めます。									
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	こころとからだのしくみⅠ C31038			通年	講義	4			
担当教員	小川 晃美								
授業の概要	介護実践に必要な根拠となる基本的な人体の構造と機能を日常生活動作と関連付けて学びます。前期は、感染予防の観点から感染の基礎的な知識及び予防法を確認します。また、からだのしくみや、生命徴候（バイタルサイン）について学びます。さらに、この時期の休息と睡眠について学びます。後期も引き続きからだのしくみや機能について学び、生活支援を行うための根拠を学びます。								
到達目標	・感染の基礎的な知識、予防法について理解することができる。 ・休息・睡眠のしくみを理解することができる。 ・バイタルサインの基礎知識を理解することができる。 ・からだのしくみ・はたらきについて理解することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
			○	○					
授業計画	（前期） 1. 感染の基礎知識 感染が発生する要因、基礎的知識、感染対策について理解する 2. 感染の基礎知識 感染予防と正しい手洗、うがい方法や、手袋の着脱方法など基本的な技術を学ぶ。 3. 休息と睡眠のしくみ① 休息と睡眠のしくみを学ぶ 4. 休息と睡眠のしくみ② 睡眠をの質を高めるための生活習慣等を学ぶ 5. 休息と睡眠のしくみ③ 睡眠不足が及ぼす影響について学ぶ 6. からだのしくみ① からだのしくみと身体の名称を知る 7. からだのしくみ② 細胞・組織・器官・器官系を学ぶ 8. 骨・関節のしくみ 骨と関節のしくみとはたらきを学ぶ 9. 筋肉のしくみ 筋肉のしくみとはたらきを学ぶ。 10. からだを動かすしくみ 骨・関節や筋肉によるからだを動かすしくみを学ぶ 11. からだの方向や位置を示す用語 12. 心臓のしくみとはたらき 心臓のしくみとはたらきを学ぶ 13. 循環器のしくみとはたらき 循環器のしくみとはたらきを学ぶ 14. バイタルサインの基礎知識 バイタルサインとは何か基礎的な知識を学ぶ。 15. バイタルサインの測定 （後期） 16. 食事のしくみ なぜ食事をするのか、栄養や食事に関連したからだのしくみを学ぶ。 17. 消化器のしくみとはたらき 消化機能のしくみとはたらきについて学ぶ。 18. 消化腺のしくみとはたらき 消化腺のしくみとはたらきについて学ぶ。								

	19. 感覚器のしくみとはたらき① 感覚器とは、視覚、聴覚平衡感覚器のしくみとはたらきについて学ぶ。 20. 感覚器のしくみとはたらき② 嗅覚・味覚・感覚器としての皮膚のはたらきについて学ぶ。 21. 皮膚のしくみ① 皮膚の機能・発汗のしくみについて学ぶ。 22. 腎臓・泌尿器系のしくみとはたらき 泌尿器系とは何か、排尿のしくみとはたらきを学ぶ。 23. 排泄のしくみとはたらき 排尿の異常や排便のしくみ、便秘について学ぶ。 24. 脳のしくみとはたらき① 基本的な脳の構造と役割を学ぶ。 25. 脳のしくみとはたらき② 脳及び脊髄のしくみとはたらきについて学ぶ 26. 脳・神経のしくみとはたらき 中枢神経と末梢神経のはたらきについて学ぶ。 27. 呼吸器系のしくみとはたらき 呼吸のしくみとはたらきについて学ぶ 28. 内分泌のしくみとはたらき 内分泌系のしくみとはたらきについて学ぶ 29. 生殖器系 生殖器系のしくみと機能を学ぶ。 30. 血液・体液・リンパ系のしくみとはたらき 血液・体液・リンパ系のしくみと機能を学ぶ。		
事前・事後学習について	授業予定表に沿ってその章を一読してきます。ワークシートを授業毎に配布し、授業終了時にチャレンジで授業内容を確認します。ワークシートとともにまとめておきましょう。		
準備学習に必要な時間	授業予定表を見てその章に目を通しておきましょう（30分以上）		
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点
	試験	100	感染の基礎知識と予防法について、からだのしくみとはたらきの理解
	実践	0	
	レポート	0	
	その他	0	
受講上の注意・課題のフィードバック	からだの部位など専門的な用語は覚えにくいかもしれません。理解できないことは早めに質問したり、わからない用語などは調べて自分のものにしていきましょう。 自立支援、生活支援技術の基礎となる知識を学んでいく科目です。それらの科目と関連付けて学んでいきましょう。		
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」 中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 11 ことごとからだのしくみ」 中央法規出版		
参考書			

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	こころとからだのしくみⅡ(1年) C32039			前期	講義	2				
担当教員	村山 真紀子									
授業の概要	対象者の生活を支援することより、健康とは何かを考え、人間の欲求について学びます。そして生涯に及ぶ成長発達を生涯発達心理としてとらえ、それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を学びます。また、一生涯にわたる発達過程の最後の段階である「老年期」と、そこでの発達課題を達成するうえで重要となるサクセスフル・エイジング等の視点について学びます。									
到達目標	・健康の定義を理解し、健康観を考えることができる。 ・人間の欲求について、欲求の種類と内容を理解できる。 ・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる。 ・エリクソンおよび他の発達段階説を理解できる。 ・老化による身体的機能や社会的環境の変化が心理や行動に与える影響について理解することができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
			○	○						
授業計画	1. 健康とは何か 健康の定義を学び、健康観について考える。 2. 人間の欲求とは 心理学的な側面から基本的欲求や社会的欲求を理解する。 3. 自己実現と尊厳・こころのしくみ 自己概念を理解し、こころのしくみを理解する。 4. 成長・発達の考え方 発達の概念・生涯発達の段階について理解する。 5. 成長・発達の原則・法則及び影響する要因 成長・発達の原則・法則及び成長・発達に影響する諸要因について理解する。 6. 人間の発達段階と発達課題 人間の発達段階における一般的な特徴を学び、発達課題について理解する。 7. 身体的機能の成長と発達 身体的な成長と発達および運動機能発達の特徴について理解する。 8. 心理的機能及び社会的機能の発達 心理的機能及び社会的機能の発達について理解する。 9. 発達理論と超高齢期 発達についての様々な理論を理解する。 10. 老年期の定義、老化 老年期の定義を理解し、老化について理解する。 11. 老年期の発達課題 老年期の発達の特徴および人格について理解する。 12. 老年期の今日的課題 老年期の喪失体験とセクシュアリティを学び、今日的課題を理解する。 13. パーソナリティの変化 高齢者のパーソナリティについての理論を理解する。 14. 老化と動機づけ・適応 適応規制について学び、不適応状態を緩和するための心理について考える。 15. 老化にともなう社会的な変化と生活への影響 高齢者の社会生活を知り、老化理論を理解する。									
事前・事後学習について	予定表に基づき、その章を一読してくる。また、授業毎にワークシートを配布し、次の授業時にチャレンジテストの解説をする。授業後、ワークシートを事後学習としてまとめ、チャレンジテストを実施しておく。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページは目を通す（30 分程度） 授業で配布するワークシートを復習し、チャレンジテストをやっておくこと（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	こころのしくみの理解、発達段階、老年期の心理・行動							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回、チャレンジをすることで知識の積み重ねになります。理解できないことは早めに質問したり、調べることで自分のものにしていきましょう。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	こころとからだのしくみⅡ(2年) C32039			後期	講義	2			
担当教員	村山 真紀子								
授業の概要	対象者の生活を支援することより、健康とは何かを考え、人間の欲求について学びます。そして生涯に及ぶ成長発達を生涯発達心理としてとらえ、それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を学びます。また、一生涯にわたる発達過程の最後の段階である「老年期」と、そこでの発達課題を達成するうえで重要となるサクセスフル・エイジング等の視点について学びます。								
到達目標	・健康の定義を理解し、健康観を考えることができる。 ・人間の欲求について、欲求の種類と内容を理解できる。 ・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる。 ・エリクソンおよび他の発達段階説を理解できる。 ・老化による身体的機能や社会的環境の変化が心理や行動に与える影響について理解することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
			○	○					
授業計画	1. 健康とは何か 健康の定義を学び、健康観について考える。 2. 人間の欲求とは 心理学的な側面から基本的欲求や社会的欲求を理解する。 3. 自己実現と尊厳・こころのしくみ 自己概念を理解し、こころのしくみを理解する。 4. 成長・発達の考え方 発達の概念・生涯発達の段階について理解する。 5. 成長・発達の原則・法則及び影響する要因 成長・発達の原則・法則及び成長・発達に影響する諸要因について理解する。 6. 人間の発達段階と発達課題 人間の発達段階における一般的な特徴を学び、発達課題について理解する。 7. 身体的機能の成長と発達 身体的な成長と発達および運動機能発達の特徴について理解する。 8. 心理的機能及び社会的機能の発達 心理的機能及び社会的機能の発達について理解する。 9. 発達理論と超高齢期 発達についての様々な理論を理解する。 10. 老年期の定義、老化 老年期の定義を理解し、老化について理解する。 11. 老年期の発達課題 老年期の発達の特徴および人格について理解する。 12. 老年期の今日的課題 老年期の喪失体験とセクシュアリティを学び、今日的課題を理解する。 13. パーソナリティの変化 高齢者のパーソナリティについての理論を理解する。 14. 老化と動機づけ・適応 適応規制について学び、不適応状態を緩和するための心理について考える。 15. 老化にともなう社会的な変化と生活への影響 高齢者の社会生活を知り、老化理論を理解する。								
事前・事後学習について	予定表に基づき、その章を一読してくる。また、授業毎にワークシートを配布し、次の授業時にチャレンジテストの解説をする。授業後、ワークシートを事後学習としてまとめ、チャレンジテストを実施しておく。								
準備学習に必要な時間	指定した当該ページは目を通す（30 分程度） 授業で配布するワークシートを復習し、チャレンジテストをやっておくこと（30 分程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	こころのしくみの理解、発達段階、老年期の心理・行動						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回、チャレンジをすることで知識の積み重ねになります。理解できないことは早めに質問したり、調べることで自分のものにしていきましょう。								
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	こころとからだのしくみⅢ C33040			前期	講義	2			
担当教員	小川 晃美								
授業の概要	「こころとからだのしくみ」の知識を基盤に、利用者の生活を支える介護実践との関係性を理解していきます。 生活を支援するうえで介護職が行う「医行為でない行為」を中心に具体的な技術、注意点を学びます。 また高齢者に多い感染症と感染対策、介護福祉職に必要な薬の基礎知識、応急手当について学びます。								
到達目標	・感染の基礎的知識及び高齢者に多い感染症について理解することができる。 ・生活支援における「医行為ではない」行為とはどういうものなのかを理解することができる。 ・介護職に必要な薬の知識・管理方法について理解することができる。 ・介護職が行うことができる医行為について演習を通して留意点を理解することができる。 ・応急手当について体験を通して知識を深めることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
		○	○	○					
授業計画	1. 感染の基礎知識 感染が起こる要因や感染症対策について理解する。感染症対策としての手洗い方法を再確認する。 2. 介護職が行うことができる医行為について 介護職が行うことができる「医行為」と「医行為ではない行為」の違いなどについて学ぶ。 3. 温電法・冷電法 電法の目的や、効果・種類を理解し、湯たんぽ及び氷枕の目的、方法について学ぶ。 4. 介護職に必要な薬の知識、薬の成り立ちと効果 薬の作用・副作用について留意点と薬の形態（種類）服薬時間などを理解する。 5. 高齢者に多い疾病と症状から見る服薬管理と留意事項 注意が必要な薬と効果についておよび服薬管理の留意点について理解する。 6. 褥瘡の原因、好発部位、症状について 褥瘡の原因を知り、その好発部位及び症状について理解する。 7. 褥瘡の予防 褥瘡に対しての予防方法を考える。 8. 膀胱留置カテーテル管理・摘便 導尿の目的と種類や介護職における膀胱留置カテーテル法の管理と留意点などを学ぶ。摘便について学ぶ。 9. 膀胱・直腸障害による人工肛門・人工膀胱について理解する。 ストーマについて理解し、ストーマ装具の交換及び介護職の役割を理解する。 10. 高齢者に多い感染症①（肺炎、インフルエンザ、結核等） 高齢者に多い肺炎、インフルエンザ、結核等について理解する。 11. 高齢者に多い感染症②（ノロウイルス、疥癬、MRSA、尿路感染症等） 高齢者に多いノロウイルス、疥癬、MRSA、尿路感染症等について理解する。 12. 酸素療法・ペースメーカーについて 呼吸機能障害のある人が使用している酸素療法について、心臓機能障害の人のペースメーカーについて基礎的知識を深める 13. 応急手当（演習）① 応急手当とはどういうことなのか基礎的な知識を深める。 14. 応急手当（演習）② 応急手当について理解し、応急手当の方法を体験する。 15. 透析・小腸機能障害における栄養法について 腎機能障害のある人が行っている人工透析と、小腸機能障害のある人が行っている栄養法について基礎知識を深める。								
事前・事後学習について	授業毎にワークシートとチャレンジを配布します。ワークシートを見直しを行ない復習してください。また、「チャレンジ」は国家試験対策にもなりますので要点を押さえることができます。チャレンジはその時間毎で回収するのでわからないところは解決できるように質問してください。また、医療用語・語句が多く出てきます。調べて自分のものにしていってください。								
準備学習に必要な時間	授業予定表に基づきテキストを一読しておきましょう（30分以上）								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	100	介護職が行う医行為について注意点、気を付けるポイントなど、感染症の基礎知識 薬の知識						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	介護職が行う行為にはどのようなものがあり、どの行為は実施できるのかまた、できないのかを確認していきます。感染予防として手洗いの仕方など方法など日常的に行っている行為などを振り返る機会となります。日頃からどのようにしているのか思い返し、日常の中で実践してください。								
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」 中央法規								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	発達と老化の理解 I C33041			前期	講義	2				
担当教員	小川 晃美									
授業の概要	人間の成長と発達の基本的な考えを踏まえ、老化や加齢に伴い、身体にはどのような変化が起き、日常生活にどのような影響が出てくるのかを学びます。また高齢者に多い症状の現れ方、廃用症候群などを学び、生活を支援していく上での基本的な知識を深めていきます。									
到達目標	・成人および老年期の老化や加齢に伴う身体的機能変化が、日常生活にどのような影響を及ぼすかについて理解することができる。 ・廃用症候群及び老年症候群の特徴を理解することができる。 ・高齢者に多い症状や特徴を学び、生活を支援する上での留意点が理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
			○	○						
授業計画	1. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響① 視覚・聴覚及び平衡機能の変化と日常生活への影響を学ぶ 2. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響② 嗅覚・味覚、感覚器としての皮膚の機能の変化と日常生活への影響を学ぶ。 3. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響③ 骨格系・筋系の機能の変化と日常生活への影響を学ぶ 4. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響④ 消化器系の機能の変化と生活への影響について学ぶ 5. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響⑤ 血液・循環器系の変化と日常生活への影響を学ぶ 6. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響⑥ 呼吸器系の機能の変化と日常生活への影響を学ぶ 7. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響⑦ 腎及び泌尿器系・生殖器系の機能の変化と日常生活への影響について学ぶ 8. 成人および老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響⑧ 加齢に伴う生理機能の低下、免疫機能・体温調節機能の変化と日常生活への影響について学ぶ 9. 高齢者の症状・疾患の特徴 高齢者の症状や疾患の特徴について理解する。 10. 生活不活発病（廃用症候群）とは 生活不活発病とは何か、その起こり方、高齢者における特徴を学ぶ。 11. 老年症候群とは 老年症候群とは何か、その分類と特徴を学ぶ。 12. 高齢者に多い老年症候群 老年症候群と考えられるしびれ、浮腫めまいがどのように起きるのか、またその留意点を学ぶ。 13. 老化に伴う身体機能低下による症状（低栄養・転倒・骨折について） 高齢者の低栄養・転倒・骨折について理解し日常生活への影響について学ぶ。 14. 高齢者における熱中症・脱水 熱中症、脱水について学び、生活での留意点を理解する。 15. 高齢者における便秘・下痢・貧血 便秘や下痢、貧血について学び、生活での留意点を理解する。									
事前・事後学習について	授業予定表に沿いその章を一読してきてください。ワークシートを授業毎に配布し、授業終了時にチャレンジで授業内容を確認します。ワークシートとともにまとめておきましょう。									
準備学習に必要な時間	授業予定に沿ったテキストを一読してください（30 分以上）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	老化・加齢に伴う身体機能がどのように変化するのか、また、高齢者の様々な症状がどのような病気から起こり、どのように生活支援の上で留意していくか。							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	「ここからだのしくみ」が基本となりますので復習しておいてください。 資料などが多いですが、しっかりノートをまとめていきましょう。医学用語が多く、読み方や、意味の分からない語句が出てきます。そのままにせず確認していきましょう。またキーワードをノートにまとめていきましょう。授業中わからないことはチャレンジシートに記入してください。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 11 ここからだのしくみ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	発達と老化の理解Ⅱ C34042			後期	講義	2				
担当教員	小川 晃美									
授業の概要	「発達と老化の理解Ⅰ」で学んだ高齢者に多くみられる特徴・症状をふまえ、さらに高齢者に多い疾患や内部障害、生活習慣との関連性を学び、それらの疾患や症状がどのように生活へ影響するのかを学びます。									
到達目標	・各器官における高齢期に多い疾患の原因や症状について学ぶことができる。 ・さまざまな疾患や症状が日常生活へどのように影響するかを学ぶことができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○	○					
授業計画	1. 生活習慣と脳血管疾患 生活習慣病とは何かを学び、生活習慣病の中の脳血管疾患の分類・症状などを学ぶ。 2. 生活習慣病とその生活上の留意点（がん・悪性新生物） 高齢になるほど増加するがんの中でも胃・肺・大腸がんについて原因や症状などを学ぶ。 3. 高齢者に多い循環器系の病気① 高齢者に多い高血圧症、不整脈について学び、生活上の留意点を理解する。 4. 高齢者に多い循環器系の病気② 高齢者に多い虚血性心疾患、内部障害として心不全や心臓機能障害を学び、日常生活での留意点を理解する。 5. 高齢者に多い内分泌・代謝系の病気① 糖尿病についてその疾患の原因と特徴的な症状について学び、生活への影響を学ぶ。 6. 高齢者に多い内分泌・代謝系の病気② 脂質異常症と痛風（高尿酸血症）について原因とその特徴、日常生活での留意点について学ぶ。 7. 高齢者に多い骨格系・筋系の病気① 高齢者に多い骨格系・筋系の病気の中でも変形性膝関節症、関節リウマチの症状に対する生活支援を学ぶ。 8. 高齢者に多い骨格系・筋系の病気② 高齢者に多い骨折や変形性脊椎症、脊柱管狭窄症について症状と支援を学ぶ 9. 高齢者に多い呼吸器系の病気 高齢者に多い呼吸器機能障害（肺炎や COPD）や呼吸器系の病気とその症状について学び、その利用者の生活支援の方法を学ぶ。 10. 高齢者に多い消化器系の病気 高齢者に多い、消化性潰瘍、逆流性食道炎などの疾患とその症状について学ぶ。 11. 神経系の病気および精神症状と生活上の留意点 高齢者に多い神経系の病気と、高齢者特有の精神障害について生活上の留意点を学ぶ。 12. 口腔・眼の病気と生活上の留意点 高齢者に多い歯周病や、眼の病気について学び、生活上の留意点を学ぶ。 13. 皮膚・耳の病気と生活上の留意点 高齢者に多い皮膚や耳の病気について知識を深め、生活上の留意点を学ぶ。 14. 高齢者に多い腎・泌尿器系の病気と、肝機能・免疫機能障害の病気と生活上の留意点。 内部障害の肝機能障害・免疫不全症候群の人への理解と生活上の留意点について学ぶ。 15. 他職種との連携 保健医療職とのチームケアの必要性、連携について学ぶ。									
事前・事後学習について	授業予定表に沿ってその章を一読しておきましょう。 ワークシートを授業毎に配布し、授業終了時にチャレンジで授業内容を確認します。授業で伝えるキーワードをノートにまとめ、ワークシートやチャレンジで。									
準備学習に必要な時間	予定表に沿って指定されているテキストの箇所を一読してきましょう（30 分以上）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	高齢者に多い疾患や、疾患や症状が生活に与える影響と介護について問います。							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	「発達と老化の理解Ⅰ」で学んだ老化や加齢に伴う心理・身体的変化はどのようなものがあったのか、など復習が必要となります。医学用語や病気の名前など難しい言葉などが出てきます。覚えて起きたキーワードや語句を授業内で伝えますのでまとめていきましょう。授業中のわからない語句や、質問事項は、チャレンジシートに書いてください。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	認知症の理解 I C32043			後期	講義	2				
担当教員	村山 真紀子									
授業の概要	認知症の医学的側面からみた基礎的知識を中心に学び、認知症に伴うところとからだの変化が日常生活に及ぼす影響を理解していきます。									
到達目標	・ 認知症の原因となる主な疾病や症状の特徴が理解できる。 ・ 認知症によって引き起こされる機能の変化や心理的变化、日常生活への影響について理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○	○	○						
授業計画	1. 認知症とは何か 認知症の定義を知り認知症の特徴を理解する。 2. 脳のしくみ 老化に伴う脳の変化と認知症の関係について理解する。 3. 中核症状の理解 事例をもとに中核症状について考える。 4. 生活障害の理解 認知症における生活障害を考える。 5. BPSD の理解 BPSD の要因・症状について考える。 6. 認知症の原因疾患からみた症状① -アルツハイマー型認知症- 7. 認知症の原因疾患からみた症状② -血管性認知症- 8. 認知症の原因疾患からみた症状③ -レビー小体型認知症- 9. 認知症の原因疾患からみた症状④ -前頭側頭型認知症- 10. 認知症の原因疾患からみた症状⑤ -若年性認知症- 11. 認知症の原因疾患からみた症状⑥ -その他の原因疾患の理解- 12. 認知症に類似した症状の理解 -せん妄・うつ病- 13. 認知症の診断についての理解 14. 視覚教材からの学び 映画『ケアニン』から認知症の人及びその家族について考える。 15. 認知症の治療・予防法についての理解									
事前・事後学習について	予定表に基づき、その章を一読してくる。また、授業毎にワークシートとチャレンジ 100 を配布するので、事後学習としてまとめておく。参考書等、認知症の当事者の手記などを読んで認知症の理解を深めておくこと。									
準備学習に必要な時間	授業で取り上げた内容について配付するワークシートを復習し〈チャレンジ 100〉をやっておくこと。(30 分以上)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	認知症の原因と症状の理解、機能及び心理的变化の理解							
	実践	0								
	レポート	20	視聴覚教材を通して							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	医学的側面からみた認知症の基礎的知識を学習していきます。 授業の内容に合わせて準備をして下さい。 レポートについては、添削を行い返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解」 中央法規									
参考書	佐藤雅彦著「認知症になった私が伝えたいこと」大月書店 砂川啓介著「娘になった妻 のぶ代へ -大山のぶ代『認知症』介護日記-」双葉社 樋口直美著「私の脳で起こったこと レビー小体型認知症からの復活」ブックマン社 丹野智文著「丹野智文 笑顔で生きる」文藝春秋									

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	認知症の理解Ⅱ C33044			前期	講義	2			
担当教員	稲垣 みき								
授業の概要	介護福祉士として、認知症の方との関わる際、具体的にどのような関わりをしたらよいのか、どんな支援が求められているのか認知症の人の立場にたち、考え学んでいきます。また、家族への支援、地域の役割を事例を交えながら学んでいきます。								
到達目標	・ 認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の状況が理解できる。 ・ 認知症のある人の尊厳を守り、「その人らしい生活」を支えていく介護について理解ができる。 ・ 認知症のある人の家族への支援や地域におけるサポート体制がわかる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
	○	○	○	○	○	○			
授業計画	1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史を紐解き、これからの認知症ケアについて考える 2. 認知症ケアの理念と視点 認知症ケアにおける理念や倫理、権利について考える 3. 認知症の人の思い 認知症の人の思いを理解し、支援内容の基本について学ぶ 4. その人らしさを大切にしたい認知症ケアの理念 パーソンセンタードケアとは 5. 認知症の人の理解と特性をふまえたアセスメントツール センター方式、ひもときシートとは 6. 認知症ケアの実際① 認知症の人とのコミュニケーション 7. 認知症ケアの実際② 食事のケアについて 8. 認知症ケアの実際③ 排泄や入浴、清潔保持のケアについて 9. 認知症ケアの実際④ BPSDにつながる原因から、安心できる場について 10. 認知症の人と環境について 認知症の人と環境の関係について具体例をあげて考える 11. 認知症の人へのさまざまなアプローチ方法 さまざまなアプローチ方法を理解する 12. 認知症の人の終末期医療と介護 終末期における認知症の人の特徴を理解し関わり方を考える 13. 認知症の人に対する介護 実習での事例を通し認知症ケアについて考える 14. 介護者支援 認知症の人を支える家族や介護福祉士について考える 15. 認知症の人の地域生活支援 認知症施策や認知症ケアに携わる多職種について理解する								
事前・事後学習について	“認知症”について基本的・医学的な知識の理解が基礎となります。1年で学んだ「認知症の理解Ⅰ」のテキストやノートを見直しておいてください。また、現在認知症に関しての図書が豊富に発行されています。是非読んで、本人や家族の思いを知るなど知識を深めていただきたいと思います。また、実習を通して、認知症の方との関わりから、事例として学んでゆきたいと考えています。自分が困った事例など、提供してもらい一緒に考えてゆきましょう。								
準備学習に必要な時間	授業で配布したワークシートを復習しておくこと。(30分以上)								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	100	試験						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の内容によっては実習での事例を取り上げ学習していきます。 授業に合わせて準備をして下さい。								
使用テキスト	「新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規 「新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解」中央法規								
参考書	特に指定しない								

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	障害の理解 I C32045			後期	講義	2				
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	障害の概念や障害者福祉の基本理念を学び、発達障害・知的障害・重複障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を学びます。また、言語障害のある人の生活について当事者の方から話を伺い、本人及び家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を考えます。									
到達目標	・「障害」とは何か、考え、障害者福祉の基本理念が理解できる。 ・発達障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。 ・知的障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。 ・言語障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。 ・重複障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○		○	○					
授業計画	1. 障害の概念 障害者基本法の定義について学ぶ。 2. 障害者の法的定義 障害者の法的な定義について学ぶ。 3. 障害者福祉の基本理念① ノーマライゼーションとリハビリテーションを学ぶ。 4. 障害福祉の基本理念② インクルージョンと障害者権利条約を学ぶ。 5. 障害者福祉に関連する制度 障害者総合支援法のしくみを学ぶ。 6. 障害のある人の心理 言語障害と身体障害のある人から話を聞き、その心理について考える。 7. 知的障害の基礎的理解 知的障害のある人の障害の特性を学ぶ。 8. 知的障害ののに特性に応じた介護 知的障害の特性と生活上の困りごとを理解する。 9. 発達障害の基礎的理解 発達障害のある人の障害の特性を学ぶ。 10. 発達障害の特性に応じた介護 発達障害の特性と生活上の困りごとを学ぶ。 11. 重複障害の基礎的理解 重複障害の特性を学ぶ。 12. 13. 重複障害のある人の生活 「どんぐりの家」を鑑賞して、重複障害のある人及びその家族の心理を知り支援の方法を学ぶ。 14. 重症心身障害の基礎的理解 重症心身障害の特性を学ぶ。 15. 重症心身障害のある人の理解 重症心身障害の基礎的理解と生活上の困りごとを学ぶ。									
事前・事後学習について	さまざまな原因で障害を持った方の生活を理解し、生活支援を学ぶ授業です。「人間の理解」「社会と制度の理解」等の関連科目と結び付けて考え、日頃から社会に目を向けることが事前事後学習となります。その日の講義内容に応じたワークシート、チャレンジ 100 を配布しますので、授業後は事後学習として取り組んでください。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 100〉をやっておくこと(30 分程度)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	85	障害の理解、障害者の法的定義、基本的理念、障害の特性と生活支援							
	実践	0								
	レポート	15	当事者の話を聞いてのレポート (10)「どんぐりの家」を見て (5)							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	障害者福祉について広く興味を持って、関連した報道があれば読んでおくこと。 国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ」の解説までしっかり聞いてください。 レポートは、コメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	障害の理解Ⅱ C33046			後期	講義	2				
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	障害の特性を理解し支援の方法を学びます。障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、生活の質を高める支援を学びます。障害のある人の生活を支えるためのサポート体制や多職種連携・協働の支援について学びます。また、障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援方法について学びます。									
到達目標	・ 障害の特性について医学的・心理的側面から理解できる。 ・ 地域における障害福祉サービスについて理解できる。 ・ 障害のある人を支える家族について知り、その支援方法を理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
		○		○	○					
授業計画	1. 肢体不自由の基礎的理解 肢体不自由の原因と障害の特性、合併症について学ぶ。 2. 肢体不自由の特性に応じた支援 肢体不自由の生活上の困りごとを理解し介護方法を学ぶ。 3. 難病の基礎的理解 難病の定義、難病の種類、難病法について学ぶ。 4. 難病の特性に応じた支援① 主な難病（ALS・パーキンソン病）について理解する。 5. 難病の特性に応じた支援② 主な難病（悪性関節リウマチ・筋ジストロフィー）について理解する。 6. 高次脳機能障害の基礎的理解 高次脳機能障害とは何か、高次脳機能障害の原因と具体的な症状について学ぶ。 7. 高次脳機能障害の特性に応じた支援 高次脳機能障害の生活上の困りごとを理解し介護方法を学ぶ。 8. 精神障害の基礎的理解 精神障害・精神障害者の定義、主な精神障害（疾患）について原因と特性を学ぶ。 9. 精神障害の特性に応じた介護 精神障害の生活上の困りごとを理解し介護方法を学ぶ。 10. 地域のサポート体制 地域で暮らすために必要な障害福祉サービスの提供のしくみを学ぶ。 11. 障害福祉サービスの提供のしくみ 障害者総合支援法のしくみとサービスの利用の仕方について学ぶ。 12. 障害者福祉制度と介護保険制度 ケアマネジメントの流れと相談支援事業等との連携について学ぶ。 13. チームアプローチ 協議会と多職種連携を学ぶ。 14. 家族への支援 障害の受容の段階と家族支援を学ぶ。 15. 家族の介護力の評価と介護負担の軽減 家族と障害者、環境との関係に着目した支援を学ぶ。									
事前・事後学習について	その日の授業計画に沿ったワークシートを授業毎に配布します。授業終了時、「チャレンジ 200」を配布します。それを事後学習として行ってもらいます。次の授業開始時、「チャレンジ 200」の内容を確認していきます。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 200〉をやり提出すること(30 分程度)									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	90	障害の医学的側面の基礎知識、生活を支援する上での留意点、家族支援の在り方、チームケアのアプローチ							
	実践	0								
	レポート	10	難病のある人の生活についての DVD を見て、介護福祉士としてどう生活を支えるのか							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回のチャレンジは知識の積み重ねになります。理解できるようにきちんとやっておきましょう。国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ」の解説までしっかり聞いて理解してください。レポートは、コメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	医療的ケア C33047			通年	講義・演習	5			
担当教員	小川 晃美・村山 真紀子・宮島 彩								
授業の概要	医療的ケアが必要な人の安全かつ安楽な生活を支援するという観点から医療職との連携のもと、医療的ケアを安全に・適切に実施できるよう、関連する制度の概要や個人の尊厳と自立、倫理上の留意点、感染予防、安全管理体制等の基礎的な知識を学びます。また喀痰吸引の基礎的知識・実施手順、経管栄養の基礎的知識、実施手順を習得していきます。								
到達目標	・医療的ケアの実施に関して安全性及び感染防止の観点、基礎的知識を理解することができる。 ・喀痰吸引の基礎的知識、根拠に基づいた手技・手順を理解することができる。 ・経管栄養の基礎的知識、根拠に基づいた手技・手順を理解することができる。 ・演習にて、口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引・胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養の技術を習得することができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6			
	○	○	○	○					
授業計画	<前期> 1. 人間と社会（個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解） 2. 保健医療制度（保健医療に関する制度、医行為に関する法律） 3. チーム医療と介護職員との連携、医療的ケアの安全な実施の重要性 4. 医療的ケアを安全に行うために、ヒヤリハット報告書とアクシデント 5-6. 救急蘇生法、清潔保持と感染予防（感染予防、職員の感染予防） 7. 療養環境の清潔、消毒法 8. 健康状態の把握（身体の把握、健康状態を知る項目） 9-10. 健康状態の把握（急変状態について）「たんの吸引」概論（呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態） 11-12. 「たんの吸引」概論（たんの吸引とは、人工呼吸器と吸引） 13. 「たんの吸引」概論（呼吸器系の感染と予防、子どもの吸引） 14. 「たんの吸引」概論（吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応） 15-16. 「たんの吸引」概論（たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策） 【後期】 17-18. 「たんの吸引」実施手順解説（たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 吸引の技術と留意点①） 19. 「たんの吸引」実施手順解説（吸引の技術と留意点②） 20. 「たんの吸引」実施手順解説（吸引の技術と留意点③） 21. 「たんの吸引」実施手順解説（報告及び記録、たんの吸引に伴うケア） 22. 「経管栄養」概論（消化器系のしくみとはたらき） 23. 「経管栄養」概論（消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは） 24. 「経管栄養」概論（注入する内容に関する知識） 25. 「経管栄養」概論（経管栄養実施上の留意点、子どもの経管栄養について） 26. 「経管栄養」概論（経管栄養に関する 感染と予防） 27. 「経管栄養」概論（利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 経管栄養により生ずる危険、注入後の安全確認） 28. 「経管栄養」概論（急変・事故発生時の対応と事前対策、経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持） 29. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点①） 30. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点②） 31-32. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点③） 33. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養に必要なケア、報告及び記録） <演習> 4 コマ／日、5 日間（口腔内・鼻腔内吸引（通常）、気管カニューレ内吸引（通常） 胃ろう経管栄養、経鼻経管栄養法）								
	事前・事後学習について 呼吸器・消化器のしくみや働きの理解が求められます。「こころとからだのしくみⅠ」におけるからだのしくみや働きを復習しておいてください。 この科目は、演習の合格をもって卒業後、現場にて実地研修を行うことになります。								
準備学習に必要な時間	テキストを一読しておくこと（30 分）								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	60	理解度（医療的ケアの基礎、喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識・実施手順解説）90%以上						
	実践	40	演習：口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引・胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養を各 5 回実施、最終回にすべて修得している者が合格とする						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	講義の最後で「まとめ」「振り返り」「復習」を行います。国家試験の内容に沿ったものありますのでしっかりと押さえておいてください。								
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」 中央法規								
参考書	「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」一般社団法人全国訪問看護事業協会 編集 「介護職員等のための医療的ケア」ミネルヴァ書房 「わかる たん吸引と経管栄養 DVD」医学評論社								

4. 食物栄養専攻

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	公衆衛生学 F13001			前期	講義	2		必修	
担当教員	村山 真紀子								
授業の概要	公衆衛生とは、健康を支援する社会防衛機能としての保健医療福祉活動であり、そのための技術と科学的根拠を提供する学問です。変貌する我が国の健康の実態や、私たちの健康を支援する公衆衛生活動の概要を栄養士の視点から考えます。								
到達目標	1. 日本における健康の実態を述べることができる。 2. 健康を支援する公衆衛生の取り組みについて述べることができる。 3. 公衆衛生活動と栄養士の役割を述べることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
					○				
授業計画	1. 公衆衛生の概念 2. 健康とは、公衆衛生の歴史 3. 健康と環境 4. 健康の指標 5. 感染症対策 6. 感染症対策 7. 感染症対策 8. 地域保健活動（ヘルスサービスの構造） 9. 環境保健 10. 環境保健 11. 環境保健 12. 学校保健 13. 学校保健 14. 健康教育とヘルスプロモーション 15. まとめ								
事前・事後学習について	公衆衛生学は、私たちが健康生活を営むために欠かせない内容を包含しています。しかし、用語をはじめとして政策や法律等難解な内容も多い科目です。 事前学習は、テキストに掲載されている用語の理解を中心に行ってください。 事後学習は、授業で学んだことを、個人の日常生活にあてはめて考え、行動変容へ繋げていってください。								
準備学習に必要な時間	事前学習：テキストに掲載されている用語の理解を中心に行ってください（30 分程度）。 事後学習：授業で学んだことを、個人の日常生活にあてはめて考えてください（30 分程度）。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	80	定期試験。公衆衛生と健康の概念、他						
	実践	20	授業毎の感想や質問を用紙に記述し提出する。						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	受講に際しては、テキストと配布プリントを必ず持参してください。 授業毎に記述した感想や質問に対しては、次の授業でコメントします。								
使用テキスト	「公衆衛生がみえる」 MEDIC MEDIA								
参考書	「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会								

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	生活経営学 F14002			後期	講義	2				
担当教員	富田 勝彦									
授業の概要	私たちの生活は社会や環境、歴史・文化など様々な面と相互に関連しあっている。しかし、毎日とは比較的単純で反復的なことから、その関連性や論理性を意識することは少ない。そこで本授業では、生活の諸側面の論理と社会の仕組みや関連性などの理解を通して、各人が主体的に自身の生活を営むするという意識を再認識し、構築することを目指す。									
到達目標	・生活に関する基礎知識を理解する ・家族、家計、労働、福祉、環境など、生活の実態と関係性を理解する ・生活上の諸問題に対して、生活経営学の視点からアプローチし考察する ・生活者としての主体性を構築する									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
		○								
授業計画	1. 生活とは何か、生活経営学とは何か 2. 生活の組織と単位の変化 3. 家族に関わる法律 4. 生活と地域共生社会 5. 生活時間のとらえ方と生活時間の実態 6. 家計のとらえ方と実態 7. 人間関係の捉え方と関係性の実態 8. ケイパビリティ・アプローチ 9. 生活手段でとらえる 10. 働くこと職業をもつこと（職業労働と家事労働） 11. 生活と福祉 12. 社会保障の仕組み 福祉と情報 13. 生活と契約・消費者問題 14. ライフスタイルと環境 15. 持続可能な社会の生活設計									
事前・事後学習について	「生活する＝生きていく」とはどういうことか、意識して考えてみましょう。 （日ごろから新聞・テレビのニュースやネットニュースを見る習慣をつけ、気になる事柄を意識して考えてみてください。）									
準備学習に必要な時間	今、社会ではどんなことが起こっているのか、新聞・テレビのニュースやネットニュースなどで毎日 10 分程度する習慣を身につけましょう。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	生活に関する基礎知識の理解、生活経営の現状と課題の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	質問や意見等があれば、授業の中で積極的に発言してください。課題として取り上げます。議論していきましょう。									
使用テキスト	「持続可能な社会をつくる 生活経営学」日本家政生活経営学会 編 朝倉書店. 2020 年									
参考書	必要に応じて随時、授業内で案内									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	生化学 F12003			後期	講義	2			
担当教員	千 裕美								
授業の概要	ヒトが食物を摂取した後、食物は消化器官で消化・吸収される。さらに、その栄養成分は循環器を経由して 60 兆個あるといわれる各細胞に到達する。その後細胞内で栄養成分は代謝され、エネルギーや体の構成成分となる。本講義では、消化吸收の過程と栄養成分が細胞内でエネルギーを生成する過程、体の構成成分を合成する過程、生体の恒常性を保つ機構について学ぶ。								
到達目標	3 大栄養素である炭水化物・脂質・たんぱく質の構造と機能、および消化の過程がわかる。各栄養素が細胞に達した後、細胞内でどのような代謝の過程をたどるのが理解できる。ヒトの食物摂取とエネルギー獲得および体を構成・維持することの関連および重要性が理解できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
	○		○						
授業計画	1. 生化学で何を学ぶのか 2. 代謝の概要① 1. 消化・吸収の概要 (1) 炭水化物食品の消化吸收 3. 代謝の概要② (2) たんぱく質食品の消化・吸収 (3) 脂質食品の消化・吸収 4. 代謝の概要③ 2. 食物からのエネルギー生成方法 5. 酵素① 1. 酵素の一般的性質 2. 酵素の特性 3. 酵素活性の調節 6. 酵素② 4. 酵素反応の阻害 7. 生体のエネルギー 1. ATP の役割 2. 生体酸化 8. 糖質の代謝① 1. 解糖系、TCA 回路、電子伝達系 9. 糖質の代謝② 2. ペントースリン酸回路、グルクロン酸回路 3. 糖質の貯金と血糖値の維持 10. 脂質の代謝① 1. 生体内で脂質はどのように運ばれるのだろうか 2. β - 酸化 11. 脂質の代謝② 3. ケトン体の合成 4. 脂肪酸の合成 5. コレステロールの合成 12. 脂質の代謝③ 6. 不飽和脂肪酸の合成と分解 7. (エ) イコサノイド 13. たんぱく質・アミノ酸の代謝① 1. アミノ酸代謝の概要 2. 体たんぱく質の動的平衡状態 14. たんぱく質・アミノ酸の代謝② 3. 細胞内に入ったアミノ酸の行方 4. アミノ酸代謝のまとめ図 15. 核酸の代謝								
事前・事後学習について	生体内における物質変化（代謝）について学びます。化学式やカタカナによる物質名称が多く出るため、一つ一つの言葉に詰まってしまうかもしれません。それを克服するために、予習・復習を必ずしましょう。レジメをあらかじめ配布するので、必ずテキストを読んで大ざっぱに内容を把握し、自分でまとめてから、授業に臨んでください。他の授業（食品学や栄養学）と関連が深いので、他教科を復習しながら、自分の言葉で各自のオリジナルノートにまとめましょう。								
準備学習に必要な時間	レジメで予習する時間は、毎回 1 時間程度行ってください。 章ごとに、問題を提示するので、各自ノートにまとめてください（学習時間は毎回 1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	60	内容の理解						
	実践	20	授業プリント、まとめノート						
	レポート	20	代謝マップ						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業のレジメは授業毎、学習ノートは章ごとに提出してください。 授業のレジメの感想欄にわからないことや疑問点を記入していただければ、次の時間にお答えしたものを返却します。学習ノートについても、章ごとに感想の欄を設けて、そこに感想を書くとともに質問も書いていただければ、それについて授業でフィードバックします。								
使用テキスト	<はじめて学ぶ>健康・栄養系教科書シリーズ② 生化学 ヒトのからだの構成と働きを学ぶために 小野 廣紀・千 裕美・吉澤みな子・日比野久美子著 化学同人								
参考書	代謝ガイドブック（初歩からのメディカル）霜田 幸雄（著）技術評論社 イラストレイテッド生化学 原書 6 版（リッピンコットシリーズ）石崎 泰樹・丸山 敬（監修，翻訳）丸善出版 「代謝」がわかれば身体がわかる（光文社新書）新書 大平 万里著 Dr. Bono の生命科学データ解析 坊農秀雅著 メディカルサイエンスインターナショナル 代謝ナビゲーション ミトコンドリアを中心とする代謝ネットワーク 大竹明他訳 MSI 生化学ノート 第 3 版（栄養科学イラストレイテッド〔演習版〕）菌田 勝								

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	栄養科学実験 I F13004			前期	実験	1				
担当教員	友竹 浩之									
授業の概要	栄養科学実験 I では、生体成分などを試料に用いて、それらの化学的性質を測定し、栄養学との結びつきを推察します。具体的には五大栄養素の特性と、その体内における代謝・排泄などについて、分析化学的な観点から学び、栄養士として求められる生化学分野の深い理解を目指します。									
到達目標	1) 五大栄養素に興味を持てるようになる。 2) 五大栄養素の代謝メカニズムについて興味を持てるようになる。 3) 最終的に科学（生化学）的な証拠を元にした栄養指導内容を考えられるようになる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
					○					
授業計画	1. 水溶性ビタミン・脂溶性ビタミンの分析 2. 糖質の定性実験 3. 肝グリコーゲンの抽出実験 4. α グルコシダーゼの実験 5. 総コレステロールの定量 6. 脂肪酸の分析 7. 中間テスト A/実験 5-6 のクロマト解説 8. 遊離アミノ酸の定量 9. アレルギーに関する実験① 10. アレルギーに関する実験② 11. 中間テスト B/アレルギーに関する実験③ 12. アレルギーに関する実験④ 13. ラットの実験① 14. ラットの実験② 15. ラットの実験③									
事前・事後学習について	実験実習は五大栄養素の実験を体験して理解してもらう内容になっています。事前学習としてそれぞれの実習計画に関係する栄養学を図書館で調べたり、ネット検索しておくことと実習内での体験がより深まると思います。事後学習では実習での体験を考察を踏まえて説明できるようにしておいてください。									
準備学習に必要な時間	授業内で配布するプリントを事後学習として解いてください（毎回 1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	60	小テストを行う。またレポート評価の低かった学生に対してのみ期末試験を実施							
	実践	0								
	レポート	40	到達目標 1-3) に基づき論文形式で提出							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。									
使用テキスト	特になし（授業でプリントを配布します）									
参考書	特になし									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	解剖生理学 F12005			後期	講義	2					
担当教員	波多野 剛之										
授業の概要	構造は機能を伴い、機能は構造を伴う。人体の各部分の構造と機能を系統的に理解することによって、正常な人体の活動が把握できるように学習する。										
到達目標	人体の各部分の構造と機能について理解し、人体の活動が把握できる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
			○								
授業計画	1. 総論（筋・骨格系） 2. 総論（循環器系） 3. 総論（消化器・呼吸器・泌尿器系） 4. 総論（内分泌系） 5. 総論（神経系） 6. 頭・頸部（脳） 7. 頭・頸部（眼・耳・鼻） 8. 頭・頸部（口腔・歯・咽頭・喉頭） 9. 胸部(肺) 10. 胸部（心臓） 11. 胸部（心臓） 12. 腹部・背部（消化器） 13. 腹部・背部（消化器） 14. 腹部・背部（泌尿・生殖器） 15. 上肢・下肢										
事前・事後学習について	授業に臨む前にテキストを読み、内容について予習すること。 授業後には、学んだ内容について復習し、理解を深めること。										
準備学習に必要な時間	事前学習としてテキストを使用した予習（概ね 30 分程度） 事後学習としての復習（1 時間程度）										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	100	試験								
	実践	0									
	レポート	0									
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	指定された席での受講となります。各自、確認の上間違えないようにしてください。										
使用テキスト	ぜんぶわかる 人体解剖図 成美堂出版（坂井建雄・橋本尚詞 著）										
参考書											

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	栄養科学実験Ⅱ F14006			後期	実習	1				
担当教員	千 裕美・岩瀬 彩香									
授業の概要	栄養科学実験Ⅱでは、人体の構造と機能について、生理学実験、運動生理学実験、組織標本スケッチ、食品生化学実験、栄養アセスメントの基礎理解、スポーツ選手の献立作成と救急法、プレゼンテーション実習などを行います。ヒトの生命現象についての理解を目的とし、栄養士として求められる実践的な知識と技能を修得します。									
到達目標	1) 人体の構造に興味を持てるようになる 2) 食品中の生化学的反応について興味を持てるようになる 3) アセスメントを経て運動と栄養の関わりについて知識と実践を深め、スポーツ選手の献立や救急法を身につける。 4) 学んだ知識をプレゼンテーションによって人に伝える能力を身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○		○					
授業計画	1. 感覚に関する実験 2. 味覚に関する実験 3. 呼吸・循環器に関する実験 4. 食品中の DNA の抽出 5. 酵素の実験（基質と温度依存性） 6. 種々のアミラーゼ実験 7. スケッチに関する実験 8. 栄養状態の判定（身体計測・尿検査） 9. 運動生理学の実験① 10. 運動生理学の実験② 11. スポーツ選手の献立作成 12. 救急法 13. プレゼンテーション実習① 14. プレゼンテーション実習② 15. プレゼンテーション実習③									
事前・事後学習について	自分の身体をテーマとする種々の実験を体験して人体の構造の機能を理解してもらう内容になっています。事前学習としてそれぞれの実習計画に関係する項目を図書館で調べたり、ネット検索しておくことと実習内での体験がより深まると思います。事後学習では実習での体験を考察を踏まえて説明できるようにしておいてください。									
準備学習に必要な時間	前時に次回の実験内容について連絡しますので、その内容に従って関連科目ですでに学習した内容をテキストを用意して準備してください（毎回 10 分程度）。 実験終了後、できるだけ時間内に授業の振り返りを行ってください。任意で学習する場合には、その関連項目について発展学習を行ってください（毎回 30 分程度）。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	80	授業プリントのまとめ							
	レポート	0								
	その他	20	発展学習							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業プリントを提出する際、感想の欄にわからないことや疑問点を書いてください。返却時にその内容についてフィードバックします。									
使用テキスト	食品学Ⅰ、食品学Ⅱのテキスト 生化学のテキスト 解剖生理学のテキスト									
参考書	特に指定しない									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	生理学 F12007			後期	講義	2			必修		
担当教員	高木 一代										
授業の概要	生理学とは人間のからだの構造とその働きを理解し、生命の神秘に迫る学問です。生体がどのように機能しているのかを体系的・有機的に学び、医学の基礎科目である生理学の深い理解を目指します。										
到達目標	ヒトの体のしくみが理解でき、説明できる。ヒトの生命現象に興味を持ち、自分の身体が機能していることの不思議さや生命の尊さに気づき、体を大切にしようとする意識を持つ。食物栄養に関する体のしくみを深く掘り下げることができる。										
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
			○								
授業計画	1. 1 章 細胞からヒトへ (細胞生理学) 2. 8 章 消化吸収のしくみ (消化器系) 3. 8 章 消化吸収のしくみ (肝臓・胆道系・膵臓・腹膜) 4. 9 章 代謝のしくみ (三大栄養素の代謝) 5. 1 0 章 排泄のしくみ (腎・泌尿器系) 6. 6 章 循環のしくみ (心臓・血管) 7. 7 章 呼吸のしくみ (呼吸器系・ガス交換とガスの運搬) 8. 5 章 血液のしくみ (血液・造血系) 9. 1 3 章 防御のしくみ (免疫) 10. 1 1 章 ホルモンのしくみ (内分泌系) 11. 1 2 章 ホメオスタシスのしくみ (代謝・体温) 12. 4 章 身体運動のしくみ (筋・骨格系と運動の生理) 13. 2 章 神経系のしくみ (脳・神経系) 14. 3 章 感覚のしくみ (感覚系) 15. 1 4 章 生殖のしくみ (生殖器系)										
事前・事後学習について	講義は解剖用語を覚えさせるようなものではなく、生理メカニズムをイメージで理解する内容になっています。事前学習では教科書を一読して、わからないところは前もって調べておくのと講義内での理解がより深まると思います。事後学習では授業の振り返りノートを作り、わからなかったところは図書館などを利用して、いろいろな本で調べてみましょう。										
準備学習に必要な時間	事前学習では、テキストを読んでおきましょう。特にわかりにくいところをチェックして授業に臨みましょう (毎回 30 分程度)。 事後学習では、各自ノートに学んだことをまとめましょう (毎回 1 時間半程度)。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	100	定期試験								
	実践	0									
	レポート	0									
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	適宜小テストを行います。 対面授業が難しいと判断した場合、遠隔授業となる場合があります。										
使用テキスト	生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理 第3版 高松研・堀内ふき 株式会社医学映像教育センター										
参考書	Visual 栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I 解剖生理学 福島光夫 中山書店 のほほん解剖生理学 玉先生 (著), 大和田 潔 (監修) 永岡書店 動画マスター 機能形態学 生理学から薬理学への橋かけ 佐藤進他 株式会社廣川鉄男事務所 イラストでまなぶ生理学 第3版 田中越郎 医学書院 いちばんやさしい生理学 加藤尚志 南沢亨 成美堂出版										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	運動生理学 F14008			後期	演習	1				
担当教員	岩瀬 彩香									
授業の概要	運動は、健康づくりの三本柱（栄養・運動・休養）として位置づけられています。 2年前期までの知識を基に、運動の生理学的影響を段階的に学び、運動と栄養の関係について理解を深めます。 また、スポーツ選手の食事について理解を深めます。									
到達目標	運動と栄養の関係に興味を持ち、運動における生理機能と栄養および健康の維持増進について理解できる。 スポーツ選手の食事について理解できる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
		○	○							
授業計画	1. 概論（健康づくりの意義と運動） 2. 五大栄養素と運動①（エネルギー産生機構、糖質、脂質） 3. 五大栄養素と運動②（タンパク質、ビタミン、ミネラル） 4. 運動器系と運動 5. 呼吸器系と運動 6. 循環器系と運動 7. 健康のための身体活動基準 2013 8. 運動処方 9. スポーツ栄養学①スポーツ栄養マネジメント・スポーツ選手の食事摂取基準と栄養ケア 10. スポーツ栄養学②スポーツ選手の体づくり・シーズン別の食事 11. ライフステージ別の運動と栄養①（幼児期～更年期）・女性と運動 12. ライフステージ別の運動と栄養②（高齢期）・有病者の運動 13. ロコモティブシンドローム 14. スポーツ栄養学③スポーツ障害予防と栄養・スポーツにおけるサプリメントの活用 15. スポーツ栄養学④熱中症予防と水分補給・運動と食物アレルギー									
事前・事後学習について	事前学習：これまで学んできた生理学、生化学、栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学などの内容を復習しておいてください。 事後学習：授業で学んだ要点をノートにまとめてください。									
準備学習に必要な時間	各回のテーマについて、関連するテキスト等を読んでおいてください。（1 時間程度） 普段から身体を動かす習慣をつけてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	試験							
	実践	20	取り組み状況、ノート、提出物							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	提出物は目を通し、返却します。返却時に、必要があれば補足します。									
使用テキスト	はじめて学ぶ 健康・スポーツ化学シリーズ 6「スポーツ・健康栄養学」坂元美子編									
参考書										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無	
科目名	病理学 F13009			前期	講義	1				
担当教員	小平 日実子									
授業の概要	この授業では、病気の本態や原因を理解し、病気の予防、健康な姿、および現代の医療が抱える問題点などについて考えます。									
到達目標	多くの病気を病因論的に分類し、病態を理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
			○							
授業計画	1. 病理学概論--病因論 2. 細胞障害・再生・炎症 3. 免疫、循環障害 4. 先天異常・遺伝性疾患、感染症 5. 環境因子・栄養・腫瘍 6. 生活習慣病・代謝性疾患 7. 難病・代謝障害・老年症候群 8. 病理学各論とまとめ									
事前・事後学習について	ヒトが罹患する病気は多種多様です。本講座は病理総論と云われる学問で、多くの病気を病因論的に分類し、病態を理解することを目的とします。多くの病気も病因論的には、たとえば炎症と名の付く病気（たとえば肺炎、肝炎、腎炎、虫垂炎など）がありますが、炎症の型は限られており、炎症の型を理解することにより全臓器の炎症を把握できます。病理総論は病気を理解する上で極めて大事な分野です。実際の講義では具体例を挙げながら理解しやすい様に努力します。専門用語は理解困難な点が多いので是非予習し講義に臨んで下さい。									
準備学習に必要な時間	授業中に集中できるように、事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	病気の本態や原因の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中の質問に対する解説を行います。									
使用テキスト	「はじめの一步の病理学(第 2 版)」 深山正久（羊土社）									
参考書										

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	食品学Ⅰ F12010			後期	講義	2				
担当教員	千 裕美									
授業の概要	有機化学の基礎を学ぶとともに、食品に含まれる各成分の化学的・物理的特性について学ぶ。									
到達目標	・ 有機化学の基礎を踏まえ、食品成分の構造的な特徴を理解する。 ・ 食品成分の栄養性、嗜好性、調理や加工・保存に伴う変化について理解する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○	○	○	○						
授業計画	1. 人と食べ物 2. 食品成分を理解する一有機化学の基礎一 3. 食品の成分① 1) 水分 4. 食品の成分② 2) 炭水化物① 5. 食品の成分③ 炭水化物② 6. 食品の成分④ 3) 脂質① 7. 食品の成分⑤ 脂質② 8. 食品の成分⑥ 4) たんぱく質① 9. 食品の成分⑦ たんぱく質② 10. 食品の成分⑧ 5) ビタミン・無機質 11. 味、香り、色の成分① 1) 味の成分 12. 味、香り、色の成分② 2) 香りの成分 13. 味、香り、色の成分③ 3) 色の成分 14. 成分間の相互作用 1) 炭水化物…脂質・たんぱく質の相互作用 2) 褐変 3) 酵素による成分変化 15. 食品の物性とおしさ 1) コロイドの科学 2) レオロジー 3) テクスチャー									
事前・事後学習について	特に予習が重要なので、事前に配布された授業プリントの空欄をテキストを読んで記入しておくこと。そうすれば授業内容が理解しやすい。食品という身近な存在に興味関心を広げ、日常生活でおこる調理や貯蔵中の変化を化学的な視点で捉えること。									
準備学習に必要な時間	授業プリントの空欄をすべて埋めてくること（毎回 1 時間程度）。 章ごとにキーワードを示すので、それについてノートにまとめる（毎回 1 時間程度）。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	食品成分に対する理解							
	実践	30	授業プリント、まとめノート							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業プリントの感想欄に書いたことについて、フィードバックする。									
使用テキスト	「食べ物と健康Ⅰ」喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士著、化学同人，2011.									
参考書	食品学総論〈第7版〉(イラスト) 江藤 義春他(著) 東京教学社；第7版 食品学 第3版：栄養機能から加工まで 露木 英男（著，編集），田島 眞（著，編集）共立出版 食品学Ⅰ～食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ（栄養科学イラストレイテッド）水品 善之他編 羊土社 食べ物と健康Ⅰ. 食品学総論 食品の成分と機能（Visual 栄養学テキストシリーズ）津田謹輔（監修）中山書店 食品学総論(第3版)：食べ物と健康Ⅰ 森田 潤司（編集），成田 宏史（編集）化学同人									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	食品学Ⅱ F13011			前期	講義	2			
担当教員	千 裕美								
授業の概要	食品を食品成分表に従って分類し、図鑑や食品サンプルなどを活用しながら、それらの生産から消費に至る過程での特徴を、その機能や成分・調理性・加工等の点から詳しく学ぶ。								
到達目標	・ 種々の食品について特性・成分的特徴・利用価値など理解を深める。 ・ 食料供給の実際を知り、限りある食料を有効に利用することへの意識を高める。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
	○	○	○	○					
授業計画	1. 穀類① 2. 穀類② 3. いも類、種実類 4. 豆類 5. 野菜類① 6. 野菜類② 7. 果実類 8. キノコ類、藻類 9. 魚介類①食肉類 10. 魚介類② 11. 魚介類③ 12. 食肉類① 13. 食肉類② 14. 卵類 15. 乳類								
事前・事後学習について	事前に使用するプリントを配布するので、あらかじめ目を通してから授業に臨むこと。 授業の内容を見やすくノートをまとめて復習する。 日々の生活において接する食品について、興味関心を持ち、食品カードにまとめ知識を増やす。								
準備学習に必要な時間	授業で学んだ内容を復習の項目に従って、ノートにまとめる（毎回 1 時間程度）。 食品カードを作ってまとめる。（適宜 30 分程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	60	各食品の特徴の理解						
	実践	40	まとめのノート、食品カード						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	章が終わる度にまとめの欄を設け、感想を記入してください。その際、質問があれば記入してください。章が終了した次の週の朝にノートの提出をしてください。質問については授業時にフィードバックします。								
使用テキスト	「食べ物と健康Ⅱ」喜多野宣子・上村昭子・久木久美子著，化学同人，2010. 「原色食品図鑑 第2版」菅原龍幸・井上四郎編，建帛社，2008. 「新ビジュアル食品成分表 新訂第二版」新しい食生活を考える会，大修館書店，2016.								
参考書	からだにおいしい魚の便利帳 藤原昌高(ぼうずコンニャクの市場魚貝類図鑑 主宰)（著）高橋書店 からだにおいしい 野菜の便利帳 板木利隆（監修）高橋書店 からだにおいしいフルーツの便利帳三輪 正幸（監）高橋書店 食品学Ⅱ～食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ 栢野 新市他（編集）羊土社 人を幸せにする 食品ビジネス学入門 日本大学食品ビジネス学科（著）オーム社								

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	食品科学実験 F12012		後期	実験	1				
担当教員	友竹 浩之								
授業の概要	化学実験を行うにあたっての心構え、器具の取扱い、分析方法の原理、レポートの書き方など基本的事項を学び、食品の一般成分の定量法及び食品衛生学上問題となる有害物質等の検出や、細菌検査の方法を習得する。講義で学んだ食品成分や食材の特性について実験を通し理解を深める。								
到達目標	・ 化学実験の基礎的事項について理解できる。 ・ 実験操作（細菌検査を含む）の基本的な技術を習得する。 ・ 食品の成分的特徴や食品添加物に対して理解できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
				○					
授業計画	1. オリエンテーション/容器の恒量 実験を行うための基礎 2. 水分・脂質の定量 重量分析法の基本を学ぶ 常圧加熱乾燥法による水分の定量およびヘキササン抽出法による脂質の定量を行う 3. 有機酸の定量 容量分析法の基本を学ぶ 中和滴定による食酢中の酢酸の定量を行う 4. 食塩の定量 沈殿滴定によるしょう油中の食塩の定量を行う しょう油の種類による塩分量の違いを確認する 5. 還元糖の定量 アンスロン硫酸法による全糖の定量 6. 食品の褐変・ ポリフェノール化合物の酸化反応による褐変の原理と防止について理解する アミノカルボニル反応の反応条件について確認する 7. たんぱく質の定量①/細菌検査準備（一般細菌, 大腸菌群） 細菌検査の基本操作と留意点について学ぶ 市販シート培地による簡易試験も併せて実施する 8. たんぱく質の定量②/細菌検査準備（結果観察） 細菌検査の結果を観察し、菌数の算定を行う たんぱく質の成分的特徴を確認し、演示実験を通しケルダール法の原理と実際を知る 食品成分表について各成分の測定方法を知る 9. 細菌検査 10. 油脂の化学的試験① ケン化価およびヨウ素価を求め、食用油脂の構造と脂肪酸の特性を理解する 11. 油脂の化学的試験② 過酸化物質価および酸価を求め、食用油脂の劣化について理解する 12. 食器・食品の洗浄検査 簡易試験を用い食器洗浄後の食品成分の残留を確認する 簡易比色法により食器のすすぎ方による中性洗剤の残留の程度を調べる 13. 緑茶タンニンの定量 比色分析法の基本を学ぶ 緑茶の種類によるタンニン含量の違いを確認する 14. 発色剤（亜硝酸塩）の定量 比色分析法によりハム中の亜硝酸塩の定量を行う 発色剤の特徴と使用の実際を知る 15. 合成着色料の検出 薄層クロマトグラフィーによる分析法を学ぶ タール系色素の特徴と使用の実際を知る 亜硫酸塩類の検出 試験紙を用いた簡易試験により亜硫酸塩類の検出を行う 亜硫酸塩類について食品添加物としての特徴や用途を確認する								
事前・事後学習について	「食品学ⅠⅡ」「食品衛生学」と関連するため、該当科目の内容を確認する。特に、事後のレポート作成を通し内容の理解を深める。								
準備学習に必要な時間	授業内で配布するプリントを事後学習として解いてください（毎回 1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	40	化学実験の基礎的知識の理解						
	実践	25	実験操作の基本的技術の習得						
	レポート	35	レポートの書き方、食品成分や食材、食品添加物に対する理解						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。								
使用テキスト	特になし（授業でプリントを配布します）								
参考書	「新しい食品学実験 第 2 版」吉田勉監修・飯淵貞明・渡邊悟編著，三共出版，2008.								

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	食品鑑別演習 F43013			前期	演習	1			
担当教員	千 裕美								
授業の概要	食品における品質評価法（官能評価法、化学的評価法、物理的評価法）を学び、食品評価の知識と技術を習得します。個々の興味ある食品を取り上げ、品質評価法を実施し、その結果についてまとめて考察し、発表する過程を経ることによって、食品製造者または消費者として必要な知識および技能を身に付けます。								
到達目標	・食品の品質評価法を理解する。 ・官能評価・化学的評価法・物理的評価法の手法を習得する。 ・個々の食品について鑑別を行い、その結果を分析し、食品の品質を評価する能力を身に付ける。 ・フードスペシャリスト試験に向けての力を身につける。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
	○	○			○				
授業計画	1. 食品鑑別について 2. 官能評価について 3. 官能評価の実際（１）（2点比較法、3点比較法） 4. 官能評価の実際（２）（選択法、順位法） 5. 官能評価結果の統計解析（１） 6. 官能評価結果の統計解析（２） 7. 米の化学的評価法 8. 米の官能評価 9. 魚の官能評価による鮮度判定 10. 果物の化学的評価 11. 果物の官能評価 12. 物理的評価法（１） 13. 物理的評価法（２） 各班での官能評価の計画 14. 官能評価の実施 15. 官能評価結果のまとめ・発表								
事前・事後学習について	食品の品質を見極めるには化学的および物理的な分析の他に五感を使って判断することが大切です。日常生活の中でもそれぞれの感覚を磨き、食品を見る目を養うことを意識しましょう。 授業内容に対してはその都度予習・復習を行い、食品学ⅠⅡ、食品加工学、食品衛生学等関連科目についての確認を行いながら複合的な学びを心がけましょう。								
準備学習に必要な時間	事前・事後学習のために1時間程度必要です。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	50	授業への取り組み、授業プリントのまとめ						
	レポート	30	官能評価のレポート						
	その他	20	プリント問題						
受講上の注意・課題のフィードバック	授業プリントの最後に感想を記入する際、質問があれば記入してください。 次回の授業時にフィードバックします。								
使用テキスト	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」フードスペシャリスト協会編，建帛社，2018.								
参考書	食品学Ⅰのテキスト：喜多野宣子他「食べ物と健康Ⅰ」化学同人								

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	食品加工学 F14014			後期	講義	2					
担当教員	千 裕美										
授業の概要	食品加工の目的や現状、加工法・保存法、食品の包装や規格と表示制度、および関連する食品衛生について学ぶとともに、身近な加工食品について、具体的に学びます。すなわち、農産食品・畜産食品・水産食品・食用油脂および調味食品、嗜好食品およびインスタント食品についてです。自分の身の回りの加工品についても興味関心を広げ、具体的な加工法や保存法、包装、分類などについても詳しく学びましょう。										
到達目標	食品を加工・貯蔵する意味や製造工程について、理解し、知識を深める。 加工食品のメリットやデメリットを理解できる。 食品の包装、加工食品の規格や表示方法について理解できる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
	○		○								
授業計画	1. 食品加工の意義と目的 2. 食品の加工法 3. 食品の保存法（１） 4. 食品の保存法（２） 5. 食品の包装 6. 加工食品の規格と表示制度 7. 食品と食品衛生 8. 開発加工品について 9. 農産食品の加工 10. 畜産食品の加工（１） 11. 畜産食品の加工（２） 12. 水産食品の加工（１） 13. 水産食品の加工（２） 14. 食用油脂および調味食品 15. 嗜好食品およびインスタント食品										
事前・事後学習に ついて	事前学習：事前に授業プリントを配布するので、教科書と照らし合わせて予習しましょう。 事後学習：授業で学んだ要点を章末問題をを中心にノートにまとめて理解を深めましょう。さらに自分で系統立てたノート作りにも取り組みましょう。 加工食品に関心を持ちながら食品を購入、または自分で作成し、食品カードにまとめていただきます。										
準備学習に 必要な時間	事前・事後学習に毎回 1 時間程度必要です。 食品カードの作成について、それぞれ 30 分程度必要です。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	60	定期試験								
	実践	20	加工食品カード（手作り品・市販品 各 10 枚）								
	レポート	0									
	その他	20	ノートまとめ・顧客調査								
受講上の注意・課題 のフィードバック	章末問題を解いて、ノートにまとめましょう。定期試験対策になります。もし、わからないところを質問してください。授業中にフィードバックします。										
使用テキスト	「食べ物と健康Ⅱ」喜多野宣子・上村昭子・久木久美子 編（化学同人） [新ビジュアル食品成分表] 鈴木一行 大修館書店										
参考書	「食品加工学」 森孝夫 化学同人 「食品開発ガイドブック」 片岡榮子他 地人書館 「原色食品図鑑 第 2 版」菅原龍幸・井上四郎 編（建帛社） 「食品開発の進め方」岩田直樹 幸書房										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	食品開発実習 F14015			後期	実習	1				
担当教員	千 裕美・友竹 浩之									
授業の概要	この実習では、レトルトパウチや缶詰、瓶詰といった加工製品作りをテーマに食品の開発を行います。実習の前半では企画立案から製品試作・原価計算・栄養価計算・ネーミングまでの商品開発の過程を学び、後半では実際に地元の食品企業と連携して食品開発における生の指導を受けます。									
到達目標	1) 加工食品を作るための手技を修得する 2) 自分達で加工食品を考案・作成できる 3) 最終的に加工食品のメリットやデメリットを踏まえて考えられるようになる									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○				○					
授業計画	1. 製麺の実習 2. レトルトパウチ製品の実習 3. 缶詰製品の実習 4. びん詰製品の実習 5. 製パンの実習 6. 製菓の実習 7. 商品開発計画 8. パン・菓子の商品開発① 9. パン・菓子の商品開発② 10. パン・菓子の商品開発③・レストランメニュー開発計画 11. 地域食材を用いたレストランメニューの開発① 12. 地域食材を用いたレストランメニューの開発② 13. 寒天を用いた加工食品の開発① 14. 寒天を用いた加工食品の開発② 15. 寒天を用いた加工食品の開発③									
事前・事後学習について	実習は加工品の製造を体験して理解してもらう内容になっています。事前学習としてそれぞれの実習計画に関係する加工品の種類などを前もってスーパーの品揃えを確認したり、図書館で調べたり、ネット検索しておくとお実習内での体験がより深まると思います。事後学習では加工品作りの体験をレポートで説明できるようにしておいてください。									
準備学習に必要な時間	事前に動画を配信するのでしっかり見て、準備してください。日ごろから加工品やメニュー・調理品に興味を持って、味やラベル、原材料、アレルギー関連物質、アピールポイントなどに着目し、自分だったらどんなものを開発したいかを考えておいてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	授業のまとめ（食品加工の基礎）							
	レポート	60	食品開発（パン・菓子・レストラン・寒天）							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	食品ラベルと開発品コンテストの結果発表およびレポート返却									
使用テキスト	特になし（授業でプリントを配布します）									
参考書	特になし									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	食品衛生学 F11016			前期	講義	2				
担当教員	高木 一代									
授業の概要	食品にとって安全性とは基本特性であり、食品摂取に起因する健康障害を防止することは人々の健康を維持する上で最も重要な事項である。食料供給が多様化し、食の安全に対しても国際化や環境問題などあらゆる角度からの視点が求められる中で、食品の安全性を確保するための適切な判断ができるよう食品衛生の広い知識を修得する。									
到達目標	・食品を扱う上での安全性に対する基本的な知識を修得する ・食品による健康障害を防ぐための方策を知り、実践に役立てることができる ・食を提供する立場の人間として安全性に対する意識を高める									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○									
授業計画	1. 食品衛生行政と関連法規、衛生管理について 2. 食品の変質 3. 食品の腐敗・変敗の防止法 4. 食中毒（定義・種類・発生状況） 5. 食中毒（自然毒・微生物性） 6. 食中毒（ウイルス性） 7. 食中毒（消毒と殺菌・滅菌法） 8. 経口感染症・寄生虫症 9. 食品中の汚染・有害物質① 10. 食品中の汚染・有害物質② 11. 食品添加物① 12. 食品添加物② 13. 食品の表示 14. 食品の衛生管理 15. 食品の安全性問題									
事前・事後学習について	食の安全性に関する新聞等の報道に関心を持ち、厚生労働省などのホームページへも積極的にアクセスし最新の情報を収集する。									
準備学習に必要な時間	授業中は集中できるように、事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	食品の安全性に対する知識の習得と実践的な方策の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	新型コロナウイルスの状況により対面授業が難しいと判断した場合、遠隔授業となる場合があります。									
使用テキスト	「食品衛生学 食の安全性を理解するために」 西瀬弘他 化学同人									
参考書	「イラスト 食品の安全性 第3版」小塚諭編 東京教学社 「三訂 食品の安全性 第2版」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	栄養学Ⅰ F11017			前期	講義	2			
担当教員	友竹 浩之								
授業の概要	この授業では、まず、いろいろな食品成分（栄養素）の種類とはたらき、およびそれらを含む主な食品について学びます。次に三大栄養素である糖質、タンパク質、脂質の消化がどこでどのように行われ、どのように吸収されるかについて学びます。さらに、生命維持やいろいろな活動時にどのくらいのエネルギーを消費するのか、またあなた自身の一日の消費エネルギー量の求め方についても学びます。								
到達目標	・ 糖質、タンパク質、脂質の構造と体内に入ってからのはたらきについて理解できる。 ・ ビタミン、ミネラルの種類と特徴が理解できる。 ・ 食物の消化と栄養素の吸収について理解できる。 ・ エネルギー代謝について理解できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
	○								
授業計画	1. 摂取した栄養素の体内でののはたらき 2. 糖質・食物繊維の特徴とそれらを含む食品 3. タンパク質の特徴とそれらを含む食品 4. 脂質の特徴とそれらを含む食品 5. スポーツ・健康と栄養素 6. ビタミンの特徴とそれらを含む食品 1 7. ビタミンの特徴とそれらを含む食品 2 8. ミネラルの特徴とそれらを含む食品 1 9. ミネラルの特徴とそれらを含む食品 2 10. 熱中症予防と水分補給 11. 栄養素の摂取方法 12. 三大栄養素の消化 1 13. 三大栄養素の消化 2 14. 栄養素の吸収 1 15. 栄養素の吸収 2								
事前・事後学習について	事前学習：スーパーやコンビニ、ファーストフード店では、栄養表示を確認してから、購入、注文するようにしてください。 事後学習：授業で学んだ栄養素を多く含む食品について、テキストや食品成分表で確認しておいてください。								
準備学習に必要な時間	授業中に集中できるように、事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	80	試験						
	実践	20	授業内の発言						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中の口頭試問に対する解説を行います。								
使用テキスト	「新・栄養学総論」 友竹浩之・桑波田雅士ほか （講談社サイエンティフィク）								
参考書									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	栄養学Ⅱ F12018			後期	講義	2			
担当教員	富口 由紀子								
授業の概要	栄養学Ⅰの知識を基に、各ライフステージと栄養について学びます。各ライフステージにおける栄養評価やアセスメントの基本的な知識を習得します。								
到達目標	・ライフステージ別の栄養に興味を持ち、ライフステージにおける身体の変化および栄養状態について理解できる。 ・栄養状態の評価やアセスメントの基本的な考え方について理解できる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
		○							
授業計画	1. 栄養ケア・マネジメント① 2. 栄養ケア・マネジメント②／日本人の食事摂取基準① 3. 日本人の食事摂取基準② 4. 成長・発達・加齢 5. 妊娠期・授乳期の栄養① 6. 妊娠期・授乳期の栄養② 7. 新生児期・乳児期の栄養① 8. 新生児期・乳児期の栄養② 9. 成長期の栄養① 10. 成長期の栄養② 11. 成長期の栄養③／成人期の栄養① 12. 成人期の栄養② 13. 高齢期の栄養① 14. 高齢期の栄養② 15. スポーツ選手の栄養・まとめ ※新型コロナウイルスの感染状況によっては、遠隔授業等を行う場合があります。								
事前・事後学習について	事前学習：授業計画に従い、教科書を読んでください。 事後学習：授業で学んだ要点をノートにまとめてください。テキストの章末問題を解いてください。								
準備学習に必要な時間	事前にテキストの該当箇所を一読し、授業に臨んでください。(30 分程度)								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	70	定期試験						
	実践	30	ノート						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回授業終了時に問題を出題します。次の授業開始時に解説し、以後の学習に活用できるようにします。 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。 遠隔授業を行う場合、Zoom を利用します。Zoom を利用できる PC、スマートフォン等を準備してください。								
使用テキスト	「Visual 栄養学テキスト 応用栄養学」津田謹輔・伏木亨・本田佳子（監修），小切間美保・栗原晶子（編集） 中山書院								
参考書	日本人の食事摂取基準（2020 年版）								

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	栄養学実習 F14019			後期	実習	1				
担当教員	岩瀬 彩香									
授業の概要	新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、高齢期の各ライフステージ別の食事およびスポーツ選手の食事について、調理実習を通して学ぶ。 対象者の身体特性、栄養特性、ライフスタイルをアセスメントし、栄養ケア計画を立案し、それに基づいた調理実習およびプレゼンテーション実習を行う。									
到達目標	ライフステージ別の身体特性や栄養特性を捉え、各対象者に応じた栄養ケア計画の立案および調理供食をすることができる。 スポーツ選手の特徴を捉え、体づくりや障害予防、シーズン別の食事について理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
		○		○						
授業計画	1. オリエンテーション 新生児期の栄養と食事（人工栄養） 2. 離乳期の栄養と食事（離乳食） 3. 幼児期の栄養と食事①（1～2歳の食事、3～5歳の食事、アレルギー対応のおやつ） 4. 幼児期の栄養と食事②（幼児のお弁当） 5. 幼児期の栄養と食事③（幼児と行事食） 6. 学童期の栄養と食事（学校給食） 7. 思春期の栄養と食事①（対象者のアセスメントを行い、栄養ケアプランを作成する） 8. 思春期の栄養と食事②（調理実習、プレゼンテーション） 9. 妊娠期の栄養と食事（妊娠期における食事） 10. 成人期の栄養と食事①（対象者のアセスメントを行い、栄養ケアプランを作成する） 11. 成人期の栄養と食事②（調理実習、プレゼンテーション） 12. 高齢期の栄養と食事①（高齢期における食事） 13. 高齢期の栄養と食事②（介護食） 14. スポーツ選手の栄養と食事①（通常トレーニング期の食事、減量期の食事） 15. スポーツ選手の栄養と食事②（試合期の食事、骨強化の食事）									
事前・事後学習について	事前学習：テキストの該当箇所に目を通しておくこと。 また、1年および2年前期での専門授業の内容を総合的に復習して臨むこと。 事後学習：実習内で学んだことの復習を各自行ってください。									
準備学習に必要な時間	毎回、事前に配布レシピ、テキストの該当箇所を読んでおいてください。（30分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	定期試験							
	実践	50	調理・供食評価レポート、献立作成、取り組み状況							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	様々な年代・立場の方々のお食について興味を持つようにしてください。 提出物は目を通し、次の授業時に返却・復習することで理解度を高めます。 献立作成は添削・返却後、再提出した場合は加点します。 遠隔授業を行う場合、Zoomを利用します。Zoomを利用できるPC、スマートフォン等を準備してください。									
使用テキスト	「栄養学実験実習・演習-基礎と応用-」 渡邊早苗他（建帛社）									
参考書	「食事摂取基準（2020年版）」厚生労働省（第一出版）、「食品成分表」（女子栄養大学出版部）									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	臨床栄養学 I F13020			前期	講義	2			
担当教員	友竹 浩之								
授業の概要	この授業では、まず、増え続ける糖尿病の特徴と食事療法について学びます。次に腎臓のはたらき、腎臓病の症状と食事療法を関連づけて学びます。最後に、血液中のコレステロールや中性脂肪が増える病気について学びます。								
到達目標	・糖尿病の成因と食事療法について理解する。 ・腎臓のはたらき、腎臓病の種類、腎臓病の食事療法について理解する。 ・脂質異常症の成因と食事療法について理解する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
	○		○						
授業計画	1. 糖質の代謝 2. 糖尿病の成因 3. 糖尿病の症状と診断 4. 糖尿病の食事療法 5. 腎臓の働き 6. 腎臓病の症状 7. 糸球体腎炎 8. ネフローゼ症候群 9. 慢性腎不全 10. 血液透析 11. 脂質の代謝 12. 脂質異常症 13. 脂質異常症の食事療法 14. 障害予防と栄養 15. 動脈硬化症の成因と食事療法								
事前・事後学習について	事前学習：生活習慣病に関する新聞記事やテレビ番組を見るようにしてください。 事後学習：テキストをよく読んで、授業で学んだ病気について理解しておいてください。								
準備学習に必要な時間	授業中は演習に集中できるように、事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	80	試験						
	実践	20	授業内の発言						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中の口頭試問に対する解説を行います。								
使用テキスト	「臨床栄養学概論」 友竹浩之・塚原丘美 （講談社サイエンティフィク）								
参考書									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無	
科目名	臨床栄養学Ⅱ F14021			後期	講義	2				
担当教員	友竹 浩之									
授業の概要	この授業では、まず、高血圧の特徴と食事療法について学びます。次に、ウイルス性肝炎の特徴と肝硬変時の食事療法について学びます。さらに、肥満とその合併症、胃潰瘍や大腸疾患について学びます。									
到達目標	・ 血圧上昇のメカニズムについて理解できる。 ・ ウイルス性肝炎の特徴について理解できる。 ・ 肥満とその合併症について理解できる。 ・ 消化器疾患について理解できる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○							
授業計画	1. 高血圧の成因 2. 高血圧の診断 3. 高血圧の食事療法 4. 肝臓の働き 5. 急性ウイルス性肝炎 6. 慢性肝炎 7. 肝硬変 8. 肝臓病の食事療法 9. 胆石・胆嚢炎 10. 膵炎 11. 肥満の成因 12. 肥満の合併症 13. メタボリックシンドローム 14. 消化器疾患（胃炎・胃潰瘍・胃癌） 15. 消化器疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）									
事前・事後学習について	事前学習：病気に関する新聞記事やテレビ番組を見るようにしてください。 事後学習：テキストを読んで、授業で学んだ病気について理解するようにしてください。									
準備学習に必要な時間	授業中に集中できるように、事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	試験							
	実践	20	授業内の発言							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中の口頭試問に対する解説を行います。									
使用テキスト	「臨床栄養学概論」 友竹浩之・塚原丘美 （講談社サイエンティフィク）									
参考書										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	臨床栄養学実習Ⅰ F13022			前期	実習	1				
担当教員	岩瀬 彩香									
授業の概要	病気の進展阻止と予防に、食事療法がいかに重要であるかを考え、疾患別の治療食について必要な知識および技術を習得していく。									
到達目標	・各疾患の病態を理解し、それに応じた献立作成ができる。 ・基本献立から病態に応じた献立展開、調理上の留意点や工夫点が理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○							
授業計画	1. オリエンテーション・粥食（実習） 栄養アセスメント、治療食の種類、常食から軟菜食への献立展開、栄養強化食品など 2. 脂質異常症（実習） 脂質異常症の概要、コレステロール値・TG 値の高い人の食事療法 3. 高血圧（実習） 血圧について、高血圧症の種類、高血圧食のポイント 4. 糖尿病①（演習） 糖尿病食事療法の目的と考え方、糖尿病食品交換表について 5. 糖尿病②（演習） 糖尿病食品交換表の活用、糖尿病食品交換表を用いた献立作成 6. 糖尿病③（実習） 各班の自主献立（1 日分）の調理実習 7. 炎症性大腸疾患（実習） 下痢について、原因疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群） 8. 肝臓病（実習） 肝臓の働き、肝臓病の種類、肝臓病食のポイント 9. 腎臓病①（演習） 腎臓の働き、腎臓病の症状、腎臓病食のポイント、腎臓病食品交換表について 10. 腎臓病②（演習） 腎臓病交換表の活用、腎臓病食品交換表を用いた献立作成 11. 腎臓病③（実習） 各班の自主献立（1 日分）の調理実習 12. 痛風（実習） 痛風の概要、痛風食のポイント 13. 膵炎（実習） 膵臓の働き、急性膵炎、慢性膵炎 14. 食物アレルギー（実習） アレルギーについて、アレルギー代替食品 15. 貧血（実習） 貧血の種類、鉄の吸収、貧血食のポイント									
事前・事後学習について	事前学習：実習日の疾患について下記の使用テキストや臨床栄養学のテキストなどを活用し理解しておくこと。調理実習の手順を確認しておくこと。 事後学習：疾患別の献立作成や献立展開などの課題を出します。1 年次に学んできた献立作成が基礎となります。									
準備学習に必要な時間	事前に実習日の疾患について下記の使用テキストや臨床栄養学のテキストなどを活用し理解しておいてください。（30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	60	各疾患に対する食事療法の理解							
	実践	40	実習の評価表、各疾患に応じた献立作成・献立展開、取り組み状況							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	提出物は目を通し、次の授業の冒頭で返却・復習することで理解度を高めます。 献立作成は添削・返却後、再提出した場合は加点します。									
使用テキスト	「臨床調理」玉川和子 他（医歯薬出版） 「糖尿病食事療法のための食品交換表」（日本糖尿病学会） 「腎臓病食品交換表」黒川清 他（医歯薬出版）									
参考書	「八訂 食品成分表」（女子栄養大学出版部） 「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大学出版部）									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	臨床栄養学実習Ⅱ F14023			後期	実習	1				
担当教員	高木 一代									
授業の概要	この授業では、各グループで作成した基本の献立をもとに①「症例に対応した献立に展開」し、②「実際に調理して献立評価を行う」ことで、成分別栄養管理について理解します。									
到達目標	病人・患者等の状態をいち早く把握し、栄養状態の判定、栄養管理計画について効果的な対応策を考える能力を身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○							
授業計画	1. オリエンテーション 2. 疾患別栄養管理 糖尿病 3. 疾患別栄養管理 糖尿病の献立作成 4. 疾患別栄養管理 高尿酸血症 5. 疾患別栄養管理 CKD 6. 疾患別栄養管理 CKD 低たんぱく質おやつのレシピ作成 7. 医療現場における栄養士の役割および業務の進め方（外部講師） 8. 疾患別栄養管理 糖尿病 調理実習 9. 疾患別栄養管理 CKD 低たんぱく質のおやつ作り 調理実習 10. 疾患別栄養管理 低栄養患者 11. 疾患別栄養管理 低栄養患者に対する少量高エネルギー食の献立作成 12. 咀嚼・嚥下困難食 とろみの段階を視覚で確認する 13. 疾患別栄養管理 低栄養患者に対する少量高エネルギー食 調理実習 14. 災害時の調理法体験 パッククッキング 15. まとめ 発表会									
事前・事後学習について	献立作成ができるように、図書館などで情報収集をしてください。 献立を作成する症例について、何に気を付けて献立を立てなければいけないのかを今まで学習してきたことを振り返り考えておくこと。									
準備学習に必要な時間	事前に症例の特徴などを調べ、教科書の該当症例部分をを読んでまとめておくこと。（2 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	授業への取り組み・授業態度（30%）、発表会（20%）							
	レポート	50	献立作成などの課題							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	新型コロナウイルスの状況により、調理実習時間内での試食を中止し、持ち帰りとなる場合があります。その場合は、持ち帰り用の容器と食具を各自準備して下さい。 グループ代表献立は完成した食事の評価を全員で行ないます。 課題の提出期限は厳守して下さい。									
使用テキスト	栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学実習 実践に役立つ技術と工夫 中村丁次監修 羊土社									
参考書	糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 日本糖尿病協会・文光堂 腎臓病食品交換表 第9版 黒川清他 医歯薬出版株式会社 糖尿病腎症の食品交換表 第3版 日本糖尿病学会 日本糖尿病協会・文光堂 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 関戸啓子編集 メディカ出版 「臨床栄養学実習書」第12版 玉川和子他 医歯薬出版株式会社									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	公衆栄養学 F14024			後期	講義	2				
担当教員	友竹 浩之									
授業の概要	公衆栄養活動は、地域住民の食生活の改善を通して疾患を予防し、地域全体の健康を維持・増進することを目的としており、「地域の食育」ということもできます。本授業では、日本人の栄養状態とその問題点を把握し、地域レベル、国レベルで行われる実践活動の進め方について学びます。									
到達目標	自らの食生活を見直し、地域や家庭での食育活動ができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
			○							
授業計画	1. 公衆栄養学の意義と目的 公衆栄養活動の歴史 2. 国民の健康状態と公衆栄養施策の変遷 3. 食生活の変化について 高齢社会の健康・栄養問題 4. 食料需給と自給率 5. 栄養疫学に必要な指標 6. 食習慣と健康・生活習慣病に関する栄養疫学研究の例 7. 栄養疫学調査 食事調査 8. 公衆栄養の施策と法規 9. 健康日本 21（第 2 次） 10. 特定検診・特定保健指導 11. 健康・栄養指導の指針やガイドライン 12. 食品表示制度 13. スポーツ健康とサプリメント 14. 公衆栄養のマネジメントサイクル 15. 公衆栄養プログラム									
事前・事後学習について	事前学習：食事のバランスについて考える習慣をつけておいてください。 事後学習：テキストを読んで、授業で学んだ項目について理解するようにしてください。									
準備学習に必要な時間	授業中に集中できるように、事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	集団に対する栄養指導の理解							
	実践	20	授業内の発言							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中の口頭試問に対する解説を行います。									
使用テキスト	「公衆栄養学概論」 友竹浩之・郡俊之 （講談社サイエンティフィク）									
参考書										

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	栄養指導論 I F11025			前期	講義	2			
担当教員	新海 シズ								
授業の概要	心身の健全な発達と健康を維持増進するためには、個人や集団を対象に適正な食生活に導く栄養食事指導が必要である。栄養指導を実践していく上で必須である「食事摂取基準」、「食品成分表」などを理解し、活用法を学ぶ。また、メタボリックシンドローム、食に関する問題点など、現状を把握する。さらに、現在取り組んでいる国の施策を理解し、改善するための手法を理解する。								
到達目標	・ 国民健康づくり運動の変遷と現状が理解できる。 ・ 栄養指導（教育）の目的および基本的な進め方が分かる。 ・ 「国民健康・栄養調査」を読み、日本人の健康・食事に関する現状を理解し、問題点を把握できる。 ・ 「食事摂取基準」「食品成分表」などを理解し活用することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
	○			○					
授業計画	1. 栄養指導の意義・栄養士の役割 2. 栄養指導の歴史 3. 21 世紀の健康づくりと栄養指導 4. 食生活の現状と問題点 5. 栄養指導に必要な基礎知識（食事摂取基準） 6. 栄養指導に必要な基礎知識（食品成分表の活用） 7. 栄養指導に必要な基礎知識 8. 栄養食事指導の方法と技術 9. 媒体の概念と意義、種類と特性 10. 対象の実態把握の方法 11. 栄養状態の判定方法 12. 健康づくりのための運動・休養指導 13. 栄養カウンセリング 14. 栄養に関する情報の収集と活用 15. まとめ								
事前・事後学習に ついて	事前学習：授業内容を把握し、教科書の関連個所の予習をするとともに厚生労働省のホームページや「栄養と料理」などの月刊誌を活用して最新の情報を得てください。 事後学習：講義内容を復習しながらノートを整理してください。								
準備学習に 必要な時間	事前に毎回, テキストなどを読んで予習してください。（毎回 1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	70	知識・理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	30	提出物による知識・理解						
受講上の注意・課題 のフィードバック	提出物の添削を行い返却します。								
使用テキスト	「栄養教育論 ―栄養の指導―」 関口紀子・蔵迫栄美子編 学建書院 八訂 食品成分表 2023 女子栄養大学出版部 「栄養教育・栄養指導論 演習・実習 第 2 版」辻 とみ子・堀田千津子・平光美津子編 みらい								
参考書	日本人の食事摂取基準[2020 年版] 第一出版								

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	栄養指導論Ⅱ F12026			後期	講義	2				
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	ライフステージ別・活動分野別および臨床栄養指導（病態別の栄養）を学びます。対象者が適切な食生活や食事療法の知識・技術を獲得し、行動変容につなげる指導援助の要点を学びます。									
到達目標	・ライフステージ別の栄養特性，食生活の問題点と指導の要点を理解する。 ・集団給食施設の特性と指導の進め方を理解する。 ・肥満症、高血圧症、糖尿病患者への栄養教育・指導法を理解する。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○	○		○						
授業計画	1. 年代別栄養指導 妊娠・授乳期の栄養特性，食生活の問題点と指導の要点 2. 年代別栄養指導 乳児期の栄養特性，食生活の問題点と指導の要点 3. 年代別栄養指導 幼児期・学童期の栄養特性，食生活の問題点と指導の要点 4. 年代別栄養指導 思春期～壮年期の栄養特性，食生活の問題点と指導の要点 5. 年代別栄養指導 成人期～高齢期の栄養特性，食生活の問題点と指導の要点 6. 集団給食施設の栄養指導 保育所の特性と指導の進め方 7. 集団給食施設の栄養指導 学校の特性と指導の進め方 8. 集団給食施設の栄養指導 病院の特性と指導の進め方 9. 集団給食施設の栄養指導 高齢者福祉施設の特性と指導の進め方 10. 臨床栄養指導 循環器疾患 11. 3日間の食事調査について 12. 臨床栄養指導 循環器疾患 13. 臨床栄養指導 代謝性疾患 14. 臨床栄養指導 介護食と嚥下指導 15. まとめ									
事前・事後学習について	事前学習：授業内容を理解し、教科書の関連箇所を読み知識を得ておくとともに厚生労働省のホームページや「栄養と料理」などの月刊誌を活用して最新の情報を得てください。 事後学習：授業の内容をノートにまとめ、読み返し、ノートを整理しながら頭の中を整理しておく。冬休みに自分の食生活を調査・評価・判定することを課題とし、自分自身の実態を把握します。									
準備学習に必要な時間	事前に毎回 1 時間程度、テキストなどを読んで予習してください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	知識・理解							
	実践	0								
	レポート	30	知識・理解							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題をチェックして返却します。									
使用テキスト	「栄養教育論 ―栄養の指導― 」 関口紀子・蕨迫栄美子編 学建書院 八訂 食品標準成分表 2023 女子栄養大学出版部 「栄養教育・栄養指導論 演習・実習 第2版」辻 とみ子・堀田千津子・平光美津子編 みらい									
参考書	日本人の食事摂取基準[2020年版] 第一出版 「病気がみえる vol.2 循環器 第3版」メディックメディア 「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第2版」メディックメディア 「栄養食事療法シリーズ1 エネルギーコントロールの食事療法」渡邊早苗，寺本房子他(編) 建帛社 「栄養食事療法シリーズ3 脂質コントロールの食事療法」渡邊早苗，寺本房子他(編) 建帛社									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	栄養指導実習 F13027			通年	実習	1			
担当教員	新海 シズ								
授業の概要	栄養指導論で学んだ知識や技術を栄養指導の場でどう活かすか、という視点からの学習である。問題解決のプロセスを学び、対象者の実態に即した指導内容や方法があることを理解し、効果的な指導が行える知識や技術を習得する。								
到達目標	・ 検査データを読み、問題点を抽出することができる。 ・ 問題点を列挙し、指導・教育指導計画を立てることができる。 ・ 対象者に合わせた栄養教育・指導法を理解し、実際の指導ができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
		○	○	○					
授業計画	前期 1. 授業計画について 栄養教育指導案作成について 媒体の作製と使い方 2. 指導計画作成（対象、テーマ、設定理由、目標） 3. 指導案作成 4. 指導案作成（発表準備） 5. 発表準備 6. 発表準備 7. 三分間スピーチの組み立て方・要点、たより・リーフレットの作製 8. 栄養指導の発表・評価 9. 栄養指導の発表・評価 10. 栄養指導の発表・評価 11. 栄養指導の発表・評価 12. 栄養指導の発表・評価、三分間スピーチの発表・評価 13. たより・リーフレット発表、生活時間調査について 14. 身体活動レベル・消費エネルギー量算出 15. 減量のためのエネルギー摂取量算出・運動量の処方								
	後期 1. 集団教育と栄養相談指導（妊婦 4～5 ヶ月の指導計画作成） 2. 集団教育と栄養相談指導（男性肥満教室指導計画作成） 3. カウンセリング的栄養指導 4. 栄養指導における行動目標 5. 栄養指導における行動目標 6. 個人の栄養・食事指導計画作成（子ども） 7. 個人の栄養・食事指導計画作成（糖尿病） 8. 個人の栄養・食事指導計画作成（脂質異常症） 9. 個人の栄養・食事指導計画作成（高血圧症） 10. 栄養指導の記録・POS 11. 栄養指導の記録・POS 12. 栄養指導の記録・POS 13. 個人の栄養・食事指導計画のまとめ 14. 食事バランスガイドによる献立作成・評価 15. 食事バランスガイドによる献立作成・評価								
事前・事後学習について	事前学習：実習項目を確認し、これまで学んできたことを確かめておく。準備（これまでの授業等のノートを持ってくるなど） 事後学習：授業時間内にできなかったことを確実にし、提出物は提出期限に間に合わせてください。								
準備学習に必要な時間	授業時間に集中できるよう 1 年次に学んだ内容を顧みる、あるいは資料や本・Web などを閲覧し、情報を収集し準備してください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	30	媒体を用いた栄養指導・教育、3 分間スピーチなどの意欲・態度・技能						
	レポート	0							
	その他	70	提出物における知識・理解・技能						
受講上の注意・課題のフィードバック	対象者を設定しての指導発表は、一人一人が主体的に作り上げることをねらいとしています。事前に計画的に準備してください。 授業時間内にできなかった場合は、時間外に行ってください。								
使用テキスト	「改訂 実践に役立つ栄養指導事例集」 井川聡子・斎藤トシ子・廣田直子（著者・編者） 理工図書 「栄養教育・栄養指導論 演習・実習 第 2 版」辻 とみ子・堀田千津子・平光美津子編 みらい								
参考書	「臨床栄養学」「栄養学Ⅰ」「食品学」などで用いた教科書、ノートなど 糖尿病交換表								

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	食生活論 F11028			前期	講義	1					
担当教員	岩瀬 彩香										
授業の概要	人の健康および活動に食生活がどのような意義を持っているかという基本的な概念を踏まえ、食生活の変化と問題点、食生活と環境とのかかわりを理解する。さらに、日本の風土に立脚した食生活のあり方と食生活教育の必要性を考える。										
到達目標	・健康と食生活、環境とのかかわりを理解する。 ・人と食生活について考え、社会生活の中の食生活を認識する。 ・日本の風土に立脚した食生活のあり方を自分の中で構築し、食教育の必要性を説くことができる。										
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
			○								
授業計画	1. 食生活の概念（人間が食事に求めるもの） 2. 食生活に関わる諸問題 3. 日本の食文化（和食） 4. 食環境と食生活 5. 日本の食と世界の食と自分の食 6. ライフスタイルと食生活 7. 健康と食生活 8. 食生活の未来										
事前・事後学習について	事前学習：日常、図書館などで食生活全般に関する新聞や図書を読み、見聞を深めておく。 事後学習：授業プリントを振り返り、自分自身の食生活と結びつけながら、内容を整理する。										
準備学習に必要な時間	各回のテーマについて、関連するテキスト等を読んでおいてください。（30 分程度） 普段から自身の食生活を意識する習慣をつけてください。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	0									
	実践	40	取り組み状況、授業プリント								
	レポート	60	知識・理解・思考力								
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回の授業で、自分自身で授業内容をプリントにまとめる時間を取り、授業終了時に回収します。 回収したプリントは目を通し、次の授業の冒頭で返却・復習することで理解度を高めます。										
使用テキスト	「食生活論」岡崎光子編著，光生館，2015.										
参考書	「食生活論」足立己幸(編)秋山房雄(共著) 医歯薬出版株式会社										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	栄養カウンセリング論 F14029			後期	講義	1				
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	社会構造の複雑化、生活様式や価値観の多様化に伴い、個人の抱える健康・栄養問題の背景には、心理的・精神的要因が内在している場合が多くなっています。個々人に即応した効果的な助言指導をするために、カウンセリングの基本および生活習慣改善のための行動療法の理論を学び、実践力につなげます。									
到達目標	・傾聴を理解する。 ・タイプ別コミュニケーションスキルを理解する。 ・行動変容が必要な人に対するアプローチの方法がわかる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
		○	○	○						
授業計画	1. 行動変容段階理論 健康指導に必要な 3 つのコミュニケーション コーチング（スタイルチェック） 2. 行動変容に関わる 3 つのコミュニケーションの効果 コーチング 4 つのタイプの特徴 パーソナリティチェック 3. ライフスタイルを変える行動療法 自己効力感 行動目標の決定 4. ライフスタイルへのアプローチ（食行動の改善・身体活動の促進） 病気と疾患 ストレスは成長の糧「良性ストレスと悪性ストレス」 一次的ストレスマネジメント 5. 病態別のアプローチ（体重コントロール） 初回面接で行うこと 減量のための面接 ストレスと関連疾患 6. 病態別のアプローチ（高血圧症） 質問法でかわる会話の展開 7. 病態別のアプローチ（糖尿病） 行動変容理論 ヘルスカウンセリング 8. 病態別のアプローチ（脂質異常症） 健康問題を生み出す未成熟な心 心の深化の仕組み 心傷風景連想法自己カウンセリング									
事前・事後学習について	事前学習：「この食事が絶対に望ましい食事であると自信を持って勧めたのに、食べてもらえなかった」と悩んだことのない栄養士はいないのではないかと。「なぜ望ましい食事をしてもらえないのだろうか」を考えてみてください。 事後学習：行動変容のための知識を体験を通して確認してください。									
準備学習に必要な時間	授業内で配布するプリントの回答をしてください。（15 分から 20 分程度） 復習は配布プリントを読み、理解を深めてください。（1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	20	知識・理解・思考力・判断力							
	レポート	70	知識・理解・思考力							
	その他	10	提出物における知識・理解・思考力							
受講上の注意・課題のフィードバック	行動目標を定め、セルフモニタリングを行っている行動の様子を聞き、一緒に考えます。									
使用テキスト	「ライフスタイル療法Ⅰ」 第 5 版 生活習慣改善のための認知行動療法」足達淑子編 医歯薬出版株式会社									
参考書	「栄養士のためのカウンセリング論」石井均(編) 建帛社									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	給食管理Ⅰ F12030			後期	演習	1				
担当教員	富口 由紀子									
授業の概要	日本人の食事摂取基準を活用し、給食運営に必要な基礎的知識(献立作成計画、購入計画、発注、検収、保管・出納、調理、提供など)の修得をはかる。さらに、関連法規や大量調理の特性を理解する。									
到達目標	・給食の運営に関わる基礎的知識を身につけ、給食管理実習Ⅰ・Ⅱ(学内・学外)の実践へとつなげることができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5					
	○									
授業計画	1. 給食管理総論①(給食の定義・目的、給食運営の概要) 2. 給食管理総論②(管理栄養士・栄養士の役割、給食施設の種類と給食の目標) 3. 栄養・食事管理①(栄養・食事管理のシステム、栄養・食事のアセスメント) 4. 栄養・食事管理②(栄養計画、食事計画、品質計画) 5. 栄養・食事管理③(献立管理) 6. 食材料管理①(購入計画、購入方法、発注、検収、保管) 7. 食材料管理②(原価管理、財務管理) 8. 施設・設備管理①(厨房・設備計画、新調理システム) 9. 施設・設備管理②(調理機器の構造と品質の関係) 10. 調理工程管理(大量調理における品質管理) 11. 衛生管理①(安全・衛生管理の目的、危機管理) 12. 衛生管理②(食中毒、HACCP、大量調理施設衛生管理マニュアル) 13. 給食の経営形態 14. 情報管理 15. 人事・労務管理									
事前・事後学習について	事前にテキストの該当箇所を一読して臨んでください。授業のポイントをまとめ、理解を深めてください。									
準備学習に必要な時間	献立作成(毎回1時間程度)									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	60	一連の給食運営に関わる栄養士業務の理解・栄養士として必要な基礎的知識の修得							
	実践	40	提出物(献立作成など)・授業態度							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回授業終了時に小テストを行います。小テストは添削後、次の授業開始時に解説し、以後の学習に活用できるようにします。 献立作成に対する添削を行い返却します。 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。									
使用テキスト	「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント」富岡和夫・富田教代 編著 医歯薬出版株式会社。 「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大出版部。 「日本食品成分表 2022」医歯薬出版編。									
参考書	「八訂食品成分表 2021」香川 明夫, 女子栄養大学出版部									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	給食管理Ⅱ F13031			前期	演習	1				
担当教員	富口 由紀子									
授業の概要	栄養士免許取得希望者は 2 年次の夏休みに給食管理実習（校外実習「給食の運営」）を行います。校外実習では、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得することを目的としています。									
到達目標	・各種施設の特徴を把握し、対象者に合った献立作成ができる。 ・学外実習に向けた知識と心構えを身につけることができる。 ・学外実習での研究課題を見出すことができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○	○	○	○						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 実習の心得 3. 各種施設の給食管理・献立作成（高齢者） 4. 各種施設の給食管理（身体的機能に応じた食事提供） 5. 各種施設の給食管理・献立作成（保育所） 6. 大量調理の実践（給食管理実習Ⅰの応用） 7. 大量調理の実践（寮実習） 8. 実習施設の特徴と対象特性 9. 実習施設の栄養士の役割と業務内容の把握 10. 実習施設の対象者に向けた献立作成 11. 実習記録（書き方・留意事項） 12. 実習記録の実践（寮実習） 13. 研究課題（研究テーマ設定のための情報収集） 14. 研究課題（研究テーマの設定） 15. まとめ・実習前最終確認									
事前・事後学習について	各種施設（学校・病院・福祉施設等）の給食の意義や対象特性を学び、それぞれの施設の特徴ある栄養士業務について理解し、有意義な実習につながるように学びを深める。									
準備学習に必要な時間	学外実習に向けて、栄養士業務について理解してください（毎回 1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	各種施設の給食の意義や対象特性の理解（1 年次の関連科目の理解も含む）							
	実践	30	献立作成							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	献立作成に対する添削を行い返却します。 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。									
使用テキスト	「ステップアップ 臨地・校外実習」長谷川輝美・永井徹 編著, 建帛社.									
参考書	「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント」富岡和夫・富田教代 編著 医歯薬出版株式会社. 「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大出版部. 「日本食品成分表 2022（八訂）」医歯薬出版編.									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	給食管理実習Ⅰ F12032			後期	実習	1				
担当教員	富口 由紀子									
授業の概要	本学の学生を対象とした給与栄養目標量をもとに栄養計画、実施、評価に至る給食の運営全体を把握する。献立作成・発注・検収・調理・配膳・洗浄の一連の給食業務を実際に行い、給食運営管理の知識及び技術を身に付ける。また、大量調理施設（給食管理実習棟）での実習を通して少量調理との違いを体得する。 実務経験のある教員（現場の管理栄養士等の指導）による科目									
到達目標	・ 本学の学生への食事提供を通して給食の経営管理を理解できる。 ・ 大量調理施設衛生管理マニュアルの重要管理事項を理解し、実習を通して実践できる。 ・ 本学の学生への献立計画から実施に対する評価・反省（まとめ）ができる。 ・ 大量調理と少量調理の違いを理解できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○									
授業計画	1. オリエンテーション・献立作成について 実習の進め方、実習書（学内マニュアル・個人提出用帳簿）について、献立作成のポイント 2. 大量調理について 3. 衛生管理・発注について 4. 卓上メモ作成・アンケート作成について 5. グループ学習① 試作実習献立の作成・試作実習発注票の作成 6. グループ学習② 試作実習作業計画表の作成 7. グループ学習③ 試作献立実習、試作献立の検討と大量調理実習（予定）献立の決定 8. グループ学習④ 実習献立の作成・実習発注票の作成 9. グループ学習⑤ 実習作業計画表の作成 10. グループ学習⑥ 卓上メモ作成・アンケート作成 11. 大量調理実習① 12. 大量調理実習② 13. グループ学習⑦ 大量調理実習まとめ（班および個人提出用帳簿） 14. グループ学習⑧ 大量調理実習アンケートの集計 15. まとめ									
事前・事後学習について	実習では約 100 人分の大量調理を体験します。喫食者（学生・教職員）に食事を提供するため、事前学習として学内実習マニュアル等を熟読し、各班の調理作業工程等を把握して臨んでください。また、グループワークが円滑に進められるように、各自責任を持って受講してください。 事後学習として個人提出用帳簿をまとめていく中で、一連の給食管理業務の理解を深めていってください。									
準備学習に必要な時間	献立作成（毎回 1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	献立作成、発注、検収など一連の給食業務の理解・大量調理施設衛生管理マニュアルの重要管理事項の理解							
	実践	50	個人提出用帳簿のまとめ（30%）授業の取り組みやグループワークでの積極性（20%）							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	献立作成に対する添削を行い返却します。 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。									
使用テキスト	「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント」富岡和夫・富田教代 編著 医歯薬出版株式会社。 「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大出版部。 「日本食品成分表 2022」医歯薬出版編。 給食管理実習Ⅰー学内実習マニュアルー（第 1 回目に配付） 給食管理実習Ⅰー個人提出用帳簿類ー（第 1 回目に配付）									
参考書	「八訂食品成分表 2022」香川 明夫，女子栄養大学出版部。									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	給食管理実習Ⅱ F13033			通年(給食施設での実習は夏期休業中)	実習	1					
担当教員	富口 由紀子										
授業の概要	給食管理Ⅰ・Ⅱ、給食管理実習Ⅰで学習したことを基礎に、実習施設の栄養士の指導のもとに給食管理の実際を修練し、栄養士として具備すべき知識及び技能全般を体得する。 実務経験のある教員（現場の管理栄養士等の指導）による科目										
到達目標	・実習施設の特色を把握し、給食運営における栄養士の役割・業務を理解することができる。 ・給食施設における衛生管理を含めた調理技術等を身に付けることができる。										
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5						
	○	○	○	○							
授業計画	各自が選択した給食施設（学校・病院・福祉施設など）で1カ所45時間（1週間程度、5～6日間）の実習を行う。 ＜主な実習内容＞ ① 施設の概要・特徴 ② 栄養管理業務の実際 ③ 衛生管理業務の実際 ④ 事務管理業務の実際 ⑤ 作業管理業務の実際 ⑥ 施設管理業務の実際 ⑦ 栄養指導業務の実際										
事前・事後学習について	実習施設の特色をしっかりと把握するとともに「給食管理Ⅰ・Ⅱ」「給食管理実習Ⅰ」で学んだ知識・技術を十分に発揮できるように主体的に臨んでください。また給食管理実習日誌のまとめや研究課題を通して振り返りを行い、有意義な実習となるように積極的に取り組んでください。										
準備学習に必要な時間	給食管理実習日誌に記載できるように、積極的に実習施設の情報収集を行い、各自研究課題を作成してから実習に臨んでください。 実習開始1ヶ月前ならびに1週間前には、実習施設と事前確認を行います（実習施設によって時期・時間は異なります）										
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点								
	試験	0									
	実践	80	給食管理実習日誌のまとめ（30%）・実習施設からの評価（50%）								
	レポート	20	研究課題について								
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	実習2週間前より体調管理票の記入を行ってください。 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。										
使用テキスト	「ステップアップ臨地・校外実習」長谷川輝美・永井徹 編，建帛社。 給食管理実習日誌（「給食管理Ⅱ」にて配付）										
参考書	「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント」富岡和夫・富田教代 編著 医歯薬出版株式会社。 「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大出版部。 「日本食品成分表 2022（八訂）」医歯薬出版編。										

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	調理科学 F11034			前期	講義	2				
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	各種調理操作や食品の調理性について、具体的な調理と関連させながら理論的に学び、調理技術の要点を科学的に把握する能力を養う。									
到達目標	・それぞれの食品の持つ特性と、それを生かした調理操作法を理解する。 ・理解した理論に基づいて、調理操作ができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○									
授業計画	1. 調理学の意義 2. 献立作成について 3. だし汁と調味料 4. 米の調理① 5. 米の調理② 6. 小麦粉の調理① 7. 小麦粉の調理② 8. いもおよびデンプンの調理 9. 砂糖の調理 10. 油脂の調理 11. 卵の調理① 12. 卵の調理② 13. 野菜・果物の調理 14. 牛乳・クリームの調理 15. まとめ									
事前・事後学習について	事前学習：調理学実験で行ったことを通してどうしてそのような調理操作をするのかを考えてください。 事後学習：授業の内容をノートにまとめ、読み返し、ノートを整理しながら頭の中を整理しておく。 夏休みには、学んだ知識を生かし家族に5品以上の料理を作り、レポート作成することを課題とします。									
準備学習に必要な時間	毎回 1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	85	各食品群における調理特性の知識・理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	15	提出物による知識・理解・思考力							
受講上の注意・課題のフィードバック	提出物は、添削を行い返却します。									
使用テキスト	「NEW 調理と理論 第二版」山崎清子、島田キミエ、渋谷祥子、下村道子、市川朝子、杉山久仁子、米田千恵、大石恭子（共著） 同文書院 「新 調理学実習 第二版 ―基本調理から給食への展開―」 宮下朋子・村元美代（編） 同文書院									
参考書										

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	調理学実験（基礎調理含む） F11035			1 年前期	実験	1 単位				
担当教員	富口 由紀子									
授業の概要	この授業では、食品の調理性や調理操作に関する理論を実験を通して理解します。普段何気なく行っている調理操作について深く考え、各種材料の調理操作による変化を学びます。									
到達目標	基本的な調理技術や調理を安全に行うための知識を身につけ、大量調理に応用する能力を身につける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○									
授業計画	1. 計量と pH の測定 2. 小麦粉① 3. 小麦粉② 4. 米 5. 野菜 6. 卵① 7. 卵② 8. 砂糖 9. 応用調理 10. 油 11. 寒天 12. いも 13. だし汁 14. 応用調理 15. まとめ									
事前・事後学習について	事前学習：毎時間包丁の切り方試験を行います。家でも調理をする機会を増やしてください。 事後学習：実習で作った料理を家でも作ってみてください。授業で学んだ要点をノートにまとめてください。									
準備学習に必要な時間	実験計画表を作成する（毎回 1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	60	定期試験							
	実践	20	授業態度							
	レポート	20	理解・関心							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。									
使用テキスト	「調理実習の手引き」飯田女子短期大学調理研究室。									
参考書	「NEW 調理と理論第二版」山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子・米田千恵・大石恭子（共著），同文書院。									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	調理実習Ⅰ F12036			後期	実習	1				
担当教員	富口 由紀子									
授業の概要	この授業では、食品の調理性や調理操作に関する理論を中国料理の実習へ発展させます。基本的な調理操作や材料の扱い方、盛りつけなどを調理理論と関連づけながら学びます。									
到達目標	中国料理の特殊材料や独特の調理法について実習を通して修得する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○									
授業計画	1-2. 肉炒め・蒸しナスの和え物・中国茶 3-4. 若鶏の空揚げ・細切り野菜の中華風和え物・中国風アーモンドクッキー 5-6. 肉入り中華饅頭・白菜のクリーム煮・モンゴウイカの中華風天ぷら 7-8. 鶏肉の寄せもの・鶏と卵白のくず汁・さつまいものあめがらめ 9-11. 餃子・かぼちゃの煮込み・牛乳ととうもろこしのスープ・牛乳かん 12-13. 麻婆豆腐・白玉だんご・果物のごまソースあえ 14-15. 白身魚のケチャップあんかけ・白菜と肉団子のスープ・蒸しカステラ 16-18. 牛肉とピーマン炒め・卵蒸し・ワンタン 19-20. 肉粽子・トマトと干しエビのスープ・春菊の和え物 21-22. 春巻き・酢豚・卵の紅茶煮・鶏肉と里芋の煮込み 23-24. ピータン・焼き豚・ゆで鶏の薬味ソース和え・塩クラゲと胡瓜の酢和え 25-26. 炒めビーフン・酸味と辛みのスープ・ほうれん草の炒・小エビと豆腐の煮込み 27-29. 鶏肉入り粥・エビの白雪揚げ・魚の姿蒸し 30. 実技テスト									
事前・事後学習について	事前学習：家でも調理をする機会を増やしてください。 事後学習：実習で作った料理を家でも作ってみてください。授業で学んだ要点をノートにまとめてください。									
準備学習に必要な時間	実習計画表を作成する（毎回 1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	40	定期試験							
	実践	40	実技試験（餃子）							
	レポート	20	理解・関心							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。 対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等を実施します。									
使用テキスト	「調理実習の手引き」 飯田女子短期大学調理研究室。									
参考書	「NEW 調理と理論 第二版」山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子・米田千恵・大石恭子（共著）、同文書院。									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態		単位数		教員免許資格の有無		
科目名	調理実習Ⅱ F13037			前期	実習		1				
担当教員	新海 シズ										
授業の概要	「西洋料理」における調理法の要点や食品のもつ調理性を理解し、適確な調理技術を習得する。										
到達目標	・ 西洋料理の調理理論を理解し、食品の特性に則り、手順を考え調理することができる。 ・ おいしい料理を作ることができる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5						
	○										
授業計画	1. 実習を学ぶにあたって ハムエッグ、ホットケーキ、グレープフルーツカップ、紅茶 2. ルー・ソースについて 卵を白ソースであえたもの、にんじんスープ、フルーツサラダ 3. 筍料理 筍御飯、若竹汁、イカと筍の木の芽あえ、カツオの土佐作り 4. ハンバーグステーキ、ソース・ブリューヌ、ニンジングラッセ ジャガイモのボンヌフ、サヤインゲンのソテー、バニラブラマンジェ 5. サケのムニエル、粉ふき芋、野菜サラダ、ババロア 6. サンドウィッチ、新野菜のシチュー、カスタードプディング 7. 前菜・カナッペ、卵の詰め物、キスのエスカベージュ、コンソメ、クラレットパンチ 8. スパゲッティミートソース、スープジュリエヌ、トマトサラダ、アーモンドクッキー 9. とうもろこしのポタージュ、プレーンオムレツ、コールスローサラダ、コーヒーゼリー 10. オムライス、即席トマトソース、ポテトサラダ、カップケーキ 11. サバの蒸しゆでソースラビゴット、鶏のクロケット、ワインゼリー 12. ポークカツレツ、トマトのクリームスープ、冷麦 13. ロールキャベツ、マカロニグラタン、サヤインゲンのサラダ 14. 魚の衣揚げ、マッシュポテト、トマトとセロリのサラダ、シュークリーム 15. 実技テスト、まとめ										
事前・事後学習について	事前学習：実習する料理を手順を考え実習計画表に書いて実習 2 日前までに提出する（グループで 1 部）。 事後学習：実習した料理は、毎日の食生活の中で実践することで習得して下さい。 調理科学の知識を実習で確認し、確実に習得してください。										
準備学習に必要な時間	テキストおよび前の週に配布したレシピをみて、作業手順を考え計画表に記載してください。（15～30 分程度）										
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点								
	試験	30	オムレツの実技試験								
	実践	20	実習意欲・態度・技能・思考力・判断力・協調性・表現力								
	レポート	25	知識・理解								
	その他	25	各回の提出物による知識・理解								
受講上の注意・課題のフィードバック	当番は 3～4 回あり、授業開始 30 分前から準備があります。身支度を整えて来てください。 積極的に取り組んでください。										
使用テキスト	「調理実習の手引き」飯田女子短期大学調理研究室 「新 調理学実習 第二版 ―基本調理から給食への展開―」 宮下朋子・村元美代(編) 同文書院										
参考書											

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	調理実習Ⅲ F14038			後期	実習	1				
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	「日本料理」における調理法の要点や食品のもつ調理性を理解し、適確な調理技術を習得する。									
到達目標	・日本料理の調理理論を理解し、食品の特性に則り、手順を考え調理することができる。 ・おいしい料理を作ることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○									
授業計画	1. 栗蒸しおこわ、鶏肉のくずたたきの清汁、イカときゅうりの黄味酢あえ ヨークレズケーキ 2. 三色おはぎ、巣ごもり卵の清汁、姫マスの姿焼き、蛇腹きゅうり 3. かやくご飯、かき卵汁、サバの味噌煮、わかめときゅうりの酢の物、アップルパイ 4. そぼろご飯、けんちん汁、魚の幽庵焼き、菊花かぶ、サヤエンドウの青煮 他 5. 山海の炊き合わせ、豚肉の手綱焼き、七色なます 6. 白菜鍋、ほうれん草のごま和え、花ばす、栗きんとん、茶碗蒸し 7. 天ぷら・かき揚げ、わかめとじゃがいもの味噌汁、おろし和え、煎茶 8. ちらし寿司、稲荷寿司、赤だし、即席漬 9. 太巻き寿司、蛤の潮汁、白あえ 10. 正月料理 雑煮、長芋の二杯酢、筑前煮、ぶどう酒かん 11. クリスマス料理 ローストチキン、ジャガイモのボンヌーフ、芽キャベツのバター炒め、 ほうれん草のクリームスープ、デコレーションケーキ、パイナップル 他 12. 刺身、梅椀、だし巻き卵 13. 親子丼、沢煮椀、菜の花の海苔あえ、柚子まんじゅう 14. カレーライス、ヨーグルトゼリー、花野菜のサラダ 15. 卒業祝い献立									
事前・事後学習に ついて	事前学習：実習する料理を手順を考え実習計画表に書いて実習 2 日前までに提出する（グループで 1 部）。 事後学習：実習した料理は、毎日の食生活の中で実践することで習得して下さい。 調理科学の知識を実習で確認し、確実に習得してください。									
準備学習に 必要な時間	テキストおよび前の週に配布したレシピをみて、作業手順を考え計画表に記載してください。（15～30 分程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	30	実習意欲・態度・技能・思考力・判断力・協調性・表現力							
	レポート	35	知識・理解							
	その他	35	各回の提出物による知識・理解							
受講上の注意・課題 のフィードバック	当番は 3～4 回あり、授業開始 30 分前から準備があります。身支度を整えて来てください。 積極的に取り組んでください。									
使用テキスト	「調理実習の手引き」 飯田女子短期大学調理研究室 「新 調理学実習 第二版 ―基本調理から給食への展開―」 宮下朋子・村元美代(編) 同文書院									
参考書										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	栄養情報処理 F13039			通年	演習	1					
担当教員	友竹 浩之・岩瀬 彩香										
授業の概要	各種栄養調査から得られた情報を有効に活用し、栄養指導の基礎資料を作成するためには統計処理を行うことが必要である。統計処理には、扱うデータの種類や性質によりさまざまな手法があることを演習を通して学ぶ。 また、専用のソフトを用いた栄養計算のほか、画像の加工、食品表示ラベル、商品 PR ポップの作成を行う。										
到達目標	・エクセルでグラフを作成することができる。 ・spss を用いた検定ができるとともにデータを読みとることができる。 ・パソコンを用いて栄養指導媒体や商品 PR ポップを作成することができる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
					○						
授業計画	1. 母集団と標本・平均値・中央値・標準偏差と標準誤差・正規分布 2. 等分散の検定・対応のない 2 群間の検定・有意水準・片側検定、両側検定 3. 対応のある 2 群間の検定 4. 一元配置分散分析 5. 回帰分析・カイ二乗検定 6. 栄養価計算Ⅰ（料理の計算） 7. 栄養価計算Ⅱ（献立の計算） 8. 栄養指導媒体の作成 9. 入力試験Ⅰ 10. 入力試験Ⅱ 11. 食事摂取基準 2020 年版の活用 12. 食品表示ラベルの作成 13. 商品 PR ポップの作成Ⅰ 14. 商品 PR ポップの作成Ⅱ 15. 商品 PR ポップの作成Ⅲ・まとめ										
事前・事後学習に ついて	事前学習：栄養士業務にはパソコンが欠かせません。エクセルが使えるように練習しておいてください。 事後学習：授業内でできなかった、練習問題をやってください。										
準備学習に 必要な時間	授業内で配布するワークシートを事後学習として解いてください（毎回 1 時間程度）										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	50	グラフの作成と検定 入力試験								
	実践	30	栄養教育媒体の作成、レシピの作成、商品 PR ポップの作成、取り組み状況								
	レポート	20	調査結果の検定における知識・理解・技能								
	その他	0									
受講上の注意・課題 のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。										
使用テキスト	プリント配布										
参考書											

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	食料経済 F43040			前期	講義	2					
担当教員	高木 一代										
授業の概要	フードスペシャリスト資格取得に向けて、現代における食生活の現状と変遷、食料が生産・加工・流通する過程について学びます。また、食料の安全性を確保するための取り組みの現状について理解を深めます。										
到達目標	食生活の変化と食品消費について理解できる。外食産業・中食産業・食品小売業の特徴と食品流通について理解できる。食品産業における安全性と環境への取組みが理解できる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
					○						
授業計画	1. 世界情勢がもたらした食生活への影響および変化 2. 気候変動がもたらす食糧生産への影響 3. 豊かな食生活を支える食市場 4. 消費者の食品消費の変化 5. 食品流通の役割と社会的使命 6. 卸売流通が必要な食品流通とその変化 7. 食品の小売流通 8. 外食産業のマーチャンダイジング 9. 中食産業のマーチャンダイジング 10. 主要食品の流通① 11. 主要食品の流通② 12. 主要食品の流通③ 13. フードマーケティング 14. 食料消費の課題 15. 世界の食生活事情について										
事前・事後学習に ついて	事前学習：食糧経済記録ノートに食に関する記事を添付し、記事に対してコメントを記入する。授業計画に従い、教科書の該当するページを読んでおく。 事後学習：授業で学んだ要点をノートにまとめてください。食品の消費と流通に関心を持ちながら、食品を購入してください。										
準備学習に 必要な時間	食の生産や流通、消費に関する情報を確認し、食料経済記録ノート記録する（1 時間程度） 授業中に集中できるように、事前に教科書を読んで理解しておいてください（30 分程度）										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	70	定期試験								
	実践	0									
	レポート	30	食料経済記録ノート								
	その他	0									
受講上の注意・課題 のフィードバック	不定期になりますが小テストを行います。 さまざまな要因により対面授業が難しいと判断した場合は、遠隔授業となる場合があります。										
使用テキスト	「四訂 食品の消費と流通」 日本フードスペシャリスト協会編 健帛社										
参考書											

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	フードスペシャリスト論 F41041			前期(1、2 年 同時開講)	講義	2					
担当教員	高木 一代										
授業の概要	食生活に対する消費者のニーズが多様化する中、流通や消費の分野で活躍できる食の専門職が求められている。これらを担う人材であるフードスペシャリストについて、その役割と責任を理解し、今後の展望を考えていく。また、フードスペシャリストとしての基礎的な知識を修得する。										
到達目標	・栄養士とフードスペシャリストの違いを理解することができる。 ・フードスペシャリストの活動とその役割を理解することができる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
				○	○						
授業計画	1. フードスペシャリストとは 2. 人類と食物(人類の歩みと食物) 3. 人類と食物(食品加工・保存技術史) 4. 世界の食(食作法・食の禁忌と忌避) 5. 世界の食(世界各地の食事情) 6. 日本の食(日本食物史) 7. 日本の食(食の地域差) 8. 現代日本の食生活(食生活の変化・食産業) 9. 現代日本の食生活(食料自給率・環境と食) 10. 食品産業の役割 11. 食品の品質規格と表示(食品表示法・健康や栄養に関する表示制度) 12. 食品の品質規格と表示(コーデックス規格・食品添加物の表示) 13. 食情報と消費者保護(食情報の濫用・食品安全基本法) 14. 食情報と消費者保護(食品の情報管理・消費者保護の制度) 15. まとめ										
事前・事後学習に について	講義当日の項目を一読して講義に臨んで下さい。また 2 年次の 12 月に行われるフードスペシャリストの資格認定試験を見据えて過去の出題箇所を中心に復習し、定期試験、資格認定試験に備えて下さい。										
準備学習に 必要な時間	事前に 1 時間程度教科書を読んでおくこと。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	100	定期試験								
	実践	0									
	レポート	0									
	その他	0									
受講上の注意・課題 のフィードバック	新型コロナウイルスの状況により対面授業が難しいと判断した場合、遠隔授業となる場合があります。										
使用テキスト	「フードスペシャリスト論」第 7 版 (公社) 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 「2023 年版フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集」(公社) 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社										
参考書	「四訂 食品の流通と消費」フードスペシャリスト協会編 建帛社 「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」フードスペシャリスト協会編 建帛社 「四訂 フードコーディネート論」フードスペシャリスト協会編 建帛社										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	フードコーディネート論 F31042			前期(1、2 年 同時開講)	講義	2					
担当教員	高木 一代										
授業の概要	フードコーディネートに必要な食生活における食料・食空間・テーブルウェア・食事マナーなどの知識を修得する。テーブルマナー講座では飯田市内の洋食屋へ行き、料理を頂きながらテーブルマナー講座を受けます（自己負担・5,500 円程度）。フードスペシャリスト・栄養士としてはもちろん、卒業後、社会人として身につけておきたい基本的なテーブルマナーや料理の彩り、サービス、作法、心遣い、衛生感覚などを実際に学びます。										
到達目標	・ 講義やテーブルマナー講座を通して基本的な食事マナーを理解し実践できる。 ・ フードスペシャリストの業務としてのフードコーディネートを理解できる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
				○	○						
授業計画	1. フードコーディネートの基本理念 2. 食事の文化 日本の食事の歴史① 3. 食事の文化 日本の食事の歴史② 4. メニュープランニング 5. 料理様式とメニュー開発の基礎 6. 食卓のコーディネート（和食・中華料理） 7. 食卓のコーディネート(西洋料理) 8. 食空間のコーディネート 9. 食卓のサービスとマナー 10. フードサービスマネジメント 11-12. テーブルマナー講座（洋食） 13. 食企画の実践コーディネート① 14. 食企画の実践コーディネート② 15. まとめ										
事前・事後学習に ついて	食に関する記事（郷土料理、調理体験、作物を作る体験など）を授業内で配布する食レポ日誌に添付し、コメントを記入して下さい。講義当日の項目を一読して授業に臨んで下さい。授業内で指示した過去の出題箇所を中心に復習し、定期試験、資格認定試験に備えて下さい。										
準備学習に 必要な時間	食レポ日誌の記入。（約 1 時間） 事前に講義当日の項目を一読しておくこと。（約 30 分）										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	70	定期試験								
	実践	0									
	レポート	30	食レポ日誌 テーブルマナーレポート								
	その他	0									
受講上の注意・課題 のフィードバック	さまざまな状況により、テーブルマナー講座を中止することがあります。また、対面授業が難しい場合には、遠隔授業になる場合があります。 フードスペシャリストを受験する人は、1 年または 2 年次のどちらかで受講して下さい。										
使用テキスト	「三訂 フードコーディネート論」 （公社）フードスペシャリスト協会編 建帛社 「2023 年版 フードスペシャリスト資格認定試験 過去問題集」（公社）フードスペシャリスト協会編 建帛社										
参考書	「四訂 フードスペシャリスト論」フードスペシャリスト協会編 建帛社 「すぐわかる・やきものの見わけ方」佐々木秀憲 東京美術 「テーブルコーディネートテキストブック」丸山洋子 共立速記印刷優しい食卓出版部などを参考にとすると良い。										

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	学校栄養教育論 F22043			前期	講義	2	必修			
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	学校における食に関する指導は望ましい食習慣の形成を促し、自己管理能力を育てることである。栄養教諭の役割と職務内容および給食の時間や教科・特別活動等の指導場面での目標、指導内容を学ぶ。また、学校給食を生きた教材として活用し、栄養に関する専門的な知識をいかした適切な指導のできる知識・技能を習得する。									
到達目標	・栄養教諭の役割と職務内容および給食の時間や教科・特別活動等の指導場面での目標、指導内容を理解する。 ・学校給食を生きた教材として活用した学習指導案を作成し、授業を行うことができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
		○		○						
授業計画	1. 栄養教諭制度創設の経緯および役割と職務内容 2. 学校給食の意義・役割および食文化の変遷と教育指導 3. 児童・生徒の健康・食生活の状況と問題点 4. 「食に関する指導」の全体計画 5. 学校給食における「食に関する指導」の展開 6. 他教職員との連携・調整、学習指導案の作成の手順 7. 給食の時間における食に関する指導の進め方 8. 食育教材 9. 小学校「家庭科」、中学校「技術・家庭科」における食に関する指導 10. 「体育科・保健体育科」における食に関する指導 11. 「道徳、特別活動」における食に関する指導 12. 「生活科」における食に関する指導 13. 「総合的な学習の時間」における食に関する指導 14. 個別栄養相談指導 15. 学校、家庭、地域が連携した食に関する指導									
事前・事後学習について	事前学習：教育実習にむけて講義内容を確認し、教科書の関連箇所を予習してください。 事後学習：授業の内容を復習し、頭にいれておく。また、小・中学校の教科書を読み、食育に関連した単元を一覧にまとめる。									
準備学習に必要な時間	教材となる献立を考えながら、栄養教諭として何を伝えたいのか、絶えず考えてください。（毎回 1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	献立作成・5 分間スピーチにおける意欲・態度・思考力・表現力							
	レポート	60	教育指導案の思考力・創意・工夫							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	児童・生徒との信頼関係はおいしい給食を提供することにより築かれます。基準量を満たすおいしい給食の献立 およびどんな題材をどのように伝えるか考えてください。									
使用テキスト	「四訂 栄養教諭論－理論と実際－」 金田 雅代（編著） 建帛社									
参考書	家庭科教科書（小学校 5・6 年、中学校） 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教職論 F21044			前期	講義	2	必修		
担当教員	中井 文彦								
授業の概要	教職の意義や歴史と使命、教員の仕事や服務などを学びながら、今求められる学校経営や教師像などについて理解を深め、学校組織の一員として、児童生徒の前に立つ自分自身の在り方を問うていく。								
到達目標	・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解を深め、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 ・公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。 ・学校における教育活動の年間の流れと学校評価の在り方、その重要性を理解する。 ・学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。 ・教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
				○					
授業計画	1. 本講義のねらい・教師の歴史と教育論 2. 教育制度の成立と求められる教員の資質 3. 教育職員免許法と教育を取り巻く社会環境の変化 4. 教師に必要な資質・教員の仕事と役割 5. 教員の研修 6. 教員の服務と教育法規 7. 教員の服務規程と身分保障 8. 教員の危機管理意識（安全対策と非違行為根絶にかかわる心構え） 9. 体罰・いじめをなくす取り組み（グループ討議） 10. 学級崩壊と教職員の取り組み 11. 学校内の教員間の連携・保護者、地域社会との連携（開かれた学校づくり） 12. 学校組織と校務分掌（チームで行う学校づくり） 13. 生徒指導とキャリア教育 14. 学級経営と理想の教師像 15. 教員評価と教職との適性（総括）								
事前・事後学習について	・「振り返りシート」を活用し学習内容の復習を毎時間後に行う。 ・子どもの前に立つ教師のあり方を常に考え、日頃から新聞・インターネットにおける教育の話題について情報収集し、講義に持ち寄る。 ・事前に配付された資料をもとに、著名な教師の生き方について感想を書き提出する。								
準備学習に必要な時間	予習・復習に要する時間（1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	70	知識・理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	30	提出物、その他						
受講上の注意・課題のフィードバック	毎時間、学習内容の振り返りを行います。積極的に授業に臨んでください。								
使用テキスト	教職論 教員を志すすべての人へ 教職問題研究会編 ミネルヴァ書房 解説教育六法（2021 令和 3 年度版） 三省堂								
参考書	特に指定なし								

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	教育原理 F22045			後期	講義	2	必修			
担当教員	奥井 現理									
授業の概要	教育や学校・教師の必要性や使命を考え、教員免許状を有するに値する人間としての姿勢を涵養する科目です。本来教育とは何か、本来教師は何をする職なのかを、深く考えましょう。									
到達目標	・教育の諸概念、教育の意義・使命（本質・目標）を理解することができる ・地域、家庭、学校等における教育を、さまざまな位相から考察・理解することができる ・過去・現代（西洋・日本）における教育の歴史及び思想を学び、課題を見いだし未来の教育を考察することができる									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
				○						
授業計画	1. ワーク（1） 本講義のガイダンス（課題提示と演習、長期的課題学習の提示ほか） 2. 序章 教育に関する〈ことば〉—その概念の規定（1） 教育の理念や教育の定義を、まったくのゼロベースから考えてみましょう。 3. 序章 教育に関する〈ことば〉—その概念の規定（2） 「学校」や「人間形成」とは何であるかを、「教育」概念をもとに考えてみましょう。 4. 「ホモ・エドゥカンドゥス（教育を必要とするヒト）」の来歴（1） ルソーやカントなどの思想を学び、現代の教育観や子ども観の源流を学習します。 5. 「ホモ・エドゥカンドゥス（教育を必要とするヒト）」の来歴（2） 「子どもは教育を必要とする」という現代の教育観・子ども観を学習します。 6. 〈学校〉の誕生とその発展 「学校」の誕生期から近代までの社会の変化・歴史的経緯及び思想を振り返ります。 7. ワーク（2） 新しい課題提示と演習ほか 8. 公教育の黎明と受容過程——日本の学校教育（1） 日本の公教育制度誕生から発展の歴史的経緯を学び、その教育観・子ども観の形成された歴史的・思想的経緯を振り返ります。 9. 教育改革の動向と背景——日本の学校教育（2） 平成以降の教育改革は、はたしていかなる教育理念や思想・制度の下に行われているのかを考察します。その際「学校・家庭・地域の連携」という方策で取り組まれる教育活動（安全教育・対応含む）を具体的に取上げます。 10. 生徒指導上の諸問題と教員の現在 学校安全や児童虐待をはじめとする具体的な課題を取扱い、考察します。乳児～児童への虐待問題への対応や、学校安全への対応等に、学校・家庭・地域で連携していかに取り組むべきかを考察します。 11. ワーク（3） 新しい課題提示と演習ほか 12. 「教育を必要とする子供」の現実（1） 実際には、子どもはどのように知識や技能を身に付けているのかを学習します。 13. 「教育を必要とする子供」の現実（2） 文化と人間形成との関連を考察します。 14. 教えることの意味と公の教育への期待（1） 人間が人間に「教える」とは、本当には何をしていることなのかを考察します。 15. 教えることの意味と公の教育への期待（2） 新たな教育理念や思想の方向付けを考えましょう。									
事前・事後学習について	授業の終わりに、毎回のワークシート提出を求めます。これは次回に返却します。返却されたワークシートをノートに貼り付け、考察の手がかりとして下さい。 三回のワークで提示される課題は、知識観点で評価されます。									
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	知識・思考・理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。									
使用テキスト	『教育の原理—子供・学校・社会をみつめなおす—改訂版』 紺野祐ほか著 学術出版会、2019 年									
参考書	適宜指定する。									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	教育心理学 F21046			前期	講義	2		必修	
担当教員	坂上 ちおり								
授業の概要	子どもの発達や学習に関する基本的な心理学の理論を学びます。								
到達目標	①子どもの行動や発達像、障害や疾患 ②発達や学習に関する心理学の理論 ③子どもの発達の評価・測定および分析の方法について基本的な知識を説明することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
				○					
授業計画	1. オリエンテーション・研究法 2. 障害の種別と特別支援教育 3. 「発達」の基本的な考え方・ピアジェの理論 4. 乳児期の発達（愛着・愛着障害・情動調律） 5. 幼児期の発達①（情動の発達分化・心の理論・ことば） 6. 幼児期の発達②（自己概念・道徳性・遊び） 7. 児童・青年期の発達(エリクソン含) 8. 集団心理・集団で行う学習方法 9. 学習理論・記憶と動機付け 10. 「知能・性格」の基本的な考え方 11. 教育の評価と測定①・・・知能検査・性格検査 12. 教育の評価と測定②・・・検査の活用とまとめ 13. 最終レポートの書き方 14. 統計分析①・・・データの入力法 15. 統計分析②・・・T検定・相関・カイ二乗検定								
事前・事後学習について	事前学習：シラバスの授業計画で示された理論について、該当する教科書のページを読んでおくこと。 事後学習：講義のなかで示された理論について、自分のことばで説明できるようにまとめる。さらに、理論に沿って日常の子どもの様子を説明できると良い。								
準備学習に必要な時間	各回で紹介する理論について、教科書の該当するところを読んでおくこと（各回 30 分程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	60	最終レポート：基本的知識の習得度・根拠に基づいた説明力						
	その他	40	ワークに対するリアクションペーパー：根拠に基づいた説明力・意欲						
受講上の注意・課題のフィードバック	リアクションペーパーについては、採点次第、授業内で返却をしています。その際、修正すべき点や加筆ポイントをアドバイスしています。提出済みのリアクションペーパーに加筆して、再提出した場合には加点して、返却します。 最終レポートについては、提出前の指導を複数回行います。								
使用テキスト	教育・学校心理学 小山望（編著） 建帛社								
参考書	特になし								

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	特別支援教育論 F23047			前期	講義	2		必修		
担当教員	中井 文彦・黒岩 長造									
授業の概要	特別支援教育の意義や歴史と使命、障害の種類や支援の在り方を学び、特別支援学校・特別支援学級の児童生徒や特別の教育的ニーズのある児童生徒との養護教諭としての対応、支援の在り方を演習を通して学んでいく。									
到達目標	・特別支援学校と特別支援学級ならびに通級指導教室の役割と概要、基本的な発達や育ちを学び、特別支援教育に関する理解を深める。 ・障害のある児童生徒や特別の教育的ニーズのある児童生徒への支援のあり方、活動の多様性について理解し、実際に支援方法を身に付ける。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
				○						
授業計画	1. 本講義のねらい・オリエンテーション 2. 特別支援教育の理念・関連する制度・インクルーシブ教育 3. 発達障害の成長過程に伴う発達の変化（小学校期） 4. 発達障害の成長過程に伴う発達の変化（中学校期） 5. 発達障害の成長過程に伴う発達の変化（青年期・大人） 6. 発達障害の中の「学習障害」・「知的障害」 7. 特別支援学校の学習指導要領と教育課程 8. 特別支援学校のセンター的機能と活用、他機関との連携 9. 個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成の意義と作成方法 10. 幼・小・中・高における特別支援教育の概要と特別の教育的ニーズのある児童生徒の対応 11. 特別支援学級の教育活動、通級による指導、家庭との連携（就学指導相談） 12. 小・中学校の通常の学級における特別支援教育と特別支援教育コーディネーター 13. 学習のユニバーサルデザインと合理的配慮 14. 特別支援教育を進める教師の在り方、様々な検査法・療法 15. 障害以外に特別支援の必要な幼児、児童及び生徒について									
事前・事後学習について	・自己理解を深め、他者の支援に役立てていく。									
準備学習に必要な時間	予習及び復習に要する時間（1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	50								
	その他	50	発言、振り返りシート内容、その他							
受講上の注意・課題のフィードバック	分からないことがあったら質問をしてください。									
使用テキスト	必要な資料を配付します。									
参考書	生徒指導提要（最新版）文部科学省/著 教育図書									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	教育課程・生徒指導論(食物栄養専攻) F21048			前期	講義	2	必修			
担当教員	北原 幹久・中井 文彦									
授業の概要	学校における教育活動の全体計画である教育課程（カリキュラム）の編成方法を理解し、加えて、その基準となる学習指導要領の変遷と現状を把握し、諸外国の教育課程にも学びつつ、合わせて生徒指導の理論や方法、カリキュラム・マネジメントを行う意義などについて考える。									
到達目標	教育課程の意義を理解するとともに、各学校で編成する際の基礎的知識や方法等の習得及び学習指導要領の変遷と現状、思想や制度、諸外国の教育課程にも学びながら、合わせて生徒指導の理論や方法、カリキュラム・マネジメントを行う意義や在り方を考える。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
				○						
授業計画	1. 本講義のねらいと概要「教育課程・生徒指導とは何か」（教育課程編成の意義と役割・機能・生徒指導との関連、位置づけなど） 2. 教育課程理論・生徒指導理論の歴史的変遷（新教育とカリキュラム・児童中心主義・構造化・生徒指導の意義と重要性など） 3. 教育課程の編成原理と日本の学校教育の仕組み（学習指導要領との関連） 4. 我が国の教育課程の変遷 1（江戸・明治の教育の変遷） 5. 我が国の教育課程の変遷 2（大正の自由教育と国民学校における戦時下の教育） 6. 戦後の教育改革と学習指導要領の変遷（昭和時代まで） 7. 平成時代にかかわる学習指導要領の変遷と学力問題 8. 現在日本が抱える教育課程の課題解決の道（諸外国の教育課程） 9. 教育課程の実践と評価（PDCAサイクルと個別・集団評価） 10. カリキュラム・マネジメント 11. 教科外学習（総合的な学習の時間・特別活動・道徳教育・生徒指導・特別支援教育など）（生徒指導の在り方を含む） 12. 教科・領域・学年をまたぐ教育課程環境の整備（生徒指導の在り方を含む） 13. 生徒指導の理論と実際（校務分掌上の役割・日々の取組・自己肯定感を育むなど） 14. 集団指導・個別指導の方法原理とその体制の違い 15. 生徒指導の課題と関係機関との連携（校則・懲戒・体罰などの法令理解と暴力行為・いじめ・不登校・インターネットや性に関する課題）									
事前・事後学習について	・「振り返りシート」によって、学習内容の復習、自他の意見をまとめる習慣をつけること。 ・現在の小中学校の学習指導要領の総則と保健体育や家庭科について、特に「保健指導」や「食に関する指導」について、必ず目を通してくること。 ・学校現場での実習に生きるよう、体育・保健体育、特別活動、総合的な学習の時間等における保健健康教育について発展的な可能性を考えて自分の意見をまとめてくること。									
準備学習に必要な時間	・予習及び復習に要する時間（1時間程度）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	70								
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	30	提出物、その他							
受講上の注意・課題のフィードバック	・授業に臨む際、自分の意見をまとめてきて下さい。 ・わからないことがあったら質問をして下さい。									
使用テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省/著 東山書房									
参考書	生徒指導提要（最新版）文部科学省/著 教育図書 「生徒指導入門～ブレない生徒指導の極意とは～」寺崎賢一（明治図書）									

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	道徳・特別活動・総合的な学習の時間論 F22049			後期	講義	2			必修		
担当教員	奥井 現理										
授業の概要	道徳教育と特別活動とは、相互に補完しあいながら子どもの能力や資質を育んでいます。総合的な学習の時間をはじめとする他領域の教育活動との連携を視野にいれつつ、道徳の本質や道徳教育の目標といった内容から、特別活動の目標・実践にいたるまで、教育を広い視野で見通し、自らの教育者としての役割や使命を考えていく授業になります。										
到達目標	・学習指導要領の目標や内容をふまえたうえで、道徳の本質・道徳教育の歴史・道徳教育の課題・子どもの心身の発達及び道徳性の発達などの基礎的理解を得ることができる。 ・学習指導要領の目標や内容をふまえたうえで、特別活動の特質・内容・課題の基礎的な理解を得ることができる。 ・総合的な学習の時間との連携を視野に入れた特別の教科道徳・特別活動の教育活動を、授業をする者としての視点で構想することができる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
				○							
授業計画	1. 特別の教科道徳とは（各教科等他領域との関連。総合的な学習の時間の内容も扱い、関連付ける） 2. 道徳教育の目標（道徳性） 3. 道徳教育の基礎理論（道徳の本質） 4. 道徳教育の基礎理論（道徳性、子どもの心身の発達をふまえた道徳性発達） 5. 道徳教育の基礎理論（実践を視野にいれた概念整理） 6. 道徳教育の実践（教育活動全体における道徳教育の役割をふまえて） 7. 道徳教育の実践（教育方法） 8. 道徳教育の実践（評価） 9. 特別活動の目標（総合的な学習の時間の内容も扱い、関連付ける） 10. 特別活動の目標（諸目標及び育成されるべき資質・能力） 11. 特別活動の理論・実践（教育活動全体における特別活動の役割をふまえて） 12. 特別活動の理論・実践（教育方法） 13. 特別活動の理論・実践（具体的な教育活動・指導） 14. 特別活動の理論・実践（家庭や地域・外部との連携） 15. 特別活動の評価（教職員間との連携、評価）										
事前・事後学習について	毎回、B5 もしくは B4 のワークシートを配布・返却します。適時的にもとめられる事前・事後学習があればそれに記します。それ以外は、返却されたワークシートをノートに貼り付け、思いついたことを書き込むという形で、事前・事後学習を行って下さい。また、知識ワークを毎回課しますので、その復習もいいでしょう。										
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	100	知識・理解								
	実践	0									
	レポート	0									
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。										
使用テキスト	小学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東山書房										
参考書	適宜指定します。										

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	教育方法論Ⅰ（食物栄養専攻） F22050			後期	演習	1			必修		
担当教員	北原 幹久・中井 文彦										
授業の概要	教育実習の意義と目標、児童生徒と相対する教師としての心構え、留意事項など、栄養教諭としての基礎的な在り方、考え方を学びながら、学習指導案を作成し、保健授業を行う。										
到達目標	栄養教諭としての、教育実習に自信をもって取り組めるように学習指導案作成、教材研究、板書計画、教材資料作りなどの方法を会得し、自ら推進していけるようになるとともに、教育実習における心構えや学校現場の在り方を総括的に理解する。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
				○							
授業計画	1. 本講義のねらいと概要・教育実習の意義と目的 2. 教育方法の歴史的概観〈現代における教育方法〉 3. 授業と学力（日常生活に結び付いて力となるもの） 4. 学校における学習指導の理念とその方法・板書・話法などの技術 5. 小中学校における実際の授業参観の視点と授業記録のとり方 6. 学習指導の実際（授業参観） 7. 学習指導案の形式とその立案方法・教育機器の使い方例 8. 学習指導案の立案と授業準備① 9. 学習指導案の立案と授業準備② 10. 保健・食育の模擬授業 11. 授業の評価と授業研究の進め方 12. 教育機器を活用した教材の作り方 13. 児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法 14. 教育方法と保健室経営 15. 教育実習に向けての準備と総括										
事前・事後学習について	・ 栄養教諭になろうとする目標、職種などを明確にイメージして授業に臨む。 ・ 来年度の教育実習予定校（母校か近隣校）を想定しながら、小中の保健領域の指導内容を予習・復習する。 ・ 学習指導本時案を書きながら、模擬授業展開を構想する。 ・ 栄養教諭を目指す中で、心構えやカウンセリング方法などを学ぶ。										
準備学習に必要な時間	予習・復習に要する時間（1 時間程度）										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	0									
	実践	100	学習指導案作成・模擬授業・授業準備・意見感想発表など								
	レポート	0									
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	将来の栄養教諭の姿をイメージして授業に取り組んでください。										
使用テキスト	保健、保健体育教科書（小学校 3・4 年、小学校 5・6 年、中学校） 小学校学習指導要領解説 体育編（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房										
参考書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房 「教育方法論」 谷田貝公昭他編 一藝社										

対象学生	食物栄養専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教育相談 F22052			後期	講義	2	必修		
担当教員	坂上 ちおり								
授業の概要	教員の行う教育相談活動、学校不適応や子どもにまつわる今日的な課題の現状、そして教育相談を行う際の臨床心理学の基本的な知識について学びます。								
到達目標	・教育相談活動について理解し、多職種の連携のもと支援計画を立てることができる。 ・学校不適応や子どもにまつわる現代的な課題の現状を理解し支援計画を立てることができる。さらにその支援計画について担任や保護者に説明することができる。 ・学校職員として子どもの支援に関わる際の心理臨床的な方法を身に着ける。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
				○					
授業計画	1. オリエンテーション 2. 校務分掌における教育相談の位置付け・スクールカウンセラーの職務 3. スクールカウンセラーとの学内における連携 4. 心理臨床の基本的な考え方 5. 面接の進め方 6. 学校場面で活かすカウンセリングの基本技術 7. 学校不適応の現状と支援① 暴力・不登校・いじめ・学級崩壊 8. 学校不適応の現状と支援② 精神疾患・人格障害・性・児童虐待 9. 発達障害のある児童生徒の学内場面における困り感とその支援 10. 発達障害のある人の幼少期と青年期以降の発達 11. 学校外の関係機関との連携・緊急支援 12. ストレスマネジメント・うつおよび自殺と自傷行為 13. 架空事例のアセスメントと支援計画の立て方 14. エンカウンター・子どもと関わる際の小道具 15. コラージュ								
事前・事後学習について	事前学習：本講義内で伝えられることはあくまでも教育相談における基本的な知識・考え方だけです。この基本的な知識・考え方を組みたて、子どもの支援について方針を立てていく力を身につけていくためには、講義以外の様々な経験を積み想像力を働かせていく必要があります。この力を日常で鍛えておいてください。特に、心動かされる沢山の経験を短大時代にしてほしいと思います。 事後学習：講義内で学んだ基本的な考え方を、保護者や担任に説明できるようにまとめておくことと良い。								
準備学習に必要な時間	各回で紹介する理論について、関連する資料等該当するところを読んでおくこと（各回 30 分程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	30	「話を聴く」基本的な姿勢・自己理解						
	レポート	30	最終レポート：基本的知識の習得・アセスメント力						
	その他	40	リアクションペーパー：体験したことについて根拠に基づいた説明ができる						
受講上の注意・課題のフィードバック	リアクションペーパーについては、採点次第、授業内で返却をしています。その際、修正すべき点や加筆ポイントをアドバイスしています。提出済みのリアクションペーパーに加筆して、再提出した場合には加点して、返却します。 最終レポートについては、提出前の指導を複数回行います。								
使用テキスト	特になし								
参考書	小学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東山書房 生徒指導提要（改訂版）文部科学省/著 東洋館								

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	栄養教育実習 F23053			通年	実習	2	必修			
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	教育実習 45 時間および実習のための事前、事後指導をおこないます。 学校経営の内容および学校教員の職務内容や使命について学び、教育実習に臨む心構えとカリキュラム（教育課程）、児童生徒の実態についての理解を深めます。また、教育指導や教職の実務を学びとり、学校教員としての資質を学びます。さらに、栄養教育実習に向けて栄養教諭としての自覚や心構えを養い、児童生徒に対して、食に関する適切な指導ができる実践的能力を培います。 実務経験のある教員の指導による科目									
到達目標	・ 栄養教育実習に臨むにあたり、意義や目的、心構えができる。 ・ 食に関する指導案の作成、模擬授業を行うことができる。 ・ 栄養教育実習において、児童・生徒へ給食を生きた教材として食に関する指導ができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
				○						
授業計画	1. 学校教育における教育実習の位置づけ 2. 栄養教育実習の意義と目的 3. 食に関する指導 全体計画について 4. 食に関する指導 全体計画について 5. 生きた教材としての給食献立について 6. 生きた教材としての給食献立について作成 7. 給食指導の実際 8. 給食を教材とした食の指導の実践 9. 教育指導案の作成とそれに基づいた教材の作成 10. 教育指導案の作成とそれに基づいた教材の作成 11. 教育指導案の作成とそれに基づいた教材の作成 12. 栄養教育指導 模擬授業と評価 13. 栄養教育指導 模擬授業と評価 14. 栄養教育指導 模擬授業と評価 15. 教育実習の反省および情報交換									
事前・事後学習に ついて	児童・生徒の健康増進に寄与する食育指導者として教育実習に臨みます。まずは自分の健康を保つために、「早寝、早起き、三度の食事をしっかり食べて運動をする」という生活習慣を実行し、ハツラツとした実習生として教育実習を行うことができるように心と体を整えてください。									
準備学習に 必要な時間	納得のいく指導案が書けるまで何時間でも努力してください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	教育実習 45 時間以上 栄養教育実習の成績							
	レポート	0								
	その他	50	実習ノート、模擬授業、献立など提出物							
受講上の注意・課題 のフィードバック	栄養教諭としての心構えで臨むこと。 模擬授業は一人 2 回行います。模擬授業の振り返りは、教員からもコメントしますが、児童・生徒として模擬授業を受けた学生からも意見をもらいます。 受講学生の模擬授業の良いところを自分の授業に取り入れてください。									
使用テキスト	栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート 監修 芦川修貳 編集代表 田中延子 学建書院									
参考書	四訂 栄養教諭論－理論と実際－ 金田雅代編 建帛社 「栄養教諭養成における実習の手引き」 田中信（監修・著者） 東山書房 家庭科教科書（小学校 5・6 年、中学校） 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房									

対象学生	食物栄養専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教職実践演習（栄養教諭） F24054			後期	演習	2	必修		
担当教員	中井 文彦・新海 シズ								
授業の概要	栄養教諭として必要な知識・技能の修得状況を確認するとともに、地域での「ブナシメジ栽培」にかかわるフィールドワークをもとにした給食だより作りや、献立作成、調理、食に関する指導の実践を通して、実践力・総合力をつける。								
到達目標	・教育実習で得られた経験をふまえ、栄養教諭として総合的に児童・生徒の食育指導を行うために、自分が身に付けるべき内容について理解できる。 ・目指す栄養教諭像を具体的に描くことができ、その目標に向かって具体的で段階的な目標を立て、実践力を磨いていくことができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
		○		○					
授業計画	1. 教育実習を振り返って or 教育実習を目前にした悩みや問題 *実習の成果と課題 *本授業のめあての確認 2. 栄養教諭の職務（*栄養教諭制度の概要 *栄養教諭の役割） 3. 学校教育と食に関する指導① *学校における食育推進の必要性 *食に関する指導にかかわる全体計画の作成 4. 学校教育と食に関する指導② *各教科等における食に関する指導の展開（学習指導案） 5. 学校教育と食に関する指導③ *学校給食を教材として活用した食育の推進 *学校・家庭・地域との連携 6. 地域食材のフィールドワーク① *ブナシメジの生産農家での聞き取り 7. 地域食材のフィールドワーク② *調査のまとめと食材としての活用 8. 地域食材を用いた学校給食の献立① *ブナシメジを使った献立の作成 9. 地域食材を用いた学校給食の献立② *「給食だより」の作成 （食材の価値、生産の様子、生産者の思い） 10. 地域食材を用いた学校給食の献立③ *ブナシメジを使った献立調理 11. 食に関する指導の実際① *学習指導案の作成 1 12. 食に関する指導の実際② *学習指導案の作成 2 13. 食に関する指導の実際③ *模擬授業 1 14. 食に関する指導の実際④ *模擬授業 2 15. 演習のまとめ								
事前・事後学習について	・教育実習を目前にしての心構えや準備、教育実習を終えての反省や課題を整理する。 ・ブナシメジの歴史や栽培方法、新たな調理法を考え実際に調理してみる。 ・「食に関する指導」に関する模擬授業ができるよう、構想し、指導案に書いてみる。								
準備学習に必要な時間	授業の準備は、できるまで行ってください。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	30	模擬授業実施						
	レポート	0							
	その他	70	献立、調理・給食だより・学習指導案作成、提出物など						
受講上の注意・課題のフィードバック	提出物は丁寧に作成してください。								
使用テキスト	四訂 栄養教諭論－理論と実際－，金田雅代編，建帛社								
参考書	家庭科教科書（小学校 5・6 年、中学校） 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）文部科学省/著 東山書房								

対象学生	生活科学学科 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	ゼミナールⅠ（生活科学学科） F11055			通年	演習	1			
担当教員	担当教員								
授業の概要	学科の教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、学生が選択し受講します。専門分野を深めたい、専門以外の分野も体験してみたい・・・など自分の学びや興味を広げるチャンスです。少人数制で行われ、専攻をこえて学べるのもメリットの1つです。ゼミナールの学びが卒業研究へと発展することもあります。								
到達目標	自分の学びや興味を広げる。または、専門分野を深める。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
					○				
授業計画	各教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、年間 15 回実施します。 （テーマ例） 映画で時事対策 映画で学ぶ発達心理学 Choice Theory を学ぼう フェルト ～絵本の世界を作る～ 飯田市の社会教育資源から学ぶ 補食について考える 味覚の科学 食品について学ぼう！ コロナ禍および災害時の行動を考えよう ～運動（ウォーキングを含む）とパッキング～ おやきを作る								
事前・事後学習について	事前学習：各回の実施内容を把握しておく。 事後学習：学習した内容について、各自で復習する。								
準備学習に必要な時間	授業内で配布するプリントを事後学習として解いてください（毎回 1 時間程度）。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	100							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。								
使用テキスト	各教員の指示に従う。								
参考書	適宜指示する。								

対象学生	生活科学学科 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無	
科目名	ゼミナールⅡ（生活科学学科） F12056			通年	演習	1				
担当教員	担当教員									
授業の概要	学科の教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、学生が選択し受講します。専門分野を深めたい、専門以外の分野も体験してみたい・・・など自分の学びや興味を広げるチャンスです。少人数制で行われ、専攻をこえて学べるのもメリットの1つです。ゼミナールの学びが卒業研究へと発展することもあります。									
到達目標	自分の学びや興味を広げる。または、専門分野を深める。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
					○					
授業計画	各教員がそれぞれの専門分野からテーマを設定し、年間 15 回実施します。 （テーマ例） 映画で時事対策 映画で学ぶ発達心理学 Choice Theory を学ぼう フェルト ～絵本の世界を作る～ 飯田市探索～飯田市の社会教育資源に触れる～ 補食について考える 味覚の科学 食品について学ぼう！ コロナ禍および災害時の行動を考えよう ～運動（ウォーキングを含む）とバッククッキング～ おやきを作る									
事前・事後学習について	事前学習：各回の実施内容を把握しておく。 事後学習：学習した内容について、各自で復習する。									
準備学習に必要な時間	授業内で配布するプリントを事後学習として解いてください（毎回 1 時間程度）。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	100								
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。									
使用テキスト	各教員の指示に従う。									
参考書	適宜指示する。									

対象学生	生活科学学科 2			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	卒業研究（生活科学専攻・食物栄養専攻） F12057			後期	演習	2					
担当教員	担当教員										
授業の概要	生活科学専攻又は食物栄養専攻の学修成果をもとに自らの研究テーマを明確にし、そのテーマに対して、適切な方法（文献研究・調査・実験など）の学修をもとに自らの研究テーマにある課題に対する結論を導き出す、一連の過程を学びます。										
到達目標	・研究テーマを明確にできる。 ・研究テーマを解決するうえで適切な方法（文献研究・調査・実験など）を用いて課題解決ができる。 ・結論に至る経過や、考察の根拠を明瞭且つ論理的に述べることができる。 ・論文の体裁を整え、卒業研究発表会で発表することができる。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5						
					○						
授業計画	【卒業研究の流れ】 履修登録変更期間内に履修登録を行う。 （5月中旬） 「卒業研究申込書」を教務課へ提出 （12月初旬）「卒業研究題目提出書」を教務課へ提出 （1月初旬） 「卒業研究提出票」「卒業研究」を教務課へ提出 【卒業研究の授業計画例】 ・卒業研究の進め方（スケジュールの確認） ・研究テーマの設定・課題の設定 ・先行研究のまとめ ・方法（文献研究・調査・実験など）の設定 ・研究・中間報告 ・卒業研究要旨の作成 ・発表用 Power point の作成 ・卒業研究発表・リハーサル ※担当指導教員の指導方法により授業計画の内容が異なります。										
事前・事後学習について	・自らの設定したテーマについて、常日頃から情報を収集する視点を持ちましょう。 ・指導教員と連絡を取り合い、率先して卒業研究に向き合いましょう。										
準備学習に必要な時間	自らのテーマの課題解決に要する準備学修時間：概ね 1 時間程度										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	0									
	実践	50	先行文献の検索及びそのまとめ、卒業研究発表での発表								
	レポート	50	論文としての体裁及びその内容、判断力・思考力								
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	・自らスケジュールを決め、課題解決に向けて計画的に学修をすすめていきましょう。 ・分からないことなどは、早め早めに担当教員に確認しましょう。										
使用テキスト	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

5. 専攻科養護教育専攻

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	予防医学研究 Y12002			前期	講義	2	必修			
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	予防医学と疫学の考え方をおさえたうえで、養護教諭の対象である小児の罹患しやすい感染症や学校での健康診断からその実際を学びます。また、教職員の健康管理を念頭におき、生活習慣病予防を軸として予防医学の基礎も学びます。「臨床診断実習」において実際の医療機関で予防医学を学ぶ際の基礎知識をおさえます。									
到達目標	1. 特定健診・特定保健指導プログラムが理解できる。 2. 健診結果から健康課題を抽出することができる。 3. 生活習慣病とその改善の方法が理解できる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 予防医学と疫学の歴史 2. 感染症の予防：①学校において予防すべき感染症の第一種・第二種・第三種 3. 感染症の予防：②麻疹 4. 感染症の予防：③結核 5. 感染症の予防：④インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 6. 感染症の予防：⑤性感染症・エイズ 7. 感染症の予防：⑥予防接種 8. アレルギー疾患 9. 健康診断：①運動器検診 10. 健康診断：②歯及び口腔 11. 健康診断：③内科系疾患 12. 生活習慣病：①メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群） 13. 生活習慣病：②特定健康診査と基本的な検体検査・画像診断 14. 生活習慣病：③悪性新生物 15. 総括（事例）									
事前・事後学習について	人体構造に関する基礎知識を補いながら授業に臨んでください。「臨床診断実習」の人間ドック見学・体験ではこの授業での知識が必要となりますので、実習に臨む点からも意欲的に学んでください。									
準備学習に必要な時間	事前・事後学習には 30 分～1 時間程度の時間を要します。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	90	予防医学・感染症の予防・予防接種・健康診断・生活習慣病の知識							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	10	授業態度・関心・興味							
受講上の注意・課題のフィードバック	『予防医学と疫学の歴史』『感染症の予防』『予防接種』『健康診断』『生活習慣病』ごとに課題を出します。課題は授業時間内に確認していきます。わからない部分があればそのつど質問してください。									
使用テキスト	「学校保健実務必携第 4 次改訂版」第一法規									
参考書	「予防医学指導士テキスト」日本予防医学会 「学校保健安全法に沿った感染症 最新改訂 15 版」岡部信彦 少年写真新聞社 「みんなが受けよう予防接種」岡部信彦 少年写真新聞社									

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	学校保健研究 Y13003			前期	講義	2	必修			
担当教員	澤田 有香									
授業の概要	本科で学んだ学校保健の知識を基に、学校保健の現状から今後の課題を考える。									
到達目標	・テキストを読み解き、喫緊の健康課題の実情を知り、その方策を考える。 ・レポート提出により、わかりやすいまとめ方や文章の書き方を習得する。 ・様々な健康課題の中から自分の修了研究のテーマの方向性を決める。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 「児童生徒が現代社会におかれている現状と課題」オリエンテーション・学校保健の現状と課題を知る。 2. 「健康管理の動向①ー児童生徒の発育・発達、感染症」児童生徒の発育・発達の現状と感染症の概要を理解する。 3. 「健康管理の動向②ー内科」内科（栄養状態・循環器・呼吸器・腎尿路系）についての動向と課題を理解する。 4. 「健康管理の動向③ー眼科・耳鼻咽喉科」眼科、耳鼻咽喉科についての動向と課題を理解する。 5. 「健康管理の動向④ー皮膚科、アレルギー科」皮膚科、アレルギー科についての動向と課題を理解する。 6. 「健康管理の動向⑤ー整形外科、産婦人科」整形外科、産婦人科についての動向と課題を理解する。 7. 「健康管理の動向⑥ー歯科・歯科口腔外科、児童生徒のメンタルヘルス」歯科・歯科口腔外科、児童生徒のメンタルヘルスについての動向と課題を理解する。 8. 「健康管理の動向⑦ー児童生徒の事故・災害、教職員の健康管理」児童生徒の事故災害、教職員の健康管理についての動向と課題を理解する。 9. 「学校環境衛生の動向」学校環境衛生の動向と課題を理解する。 10. 「健康教育の現状①ー保健教育及び喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」保健教育及び喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育についての現状と課題を理解する。 11. 「健康教育の現状②ー歯・口の健康教育」歯・口の健康教育と食育の現状と課題を理解する。 12. 「健康教育の現状③ー食育の動向、安全教育」食育・安全教育の現状と課題を理解する。 13. 「健康教育の動向④ー心の健康教育」心の健康教育の現状と課題を理解する。 14. 「健康教育の動向⑤ー性教育・エイズ教育」性に関する指導の基本的考え方を知り、重要性を理解する。 15. 「まとめ」全体的な動向と課題をまとめる。									
事前・事後学習について	授業前には必ずテキストの該当箇所を一読してから臨んでください。 学校保健の課題について、レポートを作成し、毎回発表してもらいます。									
準備学習に必要な時間	1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	20	発信力							
	レポート	70	思考力・判断力							
	その他	10	意欲態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	健康課題に関する様々な情報を元に考察し、意欲的に発言してください。									
使用テキスト	「学校保健の動向」 日本学校保健会 丸善出版(株)									
参考書	適宜指示する									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	養護学研究 Y13004			前期	講義	2	必修		
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	養護教諭の歴史や養護教諭に専門職として期待されていること、求められていることを確認し、現代的な健康課題を解決するための養護教諭としての具体的な方策を考えることにより、養護教諭独自の役割（専門性）を追求する。								
到達目標	児童生徒の現代的健康課題を解決するための具体的な方策を、養護教諭の5つの職務（保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動）の中の保健教育、保健管理（救急処置）、健康相談の3分野から考える。								
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3						
		○							
授業計画	1. オリエンテーション 養護教諭の職務内容 2. 養護教諭の歴史 3. 「養護をつかさどる」の変遷と養護教諭に求められる役割 4. 現代的な健康課題と養護教諭の役割 5. 「チームとしての学校」における養護教諭の役割①小学校 6. 「チームとしての学校」における養護教諭の役割②中学校 7. 養護教諭独自の役割①小学校 8. 養護教諭独自の役割②中学校 9. 各自の発表と協議①小学校・保健教育 10. 各自の発表と協議②小学校・保健管理（救急処置） 11. 各自の発表と協議③小学校・健康相談 12. 各自の発表と協議④中学校・保健教育 13. 各自の発表と協議⑤中学校・保健管理（救急処置） 14. 各自の発表と協議⑥中学校・健康相談 15. まとめ								
事前・事後学習について	各自テーマを一つ決めて、レポートを作成し発表してもらいます。								
準備学習に必要な時間	1 時間程度必要								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	50	知識・技術・表現力						
	レポート	40	表現力・知識 レポートの提出						
	その他	10	授業に取り組む前向きな姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	レポートを作成し発表します。意欲的に望んでください。								
使用テキスト	「新養護概説」采女智津江編集代表 少年写真新聞社								
参考書	適宜指示する。								

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	教育臨床心理学研究 Y12005			後期	講義	2				
担当教員	坂上 ちおり									
授業の概要	情緒的な不適応への学内における支援、発達障害への学内における支援に関する心理臨床の文献を購読する。主に心理職の支援方針を理解することが目的である。心理職の役割を理解した上で、養護教諭としてどのような役割、支援ができるのか考えを深めていきたい。									
到達目標	・文献購読を通して、心理臨床場面での症例理解ができる。 ・事例に基づいた文献購読を通して、学校現場における心理職の行う支援方針について理解することができる。 ・養護教諭の役割を意識した支援方針を立てることができる。その支援方針について、他者に説得力を持って説明することができる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. オリエンテーション 2. 支援者として必要とされる姿勢：ディスカッション 3. 心理検査⇒調べて発表 4. 発達検査および知能検査⇒調べて発表 5. 幼児期から児童期までに用いられる療法① 遊戯療法（箱庭） 安島智子．（2010）．授業妨害、暴力を続ける中一男子スクールカウンセリングにおける「被虐待児」との遊戯療法．遊戯療法と子どもの「こころの世界」．168－186．金子書房． 6. 幼児期から児童期までに用いられる療法② 母子並行面接・遊戯療法 長沼佐代子（2011）・・・精神病的母親とその病的投影同一化に巻き込まれた場面緘黙児の精神分析的心理療法．白百合女子大学 発達臨床センター紀要，14，20-29． 7. 幼児期から児童期までに用いられる療法③ 家族療法（ブリーフ） 衣斐哲臣．（2008）．家族交流を創る“将来の非行少女？”．子ども相談・資源活用ワザ．児童福祉と家族支援のための心理臨床，103－122．金剛出版． 8. 精神保健領域①（境界例／認知行動療法）・・・松田美登子．（2012）．大学生の学生生活支援に活かす認知行動療法（C B T）の検討：境界性パーソナリティ障害へのC B T基本モデルによるアセスメントを中心に．臨床発達心理実践研究，7，153-161． 9. 精神保健領域②（性同一性障害）梅宮れいか．（2007）．性同一性障害（男→女）の思春期男子と人格障害を持つその母親の症例：治療者の情動に動揺を与える患者について．臨床発達心理実践研究，2，58-63． 10. 精神保健領域③（吃音） 村瀬忍・神野幸雄・馬淵沙奈美．（2013）．吃音のある小学生への支援：吃音の軽減と吃音への感情の変化について．臨床発達心理実践研究，8，53－61． 11. 発達障害①（学習障害）佐竹真次．（2009）．読字困難をもつ小学生の「イラスト漢字」トレーニング練習の効果．臨床発達心理実践研究，4，157-163． 12. 発達障害②（アスペルガー）藤原有子・村瀬忍．（2009）．アスペルガー症候群生徒の学習指導に関する研究：思春期・受験期を迎えたA少年の事例を通して．臨床発達心理実践研究，4，105-111． 13. 発達障害③（ADHD）中田ゆかり．（2008）．ADHD 児に対する社会的ゲームによる社会性の発達支援：7並ベスクリプトによる「ルール変更の申し出」「理由の言語化」「自己統制力」「相手の意向をきく」行動の指導を通して．臨床発達心理実践研究，3，60-68． 14. 就学判断における審査カードの書き方および報告書の読み方 15. 総括									
事前・事後学習について	事前学習：臨床心理学の領域において行われている支援の実践研究論文を購読します。担当者はレジュメを作成し発表してください。わからないことは、個別に指導をします。 事後学習：論文購読を通して、各障害や精神疾患の基本的な様相について理解するだけでなく、そのことを保護者や管理職、担任にどう説明し、養護教諭としての支援を立案するのかについて考えを深めていけると良いと思います。									
準備学習に必要な時間	担当する発表回では、事前準備に3時間ほどかかります。各回、読み合わせをしますので、事前に論文を読んでおく必要があります（各回1時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	100	支援の立案および説明する力							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	発表準備のため、事前にレジュメは教員の指導を受けるようにしてください。発表の際にもコメントをします。									
使用テキスト	特に指定しない									
参考書	適宜指示する									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	病態生理論 Y11011			前期	講義	2	選択必修			
担当教員	水上 佳樹									
授業の概要	疾患に対して生体内でおこりうる生理機能、生化学的な反応を中心に学習し、さらに感染症についての基礎的な知識と、小児に多い感染症についての知識を養う。 実務経験のある教員（医師）による科目									
到達目標	・ 疾患の科学的理解ができる。 ・ 感染症の基礎知識を理解することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 病気に対する生理学の基礎知識 2. 病気に対する生化学の基礎知識 3. 病気に対応する薬理学的基礎知識 4. 症候とその病態生理：①かぜ、発熱、倦怠感など 5. 症候とその病態生理：②腹痛、下痢、嘔吐など 6. 症候とその機能・臨床検査医学：①血液検査、尿検査など 7. 症候とその機能・臨床検査医学：②心電図検査、聴覚検査など 8. 病態のサインと診断：①がん 9. 病態のサインと診断：②心疾患 10. 病態のサインと診断：③脳卒中 11. 感染症の歴史と現状 12. 再興感染症と新興感染症 13. 小児に多い感染症：①インフルエンザ、ロタウイルス、はしかなど 14. 小児に多い感染症：②水痘、おたふくかぜなど 15. まとめ									
事前・事後学習に ついて	教科書をよく読んでください									
準備学習に 必要な時間	概ね 1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	筆記、選択							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題 のフィードバック	質問等を積極的にしてください。質問にはそのつど応じますので、理解を深めてください。									
使用テキスト	中野昭一編「病気の成り立ちとからだⅠ 症候別病態生理編」 医歯薬出版株式会社									
参考書	適宜紹介									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	薬理学研究 Y11013			後期	講義	2		必修		
担当教員	吉澤 忍									
授業の概要	臨床薬物における治療学の全般を学びます。 実務経験のある教員（薬剤師）の科目									
到達目標	現在、臨床で使用されている医薬品知識、薬物療法の内容を習得する。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 薬物療法の目指すもの 2. 薬はどのように作用するのか 3. 薬はどのように体内をめぐるのか 4. 薬効に影響する因子 5. 薬物の有害反応はなぜ起こるのか 6. 抗感染症薬その 1 7. 抗感染症薬その 2 8. 抗がん薬その 1 9. 抗がん薬その 2 10. よい新薬を日本から、治験について 11. 免疫治療薬について 12. 救急の際に使用される薬物 13. 漢方薬 14. 消毒薬 15. 総括									
事前・事後学習について	授業前までにテキストを一読すること スライドのハンドアウトを復習すること									
準備学習に必要な時間	テキストを使用した予習・授業内容の復習（1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	知識							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは授業のなかで質問してください。									
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎 5「薬理学」 中島光好・植松俊彦・金丸光隆 編 医学書院									
参考書	適宜指示									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	精神保健研究 Y12014			前期	講義	2	必修			
担当教員	岩崎 みすず									
授業の概要	・精神保健上の課題（精神障害）や家族についての理解を深めて、地域生活を継続していく上での「生きづらさ」に思いを寄せます。 ・また、各自が関心がある精神保健上の課題（課題を持つ人）に関する文献を選択して授業で内容を紹介、ディスカッションを行い、地域で生活する人々とその家族をサポートするために必要なことについて考えを深めます。									
到達目標	1. 精神保健上の課題（精神障害）について理解を深める 2. 精神保健上の課題を持ちながら生活する人々にとって必要なことを考えることができる 3. 文献を要約し、他者が理解できるように発表することができる 4. 授業の中で提示された文献について自分の考えを述べたり、他者の考えを聴くことができる									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. オリエンテーション／精神科の病について 2. 精神障害の理解を深める① 3. 精神障害の理解を深める② 4. 精神障害の理解を深める③ 5. 精神障害の理解を深める④ 6. 精神障害の理解を深める⑤ 7. 精神障害の理解を深める⑥ 上記①～⑥は代表的な精神疾患、児童・思春期に多い障害、家族、専門職者などについて学ぶ 8. 精神保健上の問題をもつ人への対応を考える① 9. 精神保健上の問題をもつ人への対応を考える② 10. 精神保健上の問題をもつ人への対応を考える③ 11. 精神保健上の問題をもつ人への対応を考える④ 12. 精神保健上の問題をもつ人への対応を考える⑤ 13. 精神保健上の問題をもつ人への対応を考える⑥ 14. 精神保健上の問題をもつ人への対応を考える⑦ 15. 感情のコントロール／リカバリー									
事前・事後学習について	自分が関心がある精神保健上の課題に関する文献を授業で紹介し、ディスカッションするため、相応しい文献の選択と他者に紹介するための事前の準備を必要とします。									
準備学習に必要な時間	選択した文献の解説と、自分の考えのまとめを 2～3 時間行ってください。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	50	精神保健上の問題を持ちながら生活する人の理解							
	その他	50	授業参加姿勢、精神保健上の課題の理解、文献の選択・要約・発表が適切か							
受講上の注意・課題のフィードバック	文献の紹介では、自分の考えをまとめてわかりやすく発表してください。ディスカッションでは活発な意見交換をしましょう。									
使用テキスト	特に指定しない 授業内に資料を適宜配付									
参考書	特に指定しない									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	救急処置演習 Y12015			前期	演習	2	必修			
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	養護教諭に必要な救急処置・救急看護の知識および技術を修得します。									
到達目標	1. 学校で行う救急処置・救急看護の知識が理解できる。 2. 学校で行う救急処置・救急看護の技術が理解できる。 3. 救急時における関係機関との協働を考えることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 包帯法の基礎知識と技術 巻軸包帯、ネット包帯、三角巾を用いた包帯法を行いその基礎を確認します。 2. バイタルサインの基礎知識と技術 血圧・脈拍・呼吸・体温・意識の測定を行いその基礎を確認します。 3. 救急蘇生の基礎知識と技術 成人、小児、乳児の救急蘇生法を行いその基礎を確認します。 4. 運動器系への対応 ①突き指②骨折③捻挫④脱臼の対応を考えます。 5. 感覚器系への対応① ①眼科底骨折②網膜剥離③鼻出血④鼻骨骨折⑤鼓膜損傷の対応を考えます。 6. 感覚器系への対応② ①熱傷②すり傷③切り傷④刺し傷の対応を考えます。 7. 口腔歯科への対応 ①歯牙脱臼②歯牙破折の対応考えます。 8. 循環器系への対応 ①低血圧②不整脈③ショック状態④熱中症の対応を考えます。 9. 呼吸器系への対応 ①喘息②過換気症候群の対応を考えます。 10. 消化器系への対応 ①腹痛②嘔吐③下痢の対応を考えます。 11. 脳神経系への対応 ①頭部外傷②てんかんの対応を考えます。 12. アレルギーへの対応 エピペン対応を含むショック状態の対応を考えます。 13. 内分泌系への対応 ①低血糖症状②高血糖症状の対応を考えます。 14. 保健室で行われる手当と関係者の協働 ①消防署②救急医療機関の機能について学びます。 15. 総括：事例検討									
事前・事後学習について	演習であり事前・事後学習は特に示しません。授業で取り扱う技術が授業時間内では身につかないと感じたら、各々で繰り返し練習をして自分の技術にしていってください。ここでの知識や技術が学校現場で活かされることが最も大切なことです。									
準備学習に必要な時間	1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	50	定期試験（救急処置の知識）							
	実践	40	演習試験（救急処置の技術）							
	レポート	0								
	その他	10	授業態度、授業内容への関心							
受講上の注意・課題のフィードバック	演習を行います。わからないことがあればその都度質問してください。									
使用テキスト	「学校保健実務必携第 4 次改訂版」 第一法規									
参考書	新版 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護学 遠藤伸子他 東山書房 2022 新版 こころのポイント！学校救急処置 草川功監修 全養サ書籍編集委員会 農文協 2021 救急蘇生法の指針（市民用）2022 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修 へるす出版 2022									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	臨床診断実習 Y13016			前期	実習	1		必修	
担当教員	三浦 弥生・坂上 ちおり								
授業の概要	小児科・病児保育および人間ドックの見学実習を行い、医療・看護の実際を学習する。①健康障害のある小児医療・看護・地域連携の実際を理解する。②看護における適切な援助・指導のための基礎的知識・技術・態度を学習する。③成人の健康管理・指導の実際を学ぶ。 実務経験のある教員（現場の看護師等）の科目								
到達目標	1. 病院組織を理解する。 2. 小児科看護を理解する。 3. 疾病の早期発見，早期治療の実際を理解する。 4. 病院と地域の連携の実際を理解する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1. 医療機関の概要 2. 医療機関の連携 (1) 医療機関内の他職種の連携 (2) 医療機関と地域との連携 3. 小児看護の実際 (1) 小児科外来・病棟 ① 病院を受診する小児とその家族の心理 ② 小児看護の実際 (2) 病児保育 ① 病児と家族の心理 ② 病児保育の実際 4. 予防医療 (1) 人間ドック (2) 健康教育 ① 運動・栄養指導 ② 行動変容と心理 (3) 予防接種 (4) 内視鏡・レントゲン等検査 5. まとめ (1) 医療機関における小児看護の実際 (2) 医療機関を受診する小児とその家族の心理								
事前・事後学習について	事前・事後学習については臨床診断実習オリエンテーションで示します。養護教諭として必要となる小児看護と予防医学の分野を、実際の病院において学びます。意欲的に取り組んでください。								
準備学習に必要な時間	特に指示なし								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	40	診察，療養および臨床医学の理解，実習への関心・意欲・態度						
	レポート	30	実習内容の理解						
	その他	30	臨床診断実習記録，カンファレンスでの発言						
受講上の注意・課題のフィードバック	実習中に生じた疑問等はそのままにせず書きとめておき、最終日のカンファレンスで提示してください。								
使用テキスト	臨床診断実習要項								
参考書	こどもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳澤正義，講談社 病気の地図帳 山口和克 講談社								

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	看護学特講 Y11017			後期	演習	2	必修			
担当教員	村山 真紀子									
授業の概要	看護学の視点で SDGs を考えてみる。SDGs について課題を持ち、その課題について新聞のニュースなど身近にある情報について取り上げながら考察する。									
到達目標	SDGs の課題に対して看護学の視点で考え、文献検索等を用いて知識を深め、わかりやすくまとめることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1 SDGs の概要 2 SDGs と「看護」について考える 3 SDGs の領域から関心のある課題を考える 4 看護と SDGs : ①貧困・飢餓 5 看護と SDGs : ②教育・ジェンダー・安全な水とトイレ 6 看護と SDGs : ③健康と福祉 7 看護と SDGs : ④安全な水とトイレ 8 看護と SDGs : ⑤エネルギー・環境 9 看護と SDGs : ⑥働きがい・産業と技術革新 10 看護と SDGs : ⑦不平等をなくす・平和と公正 11 発表① 12 発表② 13 発表③ 14 意見交換 15 まとめ									
事前・事後学習について	「看護」、「SDGs」について今の知識よりさらに深められるよう、身近にある情報にこれまで以上に興味を持ちましょう。									
準備学習に必要な時間	30 分程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	20	授業の中での意見・積極性							
	レポート	0								
	その他	80	発表の内容、発表態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業で生じた疑問・質問に対して当該授業内か次回の授業までに解決する。									
使用テキスト	指定しない。									
参考書	随時提示する。									

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	教育職の研究 Y21020			前期	講義	2		必修	
担当教員	中井 文彦								
授業の概要	教師の意義について、法や制度、学校教育への期待などの視点から多角的に考え合い、教職に就くための基本的事項を学び、教師になる適性と意欲、専門性を身に付ける。								
到達目標	・教職の意義と使命、教員の仕事と服務など、今求められる教師像などについて理解を深めるとともに、教師の使命感を自覚する。 ・児童生徒の前に立つ自分自身を見つめ直し、養護教諭として即戦力のある専門性を磨いていく。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○								
授業計画	1. 本講義のねらい・現代の教師に求められているもの 2. 教師になる意義と他職業との比較 3. 学校の組織 4. 学校安全と危機管理について 5. 教育関係法規の基礎 6. 学校教育に関する法規 7. 教職員に関する法規 8. 教員の研修 9. 教師の姿から学ぶ①小学校 10. 教師の姿から学ぶ②中学校 11. 我が国の教育改革の動向 12. 学習指導要領の変遷と新学習指導要領 13. 教員評価と学校評価 14. 保健室経営と生徒指導・他との連携（チームとして） 15. 私が目指す教師像（総括）								
事前・事後学習について	・「振り返りシート」を活用し学習内容の復習を毎時間後に行う。 ・子どもの前に立つ教師のあり方を常に考え、日頃から新聞・インターネットにおける教育の話題について情報収集し、講義に持ち寄る。 ・事前に配付された資料をもとに、現場の養護教諭の仕事ぶりについて感想を書き提出する。								
準備学習に必要な時間	予習及び復習に要する時間（1時間程度）								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	100	発言、振り返りシート内容、その他提出物						
受講上の注意・課題のフィードバック	わからない事があったら質問をしてください。								
使用テキスト	新教育職の研究 田井康雄編 学術図書出版 解説教育六法（2021 令和3年度版） 三省堂								
参考書	特に指定なし								

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	教育基礎論 Y21021			前期	講義	2		必修		
担当教員	奥井 現理									
授業の概要	教育の原理、教育の歴史、教育の方法、現代教育の話題など、広範囲にわたる教育学の基礎を学び、拡散しがちな教育学の学修成果を補充・深化・統合します。									
到達目標	・教育の本質・基本概念及び目標などを理解することができる。 ・地域、家庭、学校等における教育を、さまざまな位相（教育改革、教育制度、学校経営、社会教育生涯学習）から考察・理解することができる。 ・家庭・社会・学校の広いをみすえ過去・現代（西洋・日本）における教育（思想・実践）を学び、現代における教育の課題や未来の教育の在り方を考察することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○									
授業計画	1. 教育の基本原理（１）なぜ教育が必要なのか 2. 教育の基本原理（２）教育の意味・役割 3. 教育の基本原理（３）教育の目的・目標 4. ヨーロッパにおける教育の理念と歴史（１）古代から中世 5. ヨーロッパにおける教育の理念と歴史（２）ルネサンスから近代 6. ヨーロッパにおける教育の理念と歴史（３）近代から現代 7. 日本における教育の理念と歴史（１）古代から近世 8. 日本における教育の理念と歴史（２）近代 9. 日本における教育の理念と歴史（３）現代 10. 教育の理念と歴史から方法の基礎理論へ 11. 教育方法の基礎理論（１）教育方法論の基礎原理と歴史 12. 教育方法の基礎理論（２）教育課程論の基礎原理と歴史 13. 教育方法の基礎理論（３）教育実践・技術の諸相 14. 現代教育での展開（１）公教育 15. 現代教育での展開（２）社会教育・生涯学習									
事前・事後学習について	授業の終わりに、毎回のワークシート提出を求めます。これは次回に返却します。返却されたワークシートをノートに貼り付け、考察の手がかりとして下さい。 毎回、知識ワークを行います。									
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習してください。毎回提示される知識ワークを復習するのもいいでしょう。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	知識・思考・理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。									
使用テキスト	教育学の基礎と展開 第三版 相澤伸幸著 ナカニシヤ出版									
参考書	適宜指定する。									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	教育制度研究 Y21022			前期	講義	2	必修		
担当教員	奥井 現理								
授業の概要	教育法規を学ぶことを通して、日本の教育制度を奥深くまで知り、考える授業です。確認のための小テスト、テスト解説、知識深化の順に授業は進みます。必要に応じて、議論や文章作成の活動を取り入れることがあります。								
到達目標	・学校・社会・子どもの状況をふまえたうえで教育法規の知識を豊富に身に付けることができる。 ・教育法規の知識を活用して教育制度・政策（教育改革、公教育制度、教育行政、教員の制度、子どもの環境・課題など）の内容・課題を深く理解することができる。 ・教育制度・政策の理解に基づき、学校のあらゆる教育活動（学習指導、生徒指導、学校経営、学校安全、地域との連携など等）の位置づけ及びその具体的内容を知ることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○								
授業計画	1. 教育法規の体系と教育制度 2. 理念の教育法規 1（日本国憲法と教育基本法など：日本国憲法に重点を置く） 3. 理念の教育法規 2（日本国憲法と教育基本法など：教育基本法に重点を置く） 4. 実践の教育法規 1（学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則など） 5. 実践の教育法規 2（学校教育法施行規則など） 6. 実践の教育法規 3（学校保健安全法など） 7. 子どもの教育法規（児童福祉法をはじめとする児童関連の法規） 8. 教職員の教育法規 1（地方公務員法など） 9. 教職員の教育法規 2（教育職員特例法、教育職員免許法など） 10. 教育行政に関する法規（地方教育行政の組織及び運営に関する法律など） 11. 社会教育・生涯学習に関する法規（社会教育法、生涯学習の進捗のための施策の推進体制等の整備に関する法律など） 12. 特集・演習 1（最新の時事 社会の変化・子どもの生活の変化への対応ほか） 13. 特集・演習 2（最新の時事 教育政策の動向・公教育制度ほか） 14. 特集・演習 3（最新の時事 学校経営・教職員ほか） 15. 特集・演習 4（最新の時事 地域との連携・学校安全ほか）								
事前・事後学習について	毎回ワークシートを配布します。ワークシートをノートに貼り付け、考察の手がかりとして下さい。								
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	知識・理解						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。								
使用テキスト	解説教育六法 姉崎洋一ほか編集 三省堂（ここ二～三年以内のものを持っていれば新たに買う必要はありません）								
参考書	適宜指定する。								

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	学校教育心理学 Y21023			前期	講義	2		必修		
担当教員	向田 久美子									
授業の概要	子どもの心身の発達と学習の過程に関する代表的な理論を紹介し、教育現場における具体的な事例をまじえながら解説する									
到達目標	子どもの心身の発達と学習の過程について学び、発達段階や種々の場面、個に応じた指導・支援を行うための基礎的知識を身につける。それらの知見を踏まえ、学校教育の諸問題について自分なりの改善策を考案できる									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○									
授業計画	1. 学校教育心理学とは【遠隔授業】 2. 発達のしくみ【遠隔授業】 3. 認知発達【遠隔授業】 4. 自己の発達【遠隔授業】 5. 対人関係の発達【遠隔授業】 6. 学習のしくみ（１）条件づけと観察学習【遠隔授業】 7. 学習のしくみ（２）文字文化による学びと対話・実践による学び【遠隔授業】 8. 動機づけと学習【遠隔授業】 9. 自律的な学習者の育成【遠隔授業】 10. 教育評価【遠隔授業】 11. 学級集団の特徴【遠隔授業】 12. 教師の役割とその影響【遠隔授業】 13. 教育相談【遠隔授業】 14. 発達障がいの理解【遠隔授業】 15. キャリア教育【遠隔授業】 ※授業は夏季休業期間の集中講義及び Zoom による【遠隔授業】です。									
事前・事後学習について	事前学習として、自分の育ってきたプロセス（家庭、学校、友人）を振り返るとともに、子どもや学校をめぐるニュースについて調べておく。事後学習として、毎回配布したプリントとノートをおさらいしておく。									
準備学習に必要な時間	1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	学期末レポート							
	実践	0								
	レポート	30	毎回の授業の最後に提出する小レポート							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	疑問に思うこと、わからないことは授業の中で質問し、明らかにしてください。									
使用テキスト	特に使用しない									
参考書	実践につながる教育心理学 櫻井茂男監修 北樹出版 教育・学校心理学 進藤聡彦・谷口明子 放送大学教育振興会									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	教育方法の研究 Y22025			後期	講義	2		必修		
担当教員	中井 文彦									
授業の概要	教室や保健室で実践される教育の実際について分析・検討し、養護教諭として児童生徒に対するコミュニケーションやアプローチの仕方を学びつつ、新しいスタイルでの授業研究を行いながら、学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。									
到達目標	・児童生徒とのコミュニケーションを大切にしたい教育方法について学びながら、授業改善を意図とした学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○									
授業計画	1. 本講義のねらい・教育方法の基礎理論 2. 教育方法の特色と類型 3. 教育方法と教育課程 4. 教育方法の手法 5. 学習指導の過程・組織・形態 6. 教育機器・情報機器の活用方法と児童生徒の情報活用能力の育成 7. 学習指導案の検討と作成 8. 保健学習と保健指導の実際（板書指導・話法など） 9. 教室の会話・コミュニケーション構造①～理論編～ 10. 教室の会話・コミュニケーション構造②～実践編～ 11. 模擬授業の公開実践①小学校 12. 模擬授業の公開実践②中学校 13. 学習評価の考え方と実践 14. 養護教諭の行う指導の方法と教育の方法 15. 私が目指す養護教諭（総括）									
事前・事後学習について	・教育改革や学習指導要領改訂の動きに敏感に反応し、情報や資料を集めて研究する。 ・保健分野の新しい試みで行いたい題材を決めて、授業として研究し、授業計画を立てる。 ・授業準備、資料の作成など。									
準備学習に必要な時間	予習及び復習に要する時間（1 時間程度）									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	20	学習指導案作成							
	その他	80	題材名を決め、プレゼン資料作成・学習方法の提示 など							
受講上の注意・課題のフィードバック	わからない事があったら質問をしてください。									
使用テキスト	小学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東洋館 中学校学習指導要領（最新版）文部科学省/著 東山書房 授業時配布資料									
参考書	特に指定なし									

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数			教員免許資格の有無		
科目名	生徒指導・教育相談論 Y22027			後期	講義	2			必修		
担当教員	黒岩 長造										
授業の概要	学校内で展開される生徒指導・教育相談の実際について、様々な事例（学校不適応児童、様々な障害児童、不登校児童等）を紹介しながら、学ぶ。生徒指導の目的と内容、生徒理解、進路指導、集団・個別指導、問題行動の指導等について、事例の検討を加えながら、基本的考え方を学ぶ。さらに学校における教育相談の役割とその実際について教育相談の基本的な考え方となる、カウンセリングの理論・方法・内容の解説を加えながら検討する。										
到達目標	・教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素質を身につける。 ・幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。										
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3								
	○										
授業計画	1. 生徒指導、教育相談の意義と課題 2. 各教科やその他の活動における生徒指導、教育相談の意義 3. 生徒指導、教育相談における心理学的基礎知識 4. 集団・個別指導、教育相談における方法原理 5. 不適応・問題行動への個別指導（生徒の発するシグナルの把握）、 6. 生徒指導体制、教育相談体制について 7. カウンセリングマインドの理解 8. カウンセリングの基礎的姿勢と技法 9. 学校組織と連携についての理解 10. 事例検討：生活習慣の確立と規範意識の醸成、校則等に関する法令について 11. 事例検討：自己肯定感の育成 12. 事例検討：暴力行為、非行 13. 事例検討：いじめ等 14. 事例検討：不登校等 15. 他機関との連携										
事前・事後学習について	新聞ニュース等で、学校現場の情報を取得しておいてください。										
準備学習に必要な時間	授業に集中できるように事前に毎回 1 時間程度プリントを読んで理解しておいてください										
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点								
	試験	80	レポート試験								
	実践	0									
	レポート	20	毎回授業後に提出する小レポート								
	その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。										
使用テキスト	授業時資料配付										
参考書	生徒指導提要（最新版）文部科学省/著 教育図書										

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	教職総合ゼミ Y23028			前期	演習	2		必修	
担当教員	奥井 現理								
授業の概要	さまざまな課題を提示します。みなさんはその課題に取り組むことを通して、教育者としての思考を深め態度を身に付けていきます。								
到達目標	・教育者としての知識・理解を創造的に活用することができる。 ・教育者としての情意を向上させ、思考・判断・表現に反映させることができる。 ・家庭・学校・地域の関係、及び家族・教職員・子ども・地域住民の関係を広い視野から思考し表現することができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
			○						
授業計画	1. 中央教育審議会答申・文部科学省通知・その他教育時事の状況 (1) 2. 中央教育審議会答申・文部科学省通知・その他教育時事の状況 (2) 3. 中央教育審議会答申・文部科学省通知・その他教育時事の状況 (3) 4. 中央教育審議会答申・文部科学省通知・その他教育時事の状況 (4) 5. 中央教育審議会答申・文部科学省通知・その他教育時事の状況 (5) 6. 特別支援教育・キャリア教育・情報教育・安全教育などの状況 (1) 7. 特別支援教育・キャリア教育・情報教育・安全教育などの状況 (2) 8. 特別支援教育・キャリア教育・情報教育・安全教育などの状況 (3) 9. 特別支援教育・キャリア教育・情報教育・安全教育などの状況 (4) 10. 特別支援教育・キャリア教育・情報教育・安全教育などの状況 (5) 11. 総合演習 (1) 12. 総合演習 (2) 13. 総合演習 (3) 14. 総合演習 (4) 15. 総合演習 (5)								
事前・事後学習について	特別の事前・事後学習は求めていませんが、各人の学習・習熟状況に応じて、指定する本に取り組むといいでしょう。								
準備学習に必要な時間	各自必要ならば 90 分程度指定する本等を学習して下さい。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	100	原則として学習状況の観察及び提出物により評価します。						
受講上の注意・課題のフィードバック	毎週ノートを回収・返却します。								
使用テキスト	印刷物を配布します。大学ノート (A4 版が望ましい) を各自用意してください。								
参考書	必要に応じて有益なものを紹介します。								

対象学生	養護教育専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	養護特別実習 Y33029			通年	実習	1		必修	
担当教員	安富 和子								
授業の概要	本科での三週間の実習を振り返り、専攻科では一週間の校種を変えての養護実習を行う。 保育園・養護学校・高校での一日実習を行い、発達段階や校種による養護教諭の執務について学ぶ。 実務経験のある教員（現場の保育士・養護教諭）の科目								
到達目標	本科での三週間の実習を振り返り、本科で学べなかった課題について主体的に取り組む。また今まで学んできたことの確認と、自分の学習課題を更に深めた総まとめとしての実習とする。 保育園・養護学校・高校の一日実習を行うことで、養護教諭の執務についての学びを深めることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
			○						
授業計画	1. 養護実習の目標 ①学校（教育）現場の実態を知る ②学んだ事柄を試みる ③現場実践に関する研究を行う ④望ましい養護教諭像を描き自らの特性（適正）を知る 2. 内容 学校教育計画と学校組織についての理解 学校教育現場における保健室の役割についての理解 養護教諭の執務計画 保健室の計画経営・一日の保健室経営 保健室整備・備品 健康管理体制の理解 保健室来室者への対応スキル 保健指導の実践方法 健康教育の実践方法 ヘルスプロモーションについて概念理解と実践との関連性 実習のまとめと記録 自己評価・研究 3. 保育園実習・養護学校実習・高校の各一日実習を行う 4. 保健室ボランティアを体験することで養護教諭の執務について理解を深めることができる。								
事前・事後学習について	事前の準備をしっかりと行い丁寧な実習を心がける。 実習の振り返りを行い自分の課題を見つけ、課題解決に向けて学習を進める。 保育園・小学校・中学校・養護学校・高校の一日保健室体験を行うにあたり、事前学習や各校のリサーチ、打ち合わせをしっかりと行う。								
準備学習に必要な時間	本科の養護実習の上に立って自分の実習の課題を明確にし実習に臨む。 60 分								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	97	実習校の評価による						
	レポート	0							
	その他	3	実習後の報告及びまとめ						
受講上の注意・課題のフィードバック	本科での実習の経験と反省を生かし、課題を明確にして、積極的に実習に臨む。								
使用テキスト	特になし								
参考書	その都度用意します。								

対象学生	養護教育専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	特別実習指導 Y32030			通年	演習	2	必修		
担当教員	安富 和子								
授業の概要	一週間の実習を行う。本科の実習の上に立って、自分の課題をしっかり持ち、事前学習と実習校の養護教諭との連絡を密にし、専門的な学びを深める。実習後は新たに発生した問題を捉え直し整理し先に学んだ事柄をさらに深めたり改変させたりして、発展させていく。また養護学校の1日体験・小中学校での歯科指導・高校での一日体験・保育園での一日体験など現場での体験を積み重ねて養護教諭としての実践力を身に付ける。 実務経験のある教員（養護教諭）による科目								
到達目標	1 週間の養護実習・養護学校の1日体験・小中学校で歯科指導・高校の1日体験・保育園の1日体験等現場での体験を通して、養護教諭としての実践力を身につける。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
			○						
授業計画	1. 本科での実習の振り返りをし、その中から自分の更に深めたい課題を明確にする。 自分の課題に添って事前学習の計画を立て発表する。 2. 養護学校での実習の打ち合わせ 3. 養護学校での実習 ① 4. 養護学校での実習 ② 5. 養護学校での実習 ③ 6. 養護学校での実習の反省 7. 歯科指導についての打ち合わせ（歯科衛生士さんとの連携と歯科指導について） 8. 歯科指導上郷小学校での実習① （コロナ禍で実施できない場合がある） 9. 歯科指導の実施②「カラーテスターを使った小学校高学年での染め出し」 10. 歯科指導の実施③「カラーテスターを使った小学校高学年での染め出し」 11. 歯科指導の反省感想・保育園実習準備 12. 保育実習打ち合せ 13. 保育園実習① 14. 保育園実習② 15. 保育園実習③ 16. 保育園実習④ 17. 保育園実習の反省と高校実習の準備 18. 高校実習打ち合せ 19. 高校実習① 20. 高校実習② 21. 高校実習③ 22. 高校実習④ 23. 高校実習の反省・感想 24. 保健室での対応の実際 保健室にて実習 25. 性教育について① 初経教育の見学（小学校） 26. 性教育について② 27. 二年間の振り返り 28. 保健室ボランティアの反省と今後について 29. 禁煙教育について 30. 保健指導のまとめと反省								
事前・事後学習について	養護特別実習では自分の課題を明確にし、課題に添って事前の学習をし、実習校の養護教諭と連絡を密にしながら進めていく。課題について学習したことを、児童・生徒に指導できる機会を取っていただけるように積極的に働きかけてください。周りの人とのコミュニケーションを取って仕事をしていくことが、養護教諭には欠かせない力となっています。積極的に自分で道を切り開いて進んで行くことを望んでいます。また課題研究のために実習校以外の学校を訪問し養護教諭等の指導を受けることも可能ですから安富に相談してください。現場の体験をたくさん入れながら行います。								
準備学習に必要な時間	体験実習では準備を十分に行い、積極的に学習する。また、実習校や実習園等について事前情報を得るなどして実習に臨む。 45 分								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	知識・理解・判断力・表現力・意欲						
	レポート	10	報告書・日誌 レポートについては添削して返却します。						
	その他	10	授業に取り組む積極的な態度						
受講上の注意・課題のフィードバック	自分の実習の目標を明らかにし、実習を受けてくださる学校や養護教諭、施設等に感謝の気持ちを持ち実習に臨む。不明なことは聞き更に学習を深めるきっかけとする。 保健指導をする場合は、指導案や指導内容の検討を十分に行い、校種や年齢に応じた対応で実習に臨む。								
使用テキスト	その都度用意します								
参考書	適宜指示								

対象学生	養護教育専攻 2			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無	
科目名	教職実践演習（養護教諭） Y33031			後期	演習	2		必修	
担当教員	澤田 有香・稲川 英嗣								
授業の概要	教職の意義や教員の役割、職務内容、児童・生徒に対する責務等を確認し、事例研究やロールプレイングを通して状況に応じた対応や児童・生徒指導の在り方等を確認する。また、養護特別実習の経験を基に保健室経営案を作成して実際の執務に備える。さらに担任の役割や実務、人間関係づくり、集団指導力等を確認する。								
到達目標	・教職の意義や教員の役割、職務内容、児童・生徒に対する責務がわかる。 ・状況に応じた対応や児童・生徒指導の在り方がわかる。 ・学校関係者の連携を考慮した保健室経営案が作成できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
			○						
授業計画	1. 授業の進行についての説明、養護教諭の専門性と優れた養護教諭（担当：澤田有香） 2. 学校保健の課題と養護教諭としての対応（担当：澤田有香） 3. 事例研究Ⅰ「保健室経営と健康診断・健康相談」（担当：澤田有香） 4. 事例研究Ⅱ「保健室経営と保健指導」（担当：澤田有香） 5. 事例研究Ⅲ「保健室経営と健康課題」（担当：澤田有香） 6. 事例研究Ⅳ「保健室経営と健康危機管理」（担当：澤田有香） 7. 事例研究Ⅴ「保健室経営と学校・家庭・地域との連携」（担当：澤田有香） 8. 「保健室経営案の作成と活用の実際」（討論）（担当：澤田有香） 9. ロールプレイングⅠ「いじめ・虐待」（担当：稲川英嗣） 10. ロールプレイングⅡ「保健室登校・不登校」（担当：稲川英嗣） 11. ロールプレイングⅢ「健康相談(児童・生徒及び保護者)」（担当：稲川英嗣） 12. 「保健学習指導案の作成と活用の実際」（討論）（担当：稲川英嗣） 13. 模擬授業Ⅰ「小学校保健領域、中学保健分野・高校保健」（担当：稲川英嗣） 14. 模擬授業Ⅱ「小・中・高校 特別活動・総合的な学習の時間」（担当：稲川英嗣） 15. 「すぐれた養護教諭」「授業まとめ」（担当：稲川英嗣）								
事前・事後学習について	授業の展開に応じてその都度指示する。								
準備学習に必要な時間	指示によって異なる								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	50	ロールプレイング・模擬授業の計画・実施への取り組み						
	レポート	20	保健室経営計画の作成						
	その他	30	事例研究への取り組み						
受講上の注意・課題のフィードバック	ロールプレイング等意欲的に臨んでください。								
使用テキスト	「学校教育の現代的課題と養護教諭」 河田史宝監修 大学図書出版								
参考書	学校保健の課題とその対応(令和2年度改訂) 公財 日本学校保健会 小学校学習指導要領解説 体育編（最新版）文部科学省 中学校学習指導要領解説 保健体育編（最新版）文部科学省 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（最新版）文部科学省								

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	保健統計演習 Y21032			後期	演習	2	必修			
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	保健統計の基礎をおさえながら、データの解析ソフト等（Excel2016, SPSS21）を用いて統計処理の演習を行います。また、そのようにして導き出された結果が先行研究や研究論文等でどのように記載されているかを学びます。									
到達目標	1. 保健統計の基礎を理解できる。 2. 養護教諭の実務に必要な統計処理ができる。 3. 研究論文にある統計結果やその考察の意味がわかる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 保健統計の指標①：有病率・発症率・粗死亡率・年齢調整死亡率・相対危険度・寄与危険度 2. 保健統計の指標②：学校保健で用いる統計 3. 論文にはこのように書かれている 4. Excel 機能：操作・グラフの作成・Excel 関数・ピボットテーブルの復習 5. 統計の基礎①：代表値と散布度：平均値・分散・標準偏差・グラフ 6. 統計の基礎②：代表値と散布度：中央値・四分位範囲・グラフ 7. 統計の基礎③：クロス集計・オッズ・オッズ比・リスク・リスク比 8. 統計の基礎④：相関・相関係数 9. 統計の基礎⑤：度数分布表・ヒストグラム 10. 統計の基礎⑥：点推定・区間推定 11. 仮説検定①：検定の考え方・検定の種類（パラメトリック・ノンパラメトリック） 12. 仮説検定②：カイ二乗検定(独立性の検定) 13. 仮説検定③：t 検定(平均値の差の検定) 14. 仮説検定④：分散分析 15. 仮説検定⑤：SPSS を用いた検定									
事前・事後学習について	Excel と SPSS を用いて演習をしていきます。事後学習として授業で取り扱った資料を一読して復習しておきましょう。授業の最初に前回授業の復習課題を行います。									
準備学習に必要な時間	事後学習に要する時間は 30 分程度です。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	保健統計学の知識・Excel、SPSS の使用方法の理解							
	レポート	50	課題：保健統計学の知識・Excel、SPSS の使用方法の理解							
	その他	10	保健統計への関心・意欲・態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	統計学の基礎を Excel 等を用いて理解していきます。わからないことはその都度質問してください。									
使用テキスト	資料配布									
参考書	「養護教諭のための調査研究法入門」 朝倉隆司 少年写真新聞社 「30 時間でマスターExcel2016」 実務出版 「やさしい保健統計学」 縣俊彦 南江堂									

対象学生	養護教育専攻 12			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	ファーストエイド演習 Y31035			通年	演習	1			
担当教員	辻 英之								
授業の概要	世界で最も普及されている救急救命国際資格の一つである「MFA：メディックファーストエイド」のうち、小児用（チャイルドケア）資格を取得する講座。世界最新の情報と教育方法論をもとに、豊富な映像を収録したDVDと詳しいテキストを駆使した実践的な実習・ワークショップを通して、こどもの万が一の対応と予防を学ぶ。 また、子どもの体験活動（自然体験・生活体験など）に存在する様々なリスクについて、ワークショップ体験を通して実践的・具体的に学ぶ。								
到達目標	資格取得講座を通して、こどもの緊急事態に手を差し伸べることのできる「気持ち」を培うと同時にこどもの日常的なケガや病気、そして心肺停止状態のこどもに対応する世界水準・世界最新の技術と知識を理解し習得する。 また、子どもの体験活動（自然体験・生活体験など）に存在するリスクをコントロールしつつ、子どもの心と身体を守りながら効果的な体験活動を実施するための初歩的な知識や技術を身につけることができる。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○	○						
授業計画	1. オリエンテーション 救命救急国際資格（小児用：チャイルドケア）の狙いと制度を理解する。 2. 子どもの体験活動におけるリスクマネジメントの要素 安全管理ワークショップを通して、リスクの存在について理解する。 3. 子どもの体験活動における指導者の責任と法律 実際にあった死亡事故の判例検証・裁判員ワークショップを通して、指導者の責任を理解する。 4. 子どもの体験活動における指導者の責任と保険 保険の仕組みの概要と保険チェックを通して、指導者の責任を理解する。 5. こどもと大人の特性の違い 「こどもは大人をただ小さくしただけではない」ことを理解する。 6. 救助を邪魔する要因と救助者のリスクマネジメント 「なぜ人は手を差し伸べることをためらうのか」。その心理を学ぶ。 7. 生命維持のための5つのスキル 緊急事態により失われた機能を代行する「スキル」を理解し体得する。 8. 初動が肝心、何が問題なのかを探る 緊急時の状況を把握し判断する能力、行動に優先順位をつけて動く能力の理解し体得する。 9. よくあるこどもの緊急時の対応。そのイロハ 意識不明に陥ったこどもに対しての対応を、様々なシナリオ学習を通して、体系的に理解し体得する。 10. 心肺停止のこどもの対応 心肺停止に陥ったこどもに対しての対応を、様々なシナリオ学習を通して、体系的に理解し体得する。 11. AEDによるこどもの救助とその盲点 AEDに対する誤解が生まれる背景と理由を考察し求められるAEDの機能を理解した対応を体得する。 12. 病気のファーストエイドこれだけは！ 日常的にこどもが遭遇する病気への対応を、体系的に理解し体得する。 13. ファーストエイドと予防の奇妙な関係？ ファーストエイドの技術と知識向上は、事故防止・予防につながることを理解する。 14. 救命率を上げるために 授業：資格取得講座を振り返り、改めて救命率向上についてディスカッションする。 15. まとめ、振り返り、試験 授業で得られた成果をまとめ、全員で共有することを通して学びを深める。								
事前・事後学習について	授業内で配布した資料の復習、及び授業内扱われた内容に関する情報収集に努めるとこと。								
準備学習に必要な時間	資料の復習と情報収集（毎回、30分程度）								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	40	資格取得のための筆記＋実技の試験を行います。						
	実践	30	授業毎の参画意識、態度、技術の妥当な習得を評価します。						
	レポート	30	授業毎のリアクションペーパー（振り返り）を重要視します。						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	（MFA：メディックファーストエイド）は、世界で最も普及されている救命救急救護資格の一つです。この資格の最大の特徴は、スキルと同時に「手を差し伸べよう」という「気持ち」を育てるプログラムだということ。いくらスキルを身につけていても、緊急の場面で「助けよう」と思うことができないければ意味がありません。ぜひ受講して、こどもの命を「助けよう」という気持ちを持つ青年になってください。								
使用テキスト	授業にて教材を指示します。								
参考書	適宜指示する								

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	修了研究 I Y31037			前期	演習	2				
担当教員	澤田・安富・三浦									
授業の概要	レポート・論文作成の一連の流れとそれに必要な基礎知識を学びます。									
到達目標	①論文作成の手順を理解できる。 ②文献等の入手方法を理解できる。 ③先行研究等から自らの研究課題を明らかにすることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
			○							
授業計画	1. 学位認定のレポート作成について 2. ～5. レポート・論文の基本 ①書き方の基本ルール ②短いレポートの作成 1 ③短いレポートの作成 2 ④レポート・論文を批判的に読む 6. ～8. 文献・資料の集め方 ①文献検索の方法 ②文献検索の実際 9. ～12. テーマと構成の確認 ①テーマ ②構成 ③文献検索 13. 執筆スケジュール 14～15. 先行研究・背景のプレゼンテーション									
事前・事後学習に ついて	文献検索、先行研究レビューや学生個々の課題の枠組みを作成するなどの事前・事後学習を課します。 レポート・論文を書くにはいろいろな基礎知識および技能を習得しなければいけませんが、ゆっくり行いますので、安心して受講してください。しかし、自分から進んで取り組みましょう。									
準備学習に 必要な時間	自分の課題に沿って調査研究を計画的に実施する。 60 分程度を要する。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	20	関心・意欲・態度・技能							
	レポート	80	判断力・思考力							
	その他	0								
受講上の注意・課題 のフィードバック	自分の課題に沿って情報を集め、早め早めに計画的にレポート作成を進めていく。									
使用テキスト	「思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版」井下 千以子著 慶應義塾大学出版会									
参考書	適宜指示する。									

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数		教員免許資格の有無		
科目名	修了研究Ⅱ Y32038			後期	演習	2				
担当教員	澤田 有香									
授業の概要	レポート・論文の作成をすることでその実際を学びます。媒体を用いて効果的なプレゼンテーションについても合わせて学びます。									
到達目標	1. 研究課題に基づいたレポートを書くことができる。 2. 研究成果をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3							
			○							
授業計画	1. 執筆スケジュールの確認 2. ～10. レポート執筆 ①Word の使い方 ②Excel の使い方(図表の作成) 11. ～13. プレゼンテーション準備 ①Power point の使い方 ②口演発表、ポスター発表 14. プレゼンテーションの実際 15. レポートの振り返り									
事前・事後学習に ついて	養護教育や学校保健の分野に貢献できるようなレポートにしていきましょう。									
準備学習に 必要な時間	特に指定なし。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	20	発信力・技能							
	レポート	80	思考力・判断力・表現力							
	その他	0								
受講上の注意・課題 のフィードバック	意欲的に臨んでください。									
使用テキスト	なし									
参考書	適宜指示する。									

対象学生	養護教育専攻 2			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	修了研究Ⅲ Y33039			前期	演習	2				
担当教員	澤田 有香									
授業の概要	指導教員と連絡を取り合い、研究がより深く、また、研究テーマに沿った内容になっているか丁寧に進めていきます。なお、研究の成果を本科生に発信していきます。									
到達目標	・研究をまとめ、推敲し論文として整えることができる。 ・自分の研究をパワーポイントにて発信できる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
			○							
授業計画	1. ～3. 指導教員のもとで、本論（結果）を書いていこう 4. 図表を効果的に利用しよう 5. ～7. 先行研究をまとめよう 8. ～11. 考察をまとめよう 12. ～13. 序論・結論を加えよう 14. 論文（下書き）を整えよう 推敲 15. 後輩に研究内容を発表しよう＊卒業研究発表会で口演します									
事前・事後学習について	レポートの作成が課題です。 よい論文になるように、指導教員と連絡を取り合い、率先して論文に向き合いましょう。									
準備学習に必要な時間	特に指定なし。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	20	意欲・技能							
	レポート	80	思考力・判断力・表現力							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	定期的にレポートを提出してもらいます。提出日を厳守してください。 添削して返却します。									
使用テキスト	なし									
参考書	適宜指示する。									

IIDA JUNIOR COLLEGE

学籍番号

氏 名